講 義 概 要

― 2020 ―

山口学芸大学
Yamaguchi Gakugei University

目　　次

1　教養科目

（1）社会科学系 …… 1
（2）人文科学系 …… 7
（3）自然科学系 …… 17
（4）芸術文化系 …… 21
（5）体　育　系 …… 27

2　専門科目

（1）学　科　目 …… 29
（2）子 ど も 学 …… 157
（3）芸 術 表 現 …… 167
（4）ゼミナール …… 179
（5）教 育 実 習 …… 181
（6）保 育 実 習 …… 191
（7）実 践 演 習 …… 197

シラバスの見方

山口学芸大学

シラバス（講義概要）：シラバスとは、授業に関する詳細な計画書のことです。シラバスには、教科・科目をはじめとする様々な教育活動について，目標と内容，使用教材，指導計画，指導方法，評価方法等を記載しています。

授業科目名	①	教員名	⑤	免許・資格との関係	保育士	⑦
					幼稚園教諭	⑦
					小学校教諭	⑦
ナンバリングコード	②				中学校教諭（英語）	⑦
		年次配当	⑥		高等学校教諭（英語）	⑦
授業形態	③				特別支援学校教諭	⑦
				卒業要件	初等幼児教育専攻	⑧
単位数	④				中等教育専攻	⑧

科目	⑨ 教科及び教職に関する科目（幼稚園・小学校・中学校・高等学校・特別支援学校）
各科目に含めることが必要な事項	⑨
教科目	⑨ 専門教育科目（保育士）
系列	⑨
授業テーマ	⑩
授業概要	⑪
達成目標	⑫ 科目DP：

DP番号	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)
1.					
2.					
3.					

履修条件・注意事項	⑬
授業計画	⑭
アクティブ・ラーニング	⑮
成績評価基準	⑯ 評価の方法： 評価の基準：
フィードバックの方法	⑰
時間外の学習について	⑱ 予習： 復習：
教材にかかわる情報	⑲ テキスト： 参考書： 参考資料等：
担当者からのメッセージ等実務経験について	⑳

①授業科目名を記載しています。
②科目ナンバリングコードを記載しています。詳細は「ナンバリングシステムについて」で確認してください。
③授業形態を記載しています。 講義・演習・実技・実習等。
④単位数を記載しています。
⑤担当教員名を記載しています。
⑥履修年次と開講期間を記載しています。
⑦免許・資格を得るために必要な科目として必修・選択を記載しています。
⑧卒業資格を得るために必要な科目として必修・選択を記載しています。
⑨免許・資格を得るために必要な科目について必要事項・科目区分・系列を記載しています。
⑩授業のねらいやテーマについて記載しています。
⑪授業のあらましを記載しています。
⑫達成目標について記載しています。達成目標とディプロマ・ポリシーの関りについて記載しています。
⑬履修する科目の順番や条件等注意事項を記載しています。
⑭授業スケジュール（各回で扱う内容等）を記載しています。
⑮主体的な学びを促進するために取り入れるアクティブ・ラーニングの、授業時間内で該当する学習形態について記載しています。
⑯成績の評価基準と評価方法を記載しています。
⑰課題等（試験、レポート等）に対するフィードバックの方法について記載しています。
⑱担当教員より、この授業科目の予習・復習についてのアドバイスを示しています。
⑲教科書及び補助教材について記載しています。
⑳担当教員より学生に伝えたいメッセージ等を記載しています。
実務経験をいかした教育内容について記載しています。

教育課程ナンバリング・システムについて

山口学芸大学で開講されている全ての授業科目（教養科目・学部専門科目・大学院専門科目）に対し、授業内容やレベル、更に免許・資格との関連性等に応じて特定の記号や数字を付与し、教育課程表やシラバスに記載することにより教育学部としての、体系的な教育プログラムの実現を目指すものです。

【教育課程ナンバリング　表示例】

教養科目「日本国憲法」	CM1－1001－21110

①	②		③		④
CM	1	－	1001	－	21110
学部等領域コード	学年水準コード		科目区分識別コード		免許・資格コード

【学部等領域コード】　（表①参照）　科目を提供する学部や研究科等を表す2文字の英文字です。

【学年水準コード】　（表②参照）　科目の開講学年を示す１桁の数字で表しています。
数字と授業レベルは必ずしも一致するものではありません。

【科目区分識別コード】（表③参照）　教育課程の科目区分（１桁）とそれぞれの通し番号（３桁）で表しています。

【免許・資格コード】　（表④参照）　１桁から５桁まで、各資格免許に関する必修・選択を、１（必修）・２（選択）の番号で表しています。
免許・資格に関連のない場合は０で表します。

①　（学部等領域コード）	UM（University+Master）：		大学院教育学研究科	
	CM（Common+Subject）：		教育学部共通開設科目	
	UE（University+Elementary）：		初等幼児教育専攻開設科目（両コース）	
	US（University+Secondary）：		中等教育専攻開設科目（高校免許科目含む）	
②　（学年水準コード）	1：		１年次開設科目	
	2：		２年次開設科目	
	3：		３年次開設科目	
	4：		４年時開設科目	
	5：		大学院１年次開設科目	
	6：		大学院２年次開設科目	
	7：		その他	
③　（科目区分識別コード）	1：	001～024	教養科目	
	2：	001～127	学科目	
	3：	001～009	子ども学	
	4：	001～011	芸術表現	
	5：	001～	ゼミナール	
	6：	001～010	教育実習	
	7：	001～006	保育実習	
	8：	001～003	実践演習	
	9：	001～	その他	
④　（免許・資格コード） 【表記例　：日本国憲法】 保が選択で、幼・小・中が必修の場合　21110　と表記 （資格・免許に関係のない場合は０と表記）	0：		資格免許外の科目	**1桁目**　保育士資格の専門科目
	1：		必修科目	**2桁目**　幼稚園教諭免許の専門科目
	2：		選択科目	**3桁目**　小学校教諭免許の専門科目
				4桁目　中学校・高校免許の専門科目
				5桁目　特別支援教諭免許の専門科目

Ⅰ．卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

本学では、基盤的学士力を修得し、さらに、教育学部において定める資質・能力を身につけ、かつ、所定の在学期間を満たし、基準となる単位を修得した者に対して卒業を認定し、学士（教育学）の学位を授与します。

1．基盤的学士力

⑴　知識理解

教育学、心理学、芸術学など各学問分野における基本的な知識を体系的に理解し、かつ、それを自分自身の生き方とのかかわりで理解すること。

⑵　汎用的能力

大学で学んだことを社会生活や職業生活に応用できる力、すなわち、コミュニケーション力、数量的思考力、情報活用力、論理的思考力、問題解決力、などの能力

⑶　態度・志向性

社会のよき一員として行動すること、すなわち、自己管理力、チームワーク力、倫理観、社会的責任、生涯学習力、などの能力

⑷　総合的な学習経験と創造的思考力

新しい課題に向き合い、これまで学修した成果を活用して、課題を解決できる能力

2．学部において定める資質・能力

⑴　芸術を通して培われる豊かな人間性

・自らの感動を、他者に伝えることができる。
・造形や音楽、身体表現活動において、自分らしさを発揮することができる。
・表現活動を楽しむことができる。
・対象となる作品や表現活動に、表現者の個性を読み取ることができる。
・対象となる作品や表現活動に、美しさや優れた点を発見することができる。
・対象となる作品や表現活動に、自分なりの表現アイデアを持つことができる。

⑵　人間の成長・発達・学びについての専門的知識

・対象者の成長発達に照らし合わせてその心理的状態が分かる。
・対象者の成長発達に照らし合わせてその学習到達の程度が分かる。
・教育や保育に関する全体的な制度の中での自分の役割が分かる。

⑶　人間の成長・発達・学びを支えるための専門的技能

・教育・保育に関するメディア（教材や遊具、楽器など）の特性や使い方が分かる。
・人間や社会の事象について問いを立て、自ら調べ、探究し、自分なりの結論が出せる。
・テーマや事例について、他者と議論し、分析や考察ができる。
・文献や資料を参考にしながら、指導のあり方を多面的に検討できる。

⑷　教育的愛情と使命感に基づいた教育実践力

・対象者の心情（喜び、悲しみ、辛さなど）に共感できる。
・対象者が課題を克服しようとすることを、支援することができる。
・対象者の心を動かすように表現方法を工夫できる。
・対象者の個性に合わせた指導のあり方を工夫できる。

⑸　教育に求められ、グローバル社会に対応したコミュニケーション力

・教育・保育現場において、適切なコミュニケーションをとることができる。
・積極的に他者とかかわり、気持ちや考えを伝え合うことができる。
・喜びや感動を他者と共有することができる。

教　養　科　目

社会科学系

日本国憲法…… 1
教育と社会…… 2
心　理　学…… 3
地域課題解決演習Ⅰ（PBL）…… 4
地域課題解決演習Ⅱ（PBL）…… 5

授業科目名	日本国憲法	教員名	香川　智弘	免許・資格との関係	保育士	選択
					幼稚園教諭	必修
					小学校教諭	必修
					中学校教諭(英語)	必修
ナンバリングコード	CM1-1001-21110	年次配当	1年後期		高等学校教諭(英語)	必修
授業形態	講義				特別支援学校教諭	
単位数	2			卒業要件	初等幼児教育専攻	選択
					中等教育専攻	選択

科目	免許法施行規則第66条の6に定める科目（幼稚園・小学校・中学校・高等学校）
各科目に含めることが必要な事項	日本国憲法
教科目	教養科目（保育士）
系列	教養科目
授業テーマ	国民・人権・国家・社会を学ぶ。
授業概要	平和国家・民主国家を目指す日本国憲法の基本理念・国民中心主義、それを具体化する国民主権、基本的人権の尊重、平和主義の基本原理を学ぶ。その上で人権規定を中心に憲法の諸規定を学ぶ。さらに新しい人権についても学び、今日の社会の動向を知る。

達成目標	科目DP：(1)～(5)				
	DP番号 (1)	(2)	(3)	(4)	(5)
1．市民としての法感覚を養う。					
2．憲法の基本理念を知る。					
3．人権感覚を養う。					
4．憲法的視点から今日の社会を学ぶ。					

履修条件・注意事項	
授業計画	1．日本国民の要件　国籍法　（目標 1,3,4） 2．日本国憲法の目的、基本理念、基本原理①国民主権　（目標 1,2） 3．日本国憲法の基本原理②平和主義、基本的人権の尊重　（目標 1,2,3） 4．日本国憲法の人権規定①法の下の平等　平等権・労働条件の男女平等　（目標 1,3,4） 5．日本国憲法の人権規定①法の下の平等　尊属殺重罰事件　（目標 1,3,4） 6．日本国憲法の人権規定②精神的自由権　内心の自由、信教の自由、学問の自由　（目標 1,3,4） 7．日本国憲法の人権規定②精神的自由権　表現の自由　（目標 1,3,4） 8．日本国憲法の人権規定③身体的自由権　（目標 1,3,4） 9．日本国憲法の人権規定④経済的自由権　（目標 1,3,4） 10. 日本国憲法の人権規定⑤参政権　（目標 1,3,4） 11. 日本国憲法の人権規定⑥生存権　（目標 1,3,4） 12. 新しい人権①生命に対する権利　（目標 1,3,4） 13. 新しい人権②プライバシーの権利　（目標 1,3,4） 14. 国民主権と統治機構①立法権、行政権　（目標 1,2,4） 15. 国民主権と統治機構②司法権、地方自治　（目標 1,2,4） 定期試験
アクティブ・ラーニング	
成績評価基準	評価の方法：試験を80％と授業態度20％ 評価の基準：授業内容の理解度と関心度等を評価する。
フィードバックの方法	理解度を確認するために小テストを行い、採点して返却する。
時間外の学習について	予習：次回の内容にあたるテキストの箇所に目を通す。45分程度 復習：内容を復習する。45分程度
教材にかかわる情報	テキスト：香川智弘「憲法講義」 参考書： 参考資料等：六法全書
担当者からのメッセージ等実務経験について	世の中の動きに関心を持って下さい。

授業科目名	教育と社会	教員名	御旅屋　達 （単独）	免許・資格との関係	保育士	
					幼稚園教諭	
					小学校教諭	
					中学校教諭（英語）	
ナンバリングコード	CM3-1002-00000	年次配当	３年前期		高等学校教諭（英語）	
					特別支援学校教諭	
授業形態	講義			卒業要件	初等幼児教育専攻	選択
単位数	2				中等教育専攻	選択
科目						
各科目に含めることが必要な事項						
教科目						
系列						
授業テーマ	教育とその外部としての社会，教育現場という社会					
授業概要	教育やその周辺領域における「思い込み」や「常識」から距離を取り，広い視野を持って教育的事象を把握し，考える。					

達成目標	科目DP：(1)～(5)				
DP番号	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)
1．子どもの学びや成長と社会環境とのかかわりについて理解することができる。					
2．調査データの意味を適切に読み取ることができる。					
3．様々な教育問題について，自身の考えを論理的にまとめることができる。					
4．自身の考えを他者に分かりやすく伝えるとともに，他者の考えに対して適切に意見を述べることができる。					

履修条件・注意事項	
授業計画	第１回：オリエンテーション 第２回：教育とは，社会とは 第３回：社会が異なれば教育も異なる――教育の国際比較 第４回：教室という社会 第５回：子どもの文化・若者の文化 第６回：少年犯罪と矯正教育 第７回：子どもを育てるのは誰か――教育と家族 第８回：学校に通えないこと／通わないこと（1）――学校に通わなくてはならないのか 第９回：学校に通えないこと／通わないこと（2）――学校の外にある教育 第10回：学力とはなにか 第11回：教育と職業（1）――学校から社会への移行・キャリア教育 第12回：教育と職業（2）――就労や生活に関する困難と支援 第13回：教育職・保育職という「職業」 第14回：社会の課題に対して教育に何ができるか 第15回：まとめ――教育と社会
アクティブ・ラーニング	ディスカッション・グループワーク
成績評価基準	評価の方法：授業内レポート及びコメントシート40%，期末レポート60% 評価の基準：達成目標がおおむね満足されていること。
フィードバックの方法	毎回提出のコメントシートへのレスポンス，提出されたレポートの返却
時間外の学習について	予習：次回の内容について各自リサーチを行い，関心を高めておく。（各回45分程度） 復習：各回の内容を復習し，疑問点をまとめておく。（各回45分程度） レポート：期末レポートを課す。
教材にかかわる情報	テキスト：特に指定しない 参考書：授業内で紹介する 参考資料等：授業内で紹介する
担当者からのメッセージ等 実務経験について	

授業科目名	心理学	教員名	堂野　佐俊 (実務経験) (単独)	免許・資格との関係	保育士	選択
					幼稚園教諭	
					小学校教諭	
					中学校教諭(英語)	
ナンバリングコード	CM1-1003-20000	年次配当	1年前期		高等学校教諭(英語)	
					特別支援学校教諭	
授業形態	講義			卒業要件	初等幼児教育専攻	選択
単位数	2				中等教育専攻	選択

科目	
各科目に含めることが必要な事項	
教科目	教育科目（保育士）
系列	教養科目
授業テーマ	行動の科学としての「心理学」について、広範囲の領域にわたり基礎的に理解する
授業概要	人間の行動の不思議について、行動の基礎としての感覚･知覚及び学習のメカニズム、個人差やパーソナリティの形成、社会生活と適応、といった領域に関して、科学的学問としての立場から概観する。日常生活の中で一般的に見られ、体験されるような普段の現象について、実験や研究に裏付けられたデータに基づいて理解を深める。

達成目標	科目DP：(1)～(5)				
DP番号	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)
1．行動の基礎となる情報の処理過程について理解する。					
2．行動の習得と学習の理論について理解する。					
3．パーソナリティの形成と個人差について理解する。					
4．社会生活の意義と集団の効果について理解する。					
5．適応行動と不適応行動の背景について理解する。					

履修条件･注意事項	各自「心理学ノート」の作成が課せられます
授業計画	1．現代社会と心理学（心の科学）（目標 1） 2．人間生活と心理学の発展　（目標 1） 3．心（行動）の科学的研究　（目標 1） 4．行動の基礎となる感覚・知覚（Ⅰ）－感覚－　（目標 1） 5．行動の基礎となる感覚・知覚（Ⅱ）－知覚－　（目標 1） 6．日常生活における知覚の現象　（目標 1） 7．人間における「学習」の意義　（目標 2） 8．記憶と忘却　（目標 2） 9．思考と言語　（目標 2） 10. 個性の理解（Ⅰ）－知能－　（目標 3） 11. 個性の理解（Ⅱ）－感情・情動－　（目標 3） 12. 個性の理解（Ⅲ）－パーソナリティ－　（目標 3） 13. 人間と社会的認知　（目標 4） 14. 社会的動機と態度　（目標 4） 15. 社会生活と集団力学　（目標 5） ◎定期試験
アクティブ･ラーニング	毎回講義後のアクション・シートを用いた意見交換による問題解決学習を展開する。
成績評価基準	評価の方法：中途での心理学ノートの作成＜参加態度＞（30%）、及び期末試験（70%）の結果を総合的に評価する 評価の基準：60点以上を合格とする。
フィードバックの方法	期末試験後に希望者に応答する。
時間外の学習について	予習：前もって配布する資料に予め目を通しておくこと。(45分程度) 復習：講義と配付資料に基づいて「心理学ノート」を作成して理解を深める。(45分程度)
教材にかかわる情報	テキスト：特になし。 参考書：「心理学概論」(堂野佐俊・他、著、原岡一馬編）1995　ナカニシヤ出版 参考資料等：特には指定しないが、講義内容に関する資料を適宜配布する。
担当者からのメッセージ等 実務経験について	毎回の授業後のアクション・シートによる質問やコメント等を積極的に活用してほしい。 中学校教諭：実務経験をもとに生徒指導に関しての経験に基づく適応行動、不適応行動等のテーマについて話題を提供します。

授業科目名	地域課題解決演習Ⅰ（PBL）	教員名	福屋　利信（単独）	免許・資格との関係	保育士	
					幼稚園教諭	
					小学校教諭	
					中学校教諭（英語）	
ナンバリングコード	CM2-1011-00000	年次配当	２年前期		高等学校教諭（英語）	
					特別支援学校教諭	
授業形態	演習			卒業要件	初等幼児教育専攻	選択
単位数	2				中等教育専攻	選択
科目						
各科目に含めることが必要な事項						
教科目						
系列						
授業テーマ	ICTで可能な地域貢献のあり方を探る。パートナー企業は、西日本電信電話株式会社（NTT西日本）。					
授業概要	超スマート社会（Society 5.0）は、情報化社会（Society 4.0）を、ICT等の最新技術により人間中心の情報化社会に転換していこうとする未来志向の社会概念（social mindset）です。本Project-based Learning（PBL）では、ICT技術を地域貢献につなげる道を求めていきます。					

達成目標	PBL で地域にイノベーションを起こす力を養成します。どのような力を目指すかは、以下に掲げてあります。	科目DP：(1)～(5)				
		DP番号 (1)	(2)	(3)	(4)	(5)
	1．21世紀の教員に求められるICT教育の基礎知識と実践を学ぶ					
	2．21世紀の教員に求められる「課題解決能力」を身に着ける					
	3．地域社会に出てプロジェクトで仕事をしていく際の基礎力を獲得する					
	4．確かな方法論（デザイン思考）による課題解決手法を身に着ける					
	5．世界に向けての発信力をつけるため、プレゼンテーションは多言語化する（英語、中国語、韓国語）					

履修条件・注意事項	フィールドワークは、授業外学習時間にカウントします。
授業計画	1．PBL概説 2．指示待ち人間、リスクを取れない人間、知識を行動に移せない人間は、イノベーション（新たな価値の創造）を起こせない 3．超スマート社会とは何か？ 4．デザイン思考とは何か？ 5．「思考の拡散」による「着想」（inspiration）の言語化 6．「仮説」の設定 7．「仮説」の検証から「発案」（ideation）へ 8．プロジェクトの「目標」（goal）設定 9．プロトタイプ案を出す 10. プロトタイプ・イベントの企画 11. 企画の「実装」（implementation） 12. プロトタイプ・イベントを実装してみての反省 13. プロトタイプから最終成果物へのプロセス・デザイン 14. 中間発表準備 15. 中間発表 定期試験（中間発表を論理的にプレゼンテーションしてもらいます。使用言語：世界共通語としての英語）
アクティブ・ラーニング	地域でのフィールドワーク作業、KRYラジオ出演、NTTのICTプロモーション、山口市との連携
成績評価基準	評価の方法：中間発表へのコミット度40%、PBL活動へのコミット度40%、出欠率20% 評価の基準：学習者の能動的態度を評価の基準に置きます。
フィードバックの方法	パートナー企業からのフィードバックを月1回のミーティングで受ける
時間外の学習について	予習：地域から出された課題に関する先行研究文献を読む 復習：地域での活動を内省し、次のアクションに生かす
教材にかかわる情報	テキスト：福屋利信著『大学教授よ、書をすてよ、街へ出よう！：プロジェクト型課題研究（PBL）進化論』（太陽出版、2020） 参考書：ジャスパー・ウ著『スタンフォード式デザイン思考』（インプレス、2019） 参考資料等：Brown, Tim. *Change by Design*　(New York:：HarperCollins Publishers, 2009)。
担当者からのメッセージ等実務経験について	スタンフォード大学dスクール発・東京大学iスクール経由の「デザイン思考」によって、山口の課題を解決していきましょう！コンセプトは、「いかなる個人よりも、プロジェクトの方が賢い」（All projects are smarter than any individual.）です。

授業科目名	地域課題解決演習Ⅱ（PBL）	教員名	福屋　利信（単独）	免許・資格との関係	保育士	
					幼稚園教諭	
					小学校教諭	
					中学校教諭（英語）	
ナンバリングコード	CM2-1012-00000	年次配当	２年後期		高等学校教諭（英語）	
					特別支援学校教諭	
授業形態	演習			卒業要件	初等幼児教育専攻	選択
単位数	2				中等教育専攻	選択
科目						
各科目に含めることが必要な事項						
教科目						
系列						
授業テーマ	ICTで可能な地域貢献のあり方を探る。パートナー企業は、西日本電信電話株式会社（NTT西日本）。					
授業概要	超スマート社会（Society 5.0）は、情報化社会（Society 4.0）を、ICT等の最新技術により人間中心の情報化社会に転換していこうとする未来志向の社会概念（social mindset）です。本Project-based Learning（PBL）では、ICT技術を地域貢献につなげる道を求めていきます。					

達成目標	PBL で地域にイノベーションを起こす力を養成します。具体的にどのような力を目指すかは、以下に掲げてあります。	科目DP：(1)～(5)				
		DP番号 (1)	(2)	(3)	(4)	(5)
	1．21世紀の教員に求められるICT教育の基礎知識と実践を学ぶ					
	2．21世紀の教員に求められる「課題解決能力」を身に着ける					
	3．地域社会に出てプロジェクトで仕事をしていく際の基礎力を獲得する					
	4．確かな方法論（デザイン思考）による課題解決手法を身に着ける					
	5．世界に向けての発信力をつけるため、プレゼンテーションは多言語化する（英語、中国語、韓国語）					

履修条件・注意事項	フィールドワークは、授業外学習時間にカウントします。
授業計画	1．アンケート調査 2．アンケート調査 3．地域の人たちとの交流会イベント企画 4．地域の人たちとの交流会イベント実装 5．イベント自己評価 6．ICTを活用した最終成果物作成にむけての企画会議 7．最終成果物作成に向けての実装 8．最終成果物作成に向けての実装 9．最終成果物作成に向けての実装 10. 最終成果物に対する自己評価 11. 最終発表に向けての準備 12. 最終発表に向けての準備 13. 最終発表 14. プロジェクト全体の自己評価 15. ポートフォリオ作成 定期試験（最終発表を論理的にプレゼンテーションしてもらいます。使用言語：世界共通語としての英語）
アクティブ・ラーニング	地域でのフィールドワーク作業、KRYラジオ出演、NTTのICTプロモーション、山口市との連携
成績評価基準	評価の方法：中間発表へのコミット度40%、PBL活動へのコミット度40%、出欠率20% 評価の基準：学習者の能動的態度を評価の基準に置きます。
フィードバックの方法	パートナー企業からのフィードバックを月1回のミーティングで受ける
時間外の学習について	予習：地域から出された課題に関する先行研究文献を読む 復習：地域での活動を内省し、次のアクションに生かす
教材にかかわる情報	テキスト：福屋利信著『大学教授よ、書をすてよ、街へ出よう！：プロジェクト型課題研究（PBL）進化論』（太陽出版、2020） 参考書：ジャスパー・ウ著『スタンフォード式デザイン思考』（インプレス、2019） 参考資料等：Brown, Tim. Change by Design　（New York:：HarperCollins Publishers, 2009）。
担当者からのメッセージ等実務経験について	スタンフォード大学dスクール発・東京大学iスクール経由の「デザイン思考」によって、山口の課題を解決していきましょう！コンセプトは、「いかなる個人よりも、プロジェクトの方が賢い」（All projects are smarter than any individual.）です。

人文科学系

哲　　学…… 7
文　　学…… 8
日本語コミュニケーション…… 9
英語コミュニケーションⅠ……10
英語コミュニケーションⅡ……11
英　語　Ⅰ……12
英　語　Ⅱ……13
ドイツ語……14
語学・異文化海外研修……15

授業科目名	哲　　学	教員名	村瀬　ひろみ（単独）	免許・資格との関係	保育士	
					幼稚園教諭	
					小学校教諭	
					中学校教諭（英語）	
ナンバリングコード	CM3-1004-00000	年次配当	３年後期		高等学校教諭（英語）	
					特別支援学校教諭	
授業形態	講義			卒業要件	初等幼児教育専攻	選択
単位数	2				中等教育専攻	選択
科目						
各科目に含めることが必要な事項						
教科目						
系列						
授業テーマ	「考える」ことによって、「人間」について考える					
授業概要	哲学の基礎的な考え方（思考方法）について、主に西洋哲学の歴史をたどりながら、現代社会の抱える問題について「考える」能力を涵養する					

達成目標	科目DP：(1)～(5)				
	DP番号 (1)	(2)	(3)	(4)	(5)
1．哲学において、先人たちが何を問題にしてきたかがわかる					
2．時代背景と思想の関連について、多角的に理解できる					
3．現代社会における問題に気づくことができる					
4．現代社会の諸問題について、思考することができる					
5．思考した結果について、他者に向けて説明したり議論したりできる					

履修条件・注意事項	
授業計画	1．オリエンテーション　概略と受講ルール　哲学とは何か 2．古代ギリシャの哲学…どうして哲学が生まれたのだろうか？ 3．古代ギリシャの崩壊と、哲学の変遷 4．中世哲学と、キリスト教 5．ルネサンスと、ギリシャ哲学の再発見 6．近代哲学と「私」 7．近代哲学と、科学 8．近代哲学と、国家 9．近代哲学と、神 10. 現代社会と哲学 11. 戦争と哲学（1）なぜ、ユダヤ人虐殺は起こったか 12. 戦争と哲学（2）悪とは何か？ 13. 戦闘と哲学（3）戦争を起こさないためには何が必要か 14. 女性と哲学　ハンナ・アーレント 15. まとめ・ネット時代の哲学の可能性 定期試験 前半に、哲学史を中心にやります。 後半は、現代社会につながる哲学的問題について取り上げます。
アクティブ・ラーニング	少人数ですので、学生と対話をしながら授業は展開します。
成績評価基準	評価の方法：定期試験70%、講義への参加態度10%、小レポート20% 評価の基準：意欲、理解を重視します
フィードバックの方法	講義ごとに、小レポートを課します。(5分間）ここで書かれたことについては、次回の講義にて簡単な解説（フィードバック）を行います。口頭での質問等についても、歓迎いたします。
時間外の学習について	予習：特になし 復習：講義内で指示（各回45分程度）
教材にかかわる情報	テキスト：講義中に配布します 参考書：森岡正博・寺田にゃんこふ著『まんが哲学入門』講談社新書 参考資料：ゴルテル『ソフィーの世界』NHK出版
担当者からのメッセージ等実務経験について	哲学は、「自分の力で考えること」です。考えるための道具は必要です。講義では、世界史や人類学の視点からも世界を見ていくことをして、そこから「考える」ことをやってみようと思います。積極的な参加を期待します！

授業科目名	文　学	教員名	森野　正弘 （単独）	免許・資格との関係	保育士	
					幼稚園教諭	
					小学校教諭	
					中学校教諭（英語）	
ナンバリングコード	CM4-1005-00000	年次配当	4年後期		高等学校教諭（英語）	
					特別支援学校教諭	
授業形態	講義			卒業要件	初等幼児教育専攻	選択
単位数	2				中等教育専攻	選択
科目						
各科目に含めることが必要な事項						
教科目						
系列						
授業テーマ	日本文学作品を読解するための基本的な知識を身に着けるとともに、読解を通じて豊かな人間性を培う。					
授業概要	日本文学にはさまざまな主題が展開し，それぞれの作品において個性ある表現世界が作り出されている。授業では，古典の物語や近現代の小説を取り上げ，本文を講読しながら各作品の主題と特質を把握し，そこに描かれている価値観や心理の多様性と普遍性について検討する。					

達成目標	科目DP：(1)～(5)					
	DP番号	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)
	1．日本文学の主題や表現上の特質を発見することができる。	◎			○	
	2．日本文学作品に描かれた登場人物の心情を理解することができる。	◎			○	
	3．日本文学作品の読解を通じて得た感動を他者に伝えることができる。				○	◎

履修条件・注意事項	
授業計画	1．文学が拓く世界：詩的言語に関する講義。（目標 1） 2．物語文学の誕生①：『竹取物語』を読解し、分析する。（目標 1） 3．物語文学の誕生②：『竹取物語』の主題を検討する。（目標 1,3） 4．物語文学の展開①：『伊勢物語』を読解し、分析する。（目標 1） 5．物語文学の展開②：『伊勢物語』の主題を検討する。（目標 1,3） 6．物語文学の達成①：『源氏物語』「帚木」巻を読解し、分析する。（目標 1） 7．物語文学の達成②：『源氏物語』「夕顔」を読解し、分析する。（目標 1） 8．小説が描く子どもたち①：芥川龍之介の短編小説を講読し、主題を検討する。（目標 1,2,3） 9．小説が描く子どもたち②：谷崎潤一郎の短編小説をを読解し、分析する。（目標 1,2） 9．小説が描く子どもたち③：谷崎潤一郎の短編小説の主題を検討する。（目標 1,3） 10. 小説が描く子どもたち④：安岡章太郎の短編小説を講読し、主題を検討する。（目標 1,2,3） 11. 小説が描く子どもたち⑤：井上ひさしの短編小説を講読し、主題を検討する。（目標 1,2,3） 12. 現代の小説を読む①：村上春樹『パン屋再襲撃』を講読し、分析する。（目標 1,2） 13. 現代の小説を読む②：村上春樹『パン屋再襲撃』の主題を検討する。（目標 1,3） 14. 現代の小説を読む③：村上春樹『回転木馬のデットヒート』を講読し、分析する。（目標 1,2） 15. 現代の小説を読む④：村上春樹『回転木馬のデットヒート』の主題を検討する。（目標 1,3） ◎定期試験
アクティブ・ラーニング	各作品の主題を検討する際には、適宜レスポンスカードを作成し、それに基づいてディスカッションを行う。
成績評価基準	評価の方法：定期試験80%、授業態度20%により評価する。 評価の基準：定期試験では、作品の主題や表現上の特質についての知識・理解を測定する。授業態度では、レスポンスカードにおいて登場人物の心情理解や読解を通じて得た感動がどれだけ主題や表現に即して記述されているかにより、その思考・判断能力を測定する。
フィードバックの方法	レスポンスカードにコメントを付けて返却する。
時間外の学習について	予習：授業で取りあげる作品の作者について、文学史上の位置づけを調べておくこと。 各回45分程度 復習：作品の主題について200字程度に要約しておくこと。各回45分程度
教材にかかわる情報	テキスト：特になし 参考書： 参考資料等：
担当者からのメッセージ等 実務経験について	主要な場面を抜粋したプリントを配付します。なお、古典作品を読む際は、現代語訳を参照します。

授業科目名	日本語コミュニケーション	教員名	上田　保明 (実務経験) (単独)	免許・資格との関係	保育士	
					幼稚園教諭	
					小学校教諭	
					中学校教諭(英語)	
ナンバリングコード	CM1-1006-00000	年次配当	1年前期		高等学校教諭(英語)	
					特別支援学校教諭	
授業形態	講義			卒業要件	初等幼児教育専攻	選択
単位数	2				中等教育専攻	選択
科目						
各科目に含めることが必要な事項						
教科目						
系列						
授業テーマ	コミュニケーションの成立　コミュニケーションに関わる諸条件　敬語コミュニケーション					
授業概要	日本語を媒体としたコミュニケーションのあり方を認識するとともに、様々な事例を引用しながら、時には演習形式を取り入れて、一人ひとりのコミュニケーション能力を培う。					

達成目標	科目DP：(1)～(5)				
	DP番号	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)
	1．日本語コミュニケーションの成立過程を理解する。		◎	○		
	2．日本語コミュニケーションに関わる諸条件を理解する。		◎	○		
	3．敬語コミュニケーションの必要性と正しい敬語表現を身に付ける。			◎		○

履修条件・注意事項	
授業計画	1．コミュニケーションの成立（1）ことばによるコミュニケーションの現れ　(目標 1) 2．コミュニケーションの成立（2）挨拶から会話へ　「手紙の書き方」(目標 1,3) 3．コミュニケーション力の心理学的メカニズム（1）ことばを育む要因　(目標 1) 4．コミュニケーション力の心理学的メカニズム（2）心の構造とコミュニケーション力　(目標 1) 5．親和的コミュニケーション　「笑み」と「笑い」(目標 2) 6．敵対的コミュニケーション　「怒り」と「文化」(目標 2) 7．方言とコミュニケーション　言語意識の変遷　(目標 2) 8．電話によるコミュニケーション　マナーを守ることの必要性　(目標 2) 9．敬語コミュニケーションの必要性（1）相互尊重に基づく自己表現　(目標 3) 10. 敬語コミュニケーションの必要性（2）敬語の効用　(目標 3) 11. 敬語の体系　尊敬語・謙譲語・丁寧語・美化語　(目標 3) 12. 敬語コミュニケーションにおける意識　「丁寧さ」の原理　(目標 3) 13. 敬語コミュニケーションを磨く　コミュニケーションを磨く工夫　(目標 3) 14. 敬語コミュニケーションを身につける　敬語の正しい使い方　(目標 3) 15. コミュニケーションを生む空間づくり　心を開く　(目標 2) 定期試験
アクティブ・ラーニング	グループワーク　　ロールプレイ
成績評価基準	評価の方法：定期試験70%　提出物20%　学習への取組状況10% 評価の基準:日本語コミュニケーションの成立を理解し、正しい敬語コミュニケーションができる。
フィードバックの方法	授業初めに前回の学習を問答することで重要点を確認する。また、提出物をチェックし、コメントを添えて返却する。
時間外の学習について	予習：敬語の体系について整理する。(各回45分程度) 復習：「日本語コミュニケーション」に関わる自分の問題点をまとめる。(各回45分程度)
教材にかかわる情報	テキスト：プリントを配布する。 参考書：その都度紹介する。 参考資料等：
担当者からのメッセージ等 実務経験について	最初の声かけ一つで、人の印象は変わるものです。児童、保護者、同僚等と好ましい人間関係を築く人との接し方、かかわり方を体験を交えて学びましょう。 小学校教員経験：実務経験をもとに日本語を媒体とした国語教育のあり方について話をします。

授業科目名	英語コミュニケーションⅠ	教員名	檜垣　英夫 （実務経験） （単独）	免許・資格との関係	保育士	選択
					幼稚園教諭	必修
					小学校教諭	必修
					中学校教諭（英語）	必修
ナンバリングコード	CM1-1007-21110	年次配当	1年前期		高等学校教諭（英語）	必修
授業形態	演習				特別支援学校教諭	
単位数	2			卒業要件	初等幼児教育専攻	選択
					中等教育専攻	選択

科目	教養科目（幼稚園・小学校・中学校・高等学校）（免許法施行規則第66条の６に定める科目）
各科目に含めることが必要な事項	教養科目
教科目	教養科目（保育士）
系列	教養科目
授業テーマ	グローバル社会に求められる英語コミュニケーション力を日常英会話の演習や基本的な英文法等の確認を通して身に付ける。
授業概要	身近な話題を取り上げた英会話の演習を、ペアワークを中心としたアクティビティや基本的な英文法を理解することを通して、日常英会話に必要な基本的なフレーズやその骨格となっている文法の基本を習得する。

達成目標	科目DP：(1)～(5)					
	DP番号	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)
	1．英語で自分自身を表現することができる。					◎
	2．身近な話題で相手とコミュニケーションを図ることができる。					◎
	3．演習を通して英語で積極的に話したり聞いたりする積極的な態度を身に付けることができる。					○
	4．コミュニケーションを図る上で必要な基本的な英文法や語彙を習得することができる。					◎

履修条件・注意事項	
授業計画	1．Hi, I'm Michiko.［自己紹介／be動詞・一般動詞］（目標 1,2,3,4） 2．Can I get your telephone number?［依頼表現／助動詞］（目標 1,2,3,4） 3．What's the time?［時間の尋ね方／疑問詞］（目標 1,2,3,4） 4．Hometowns［故郷、世界の国々／前置詞］（目標 1,2,3,4） 5．What's your favorite food?［食べ物／名詞］（目標 1,2,3,4） 6．How often do you…?［頻度／副詞］（目標 1,2,3,4） 7．Music in Your Life［音楽／形容詞］（目標 1,2,3,4） 8．Who's older, you or your sister?［比較／比較級・最上級］（目標 1,2,3,4） 9．How was your weekend?［過去の経験／過去形］（目標 1,2,3,4） 10. Movies and Dating［映画／関係詞］（目標 1,2,3,4） 11. Weather, Seasons, and Health［天候・季節・健康状態／未来形］（目標 1,2,3,4） 12. Cell phones, Computers, and Other Useful Things［ICT機器／不定詞］（目標 1,2,3,4） 13. Have you ever…?［現在までの経験／現在完了］（目標 1,2,3,4） 14. Let's Review［復習］（目標 1,2,3,4） 15. Test Yourself［確認］（目標 1,2,3,4） 定期試験
アクティブ・ラーニング	ペアワーク、グループワーク、プレゼンテーション　等
成績評価基準	評価の方法：定期考査60%　授業の参加度（課題テスト、発表、授業態度）40% 評価の基準：知識・理解・思考・態度・技能・表現等の観点による。
フィードバックの方法	小テスト等において個別還元指導
時間外の学習について	予習：指定されたLessonについて、付属ＣＤ等で内容を確認しておく。各回30分程度 復習：既習Lessonの目標となる表現を円滑に使用できるように、付属ＣＤ等を活用して反復練習をする。各回30分程度
教材にかかわる情報	テキスト：『Getting into English』南雲堂 参考書：適宜紹介 参考資料等：随時プリント配布
担当者からのメッセージ等 実務経験について	グローバル社会において、英語で自分自身を表現したり、海外からの訪問者に身近な話題でコミュニケーションを図ったりすることができることは、学校現場等で国際交流を担当していた経験から、非常に重要であると実感しています。世界の様々な人々と英語でコミュニケーションを図ることができるよう、その基盤を築いていきましょう。

授業科目名	英語コミュニケーションⅡ	教員名	檜垣　英夫 （実務経験） （単独）	免許・資格との関係	保育士	選択
					幼稚園教諭	
					小学校教諭	
					中学校教諭（英語）	選択
ナンバリングコード	CM1-1008-20020	年次配当	1年後期		高等学校教諭（英語）	選択
授業形態	演習				特別支援学校教諭	
単位数	2			卒業要件	初等幼児教育専攻	選択
					中等教育専攻	選択

科目	教養科目（幼稚園・小学校・中学校・高等学校）（免許法施行規則第66条の６に定める科目）
各科目に含めることが必要な事項	教養科目
教科目	教養科目（保育士）
系列	教養科目
授業テーマ	グローバル化が急速に進展し、国際共通語となりつつある英語力の向上が求められている中、英語による実践的なコミュニケーション能力を養う。
授業概要	電子黒板等を活用し、様々な話題や場面で使われる英語表現を習得し、聞くことや話すことを中心とした会話演習を行う。

達成目標	科目DP：(1)～(5)				
	DP番号 (1)	(2)	(3)	(4)	(5)
1．日常会話で必要な語彙・表現を身につける。					
2．実践的な表現を理解し、聞き取ることができる。					
3．自分の考えを、習得した英語表現を使って、はっきりと発表できる。					
4．課題に主体的に取り組み、学習意欲をもって授業に積極的に参加することができる。					

履修条件・注意事項	
授業計画	1．Meeting and greeting：自己紹介・あいさつの仕方／Be動詞・一般動詞　（目標 1,2,3,4） 2．Family and friends：友人へ家族の紹介方法／Be動詞短縮形　（目標 1,2,3,4） 3．Likes and dislikes：好き嫌いの伝え方/主語と一般動詞の呼応　（目標 1,2,3,4） 4．Good habits and bad habits：日頃の習慣の話し方／頻度を表す表現・時刻の表し方（目標 1,2,3,4） 5．Review　Unit 1-4：第１回～第４回の復習　（目標 2,3,4） 6．Summer and fun：夏休みの計画の話し合い方／規則動詞・不規則動詞　（目標 1,2,3,4） 7．Here and there：行き先の尋ね方／主語とBe動詞の呼応　（目標 1,2,3,4） 8．Giving and receiving：贈り物や買い物の仕方／名詞の単数形・複数形　（目標 1,2,3,4） 9．Parties and Fashion：パーティでの服装の伝え方／可算名詞・不可算名詞　（目標 1,2,3,4） 10．Review　Unit 5-8：第５回～第９回の復習　（目標 2,3,4） 11．Physical Education and health：保健体育に関する表現／動詞のdo・goの慣用表現（目標 1,2,3,4） 12．Nursery school and daycare：幼稚園等でのボランティア活動の紹介方法／肯定文・否定文（目標 1,2,3,4） 13．Educating and caring：障害のある子どもの支援についての話し合い方／形式主語のIt（目標 1,2,3,4） 14．Bulling and other problems：いじめ等の問題についての話し合い方／使役動詞（目標 1,2,3,4） 15．Review Unit 9-12：第９回～第12回の復習　（目標 2,3,4） 定期試験
アクティブ・ラーニング	ペアワーク、グループワーク、プレゼンテーション等
成績評価基準	評価の方法：定期試験60%　授業の参加度（課題テスト、発表、授業態度）40% 評価の基準：知識・理解・思考・態度・技能・表現等の観点による。
フィードバックの方法	小テスト時等において個別還元指導
時間外の学習について	予習：指定された Lesson について、付属ＣＤ等を活用して内容を確認しておく。各回90分程度 復習：既習 Lesson の目標表現が円滑に使用できるようにする。各回45分程度
教材にかかわる情報	テキスト：『Student Teacher』南雲堂 参考書：適宜紹介 参考資料等：随時プリント配布
担当者からのメッセージ等 実務経験について	授業で「わかった」ということと、それが「できる、身についている」ということは全く別物です。反復練習等を通して、重要表現を確実に活用できるよう、毎回の予習・復習を徹底してください。 高校教員・県教委指導主事の実務経験をもとに聞く・話すことを中心とした演習を行います。

授業科目名	英語 Ⅰ	教員名	岩中　貴裕 (実務経験) (単独)	免許・資格との関係	保育士	
					幼稚園教諭	
					小学校教諭	
					中学校教諭(英語)	
ナンバリングコード	CM2-1009-00000	年次配当	2年前期		高等学校教諭(英語)	
					特別支援学校教諭	
授業形態	講義			卒業要件	初等幼児教育専攻	選択
単位数	2				中等教育専攻	選択
科目						
各科目に含めることが必要な事項						
教科目						
系列						
授業テーマ	この授業では「聞くこと」、「話すこと」、「読むこと」、「書くこと」の4技能の総合的な活用を通して、英語をコミュニケーションのためのツールとして使用する基礎的な能力を育成します。					
授業概要	身近なトピックを題材に取り上げ、英語を使用する能力を育成します。また小学生に英語を指導するためのスキルの習得を目指します。					

達成目標	以下の4点がこの授業の達成目標です。授業終了時に達成できていることを確認してください。	科目DP：(1)～(5)				
		DP番号	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)
	1．基礎的な英文を聞き取り、理解することができる。						
	2．文法・語法を把握し、英文を理解することができる。						
	3．平易な表現を用いて自分の考えを、文字モードまたは音声モードで伝えることができる。						
	4．小学校の外国語活動、外国語科で使用される教材について理解している。						

履修条件・注意事項	積極的な授業参加が求められます。英語Ⅰと英語Ⅱは同じテキストを使用します。両方を履修するようにしてください。
授業計画	1．授業についての説明　(目標 1,2,3,4) 2．Let's Try! (1) の特徴・英文法演習　(目標 1,2,3,4) 3．Let's Try! (1) の狙い・英文法演習　(目標 1,2,3,4) 4．Let's Try! (1) の使い方・英文法演習　(目標 1,2,3,4) 5．Let's Try! (1) を使った授業・英文法演習　(目標 1,2,3,4) 6．Let's Try! (1) を使ったコミュニケーション活動・英文法演習　(目標 1,2,3,4) 7．Let's Try! (1) の発展的な使い方（インタビュー）・英文法演習　(目標 1,2,3,4) 8．Let's Try! (1) の発展的な使い方（発表）・英文法演習　(目標 1,2,3,4) 9．Let's Try! (2) の特徴・英文法演習　(目標 1,2,3,4) 10. Let's Try! (2) の狙い・英文法演習　(目標 1,2,3,4) 11. Let's Try! (2) の使い方・英文法演習　(目標 1,2,3,4) 12. Let's Try! (2) を使った授業・英文法演習　(目標 1,2,3,4) 13. Let's Try! (2) の使ったコミュニケーション活動・英文法演習　(目標 1,2,3,4) 14. Let's Try! (2) の発展的な使い方・英文法演習　(目標 1,2,3,4) 15. まとめ・到達目標の確認　(目標 1,2,3,4)
アクティブ・ラーニング	ペアワーク，グループワークを取り入れる。
成績評価基準	評価の方法：授業への取組40%　ミニレポート40%　発表20% 評価の基準：態度と意欲を重視した評価を行う。
フィードバックの方法	毎回の授業でミニレポートを提出します。ミニレポートは授業担当者によるコメントを加えて次の授業内で返却します。
時間外の学習について	予習：指定された箇所の内容を確認し、課題を行った上で授業に臨んでください。(各回45分程度) 復習：授業内で授業後の課題が出されます。次の授業までに準備しておいてください。 (各回45分程度)
教材にかかわる情報	テキスト：石井隆之他 (2015)『Access to Simple English』成美堂　￥1,900 ISBN 9784791910892 参考資料等：Let's Try! We can!
担当者からのメッセージ等実務経験について	英語は実際に使いながら学ぶことが大切です。コミュニケーション活動を楽しみながら英語力を向上させてください。 高等学校での勤務：経験に基づいて文法、話法等の基礎について話をします。

授業科目名	英語 Ⅱ	教員名	岩中　貴裕 (実務経験) (単独)	免許・資格との関係	保育士	
					幼稚園教諭	
					小学校教諭	
					中学校教諭(英語)	
ナンバリングコード	CM2-1010-00000	年次配当	2年後期		高等学校教諭(英語)	
					特別支援学校教諭	
授業形態	講義			卒業要件	初等幼児教育専攻	選択
単位数	2				中等教育専攻	選択
科目						
各科目に含めることが必要な事項						
教科目						
系列						

授業テーマ	この授業では「聞くこと」、「話すこと」、「読むこと」、「書くこと」の4技能の総合的な活用を通して、英語をコミュニケーションのためのツールとして使用する基礎的な能力を育成します。
授業概要	身近なトピックを題材に取り上げ、英語を使用する能力を育成します。また小学生に英語を指導するためのスキルの習得を目指します。

達成目標	以下の４点がこの授業の達成目標です。授業終了時に達成できていることを確認してください。	科目DP：(1)～(5)				
		DP番号	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)
	１．基礎的な英文を聞き取り、理解することができる。						
	２．文法・語法を把握し、英文を理解することができる。						
	３．平易な表現を用いて自分の考えを、文字モードまたは音声モードで伝えることができる。						
	４．小学校の外国語活動、外国語科で使用される教材について理解している。						

履修条件・注意事項	積極的な授業参加が求められます。英語Ⅰと英語Ⅱは同じテキストを使用します。両方を履修するようにしてください。
授業計画	１．授業についての説明　(目標 1,2,3,4) ２．We Can! (1) の特徴・英文法演習　(目標 1,2,3,4) ３．We Can! (1) の狙い・英文法演習　(目標 1,2,3,4) ４．We Can! (1) の使い方・英文法演習　(目標 1,2,3,4) ５．We Can! (1) を使った授業・英文法演習　(目標 1,2,3,4) ６．We Can! (1) を使ったコミュニケーション活動・英文法演習　(目標 1,2,3,4) ７．We Can! (1) の発展的な使い方（インタビュー）・英文法演習　(目標 1,2,3,4) ８．We Can! (1) の発展的な使い方（発表）・英文法演習　(目標 1,2,3,4) ９．We Can! (2) の特徴・英文法演習　(目標 1,2,3,4) 10. We Can! (2) の狙い・英文法演習　(目標 1,2,3,4) 11. We Can! (2) の使い方・英文法演習　(目標 1,2,3,4) 12. We Can! (2) を使った授業・英文法演習　(目標 1,2,3,4) 13. We Can! (2) の使ったコミュニケーション活動・英文法演習　(目標 1,2,3,4) 14. We Can! (2) の発展的な使い方・英文法演習　(目標 1,2,3,4) 15. まとめ・到達目標の確認　(目標 1,2,3,4)
アクティブ・ラーニング	ペアワーク，グループワークを取り入れる。
成績評価基準	評価の方法：授業への取組40%　ミニレポート40%　発表20% 評価の基準：態度と意欲を重視した評価を行う。
フィードバックの方法	毎回の授業でミニレポートを提出します。ミニレポートは授業担当者によるコメントを加えて次の授業内で返却します。
時間外の学習について	予習：指定された箇所の内容を確認し、課題を行った上で授業に臨んでください。(各回45分程度) 復習：授業内で授業後の課題が出されます。次の授業までに準備しておいてください。 (各回45分程度)
教材にかかわる情報	テキスト：石井隆之他 (2015)『Access to Simple English』成美堂　￥1,900 ISBN 9784791910892 参考資料等：Let's Try! We can!
担当者からのメッセージ等実務経験について	英語は実際に使いながら学ぶことが大切です。コミュニケーション活動を楽しみながら英語力を向上させてください。 高等学校での勤務：経験に基づいて文法、話法等の英語指導について話をします。

授業科目名	ドイツ語	教員名	岡光　一浩 （単独）	免許・資格との関係	保育士	
					幼稚園教諭	
					小学校教諭	
					中学校教諭（英語）	
ナンバリングコード	CM2-1013-00000	年次配当	２年前期		高等学校教諭（英語）	
					特別支援学校教諭	
授業形態	講義			卒業要件	初等幼児教育専攻	選択
単位数	2				中等教育専攻	選択
科目						
各科目に含めることが必要な事項						
教科目						
系列						
授業テーマ	総合的なドイツ語運用能力を身につける。					
授業概要	ドイツ語文法を理解して、ドイツ語を読み・書き・聞き・話す練習をし、併せて、ドイツ語圏文化についても学びます。DVDや CD などを用い、楽しくて分かりやすい、皆さんが積極的に参加できる授業とします。					

達成目標	科目DP：(1)～(5)				
	DP番号 (1)	(2)	(3)	(4)	(5)
1．基本的なドイツ語文法の理解					
2．簡単なドイツ語を読み、書き、聞く、話すという実践的運用能力の習得					
3．ドイツ語圏文化の学習					

履修条件・注意事項	
授業計画	1．授業のオリエンテーション。ドイツ語やドイツ語圏文化について。アルファベート、つづり、発音　（目標 1,2,3） 2．同上。（目標 1,2,3） 3．動詞、文章のつくり方など。（目標 1,2,3） 4．動詞、命令形など。（目標 1,2,3） 5．語順、数字など。（目標 1,2,3） 6．冠詞、代名詞など。（目標 1,2,3） 7．冠詞、複数形など。（目標 1,2,3） 8．格変化のまとめなど。小テスト。（目標 1,2,3） 9．前置詞など。（目標 1,2,3） 10. 助動詞など。（目標 1,2,3） 11. 分離動詞など。（目標 1,2,3） 12. 形容詞、比較など。（目標 1,2,3） 13. 過去など。（目標 1,2,3） 14. 現在完了形、受動態など。（目標 1,2,3） 15. 文法補足、まとめ。（目標 1,2,3） ◎定期試験
アクティブ・ラーニング	ロールプレイ
成績評価基準	評価の基準：試験（知識の定着度）、授業態度・授業への参加態度（関心・意欲、思考・判断） 評価の方法：総合的に評価する。（定期試験60%、小テスト10%、授業態度・授業への参加度30%）
フィードバックの方法	試験後或いは返却時。
時間外の学習について	予習：次回学習事項に目を通し、宿題等に取り組んだうえで授業に出席のこと。各回１時間程度 復習：前回までの学習事項について理解を深め、次回授業や小テストに臨むこと。各回30分程度
教材にかかわる情報	テキスト：未定 参考書： 参考資料等：
担当者からのメッセージ等 実務経験について	授業に出席し積極的に取り組むこと。

授業科目名	語学・異文化海外研修	教員名	福屋　利信 中垣　謙司 (実務経験) 岩中　貴裕 ダグラス・パーキン 檜垣　英夫	免許・資格との関係	保育士	
					幼稚園教諭	
					小学校教諭	
					中学校教諭(英語)	
ナンバリングコード	CM7-1014-00000				高等学校教諭(英語)	
					特別支援学校教諭	
授業形態	演習					
単位数	2	年次配当		卒業要件	初等幼児教育専攻	選択
					中等教育専攻	選択
科目						
各科目に含めることが必要な事項						
教科目						
系列						

授業テーマ	この授業では海外で実施される研修を通して、グローバル社会で求められるコミュニケーション能力を育成します。
授業概要	この授業は事前研修、海外研修、事後指導で構成されています。英語運用能力と同時に発信力、傾聴力、柔軟性、規律性、そしてストレスコントロール力を養います。
達成目標	以下の４点がこの授業の達成目標です。授業終了時に達成できていることを確認してください。

科目DP：(1)～(5)					
DP番号	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)
1.海外研修の目的と意義を説明することができる。					
2.英語で積極的にコミュニケーションを図ろうとすることができる。					
3.他の人と協力して課題に取り組むことができる。					
4.研修で学んだ内容を英語でプレゼンテーションすることができる。					

履修条件・注意事項	海外研修を成功させるためには事前の準備が大切です。事前指導での準備状況が不十分な場合は単位が認定されないことがあります。
授業計画	１．授業についての説明　(目標 1,2,3) ２－５．事前指導の特徴・英文法演習（目標 1,2,3) ６－12．海外研修（研修先は各学生が決定する）(目標 1,2,3) 13．研修内容報告（プレゼンテーション）・質疑応答（目標 1,2,3,4) 14．研修内容報告（プレゼンテーション）・振り返り（目標 1,2,3,4) 15．まとめ・到達目標の確認（目標 1,2,3,4)
アクティブ・ラーニング	グループワークと発表を中心とした授業を行う。
成績評価基準	評価の方法：事前・事後指導への取組30%　レポート40%　プレゼンテーション30% 評価の基準：態度と意欲を重視した評価を行う。
フィードバックの方法	事前・事後指導は受講生の発表等が中心となります。授業担当者は受講生のパフォーマンスの向上を促すためのフィードバックを文字モードまたは音声モードで提供します。
時間外の学習について	予習：事前研修内の指示に従って予習に取り組んでください。 復習：授業内で授業後の課題が出されます。次の授業までに準備しておいてください。
教材にかかわる情報	授業内で必要な資料を配布する。
担当者からのメッセージ等 実務経験について	単位認定の対象となる海外研修プログラムについては、授業担当者に確認してください。また渡航前の手続きが必要です。事前指導を受けずに海外で研修を受けても単位認定は行われませんので注意してください。 米国留学（１年間）・文部省英国派遣研修（半年間）・CIEE主催米国研修（２ヶ月間）の実務経験をもとに海外研修の事前、事後指導を行います。

自然科学系

情 報 処 理……17
情 報 科 学……18
自 然 科 学……19

授業科目名	情報処理	教員名	三池　秀敏 山本　瑞恵	免許・資格との関係	保育士	選択
					幼稚園教諭	必修
					小学校教諭	必修
					中学校教諭(英語)	必修
ナンバリングコード	CM1-1015-21110	年次配当	1年前期		高等学校教諭(英語)	必修
授業形態	演習				特別支援学校教諭	
単位数	2			卒業要件	初等幼児教育専攻	必修
					中等教育専攻	必修

科目	教養科目（幼稚園・小学校・中学校・高等学校）（免許法施行規則第66条の６に定める科目）
各科目に含めることが必要な事項	教養科目
教科目	教養科目（保育士）
系列	教養科目
授業テーマ	情報化社会で必要となる情報リテラシー、倫理、セキュリティについて修得する。
授業概要	授業は講義と演習を組み合わせて行う。内容理解のため授業中および時間外に演習課題を出す。

達成目標

	科目DP：(1)～(5)				
DP番号	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)
1．情報機器やネットワークに関する基本的事項を説明できる。			○		○
2．パソコンで情報を取り扱うための情報リテラシーが身に付く。	○		○		○
3．文章作成、表計算、プレゼンテーション、インターネットおよび電子メールを理解し、活用できる。			◎	○	○
4．情報を取り扱う際の倫理やセキュリティを十分に理解し、ネットワークを活用できる。			○		○

履修条件・注意事項	
授業計画	1．オリエンテーション：機器の操作（コンピュータの基本）、ネットワークと情報モラル 2．電子メールの使い方、Windowsの基本操作等（目標 1,2） 3．文章作成（Wordの基本操作）（目標 2,3） 4．文章作成（書式、図・表の挿入）（目標 2,3） 5．文章作成（実用文章作成）（目標 2,3） 6．表計算（Excelの基本操作）（目標 2,3） 7．表計算（ワークシート、参照）（目標 2,3） 8．表計算（式と関数1）（目標 2,3） 9．表計算（式と関数2、グラフ作成）（目標 2,3） 10. Excel活用のノウハウ（目標 2,3） 11. 情報化社会における諸問題（ＳＮＳ・モラル・セキュリティ）（目標 4） 12. プレゼンテーション１：(PowerPointの基本操作)（目標 3） 13. プレゼンテーション２：(スライド作成、アニメーション効果)（目標 3） 14. プレゼンテーション３：(自己紹介プレゼン資料作成・発表)（目標 3） 15. プレゼンテーション４：(自己紹介プレゼンⅡ)（目標 3） 定期試験
アクティブ・ラーニング	毎回の講義で演習課題を課し、回答を印刷提出させる。また、回答にコメントを付けて返却し、指導する。自己紹介プレゼンテーションでは、学生に質問させ質疑応答の形で積極的に授業に関わらせる。
成績評価基準	評価の方法：課題及び小テスト50%、授業への取り組み20%、定期試験30%として総合的に評価する。 評価の基準：毎回の課題の評価をA, B, C, Dの4段階で行い返却する。また、自己紹介プレゼンテーションの発表態度、質疑応答の態度等を同様に評価し、定期試験の点数との総合評価を行う。
フィードバックの方法	毎回の課題等にコメントを付けて返却し指導する。
時間外の学習について	予習：次回の講義内容を事前にテキストで確認し、練習問題に目を通しておくこと。(各回30分程度) 復習：前回の講義での課題の採点結果を把握し、疑問があれば次回の講義で質問すること。 (各回30分程度)
教材にかかわる情報	テキスト：学生のための思考力・判断力・表現力が身に付く情報リテラシー（FOR出版、2018） 参考書： 参考資料等：
担当者からのメッセージ等 実務経験について	情報処理（1年）、情報科学（2年）、及び教育の方法と技術（3年）の一連の教育の中で、小学校における「プログラミング教育」に対応できる基本的な能力を身に付けます。(授業中に作成した各種データの保存のため、ＵＳＢメモリを準備してください。また、ＵＳＢメモリの管理に注意すること。)

授業科目名	情報科学	教員名	三池　秀敏 石川　昌明	免許・資格との関係	保育士	
					幼稚園教諭	
					小学校教諭	
					中学校教諭(英語)	
ナンバリングコード	CM2-1016-00000	年次配当	２年後期		高等学校教諭(英語)	
					特別支援学校教諭	
授業形態	講義			卒業要件	初等幼児教育専攻	選択
単位数	2				中等教育専攻	選択
科目						
各科目に含めることが必要な事項						
教科目						
系列						

授業テーマ	情報理論、情報の表現、及びデータサイエンスの基本概念を学ぶ。また、小学校へのプログラミング教育の導入に対応し、基本言語によるプログラミングや電子黒板などの教育ＩＣＴ機器活用の基礎を理解する。
授業概要	自然科学が物質やエネルギーの科学であるのに対して、情報科学は20世紀に登場した新しい科学である。講義では、まず、計算の歴史や情報理論、平均情報量としてのエントロピー、人間の情報処理能力など、情報の概念と定量化について学ぶ。次に2進数による情報の表現と演算、符号化、及びデータサイエンスの基礎を学び、最後にプログラミング教育に必要な言語・機器について体験する。

達成目標

	科目DP：(1)～(5)				
DP番号	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)
1．計算の歴史、情報理論（情報の定量化など）を理解する			○		
2．数値や文字情報などを表現する方法について理解する					
3．データサイエンスの基本を学び、データ処理の実際を理解する					
4．コンピュータの基本的な構造・動作とアルゴリズムを理解する		○			
5．簡単なプログラミング言語を理解・活用し、教育に必要な機器の基本を理解する。					◎

履修条件・注意事項	
授業計画	1．情報科学とは：計算の歴史と情報理論（目標 1） 2．情報の概念と定量化：情報量・情報エントロピー(目標 1,2) 3．情報データの表現Ⅰ：2進数、10進数、16進数など（目標 2） 4．情報データの表現Ⅱ：数値、文字、図形の表現（目標 2） 5．デジタルとアナログと符号化（目標 2） 6．データサイエンス・リテラシーⅠ：社会におけるデータ・AI利活用（目標 3） 7．データサイエンス・リテラシーⅡ：データ・AI利活用における留意事項（目標 3） 8．データサイエンスの基礎Ⅰ：時系列データの分析（平均・分散・偏差値）（目標 3） 9．データサイエンスの基礎Ⅱ：時系列データ処理（周期性、ノイズ、スペクトル）（目標 3） 10. コンピュータシステムの構造とソフトウエア(基本ソフトとアプリケーションソフト)（目標 4） 11. 教育用基本プログラミング言語（Scratch & P3）の紹介（目標 4,5） 12. 基本言語によるアプリケーションソフト制作Ⅰ（ゲームソフト開発）（目標 5） 13. 基本言語によるアプリケーションソフト制作Ⅱ（音楽演奏ソフト開発）（目標 5） 14. 基本言語によるアプリケーションソフト制作Ⅲ（教材開発）（目標 5） 15. 電子黒板によるプレゼンテーションの基礎（目標5 ） 定期試験
アクティブ・ラーニング	前半の講義では、毎回課題を出し時間内にパソコンでミニレポートを作成・提出させる。また、後半の講義では､簡単なプログラミング言語でゲームや音楽演奏等のアプリケーションソフトを作成・発表させ理解を深める。
成績評価基準	評価の方法：毎回の課題に対するミニレポートの評価（30%）と制作されたソフトの評価（30%）、及び定期試験の評価（40%）を総合的に評価する。 評価の基準：ミニレポートの10課題は4段階評価、ソフト制作は3段階評価、定期試験は100点満点で評価する。
フィードバックの方法	最初の10回の講義では、毎回課題を出し時間内にミニレポートを提出させ、次回にコメントを付けて返却し学生の理解を深める。後半では、学生が制作した作品を紹介させ、学生を交えて質疑応答を行う。
時間外の学習について	予習：教科書は使用しないが、2回目以降は前の抗議の最後に次回のプリントを配布し、事前の予習を義務付ける。次回の講義の最初に学生に質問し、予習状況を確認する。 復習：課題や制作物の評価・コメントを確認させ、次回の講義で質問時間を設けて理解を深める。
教材にかかわる情報	テキスト： 参考書：情報数学の基礎（幸谷、國持共著:2011年)、情報科学基礎－コンピュータとネットワークの基本（伊東俊彦著：2015年）など 参考資料等：数理・データサイエンス・ＡＩモデルカリキュラム（数理データサイエンス教育強化拠点コンソーシアム）
担当者からのメッセージ等実務経験について	情報処理（1年)、情報科学（2年)、及び教育の方法と技術（3年）の一連の教育の中で、小学校における「プログラミング教育」に対応できる基本的な能力を身に付けます。

授業科目名	自然科学	教員名	三池　秀敏 山本　正信	免許・資格との関係	保育士	
					幼稚園教諭	
					小学校教諭	
					中学校教諭(英語)	
ナンバリングコード	CM3-1017-00000	年次配当	3年前期		高等学校教諭(英語)	
					特別支援学校教諭	
授業形態	講義			卒業要件	初等幼児教育専攻	選択
単位数	2				中等教育専攻	選択
科目						
各科目に含めることが必要な事項						
教科目						
系列						
授業テーマ	自然の理解、自然科学の基本的な法則や現象の理解、自然科学的な視点を養う					
授業概要	人間は長い歴史の中で自然を知るために努力してきた。それは数学、物理学、化学、生物学、地学と広い分野に及ぶが、授業では、事象の数学モデルや自然界の物理法則から始めて、数的処理や物理現象及び生命現象の基本を学ぶ。					

達成目標	科目DP：(1)～(5)				
DP番号	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)
1．自然科学の本質、科学的発想、科学の成果などを学習する。				○	
2．科学的な視点と基本的な法則や概念を理解する。		○			
3．自然科学の知識を習得すると共に、自然と共生することの大切さを理解する。		◎			
4．自然科学的な見方、考え方など、正しい自然観が身に付くことを目標にする。					○

履修条件・注意事項	毎回情報処理演習室A301で講義・調査し、図書館を活用する。
授業計画	1．社会や物事の数学モデル（目標 1） 2．人間の数学モデル（目標 2） 3．コンピュータによる計算の仕組み（目標 2） 4．確率・統計の基礎（目標 2） 5．物質の成り立ち：固体・液体・気体と密度と比重（目標 3） 6．様々な力とその働き（目標 4） 7．電気と磁気の働き（目標 4） 8．熱と温度およびエネルギー(目標 4) 9．音波と音声（目標 4） 10. 光と電磁波（目標 4） 11. 細胞の構造・体の仕組みと働き（目標 3） 12. 代謝・呼吸・循環（目標 3） 13. 微生物（目標 3） 14. 免疫と遺伝（目標 3） 15. 新しい科学：生きたシステムの科学（目標 1） 定期試験
アクティブ・ラーニング	授業の中で毎回「調査課題」を課し、インターネットや図書館を利用したレポートを作成し印刷して提出させる。次回の講義の最初に何人かセレクトして発表させ、意見交換を行う。
成績評価基準	評価の方法：毎回の調査課題のレポートをA,B,C,Dの4段階で採点・評価＋期末試験の実施 評価の基準：調査レポートの量（字数）と質（課題への回答の的確性）、及び期末試験の点数（100点満点）
フィードバックの方法	毎回の課題に対するレポートの評価をA,B,C,Dの4段階で評価し、コメントを付けて返す。課題レポートの発表者に対するコメント。
時間外の学習について	予習：参考書や参考となるインターネット上のテキスト（北海道大学オープンコースウエア等）の閲覧（各回45分程度） 復習：返却されたレポートをブラッシュアップし、改訂版を提出させる。改訂版で最終的に評価する。（各回45分程度）
教材にかかわる情報	テキスト：なし 参考書：「自然科学の基礎知識を知る」草間朋子他著（東京化学同人、2017） 参考資料等：https://ocw.hokudai.ac.jp/lecture/scienceliteracy1-2009（北海道大学オープンコースウエア：ゼロから始める科学力）
担当者からのメッセージ等実務経験について	大学は自ら疑問を持ち、自ら調査し、自分なりの理解を得る学びの場です。新図書館やインターネットを活用して、調査しレポートを作成するコツを身に付けましょう。また、自分なりの自然科学の研究課題を設定し「研究」して下さい。

芸術文化系

児 童 文 学……21
音 楽 概 論……22
美 術 概 論……23
器楽アンサンブル（吹奏楽）……24
器楽アンサンブル（邦楽）……25

授業科目名	児童文学	教員名	岡光　一浩 （単独）	免許・資格との関係	保育士	
					幼稚園教諭	
					小学校教諭	
					中学校教諭（英語）	
ナンバリングコード	CM4-1018-00000	年次配当	4年前期		高等学校教諭（英語）	
					特別支援学校教諭	
授業形態	講義			卒業要件	初等幼児教育専攻	選択
単位数	2				中等教育専攻	選択
科目						
各科目に含めることが必要な事項						
教科目						
系列						
授業テーマ	子どものココロを忘れるな!! ―「本当の〈大人〉になる」ために					
授業概要	児童文学は子どもだけでなく大人のためのものでもある。子どものことを語りながらも、シンプルに人間一般について深く語っているのが児童文学。―子どもを教育する前にまずなにより大切なのは、子どもを教育する大人が本当の「大人」として熟していなければならないこと、そのことを、児童文学の中に描かれた子どもの目をとおして学んでいく。大人は、子どもの頃を忘れてはならないし、子どもに多く学ばなければならない。なぜなら、子どものココロこそが本当の「大人」をつくるからである。併せて、「文学を読む」ことについて考え、文学を自分に関わらせて自分のものとして「誤読」する愉しみを説く。できるだけ双方向の授業とする。					

達成目標	科目DP：(1)～(5)					
	DP番号	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)
	1．児童文学を学んで、子どものココロを理解する。					
	2．子どものココロこそが本当の「大人」をつくることを理解する。					
	3．「文学を読む」ことを理解する。					

履修条件・注意事項	
授業計画	1．オリエンテーション、授業方針、講義への導入。児童文学とは。（目標 1,2,3） 2．吉野源三郎『君たちはどう生きるか』（日）―「生きる」とは。（目標 1,2,3） 3．同上。 4．同上。 5．同上。 6．ケストナー『飛ぶ教室』（独）―「子どもの教師になる」とは。（目標 1,2,3） 7．同上。 8．同上。 9．同上。 10. サン=デグジュペリ『星の王子さま』（仏）―「絆をむすぶ」とは。（目標 1,2,3） 11. 同上。 12. 同上 13. 同上。 14. 同上。 15.「文学を読む」とは。全体のまとめ（目標 1,2,3）。 ◎定期試験
アクティブ・ラーニング	ディスカッション
成績評価基準	評価の方法：レポート（思考・判断、展開・表現）、定期試験（知識の定着度）、授業態度・授業への参加態度（関心・意欲、思考・判断） 評価の基準：総合的に評価する。（レポート70%、定期試験10%、授業態度・授業への参加度20%）
フィードバックの方法	試験後或いはレポート返却時
時間外の学習について	予習：次回学習事項に目を通し、作品等の「読み」に取り組んだうえで授業に出席のこと。作品を読むための時間。（各回45分程度） 復習：前回までの学習事項について理解を深め、次回授業やレポートに臨むこと。各回30分程度。各作品についてのレポート。
教材にかかわる情報	テキスト：講義中に指示――それぞれの作品。講義レジュメ。 参考書： 参考資料等：
担当者からのメッセージ等 実務経験について	作品を読もう、そして考えよう。

芸術文化系

授業科目名	音楽概論	教員名	河北　邦子 (実務経験) (単独)	免許・資格との関係	保育士	選択
					幼稚園教諭	
					小学校教諭	
					中学校教諭(英語)	
ナンバリングコード	CM1-1019-20000	年次配当	1年前期		高等学校教諭(英語)	
					特別支援学校教諭	
授業形態	講義			卒業要件	初等幼児教育専攻	必修
単位数	2				中等教育専攻	必修
科目						
各科目に含めることが必要な事項						
教科目	教養科目（保育士）					
系列	教養科目					
授業テーマ	楽典の基礎知識，創作の基礎知識，演奏に関する知識，音楽の歴史					
授業概要	教育者・保育者として必要な音楽の基礎知識を、受講者が互いに音楽活動を通して実践的に関わりながら理解する。					

達成目標	科目DP：(1)～(5)				
DP番号	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)
1．音楽を特徴づけている要素の基礎知識を、演習等により理解できる					
2．音楽の仕組みの基礎知識を、演習を通して理解できる。					
3．演奏に関する基礎知識を理解できる。					
4．音楽史の概要を理解できる。					
5．幼児・児童期の音楽教育との関連に気づくことができる。					

履修条件・注意事項	
授業計画	1．拍の理解，音楽の起源　＜音符，拍子，縦線と小節，古代の音楽＞　（目標 1,4） 2．音の長さの理解　＜音符，音価，リズム，古代の音楽＞　（目標 1,4） 3．リズムの理解、中世の音楽　＜符点音符，ポリフォニー＞ 4．音の高さの理解　＜譜表，音部記号，複旋律音楽＞　（目標 1,4） 5．音名の理解，バロックの音楽　＜音名，幹音・派生音，バッハ＞　（目標 1,4） 6．拍子と強弱の理解　＜拍子記号，ダイナミーク，＞　（目標 1,4） 7．記号や標語の理解，古典派の音楽１　＜速度標語，奏法用語，モーツァルト＞　（目標 1,4） 8．１～７回までの復習と小試験　（目標 1,4） 9．音程の理解１　＜完全音程，長音程，短音程，＞　（目標 1,4） 10. 音程の理解２　古典派の音楽２　＜音程の度数，ベートーヴェン＞　（目標 1,4） 11. 音階の理解１　ロマン派の音楽　＜長音階，シューベルト＞　（目標 1,4） 12. 音階の理解２　＜短音階＞　（目標 2,4） 13. 移調・転調の理解，国民楽派の音楽　＜チャイコフスキー＞　（目標 2,4） 14. 楽曲形式の理解　＜唱歌形式＞　（目標 2,4） 15. 演奏の形態の理解，日本音楽，まとめ　＜声，楽器，演奏形態，箏曲＞　（目標 3,4） 定期試験
アクティブ・ラーニング	１人か２人、あるいは小グループの音楽的活動を取り入れ、音楽の基礎知識について実践的に理解すると共に、互いに確認し、また理解を深めていく。
成績評価基準	評価の方法：定期試験（60%）、小試験（40%） 評価の基準：音楽の基礎知識を理解し、歌唱教材の特徴等を、関心をもって見出すことができるか。 鑑賞活動を通して、音楽の美しさや快さを感じ取ることができるか。
フィードバックの方法	提出課題にコメントを添えて返却する。演習の中で、評価を通して伝える。
時間外の学習について	予習：次回の授業のテーマについて、予め学習しておく。（各回45分程度） 復習：毎時間の演習を復習する。不明な点は質問すること。（各回45分程度）
教材にかかわる情報	テキスト：『最新　学生の音楽通論』供田武嘉津著　（音楽之友社） 参考資料等：適宜プリントを作成し配布する。
担当者からのメッセージ等 実務経験について	高等学校教員（音楽）の実務経験をもとに、音楽の基礎的な理論について話します。

授業科目名	美術概論	教員名	武田　雅行 （単独）	免許・資格との関係	保育士	選択
					幼稚園教諭	
					小学校教諭	
					中学校教諭（英語）	
ナンバリングコード	CM1-1020-20000	年次配当	1年後期		高等学校教諭（英語）	
					特別支援学校教諭	
授業形態	講義			卒業要件	初等幼児教育専攻	必修
単位数	2				中等教育専攻	必修
科目						
各科目に含めることが必要な事項						
教科目	教養科目（保育士）					
系列	教養科目					
授業テーマ	美術史、鑑賞、表現方法、作家論、美的感性					
授業概要	優れた芸術に触れることは人間の精神をより一層豊かにしてくれる。この授業では、現代社会・文化の源流でもある古代美術から現代に至る西洋美術の歴史的な流れを中心に、様式、運動、主義、芸術概念など「美術の見方」について概説する。「美術は時代を映す鏡である。」とも言われ、各時代の社会背景を踏まえた上で、作家や作品、技法の知識を得ることも視野に入れ、ビデオ、スライド等の視聴覚機器を使用した美術鑑賞を中心に授業を展開する。					

達成目標	科目DP：(1)～(5)					
	DP番号	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)
	1.西洋を中心とした美術の歴史の流れを理解できる。					
	2.芸術の様式・主義・運動とともに各時代の社会的背景を理解できる。					
	3.素晴らしい芸術作品に触れ、それらの作品や技法についての知識を習得する。					

履修条件・注意事項	
授業計画	1．導入　授業概要の説明　西洋美術の流れ　古代オリエント美術（目標 1,2） 2．美術史　エジプトの美術（目標 1,2,3） 3．美術史　ギリシャの芸術（目標 1,2,3） 4．美術史　ローマの芸術（目標 1,2,3） 5．美術史　中世の美術（目標 1,2,3） 6．美術史　イタリア初期ルネッサンス（目標 1,2,3） 7．美術史　イタリア盛期ルネッサンス（ギリシャ神話と作品〉（目標 1,2,3） 8．美術史　イタリア盛期ルネッサンス（キリスト教と作品）（目標 1,2,3） 9．美術史　北方ルネッサンス・マニエリスム（目標 1,2,3） 10. 美術史　バロック美術（目標 1,2,3） 11. 美術史　ロココ美術（目標 1,2,3） 12. 美術史　近代絵画（新古典・ロマン・写実）（目標 1,2,3） 13. 美術史　近代絵画（印象派）（目標 1,2,3） 14. 美術史　近代絵画（後期印象派）（目標 1,2,3） 15. 美術史　現代の美術（20世紀美術　セザンヌ以降）（目標 1,2,3） 定期試験
アクティブ・ラーニング	
成績評価基準	評価の方法：期末試験（配点50%）ノート提出（配点30%）授業中の態度・取り組み（配点20%） 評価の基準：学習内容の理解度と授業への取り組み
フィードバックの方法	試験終了後、答え合わせとともに、まとめと解説を行なう。
時間外の学習について	予習：次回の授業テーマについて予習しておく。（各回45分程度） 復習：学んだ作家や作品について更に調べてみることを勧める。（各回45分程度）
教材にかかわる情報	テキスト：『鑑賞のための西洋美術史入門』 参考書：授業の中で適宜資料を配布する。 参考資料等：
担当者からのメッセージ等 実務経験について	

芸術文化系

授業科目名	器楽アンサンブル （吹奏楽）	教員名	小野　隆洋 （単独）	免許・資格との関係	保育士	
					幼稚園教諭	
					小学校教諭	
					中学校教諭（英語）	
ナンバリングコード	CM4-1021-00000	年次配当	4年前期		高等学校教諭（英語）	
					特別支援学校教諭	
授業形態	演習			卒業要件	初等幼児教育専攻	選択
単位数	2				中等教育専攻	選択
科目						
各科目に含めることが必要な事項						
教科目						
系列						
授業テーマ	学校教育における金管バンドや吹奏楽の指導に必要な知識と演奏に関する指導力を身に付ける。					
授業概要	器楽合奏の実践を通して、器楽演奏に関する基本的な知識や演奏法、指導法を学んでいく。					

達成目標	科目DP：(1)～(5)					
	DP番号	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)
1．学校教育現場で用いられる管楽器および打楽器についての知識を深める。						
2．各管楽器、打楽器の演奏法の修得。						
3．各楽器の演奏の様式や演奏法について知識を深める。						
4．金管バンドや吹奏楽などの器楽合奏の指導法の修得。						

履修条件・注意事項	
授業計画	1．各楽器のメンテナンス方法と楽器の構え方、演奏姿勢　（目標 1,2） 2．呼吸法、アンブッシュア、バジィング　（目標 1,2,3） 3．各楽器のチューニング　（目標 2,3） 4．全体のチューニング　（目標 2,3,4） 5．発音の練習　（目標 2,3） 6．ロングトーン　（目標 2,3） 7．ユニゾンの練習　（目標 1,2,3,4） 8．変ロ長調の音階練習　（目標 2,3,4） 9．半音階の練習　（目標 2,3,4） 10. 和音練習（ハーモニーとバランス）（目標 3,4） 11. 様々なリズムを用いての和音練習　（目標 1,2,3） 12. メソッドを使ってのトレーニング①　（目標 2,3,4） 13. ダイナミクスの変化①　（目標 2,3,4） 14. コラールの練習①　（目標 1,3,4） 15. 総合練習　（目標 1,2,3,4） 定期試験
アクティブ・ラーニング	グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーション
成績評価基準	評価の方法：①授業への取り組み（50%）　②課題演習（50%） 評価の基準：①関心・意欲の測定　グループ活動での活動に積極的である ②思考・判断、技能表現を測定　学んだ技法を再現できる
フィードバックの方法	各回の実技演習の際に課題を設定して、個別に助言を行う。
時間外の学習について	予習：次回に扱う題材の譜読み、および担当楽器の練習（各回90分程度） 復習：合奏の中で難しかった箇所や、出来なかった箇所の練習（各回90分程度）
教材にかかわる情報	テキスト：バンドスタディ、様々なスタイルによる楽曲の楽譜 参考書：適時、必要なプリントを配布 参考資料等：
担当者からのメッセージ等 実務経験について	学校教育現場で必要な金管バンドや吹奏楽などの指導法を身に付けましょう。

授業科目名	器楽アンサンブル （邦楽）	教員名	佐々木　郁夫 坂本　久美子	免許・資格との関係	保育士	
					幼稚園教諭	
					小学校教諭	
					中学校教諭（英語）	
ナンバリングコード	CM4-1022-00000				高等学校教諭（英語）	
					特別支援学校教諭	
授業形態	演習	年次配当	4年後期			
単位数	2			卒業要件	初等幼児教育専攻	選択
					中等教育専攻	選択
科目						
各科目に含めることが必要な事項						
教科目						
系列						
授業テーマ	和楽器の扱い方や楽譜の見方、基礎的奏法、アンサンブル					
授業概要	教育・保育現場で用いられる和楽器の特性を理解し、日本音楽への興味関心を高める。 初歩的な曲の演奏を通して基礎的奏法を経験し、アンサンブルを楽しむ。					

達成目標	科目DP：(1)～(5)				
	DP番号 (1)	(2)	(3)	(4)	(5)
1. 和楽器の特性を理解し、基本的な演奏技術を習得する。					
2. 日本音楽と西洋音楽の違いを把握する。					
3. 読譜により、初歩的な曲を演奏する。					
4. 和楽器の演奏を通して、アンサンブルの楽しさを共有する。					

履修条件・注意事項	
授業計画	1．太鼓の扱い方及び構え方、バチの持ち方、振り方　（目標 1,2）（担当　佐々木郁夫） 2．和太鼓の曲に含まれる基本的リズム①二分、四分、八分等の打ち方 （目標 1,2）（担当　佐々木郁夫） 3．和太鼓の曲に含まれる基本的リズム②各種リズム、学校等への導入要領（編成・曲等） （目標 1,2,4）（担当　佐々木郁夫） 4．日本の祭りにおける和太鼓演奏の例及び練習　（目標 1,2,3）（担当　佐々木郁夫） 5．和太鼓の曲の創作を試みる際の考え方と指導における留意点 （目標 1,2,3,4）（担当　佐々木郁夫） 6．練習曲の演奏及びまとめ　（目標 1,2,3,4）（担当　佐々木郁夫） 7．箏の歴史と楽器の扱い方　（目標 1,2）（担当　坂本久美子） 8．箏の基本的な弾き方　（目標 1,2,3）（担当　坂本久美子） 9．調弦の仕方【平調子】（目標 1,2）（担当　坂本久美子） 10. 箏譜の読み方　（目標 1,2,3）（担当　坂本久美子） 11. 右手の奏法　（目標 1,3,4）（担当　坂本久美子） 12. 左手の奏法　（目標 1,3,4）（担当　坂本久美子） 13. 間の取り方　（目標 1,2,4）（担当　坂本久美子） 14. 本手・替手によるアンサンブル　（目標 1,2,3,4）（担当　坂本久美子） 15. アンサンブルの発表及びまとめ　（目標 1,2,3,4）（担当　坂本久美子）
アクティブ・ラーニング	グループワーク
成績評価基準	評価の方法：和太鼓及び箏の演奏（60%）、授業の取り組み（40%） 評価の基準：和太鼓・箏を通して日本音楽の理解を深め、基礎的な演奏技術を習得し、楽譜を読み取り初歩的な楽曲が演奏できる。演奏技能の習得に積極的に取り組む。
フィードバックの方法	実技試験終了後、改善点をコメントする。
時間外の学習について	予習：伝統行事や祭り等で演奏される和太鼓や箏の事例を調べておく。（各回90分程度） 復習：課題曲をできるだけ繰り返し練習する。（各回90分程度）
教材にかかわる情報	テキスト：特になし 参考書： 参考資料等：福井昭史著「よくわかる日本音楽基礎講座」（音楽之友社）、坪能由紀子監修「和楽器にチャレンジ！」（汐文社）
担当者からのメッセージ等 実務経験について	

体　育　系

体育〈実技〉……27
体育〈講義〉……28

授業科目名	体育〈実技〉	教員名	吉野　信朗 沖野　義次	免許・資格との関係	保育士	必修
					幼稚園教諭	必修
					小学校教諭	必修
					中学校教諭(英語)	必修
ナンバリングコード	CM1-1023-11110	年次配当	1年前期		高等学校教諭(英語)	必修
授業形態	実技				特別支援学校教諭	
単位数	1			卒業要件	初等幼児教育専攻	選択
					中等教育専攻	選択

科目	教養科目（幼稚園・小学校・中学校・高等学校）（免許法施行規則第66条の６に定める科目）
各科目に含めることが必要な事項	体育
教科目	教養科目（保育士）
系列	教養科目
授業テーマ	日本古来の武道に触れ精神面の成長と新しい学校体育の新種目への理解と指導技術の向上
授業概要	武道の基本を学び精神面への発達と新しい球技の理解と技術の向上を指導者の立場での指導法を身につけながら、自らチームワーク等の社会性を身につける。

達成目標

	科目DP：(1)～(5)				
DP番号	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)
１．スポーツの知識を得る					
２．武道の文化を知る					
３．空手道の技術の向上					
４．空手道を通した呼吸を知る					
５．レクリエーションバレーボールの理解と指導技術の向上					
６．ドッヂビーの理解と指導技術の向上					
７．Ｔボールの理解と指導技術の向上					

履修条件・注意事項	
授業計画	１．オリエンテーション（目標 1） ２．武道の礼法（目標 2） ３．武道の基本の突き蹴り（目標 2,3） ４．武道の基本の約束組手（目標 3） ５．武道の基本の形（目標 3,4） ６．武道の団体の形（目標 3,4） ７．レクリエーションバレーボール１（目標 5） ８．レクリエーションバレーボール２（目標 5） ９．レクリエーションバレーボール３（目標 5） 10. ドッチビー１（目標 6） 11. ドッチビー２（目標 6） 12. ドッチビー３（目標 6） 13. Ｔボール１（目標 7） 14. Ｔボール２（目標 7） 15. Ｔボール３（目標 7）
アクティブ・ラーニング	
成績評価基準	評価の基準：授業意欲40%　授業態度関心30%　発言、レポート等30% 評価の方法：授業へ真面目に取り組み積極的な態度を重視する
フィードバックの方法	授業中に随時質問に対する回答や技術に対するアドバイス
時間外の学習について	予習：その種目への知識・ルール等の学習 復習：その種目の習慣化と試合の進行・審判法
教材にかかわる情報	テキスト： 参考書：豊田博成２名「スポーツルール百科」他 参考資料等：
担当者からのメッセージ等実務経験について	武道をして心を鍛え、ニュースポーツをして協調性・社会性を身につけよう。

体育系

授業科目名	体育〈講義〉	教員名	吉野　信朗	免許・資格との関係	保育士	必修
					幼稚園教諭	必修
					小学校教諭	必修
					中学校教諭(英語)	必修
ナンバリングコード	CM1-1024-11110	年次配当	1年前期		高等学校教諭(英語)	必修
授業形態	講義				特別支援学校教諭	
単位数	1			卒業要件	初等幼児教育専攻	選択
					中等教育専攻	選択

科目	教養科目（幼稚園・小学校・中学校・高等学校）（免許法施行規則第66条の６に定める科目）
各科目に含めることが必要な事項	体育
教科目	教養科目（保育士）
系列	教養科目
授業テーマ	学生が健康に対してより興味がわき、より身近な問題として捉え、救急法等で児童等の安全を守れるように専門知識や実践力を身につける。
授業概要	体育の必要性や意義と日本における原始時代から平成の現代まで体育の歴史など基本的なことを学習する。次に学生の好む色々なスポーツのルールや解説を学習する。 幼児も含め色々な救急法を、実践を通して学ぶ。また、学生の健康に関する問題を取り上げ、考察する。

達成目標	科目DP：(1)～(5)				
	DP番号 (1)	(2)	(3)	(4)	(5)
１．日本体育史の理解					
２．スポーツのルールの理解					
３．救急法の理解					
４．スポーツへの理解を深める					

履修条件・注意事項	
授業計画	1、体育の意義、日本体育史　（目標 1） 2、スポーツのルールと解説（バレーボール）（目標 2） 3、スポーツのルールと解説（バドミントン、卓球）（目標 2） 4、スポーツのルールと解説（ボーリング、その他のスポーツ）（目標 2） 5、救急法（事故者の見方）（目標 3） 6、救急法（止血法、事故者の体位）（目標 3） 7、救急法（蘇生法）（目標 3） 8、救急法（病気の解説と救急法）（目標 3） 9、救急法（ケガの解説と救急法）（目標 3） 10、現代の健康問題（喫煙）（目標 4） 11、現代の健康問題（飲酒）（目標 4） 12、現代の健康問題（ドライブ）（目標 4） 13、現代の健康問題（肥満）（目標 4） 14、現代の健康問題（エイズ）（目標 4） 15、現代の健康問題（大麻、覚醒剤）（目標 4） 筆記試験
アクティブ・ラーニング	テーマを設けグループワークをしてグループごとのプレゼンを行う
成績評価基準	評価の方法：筆記試験80%　授業態度10%　授業意欲10% 評価の基準：授業内容を理解しその知識を扱った問題に回答できる。
フィードバックの方法	授業中に随時質問に対する回答や技術に対するアドバイス
時間外の学習について	予習：スポーツやや健康問題に対して興味や関心を持つ（10分） 復習：現場で役立つように救急法の復習をする（80分）
教材にかかわる情報	テキスト： 参考書：日本赤十字社「看護と救急辞典」講談社 豊田博他２名「スポーツルール百科」大修館 参考資料：「幼稚園教育要領」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」
担当者からのメッセージ等実務経験について	スポーツが好きになり、健康・安全に興味を持ってほしい。

体育系

専　門　科　目

学　科　目

国語Ⅰ（書写を含む）……29
国　語　Ⅱ……30
社　会　Ⅰ……31
社　会　Ⅱ……32
算　数　Ⅰ……33
算　数　Ⅱ……34
理　科　Ⅰ……35
理　科　Ⅱ……36
英語（小）……37
生　　活……38
初等音楽Ⅰ……39
初等音楽Ⅱ……40
図画工作Ⅰ……41
図画工作Ⅱ……42
家　　庭……43
初 等 体 育……44
国語科教育法……45
社会科教育法……46
算数科教育法……47
理科教育法……48
英語科教育法（小）……49
生活科教育法……50
音楽科教育法……51
図画工作科教育法……52
家庭科教育法……53
体育科教育法……54
総合的な学習の時間の指導法（小）……55
道徳教育の指導法（小）……56
特別活動の指導法（小）……57
生徒・進路指導論（小）……58
教職概論（小）……59
教育原論（幼・小）……60
教育心理学（小）……61
教育制度論（幼・小）……62
教育社会学（幼・小）……63
教育課程論（幼・小）……64
教育方法論（小）……65
特別支援教育概論（幼・小）……66
教育相談（幼・小）……67
現代教育課題Ⅰ……68
現代教育課題Ⅱ……69
教育の方法と技術……70
英語学概論……71
英　語　史……72
英文法演習……73
英語音声学……74
第二言語習得論……75
英語文学概論……76
英語文学演習……77
Creative English Ⅰ……78
Creative English Ⅱ……79
Applied English Ⅰ……80
Applied English Ⅱ……81
Basic English Expression……82
Intermediate English Expression……83
Upper-Intermediate English Expression……84
Advanced English Expression……85
異文化コミュニケーション……86
異文化理解……87
英語科教育法Ⅰ……88
英語科教育法Ⅱ……89
英語科教育法Ⅲ……90
英語科教育法Ⅳ……91
総合的な学習の時間の指導法（中・高）……92
道徳教育の指導法（中）……93
特別活動の指導法（中・高）……94
生徒・進路指導論（中・高）……95
教職概論（中・高）……96
教育原論（中・高）……97
教育心理学（中・高）……98
教育制度論（中・高）……99
教育社会学（中・高）……100
教育課程論（中・高）……101
教育方法論（中・高）……102
特別支援教育概論（中・高）……103
教育相談（中・高）……104
幼 児 理 解……105
幼児教育概論……106
幼児音楽Ⅰ……107
幼児音楽Ⅱ……108
幼児造形Ⅰ……109
幼児造形Ⅱ……110
幼児体育Ⅰ……111
幼児体育Ⅱ……112

保育者論…… 113
保育方法論…… 114
保育の心理学…… 115
保育内容の指導法・健康…… 116
保育内容の指導法・人間関係…… 117
保育内容の指導法・環境…… 118
保育内容の指導法・言葉…… 119
保育内容の指導法・音楽表現Ⅰ…… 120
保育内容の指導法・音楽表現Ⅱ…… 121
保育内容の指導法・造形表現Ⅰ…… 122
保育内容の指導法・造形表現Ⅱ…… 123
保育内容指導法…… 124
保育原理…… 125
保育内容総論…… 126
保育の計画と評価…… 127
社会的養護Ⅰ…… 128
社会的養護Ⅱ…… 129
社会福祉…… 130
子ども家庭福祉…… 131
子ども家庭支援論…… 132
子ども家庭支援の心理学…… 133
子育て支援…… 134
子どもの理解と援助…… 135
子どもの保健…… 136
子どもの食と栄養…… 137
子どもの健康と安全…… 138
乳児保育Ⅰ…… 139
乳児保育Ⅱ…… 140
障害児保育Ⅰ…… 141
障害児保育Ⅱ…… 142
障害者福祉論…… 143
特別支援教育総論…… 144
発達障害児の心理…… 145
知的障害教育論…… 146
肢体不自由教育論…… 147
知的障害児の心理・生理・病理…… 148
病弱児の心理・生理・病理…… 149
肢体不自由児の心理・生理・病理…… 150
発達障害の心理アセスメント…… 151
病弱教育論…… 152
知的障害教育指導論…… 153
視覚障害児教育総論…… 154
聴覚障害児教育総論…… 155

授業科目名	国語Ⅰ (書写を含む)	教員名	上田　保明 (実務経験) (単独)	免許・資格との関係	保育士	
					幼稚園教諭	選択
					小学校教諭	必修
ナンバリングコード	UE1-2001-02100				中学校教諭(英語)	
		年次配当	1年前期		高等学校教諭(英語)	
授業形態	講義				特別支援学校教諭	
				卒業要件	初等幼児教育専攻	選択
単位数	2				中等教育専攻	

科目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校）、領域及び保育内容の指導法に関する科目（幼稚園）
各科目に含めることが必要な事項	教科に関する専門的事項（小学校）、領域に関する専門的事項（幼稚園）
教科目	
系列	
授業テーマ	小学校学習指導要領国語科の内容の具体的な理解
授業概要	小学校国語科の各領域「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」及び「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」について概観する。

達成目標	科目DP：(3)				
	DP番号	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)
1．小学校国語科の各領域の学習内容を理解する。			◎	○		
2．小学校国語科の各領域の評価方法を知る。				◎	○	
3．小学校国語科の指導案の作成の仕方を習得する。				◎	○	

履修条件・注意事項	
授業計画	1．「話すこと・聞くこと」の指導（1）　国語科の目標と領域　（目標 1) 2．「話すこと・聞くこと」の指導（2）　領域の指導の内容　（目標 1) 3．「話すこと・聞くこと」の指導（3）　領域の指導と評価　（目標 1,2) 4．「書くこと」の指導（1）　国語科の目標と領域　（目標 1) 5．「書くこと」の指導（2）　生活文の指導目標　（目標 1) 6．「書くこと」の指導（3）　指導の具体と評価　（目標 1,2) 7．「読むこと」の指導（1）　説明的文章の読み　（目標 1) 9．「読むこと」の指導（2）　文学的文章の読み　（目標 1) 9．「読むこと」の指導（3）　授業構想と学習指導案　（目標 1,2,3) 10. 「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の指導 伝統的な言語文化の重視と日本語の特質の整理　（目標 1) 11. 「書写」の指導　執筆法と筆順の意義　（目標 1,2) 12. 「横断的・総合的な学習」の指導　横断的・総合的な学習の意義　（目標 1) 13. 小学校国語科学習指導案の書き方（1）　教材研究と授業構想　（目標 3) 14. 小学校国語科学習指導案の書き方（2）　指導案作成　（目標 3) 15. まとめ（ビデオ視聴：書写の指導）　3年生の書写の授業　（目標 1,2,3) 定期試験
アクティブ・ラーニング	問題解決型学習　グループワーク　模擬授業
成績評価基準	評価の方法：定期試験（70%）、提出物（指導案）（20%）、学習への取組状況（10%） 評価の基準：小学校学習指導要領国語科の指導内容を理解している。
フィードバックの方法	授業初めに前回の学習を問答することで重要点を確認する。提出物の添削を参考にする。
時間外の学習について	予習：「小学校学習指導要領国語」を項目ごとに整理する。（各回45分程度） 復習：添削項目を参考にして重要事項を確認する。（各回45分程度）
教材にかかわる情報	テキスト：『小学校学習指導要領国語解説』文部科学省他適宜資料配布する。 参考書：『段落技能を磨く説明文の指導』『行間を読む力をつける物語文の指導』（明治図書）他適宜資料配付する。 参考資料等：鷲田清一著『「ぐずぐず」の理由』（角川選書）
担当者からのメッセージ等実務経験について	小学校教員として国語科の授業を実践してきた私とともに、「小学校学習指導要領」をひもとこう。 小学校教員経験：実務経験をもとに国語教育や教員としてのあり方について話をします。

授業科目名	国語 Ⅱ	教員名	上田 保明 (実務経験) (単独)	免許・資格との関係	保育士	
					幼稚園教諭	
					小学校教諭	選択
ナンバリングコード	UE3-2002-00200				中学校教諭(英語)	
		年次配当	3年後期		高等学校教諭(英語)	
授業形態	講義				特別支援学校教諭	
				卒業要件	初等幼児教育専攻	選択
単位数	2				中等教育専攻	

科目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校）
各科目に含めることが必要な事項	教科に関する専門的事項
教科目	
系列	
授業テーマ	ことばによる伝え合い、詩の指導、読みの指導、論の組み立て
授業概要	国語Ⅰの学習を基に、より具体的な指導事項を取り上げ、授業実践につながる国語力を培う。さらに、採用試験も視野に入れ、「論文の書き方」「応答の仕方」についても学ぶ。

達成目標	科目DP：(3)				
	DP番号	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)
1.コミュニケーションを成立させることばについて理解する。			○			◎
2.読みの指導内容を理解する（詩、文学教材・説明的文章）。			○	◎		
3.読みの指導における内発的動機づけを理解する。				○	◎	
4.分かりやすく自分の意見を述べる方法を理解する。				◎		○

履修条件・注意事項	
授業計画	1．ことばと文化（1）　言語活動と社会　（目標 1） 2．ことばと文化（2）　ことばの構造と文化の構造　（目標 1） 3．音読指導について　音読を鍛える　（目標 1） 4．「伝え合う力」を高める　5つの言語意識　（目標 1） 5．ディベートについて　ディベートの実際　（目標 1） 6．文学教材（詩）の読み方と指導（1）　どう読むか　（目標 2,3） 7．文学教材の読み方と指導（2）　児童の反応を捉える　（目標 2,3） 8．文学教材の読み方と指導（3）　発問を構成する　（目標 3） 9．説明的文章の指導（1）　どう読むか　（目標 2,3） 10. 説明的文章の指導（2）　発問を構成する　（目標 3） 11. 指導案の作成　内発的動機づけを図った学習を組み立てる　（目標 3） 12. 学校図書館教育　「生きる力」を育む読書指導　（目標 3） 13. 小論文の書き方（1）　論の組み立て　（目標 4） 14. 小論文の書き方（2）　小論文を書く　（目標 4） 15. 応答の仕方　面接のスピーチ　（目標 4） 定期試験
アクティブ・ラーニング	グループワーク　プレゼンテーション　模擬授業
成績評価基準	評価の方法：定期試験（70%）、提出物（指導案、小論文）（20%）、学習への取組状況（10%） 評価の基準：小学校教諭としての国語力の基礎を身に付けている。
フィードバックの方法	授業初めに前回の学習の問答をすることで重要点を確認する。
時間外の学習について	予習：教科書教材を1つ選び教材解釈を行う。(各回45分程度) 復習：1つの単元の指導計画を立てる。(各回45分程度)
教材にかかわる情報	テキスト：授業の中で適宜資料を配付する。 参考書：『1時間で「読む力」をつける授業プラン』（明治図書）他適宜資料を配付する。 参考資料等：
担当者からのメッセージ等 実務経験について	小学校の全授業数の25%を占める国語の授業がうまくなれば子どもと楽しい毎日を過ごせます。小学校教員として国語科の授業を実践してきた私とともに、小学校教材の面白さを学びましょう。 小学校教員経験：実務経験をもとに学習指導要領に即した国語教育の在り方や内容について話をします。

授業科目名	社会 I	教員名	川野　哲也 (実務経験) (単独)	免許・資格との関係	保育士	
					幼稚園教諭	
					小学校教諭	必修
ナンバリングコード	UE3-2003-00100				中学校教諭(英語)	
		年次配当	3年前期		高等学校教諭(英語)	
授業形態	講義				特別支援学校教諭	
				卒業要件	初等幼児教育専攻	選択
単位数	2				中等教育専攻	

科目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校）
各科目に含めることが必要な事項	教科に関する専門的事項
教科目	
系列	
授業テーマ	小学校社会科、教科内容、社会事象の見方・考え方
授業概要	小学校社会科の教科内容の全体的傾向と特色を理解するとともに、社会科学的手法に裏付けられた社会事象のとらえ方を修得し、社会科指導に必要な知見を得る。

達成目標	科目DP：(3)				
	DP番号	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)
	1．小学校社会科の教科内容について、学習指導要領に即して理解する。		◎	○		
	2．社会科の教科内容や教材に関する明確な観点を持つ。		○	◎		
	3．社会科学的手法により社会事象をとらえる。		○	◎		

履修条件・注意事項	
授業計画	1．社会科の目標と内容。（目標 1,2） 2．地域学習（小学3年の内容）（目標 1,2） 3．地域学習（小学4年の内容）（目標 1,2） 4．日本の国土と産業（小学5年の内容）（目標 1,2） 5．日本の歴史と政治（小学6年の内容）（目標 1,2） 6．地理的内容①（気候、地形、地図）（目標 3） 7．地理的内容②（日本の産業、農業、工業）（目標 3） 8．地理的内容③（世界の産業、農業、工業）（目標 3） 9．歴史的内容①（古代の歴史）（目標 3） 10. 歴史的内容②（中世の歴史）（目標 3） 11. 歴史的内容③（近世・近代の歴史）（目標 3） 12. 公民的内容①（日本国憲法、国会・内閣・裁判所）（目標 3） 13. 公民的内容②（市場経済、景気変動、国際経済）（目標 3） 14. 公民的内容③（安全保障、南北問題、環境問題）（目標 3） 15. まとめと補足。ディスカッション　（目標 1,2,3） 情報機器の活用について
アクティブ・ラーニング	適宜ディスカッションを取り入れる。
成績評価基準	評価の方法：授業時に数回実施する確認テスト80%、レポート20% 評価の基準：小学校社会科の教科内容を理解したか。 社会科学的手法に基づいて社会事象を説明できるか。
フィードバックの方法	毎時最後に小課題を出す。回収の後、翌週に再度解説を行う。
時間外の学習について	予習：事前に配布したプリントを読み、必要に応じて調べること。(各回45分程度) 復習：プリント、ノートを見て確認すること。(各回45分程度)
教材にかかわる情報	テキスト：『学習指導要領　小学校社会』 参考書：適宜、プリントを配布する。 参考資料等：
担当者からのメッセージ等 実務経験について	

授業科目名	社会Ⅱ	教員名	浦田　敏明 (実務経験) (単独)	免許・資格との関係	保育士	
					幼稚園教諭	
					小学校教諭	
					中学校教諭(英語)	
ナンバリングコード	UE4-2004-00000				高等学校教諭(英語)	
授業形態	講義	年次配当	4年前期		特別支援学校教諭	
単位数	2			卒業要件	初等幼児教育専攻	選択
					中等教育専攻	
科目						
各科目に含めることが必要な事項						
教科目						
系列						
授業テーマ	小学校社会科の実践的指導力を身に付ける。					
授業概要	社会的事象の見方・考え方を働かせる授業を構想し、教材開発や指導計画の立て方、子どもの捉え方や教師の支援及び評価方法等を実践的に身に付け理解を深める。					

達成目標	科目DP：(3)				
DP番号	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)
1．子どもの側に立った教材開発ができる。		○	○	○	
2．子どもが「社会的事象の見方・考え方」を働かせる単元計画を作成することができる。		○	○	○	
3．子どもの「問い」が成立する本時案を作成することができる。	○	○	○	○	○
4．子どもが主体的に協働的に学ぶ授業が構想できる。	○	○	○	○	○
5．子どもの学ぶ意欲を高める評価ができる。	○	○	○	○	○

履修条件・注意事項	履修人数は10～１２人程度とする。
授業計画	1．３・４学年　社会科授業づくり（教材づくり）演習　（目標 1) 2．　〃　（単元計画づくり）演習　（目標 2) 3．　〃　（本時案づくり）演習　（目標 3) 4．　〃　（模擬授業）　（目標 4) 5．　〃　（評価）演習　（目標 5) 6．５学年社会科授業づくり（教材づくり）演習　（目標 1) 7．　〃　（単元構想計画づくり）演習　（目標 2) 8．　〃　（本時案づくり）演習　（目標 3) 9．　〃　（模擬授業）　（目標 4) 10.　〃　（評価）演習　（目標 5) 11.　６学年社会科授業づくり（教材づくり）演習　（目標 1) 12.　〃　（単元構想計画づくり）演習　（目標 2) 13.　〃　（本時案づくり）演習　（目標 3) 14.　〃　（模擬授業）　（目標 4) 15.　〃　（評価）演習　（目標 5).
アクティブ・ラーニング	課題解決型学習・ディスカッション・グループワーク・プレゼンテーション・フィールドワーク・ロールプレイ・模擬授業
成績評価基準	評価の方法：単元計画20% 本時案20% 模擬授業20% 授業への参加態度20% 授業内レポート20% 評価の基準：子どもの側に立った授業が展開できるか。
フィードバックの方法	授業内レポート返却時等に講評及び質疑応答を行う。
時間外の学習について	予習：教科書及び社会科副読本を熟読しておくこと。各回20分程度 復習：本時のまとめ及び学習指導案の作成・修正。各回30分程度
教材にかかわる情報	テキスト：小学校学習指導要領解説　社会編（平成29年度版－ 文部科学省） 参 考 書：小学校社会科教科書、小学校社会科地図帳、山口県・山口市小学校社会科副読本はこちらで用意する。 参考資料等：授業中に適宜資料を配付する。
担当者からのメッセージ等 実務経験について	学生一人ひとりが立案した「学習指導案」をもとにしてみんなで検討しますので、実践的な社会科の指導技術を身に付けることができます。 山口大学教育センターに勤務。小学校教員経験：実務経験をもとに、教育現場で役立つ実践的な社会化教育のあり方について学生が学び合う授業を行います。

授業科目名	算数 I	教員名	大場 仁史 (実務経験) (単独)	免許・資格との関係	保育士	
					幼稚園教諭	選択
					小学校教諭	必修
ナンバリングコード	UE1-2005-02100				中学校教諭(英語)	
		年次配当	1年後期		高等学校教諭(英語)	
授業形態	講義				特別支援学校教諭	
				卒業要件	初等幼児教育専攻	選択
単位数	2				中等教育専攻	

科目	教科及び教職に関する科目（幼稚園・小学校）
各科目に含めることが必要な事項	
教科目	
系列	
授業テーマ	算数の四つの系統の概要とそのうちの「数と計算」、「数量関係」の各内容を理解するなかで人類の文化としての算数・数学の歴史を学び、その意義と楽しさを理解する。
授業概要	人類が築き上げてきた数に対する文化とその歴史をたどりながら、算数を学ぶ意義及び四つの系統のうち「数と計算」、「数量関係」の概要と各内容を理解する。

達成目標	科目DP：(3)				
	DP番号	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)
	1．人類の文化としての算数の歴史と内容を学び、その意義と楽しさを理解する。		◎	○		
	2．算数の四つの系統の概要とそのうちの「数と計算」、「数量関係」の各内容を理解する。		◎	○		
	3．児童のつまずきの原因と内容について考察し、つまずきを少なくするための指導法を工夫する。		◎	○		
	4．グループ活動を通じてお互いの思考と指導力を高めることができる。					◎

履修条件・注意事項	
授業計画	1．授業の概要、算数を学ぶことの意義・楽しさについて考える（目標 1,2） 2．数と計算の系統／数の概念と発達について（1）（目標 1,2） 3．数と計算の系統／数の概念と発達について（2）（目標 1,2） 4．十進法、五進法、二進法の考え方と加減乗除について（目標 2,3,4） 5．数と計算の系統/計算、数量関係、「九九」の原理について（目標 1,2,3,4） 6．数に親しむ、数を使ったさまざまな遊びについて（目標 1,2,4） 7．倍数・公倍数・最小公倍数、約数・公約数・最大公約数について（目標 1,2,3） 8．分数について、分数の加法と減法の仕組み（目標 1,2,3,4） 9．分数のかけ算とわり算の仕組み（目標 1,2,3,4） 10. 比例と反比例、%について（目標 1,2,3） 11. 食塩水の濃度について（目標 1,2,3） 12. 時計の歴史と時計を読むことについて（目標 1,2,3,4） 13.「そろばん」の仕組みと計算について（目標 1,2,3,4） 14. 面積について（目標 1,2,3,4） 15. 算数を学ぶ楽しさ（論理）とは何かを考える（目標 1,2,3,4） 定期試験
アクティブ・ラーニング	グループワーク
成績評価基準	評価の方法：定期試験 80%、指導案・板書案の作成等の提出物 20% 評価の基準：・指導方法、児童の理解の仕方、学習障害について理解しているか。 ・算数を学ぶことの意義、算数科教育の目標、算数の学習内容について理解しているか。
フィードバックの方法	問題内容を自分なりの言葉で説明・図形化し、数式や記号に置き換える、またこの逆のことができるようにする。
時間外の学習について	予習：特に必要としないが、事前に指示した物品（コンパス等）は必ず持参すること。 復習：理解が不十分な内容については、次の時間までに理解しておくこと。
教材にかかわる情報	テキスト：なし 参考書：算数の教科書（1～6年）、小学校学習指導要領解説算数編、その他必要に応じて示す。 参考資料等：必要に応じて提示する。
担当者からのメッセージ等 実務経験について	与えられた問題の解答を求めることも大切であるが、思考過程を言葉で説明できることの重要性を十分に認識して学習してほしい。

授業科目名	算数Ⅱ	教員名	大場　仁史 (実務経験) (単独)	免許・資格との関係	保育士	
					幼稚園教諭	
					小学校教諭	選択
ナンバリングコード	UE3-2006-00200				中学校教諭(英語)	
		年次配当	3年後期		高等学校教諭(英語)	
授業形態	講義				特別支援学校教諭	
				卒業要件	初等幼児教育専攻	選択
単位数	2				中等教育専攻	

科目	教科及び教職に関する科目（小学校）
各科目に含めることが必要な事項	
教科目	
系列	
授業テーマ	算数Ⅰ、算数科教育法で学習した内容を基礎に算数を学ぶ意義及び四つの系統のうち主に図形、量と測定の概要と各内容を深める。図形を描いたり具体的に作業したりすることの重要さを学ぶ。併せて受験対策をする。
授業概要	算数の重要な内容について学習し、具体的に図形を描いたり作業したりすることで算数の面白さや楽しさを体験する。教員採用試験に備える。

達成目標

	科目DP：(3)				
DP番号	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)
1．算数を学ぶ意義、目的と楽しさを理解する。		◎	○		
2．算数の四つの系統のうち主に図形､量と測定の概要とその各内容を理解する。		◎	○		
3．手作業（図形化、工作等）を言葉で説明し、数式化することを通じて算数を理解する。		◎	○		
4．教員採用試験に備える。		◎	○		

履修条件･注意事項	
授業計画	1．授業の概要、算数を学ぶことの意義と目的、楽しさについて考える。(目標 1,2,3) 2．各図形の定義について、長方形・三角形等の面積の求め方について。(目標 1,2,3,4) 3．三角形の性質、合同な三角形について。試験対策。(目標 1,2,3,4) 4．合同な三角形の証明について。試験対策。(目標 1,2,3,4) 5．拡大図と縮図、相似な図形について。試験対策。(目標 1,2,3,4) 6．相似な三角形の証明について。試験対策。(目標 1,2,3,4) 7．円周、円周率、円の面積の求め方について。試験対策。(目標 1,2,3,4) 8．コンパスを用いた作図。円を含む面積の問題を解く。試験対策。(目標 1,2,3,4) 9．いろいろな立体の展開図、表面積や体積の求め方と問題を解く。試験対策。(目標 2,3,4) 10. 問題文を図、式に置き換える。一次・連立方程式について。試験対策。(目標 2,3,4) 11. 問題文、式、グラフの関係について。試験対策。(目標 1,2,3,4) 12. さまざまな関数とそのグラフについて。試験対策。(目標 1,2,3,4) 13. 順列、組み合わせについて。試験対策。(目標 1,2,3,4) 14. 確率について。試験対策。(目標 1,2,4) 15. 確率について。試験対策。(目標 1,3,4) 定期試験
アクティブ･ラーニング	グループワーク
成績評価基準	評価の方法：定期試験 80%、授業への参加態度 20% 評価の基準：算数を学ぶことの意義、算数の内容の理解。
フィードバックの方法	内容を理解するためには、読むだけでは絶対に不十分である。自分の言葉で表現したり内容を図形化したりすることが理解につながる。
時間外の学習について	予習：特に必要ではないが、指示された物品（コンパス、定規等）は必ず準備すること。 復習：理解が不十分な内容については、必ず復習すること。(各回45分程度)
教材にかかわる情報	テキスト：特になし。プリントを配布。 参考書：必要に応じて提示する。 参考資料等：算数の教科書、小学校学習指導要領解説算数編、その他必要に応じて示す。
担当者からのメッセージ等 実務経験について	算数・数学は言語を数式に移したものである。問題内容を図形化し数式に表現できることが重要であり、理解することにつながる。

授業科目名	理科 I	教員名	源田 智子 (単独)	免許・資格との関係	保育士	
					幼稚園教諭	
					小学校教諭	必修
ナンバリングコード	UE2-2007-00100				中学校教諭(英語)	
					高等学校教諭(英語)	
授業形態	講義	年次配当	2年後期		特別支援学校教諭	
				卒業要件	初等幼児教育専攻	選択
単位数	2				中等教育専攻	

科目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校）
各科目に含めることが必要な事項	教科に関する専門的事項
教科目	
系列	
授業テーマ	小学校理科を教えるためにまずは理科４領域（物質・エネルギー、生命・地球）の基礎的基本的知識を理解し、身につけることができるようになる。
授業概要	小学校教員として必要な、理科に関する基礎的基本的知識を修得する。４領域（物・化・生・地）すべての内容を理解し、さらに小学校での授業との関連も理解する。

達成目標

	科目DP：(3)				
	DP番号	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)
1．物質概念（化学分野）に関する知識を修得できる			◎	○		
2．エネルギー概念（物理分野）に関する知識を修得できる			◎	○		
3．生物概念（生物分野）に関する知識を修得できる			◎	○		
4．地学概念（地学分野）に関する知識を修得できる			◎	○		
5．小学校理科における基礎的な知識の活用や授業構成を考えることができる			○		◎	

履修条件・注意事項	
授業計画	1．物質概念の中の物質の構造を理解する（目標 1） 2．物質概念の中の物質の構成粒子、物理的・化学的変化を理解する（目標 1） 3．物質概念の中の物質の保存、化学物質と環境の関連について理解する（目標 1） 4．小学校における物質概念に関する知識の応用や授業構成を理解する（目標 5） 5．エネルギー概念の中の力学、電気に関する概念を理解する（目標 2） 6．エネルギー概念の中の光・音に関する概念を理解する（目標 2） 7．エネルギー概念の中の熱に関する概念および力学や電気との関連を理解する（目標 2） 8．小学校におけるエネルギー概念に関する知識の応用や授業構成を理解する（目標 5） 9．生物概念の中の細胞のつくり、生殖と発生のしくみについて理解する（目標 3） 10. 生物概念の中の生物の多様性や分類について理解する（目標 3） 11. 生物概念の中の生物と環境、生態系について理解する（目標 3） 12. 地学概念の中の地球や天体に関する概念について理解する（目標 4） 13. 地学概念の中の地球内部の構造、地層・岩石などについて理解する（目標 4） 14. 地学概念の中の大気と水の循環、気象についての概念を理解する（目標 4） 15. 小学校における生物概念および地学概念に関する知識の応用や授業構成を理解する（目標 5） 定期試験
アクティブ・ラーニング	それぞれの領域毎に特定のテーマについて小グループで話し合う。
成績評価基準	評価の方法：試験 評価の基準：理科4領域に関する基礎的な理解ができたかどうかを判断とする
フィードバックの方法	
時間外の学習について	予習：授業に使用するテキストに目を通しておく。高校までの知識を見直す（各回45分程度） 復習：授業において修得した内容について調べる（レポートなどを課す）（各回45分程度）
教材にかかわる情報	テキスト：小学校理科教育法 参考書：高校教科書や参考書 参考資料等：別途資料を授業中に配布
担当者からのメッセージ等 実務経験について	毎時テキストを持参すること。必要に応じて高校の教科書なども持参。

授業科目名	理科Ⅱ	教員名	櫻井　建成（単独）	免許・資格との関係	保育士	
					幼稚園教諭	
					小学校教諭	
					中学校教諭（英語）	
ナンバリングコード	UE4-2008-00000	年次配当	4年前期		高等学校教諭（英語）	
					特別支援学校教諭	
授業形態	講義			卒業要件	初等幼児教育専攻	選択
単位数	2				中等教育専攻	
科目						
各科目に含めることが必要な事項						
教科目						
系列						

授業テーマ	理科の専門的知識・技能を習得するとともに、自然科学から見た人間の成長・発達・学びについての専門的知識を学修する。
授業概要	小学校理科の目標や理科に対する子どもの考え方、理科の評価方法などを学ぶ。小学校理科の教材研究を行い、指導案を作成、模擬授業を行う。

達成目標

	科目DP：(3)				
	DP番号	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)
1．小学校理科の目標、内容を理解する。			◎	○		
2．自然事象に対する子どもの考え方を理解する。			○	◎		
3．理科の教材研究ができる。			○	◎		
4．授業案を作成できる。			○	◎		

履修条件・注意事項	小学校学習指導要領（理科）解説を持参
授業計画	1．小学校理科の目標を知る　（目標 1） 2．小学校理科の内容を知る　（目標 1） 3．自然事象についての子どもの考え方を学ぶ　（目標 2） 4．理科（生物学の内容）の問題を解く（理科の基礎を再学習）（目標 2,3） 5．理科（物理学・地学の内容）の問題を解く（理科の基礎を再学習）（目標 2,3） 6．理科（化学・物理学の内容）の問題を解く（理科の基礎を再学習）（目標 2,3） 7．授業案作成のため、教材観、指導観、児童観について学ぶ　（目標 1,2,3） 8．単元計画の立案　（目標 1,3,4） 9．単元計画を作成…　（目標 1,3,4） 10. 本時案の作成…人数の多い場合はグループ作成、単元内容を検討　（目標 3,4） 11. 本時案の作成…単元分析、授業案を作成　（目標 1,3,4） 12. 本時案の作成…教材研究（生物学の内容）（目標 1,2,3） 13. 本時案の作成…教材研究（物理学・地学の内容）（目標 1,2,3） 14. 本時案の作成…教材研究（化学・物理学の内容）（目標 1,2,3） 15. 本時案の作成…模擬授業　（目標 2,3,4） 定期試験
アクティブ・ラーニング	
成績評価基準	評価の方法：①定期試験40%、②宿題・授業外レポート30%、③受講者の発表30% 評価の基準：①応用レベルの問題に回答できる、②序論、本論、結論の構成に沿って書いている、③聴講者を考慮した発表内容となっている
フィードバックの方法	課題等の評価を随時学生に伝え、次回以降の課題に役立てる。
時間外の学習について	予習：テキスト等を事前に熟読すること（各回45分以上） 復習：課題等の復習や教材研究の完成度を上げる（各回45分以上）
教材にかかわる情報	テキスト：小学校理科の指導、森本信也、森藤義孝著、建帛社、2011年 参考書：小学校理科教科書、小学校学習指導要領解説　理科編（平成29年6月、文部科学省）、小学校理科アクティブ・ラーニングの授業展開（日本初等理科教育研究会（著），森田 和良（編集）東洋館出版社、2016年） 参考資料等：随時プリントを配布する。
担当者からのメッセージ等 実務経験について	

授業科目名	英　　語（小）	教員名	中垣　謙司（単独）	免許・資格との関係	保育士	
					幼稚園教諭	
					小学校教諭	必修
ナンバリングコード	CM4-2009-00100				中学校教諭（英語）	
					高等学校教諭（英語）	
授業形態	講義	年次配当	4年前期		特別支援学校教諭	
				卒業要件	初等幼児教育専攻	選択
単位数	2				中等教育専攻	選択

科目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校）
各科目に含めることが必要な事項	教科に関する専門的事項
教科目	
系列	
授業テーマ	グローバル社会に対応したコミュニケーション能力の育成が求められる中、小学校外国語活動・外国語について理解し、具体的な指導の在り方を身につける。
授業概要	英語に関する基本的な知識（音声・語彙・文構造・文法等）を学ぶとともに、それをクラスルーム・イングリッシュや指示・説明などの授業場面に活用することができるなど、小学校外国語活動・外国語の授業を担当するために必要な実践的な英語運用力を身につける。また、小・中学校の連携を視野に入れ、小学校外国語活動・外国語の現状・背景的知識を理解し、CEFRでB1レベルの英語運用能力を身に付ける。

達成目標

	科目DP：(3)				
DP番号	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)
1．授業実践に必要な4技能「聞く力」「話す力（やり取り・発表）」「読む力」「書く力」を身につけている。		◎	○		
2．第二言語習得・異文化理解に関する事柄や児童文学（子ども向けの歌等）について理解している。		○	◎		
3．英語に関する基本的な知識（音声・語彙・文構造・文法等）について理解するとともに、それをどのように児童への指導にいかすかについて検討することができる。	○	○	○	◎	○

履修条件・注意事項	
授業計画	1．小学校外国語導入の経緯と現状・求められる教員の資質と英語力　肯定文/否定文/疑問文（目標 1,3） 2．異文化理解と英語学習　様々な疑問文　（目標 2,3） 3．4技能を統合した英語学習　進行形/受動態　（目標 1,3） 4．リーディング活動（多読と精読）　（目標 1,3） 5．英語の音声　方位　（目標 3） 6．第二言語習得のプロセス　分詞の形容詞的用法　（目標 1,2,3） 7．絵本や子ども向けの歌等　比較/最上級　（目標 2,3,） 8．絵本や歌を通した異文化理解　時刻　（目標 1,2,3） 9．授業実践に必要な聞く力と話す力（やり取り・発表）　数に関わる表現　（目標 1,2,3） 10. 授業実践に必要な読む力と書く力　様々な構文①　（目標 1,2,3） 11. やり取りと発表　様々な構文②　（目標 1,2,3） 12. 英語運用力（聞く・話す・読む・書く）の向上　道案内に関わる表現　（目標 1,2,3） 13. ロール・プレイによる英語運用能力向上　使役動詞　（目標 1,2,3） 14. 4技能を統合した活動による英語運用能力の向上　（目標 1,2,3） 15. 授業場面に求められる英語運用能力　（目標 1,2,3）
アクティブ・ラーニング	ペアワーク、グループワーク、プレゼンテーション、模擬授業等
成績評価基準	評価の方法：授業への取組：20%　課題・小テスト：30%　模擬授業：50% 評価の基準：小学校学習指導要領における外国語活動・外国語の目標・内容等を踏まえ、クラスルーム・イングリッシュを活用した授業が実践できる。 英語に関する基本的な知識（音声・語彙・文構造・文法等）について理解している。
フィードバックの方法	随時個別還元指導
時間外の学習について	予習：指定された単元を読んで、概要を理解しておく。各回90分程度 復習：既習内容を理解し、実際に実践できるようにする。各回90分程度
教材にかかわる情報	テキスト：自作プリント 参考書：岡　秀夫・金森　強 編『小学校外国語活動の進め方』（成美堂）、文部科学省著『小学校外国語活動・外国語研修ガイドブック』、吉田研作編『小学校英語教科化への対応と実践プラン』（教育開発研究所）、文部科学省著『小学校学習指導要領解説　外国語活動編・外国語編』、随時プリント配布 参考資料等：随時プリント配布
担当者からのメッセージ等 実務経験について	「外国語を学んで楽しい、中学校へ進学して役に立った」と児童に感じてもらえるような授業を実践するという強い意志をもち、毎回の予習・復習を徹底してください。 県教委指導主事の実務経験をもとに授業実践に必要な知識・技能等について授業をします。

授業科目名	生　活	教員名	上田　保明 (実務経験) (単独)	免許・資格との関係	保育士	
					幼稚園教諭	選択
					小学校教諭	必修
ナンバリングコード	UE1-2010-02100				中学校教諭(英語)	
		年次配当	1年後期		高等学校教諭(英語)	
授業形態	講義				特別支援学校教諭	
				卒業要件	初等幼児教育専攻	選択
単位数	2				中等教育専攻	

科目	領域及び保育内容の指導法に関する科目（幼稚園）、教科及び教科の指導法に関する科目（小学校）
各科目に含めることが必要な事項	領域に関する専門的事項（幼稚園）、教科に関する専門的事項（小学校）
教科目	
系列	
授業テーマ	幼稚園から小学校へのスムーズな移行を目ざす学級生活の指導
授業概要	幼稚園のアプローチから小学校でのスタートカリキュラムを中心に生活科の学習内容、学習方法、どの教科・領域にも共通する学習規律の理論と実際的な指導方法の理解と技能の習得を目ざす。

達成目標

	科目DP：(3)				
DP番号	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)
1．生活科誕生の経緯を知り、生活科の目標、意義、大まかな内容等を理解する。		○			
2．幼児教育と小学校教育を結合する教科としての「生活科」の位置づけと特色を理解する。		○			
3．生活科への入門ともなるスタートカリキュラムや学級づくりも理解し、技能を習得する。		○	◎		
4．生活科独自の内容・方法、そしてどの教科・領域にも共通する学習規律も理解し実践力を養う。		○		◎	
5．Ａ４ノートを各自で準備し、アクティブな調査活動とノート作りを進める。				◎	○

履修条件・注意事項	
授業計画	1．生活科誕生の経緯を知り、戦後教育の概要を知る。(目標 1,5) 2．小学校における生活科の位置づけと教科の目標を知る。(目標 1,2) 3．生活科の学習内容の概要と学習活動の特質を知る。(目標 1,3) 4．保育所･幼稚園のアプローチカリキュラムから、小学校のスタートカリキュラムの概要を知る。(目標 2,3) 5．スタートカリキュラム（小学校入学直後の学級経営）の指導事例と概要を知る。(目標 2,3) 6．主体的・対話的な生活科の授業の始まりと指導内容、学級経営との関連を知る。(目標 3,4) 7．幼児から小学校低学年のことばの習得の過程を学び、幼稚園教育の在るべき姿、本質を知る。(目標 2,4) 8．小学校のことばの学びの過程を学び、小学校教育の在るべき姿、本質を知る。(目標 3,4) 9．小学校低学年独特の「騒がしい学級・荒れる学級」の実態と指導法を知る。(目標 3,4) 10. 学年始めの騒がしい学級の実態を知る。(目標 3,4) 11. 騒がしい学級の子どもたちへの指導方法の実際を知る。(目標 3,4) 12. 生活科以外の授業でも共通する学習規律の指導の重要性を知り、具体的な指導方法を理解する。(目標 4) 13. 1・2学年の生活科カリキュラムと教科書の概要を知る。(目標 4,5) 14. 生活科教科書の概要を知り、指導案づくりを体験する。(目標 3,4,5) 15. 1・2学年の生活科の学習内容をふり返り、3学年以降の総合的学習への発展的内容を概観する。(目標 4,5)
アクティブ・ラーニング	①事前に課した特定のテーマを調査し、発表する（パワーポイント使用も）。 ②ディスカッション、グループ代表発表等を行う。
成績評価基準	評価の方法：受講態度、授業中の発表など（20%）、毎回の授業終了時のミニレポート（40%）、ノートづくり（40%） 評価の基準：幼児教育と深い関わりのある生活科の指導内容が理解できたか。
フィードバックの方法	①毎回のミニレポートの提出と評価。②自主的な調査活動（課題の提出、ノートへの記録など）。
時間外の学習について	予習：テキストや資料を読んで講義に参加する。(事前に指示する)（各回45分程度） 復習：テキストや資料の一部を読んで、レポートを提出する。(各回45分程度)
教材にかかわる情報	テキスト：授業の中で適宜資料を配布する。 参考書：その都度紹介する。 参考資料等：新聞記事、資料等を配布して教師側から説明をしたり、学生の意見を求めたりする。
担当者からのメッセージ等 実務経験について	出席回数、受講態度、グループ活動への参加の度合いや積極的な姿勢も重視する。毎回の講義でのノートづくり、講義外での自主的な調査活動等も進めてほしい。ノートも重要な評価対象である。 小学校教員経験：実務経験をもとに、学習指導要領に即した生活科教育のあり方や内容、そして教師としての構えについて話をします。

授業科目名	初等音楽Ⅰ	教員名	本廣　明美 坂本　久美子	免許・資格との関係	保育士	
					幼稚園教諭	
					小学校教諭	必修
					中学校教諭(英語)	
ナンバリングコード	UE1-2011-00100	年次配当	1年後期		高等学校教諭(英語)	
					特別支援学校教諭	
授業形態	演習			卒業要件	初等幼児教育専攻	選択
単位数	2				中等教育専攻	

科目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校）
各科目に含めることが必要な事項	教科に関する専門的事項
教科目	
系列	
授業テーマ	発声の仕組みと歌い方、簡易楽器の演奏、鑑賞における基礎的な知識、メロディー創作
授業概要	歌唱では共通歌唱教材を中心に、CDやDVDの視聴を参考にしながら歌詞の内容や音楽的特徴を捉え、発声に留意しながら歌う。また、リコーダーや鍵盤ハーモニカ、打楽器等の基礎的な奏法を学び、簡単な楽曲に合わせて演奏できる力を身に付ける。鑑賞においては、様々な楽曲を知ることで鑑賞教材を理解し、また音楽づくりではメロディーやリズムの創作を通して、基礎的な創作の仕方を習得する。これらにより、小学校教諭として必要な音楽の基礎知識や技術を学ぶ。

達成目標

	科目DP：(3)				
	DP番号 (1)	(2)	(3)	(4)	(5)
1．発声に気をつけながら、メロディーや歌詞を正しく歌うことができる。	○		◎		
2．簡単な楽曲に合わせて、簡易楽器が演奏できる。	○		◎		
3．楽曲の背景や曲の構造を理解し、曲を知ることができる。	○		◎		
4．簡単なリズムやメロディーを作り、それを記譜することができる。	○		◎		

履修条件・注意事項	
授業計画	1．小学校学習指導要領における「歌唱」の内容と発声について　（目標 1）（担当　坂本久美子） 2．歌唱教材の研究（低学年）（目標 1）（担当　坂本久美子） 3．歌唱教材の研究（中学年）（目標 1）（担当　坂本久美子） 4．歌唱教材の研究（高学年）（目標 1）（担当　坂本久美子） 5．小学校学習指導要領における「器楽」の内容について　（目標 2）（担当　坂本久美子） 6．鍵盤ハーモニカの導入方法と演奏法　（目標 2）（担当　坂本久美子） 7．リコーダーの導入方法と演奏法　（目標 2）（担当　坂本久美子） 8．打楽器を用いた歌唱活動　（目標 2）（担当　坂本久美子） 9．小学校学習指導要領と鑑賞教材　（目標 3）（担当　本廣明美） 10. 様々な鑑賞法と教材を選択する観点（低学年教材）（目標 3）（担当　本廣明美） 11. 様々な鑑賞法と教材を選択する観点（中・高学年教材）（目標 3）（担当　本廣明美） 12. 鑑賞教材の楽曲分析と授業展開　（目標 3）（担当　本廣明美） 13. 鑑賞と身体表現　（目標 3）（担当　本廣明美） 14. リズム遊びと創作　（目標 4）（担当　本廣明美） 15. メロディーと歌詞、メロディー創作　（目標 4）（担当　本廣明美）
アクティブ・ラーニング	グループワーク
成績評価基準	評価の方法：歌唱（30%）リコーダー演奏（10%）鑑賞レポート（30%）メロディーの創作（10%）、平常点（20%） 評価の基準：基礎的な歌唱力や楽器の演奏法が身に付いたか。鑑賞に必要な音楽基礎知識を持てたか。簡単なメロディーの創作ができたか。積極的に音楽活動に取り組んだか。
フィードバックの方法	実技試験後に、改善点をコメントする。
時間外の学習について	予習：授業で学習する楽曲について調べる。（各回30分程度） 復習：既習した曲について歌ったり聴いたりする。（各回30分程度）
教材にかかわる情報	テキスト：『最新　初等科音楽教育法』（音楽之友社）、『小学生の音楽（１年～６年）』（教育芸術社） 参考書： 参考資料等：
担当者からのメッセージ等実務経験について	日常的に、歌を歌ったり様々な音楽を聴く習慣を身に付けて下さい。

授業科目名	初等音楽Ⅱ	教員名	河北　邦子 本廣　明美	免許・資格との関係	保育士	
					幼稚園教諭	
					小学校教諭	
					中学校教諭(英語)	
ナンバリングコード	UE2-2012-00000				高等学校教諭(英語)	
					特別支援学校教諭	
授業形態	演習	年次配当	2年前期			
単位数	2			卒業要件	初等幼児教育専攻	選択
					中等教育専攻	
科目						
各科目に含めることが必要な事項						
教科目						
系列						
授業テーマ	鑑賞曲における知識や楽曲の構成要素の理解、歌唱曲の創作、歌や器楽曲の教材研究、合唱や合奏					
授業概要	楽曲の音楽構成要素の分析を通して、鑑賞教材を選ぶ視点について学ぶ。また、音楽づくりにおいては、歌詞の意味を理解して、曲の創作の仕方を習得する。歌唱や器楽では、様々な演奏形態を知り、声や音を合わせ、ハーモニーを作り出す楽しさを体験する。					

達成目標	科目DP：(3)				
DP番号	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)
1．楽曲の基礎的な音楽構成要素を理解し、鑑賞教材を授業に展開する方法を考えることができる。	○		◎		
2．歌詞にふさわしい曲を創作し、それを記譜することができる。	◎		○		
3．歌の特徴を歌詞と音楽から分析し、歌唱表現に活かすことができる。	◎		○		
4．担当した楽器の特徴や楽曲における役割を理解し、アンサンブルに活かすことができる。	◎		○		○

履修条件・注意事項	
授業計画	1．鑑賞教材の楽曲分析と授業展開　(目標 1)（担当　本廣明美） 2．楽器の種類と音色　(目標 1)（担当　本廣明美） 3．日本の音楽　(目標 1)（担当　本廣明美） 4．世界の音楽　(目標 1)（担当　本廣明美） 5．曲のプレゼンテーション　(目標 1)（担当　本廣明美） 6．メロディーと歌詞、メロディー創作　(目標 2)（担当　本廣明美） 7．メロディーと伴奏の関係と簡単な伴奏付け　(目標 2)（担当　本廣明美） 8．歌唱曲の創作　(目標 2)（担当　本廣明美） 9．リコーダーによるアンサンブル　(目標 4)（担当　河北邦子） 10. 打楽器によるリズムアンサンブル　(目標 4)（担当　河北邦子） 11. 器楽アンサンブル　(目標 4)（担当　河北邦子） 12. グループによる合唱曲の選曲とパート練習　(目標 標3)（担当　河北邦子） 13. 合唱練習　(目標 3)（担当　河北邦子） 14. 各グループの合唱発表と改善点について　(目標 3)（担当　河北邦子） 15. 改善点を踏まえての合唱練習と最終発表　(目標 3)（担当　河北邦子）
アクティブ・ラーニング	プレゼンテーション、グループワーク
成績評価基準	評価の方法：鑑賞レポート及びプレゼンテーション（30%）創作曲の発表（10%）、 合唱や器楽アンサンブルの発表（40%）平常点（20%） 評価の基準：鑑賞曲における教材選択の視点を持つことができたか。簡単な曲の創作ができたか。意欲を持って歌唱や器楽のアンサンブルに取り組めたか。グループワークやプレゼンテーションにおいて、自らの役割を果たし、真摯な態度で活動できたか。
フィードバックの方法	オフィスアワー等を利用し、積極的に課題解決に努めること。
時間外の学習について	予習：授業で学習する楽曲について調べる。 各回30分程度 復習：既習した曲について、歌ったり聴いたりする。 各回30分程度
教材にかかわる情報	テキスト:『最新　初等科音楽教育法』（音楽之友社)、『小学生の音楽（１年～６年)』（教育芸術社） 参 考 書： 参考資料等：
担当者からのメッセージ等実務経験について	日常的に歌を歌ったり、様々な音楽を聴いたりする習慣を身に付けて下さい。

授業科目名	図画工作Ⅰ	教員名	武田　雅行（単独）	免許・資格との関係	保育士	
					幼稚園教諭	選択
					小学校教諭	必修
ナンバリングコード	UE2-2013-02100				中学校教諭(英語)	
		年次配当	２年前期		高等学校教諭(英語)	
授業形態	演習				特別支援学校教諭	
単位数	2			卒業要件	初等幼児教育専攻	選択
					中等教育専攻	

科目	領域及び保育内容の指導法に関する科目（幼稚園）、教科及び教科の指導法に関する科目（小学校）
各科目に含めることが必要な事項	領域に関する専門的事項（幼稚園）、教科に関する専門的事項（小学校）
教科目	
系列	
授業テーマ	色彩の理論を学び、作品制作を通じて発想豊かな造形活動の基本を身につける。
授業概要	豊かな感性や創造性を育てることは人間形成にとって重要である。作る喜びを味わい、それぞれの子どもが、個性を発揮しながら成長発達していくための基盤となる資質や能力を養うことが大切である。そのために必要な様々な造形に関する技法や知識を講義や実技を通して学習していく。特に、視覚表現の基盤となる「色と形」の仕組みを理論と演習を通して学習し、学生自身の色彩に対する感性も同時に高める。さらに、実際の図画工作の現場では、制作プロセスを説明するプリント作成や板書等、子ども達が容易に理解できるための作図技術等にも触れる。

達成目標

	科目DP：(3)				
DP番号	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)
1．幼稚園・小学校教諭として図画工作を指導していく上において必要最低限の素養を身につける。		○	◎		
2．視覚表現の基礎ともいえる色と形の仕組みについて理解する。		◎	○		
3．美しい配色とは何かを理解し、色彩計画が立てられる。		○	◎		
4．豊な発想と色彩に対する感性を高める。	○		◎		

履修条件・注意事項	履修者数によってＡ・Ｂの２クラス、またはＡ・Ｂ・Ｃの３クラスで行う。
授業計画	1．導入　授業計画の説明、人間と色彩の関わりについてのディスカッション（目標 1） 2．色彩理論　色とは何か（目標 1,2） 3．色彩理論　混色（目標 1,2） 4．色彩理論　色の三属性（目標 1,2） 5．カラーシステム作成　明度段階（目標 1,2） 6．カラーシステム作成　彩度段階（目標 1,2） 7．色彩理論　トーン〈色調〉（目標 1,2,3,4） 8．「トーン」による色面構成制作（目標 1,2,3,4） 9．色彩理論　カラーイメージ（目標 1,2,3,4） 10. グループワークによる「音楽のカラーイメージ」制作①（目標 1,3,4） 11. グループワークによる「音楽のカラーイメージ」制作②（目標 1,3,4） 12. 色彩理論　色彩対比（目標 1,2,3,4） 13. 「色彩対比」による色面構成制作（目標 1,3,4） 14. 図法について（目標 1） 15. まとめ　色の作用（目標 2,3）
アクティブ・ラーニング	ディスカッション・グループワーク
成績評価基準	評価の方法：提出作品〈配点　80%〉　授業中の態度・取り組み〈配点　20%〉 評価の基準：目標を理解し達成しようという意欲と提出作品による評価。
フィードバックの方法	学生同士の作品相互鑑賞と自分の作品制作の振り返りを行なう。
時間外の学習について	予習：テキスト、参考文献を次回まで読むこと。作品制作については構想を練っておくこと。(45分程度) 復習：習ったことについてはテキストや参考文献で確認すること。時間内に終わらなかった課題は次回までに感性させておくこと。(45分程度)
教材にかかわる情報	テキスト：「デザインの色彩」日本色彩研究所〈田中満雄・北畠耀・細野尚志〉 参考書 参考資料等：授業の中で適宜資料を配布する
担当者からのメッセージ等実務経験について	

授業科目名	図画工作Ⅱ	教員名	武田　雅行（単独）	免許・資格との関係	保育士	
					幼稚園教諭	
					小学校教諭	選択
ナンバリングコード	UE2-2014-00200				中学校教諭(英語)	
		年次配当	２年後期		高等学校教諭(英語)	
授業形態	演習				特別支援学校教諭	
				卒業要件	初等幼児教育専攻	選択
単位数	2				中等教育専攻	

科目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校）
各科目に含めることが必要な事項	教科に関する専門的事項
教科目	
系列	
授業テーマ	図画工作、教材、表現、発想、技法
授業概要	教育現場での図画工作の授業は、単に知識や技術の伝達のみを目標にするものではなく、子ども自身がそれぞれの答えを模索する課程こそ重視されるべきものである。この授業においては、実際に子どもの立場で作品を制作していきながら、「発見」「発想」「遊び」など創造過程の特質を学び、子どもの主体性や個性を引き出す指導や評価はいかにあるべきかを考察する。また、友達の作品を鑑賞し学んだことを記録として残す。

達成目標

	科目DP：(3)				
DP番号	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)
1．教育現場で必要な基本的な技法を理解し実践的に応用できる。			◎	○	
2．図画工作を指導していく上において必要な素養を習得する。	○		◎		
3．各自の感性を高めるとともに、表現する楽しさを子どもたちに伝えることができる。	○			◎	

履修条件・注意事項	履修者多数の場合、Ａ・Ｂの2クラスで行なう。
授業計画	1．導入　授業の概要説明　様々な技法による表現　にじみ・ドリッピング・スタンピング（目標 1,2） 2．様々な技法による表現　スパッタリング・マースキング・コラージュ　（目標 1,2） 3．様々な技法による表現　フロッタージュ・マーブリング　（目標 1,2） 4．様々な技法による表現　スクラッチ・ステンシル・バチック　（目標 1,2） 5．「想像のいきもの」 デカルコマニー　（目標 1,2,3） 6．「落葉のデザイン」 グループワークによる作品制作　（目標 1,2,3） 7．「音楽のカラーイメージ」①　平面技法を使って「クラシック」「ロック」のカラーイメージを表現する　（目標 1,2,3） 8．「音楽のカラーイメージ」②　平面技法を使って「ジャズ」「民謡」のカラーイメージを表現する　（目標 1,2,3） 9．シャープペンシルによる「細密描写」（目標 1,2,3） 10. ポップアップによる「夢のあるクリスマスカード」制作　（目標 1,2,3） 11. 人物クロッキー　（目標 1,2,3） 12. 身近なものをモチーフとした「絵てがみ」制作　（目標 1,2,3） 13. 季節の行事をテーマとした「壁画」の図案構想　（目標 1,2,3） 14. 季節の行事をテーマとした「壁画」の図案制作　（目標 1,2,3） 15. スケッチブックに学びの記録をまとめる（目標 1,2,3）
アクティブ・ラーニング	グループワーク
成績評価基準	評価の方法：提出作品（配点　80%）　授業中の態度・取り組み（配点　20%） 評価の基準：作品の自己評価や授業を通して学んだ知識・技術の記録の評価。
フィードバックの方法	学生同士の作品相互鑑賞と自分の作品制作の振り返りを行なう。
時間外の学習について	予習：前回に伝えられた課題の構想を練り、授業当日に必要な画材等、準備をしておくこと。 各回30分程度 復習：時間内に終わらなかった課題は、次回に持ち越すことなく各自で完了しておくこと。 各回30分程度
教材にかかわる情報	テキスト：授業の中で適宜資料を配布する。 参考書： 参考資料等：
担当者からのメッセージ等実務経験について	

授業科目名	家庭	教員名	西　敦子（単独）	免許・資格との関係	保育士	
					幼稚園教諭	
					小学校教諭	選択
ナンバリングコード	UE3-2015-00200				中学校教諭(英語)	
		年次配当	3年前期		高等学校教諭(英語)	
授業形態	講義				特別支援学校教諭	
				卒業要件	初等幼児教育専攻	選択
単位数	2				中等教育専攻	

科目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校）
各科目に含めることが必要な事項	教科に関する専門的事項
教科目	
系列	
授業テーマ	家族と家庭生活　衣食住の生活　消費生活と環境
授業概要	家族、家庭生活の基本的事項について知識・技術を学び、生活を総合的に捉えてそれらを活用できるようにするとともに、豊かな生活のあり方について追究する。

達成目標	科目DP：(3)				
	DP番号	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)
	1．家庭科教育における各領域の基礎知識的手順について理解する。		◎	○		
	2．家庭生活を総合的に捉えることができる。	◎			○	
	3．知識や技能を児童の状況に応じて活用し、応用することができる。				○	◎

履修条件・注意事項	
授業計画	1．ガイダンス（目標、内容、受講方法、評価について）と既習事項の確認　（目標 1） 2．家族Ⅰ　数字で見る現代家族　（目標 1,2） 3．家族Ⅱ　性別役割分業　（目標 1,2,3） 4．家族Ⅲ　子ども・家族の生活時間　（目標 2,3） 5．住居Ⅰ　家族と住まいの発展　（目標 1,2） 6．住居Ⅱ　住まいと環境　（目標 1,2） 7．住居Ⅲ　家庭ごみと地域の環境　（目標 1,2,3） 8．被服Ⅰ　衣服の素材と洗濯の科学　（目標 1,2） 9．被服Ⅱ　ミシンの基本操作　（目標 1） 10. 被服Ⅲ　身近な物の製作　（目標 1,3） 11. 食物Ⅰ　子どもの食生活　（目標 1,2） 12. 食物Ⅱ　簡単な日本食の調理　（目標 1,2,3） 13. 食物Ⅲ　正しい栄養の知識　（目標 1,2,3） 14. 消費・環境　ものの選び方と金銭の使い方　（目標 1,2,3） 15. まとめ　共生の社会　（目標 2,3） 定期試験
アクティブ・ラーニング	実習　プレゼンテーション
成績評価基準	評価の方法：定期試験60%、日常の学習状況40% 評価の基準：生活を総合的にとらえる応用力の習得
フィードバックの方法	コメントシートによる
時間外の学習について	予習：授業計画にそって、学習者自身が課題を定め、授業で発言できる準備をしておく。1時間 復習：毎週定めた課題をまとめる。2時間
教材にかかわる情報	テキスト： 参考書： 参考資料等： 特になし
担当者からのメッセージ等 実務経験について	

授業科目名	初等体育	教員名	舩場　大資 (実務経験) (単独)	免許・資格との関係	保育士	
					幼稚園教諭	
					小学校教諭	必修
ナンバリングコード	UE1-2016-00100				中学校教諭(英語)	
		年次配当	1年後期		高等学校教諭(英語)	
授業形態	演習				特別支援学校教諭	
				卒業要件	初等幼児教育専攻	選択
単位数	2				中等教育専攻	

科目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校）
各科目に含めることが必要な事項	教科に関する専門的事項
教科目	
系列	
授業テーマ	子どもの体育活動について理解し、それらの内容に関する知識と技能を身につけると同時に、子どもに楽しさと喜びを体験させる知識と技能も身につけ、クラス運営に生かす。
授業概要	学年ごとの目標を理解し、指導上の基本的技能を学ぶ。また、集団行動、体操、ボール競技などの各演習ごとの基礎的知識、技能やスキルの向上のポイントや補助の技術、またレクリエーションによって楽しさと喜びえを与えられる技術について学び、小学校教育の現場で生か せる知識技能を身につける。

達成目標	科目DP：(3)				
	DP番号	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)
	1．クラス運営等に役立つレクリエーションの技術の習得	○	◎	○		
	2．体育の目標と意義の理解と基本的指導法の習得		○	○	○	◎
	3．各種目の理解と指導技能の習得		◎	◎	○	

履修条件・注意事項	
授業計画	1．体育の目標と意義、基本的指導法　（目標 1） 2．レクリエーション（室内用）（目標 2） 3．レクリエーション（1対多）（目標 2） 4．レクリエーション（1対1）（目標 2） 5．レクリエーション（周団対集団）（目標 2） 6．演習（縄）（目標 3） 7．演習（マット）（目標 3） 8．演習（跳び箱）（目標 3） 9．演習（鉄棒）（目標 3） 10. 演習（ダンス）（目標 3） 11. 演習（ドッジボール等）（目標 3） 12. 演習（ポートボール等）（目標 3） 13. 演習（サッカー等）（目標 3） 14. 演習（ベースボール等）（目標 3） 15. 演習（レクリエーションバレー等）（目標 3） 定期試験
アクティブ・ラーニング	模擬授業を班ごとに計画し、実践する
成績評価基準	評価の方法：定期試験　50%　　宿題・レポート　40%　　授業への参加度　10% 評価の基準：子どもの体育活動について理解し、それらに関する知識や技能を身につけられたか。
フィードバックの方法	各演習ごとに内容に対する意見や反省を言いあう時間をとる。
時間外の学習について	予習：各種目の基礎理論の習得　　各回30分程度 復習：技能の向上・実践　　各回30分程度
教材にかかわる情報	テキスト：適宜、資料を配布する。 参考書：『小学校学習指導要領解説　体育編』文部科学省 参考資料等：
担当者からのメッセージ等 実務経験について	見本が示せる指導者になってほしい。

授業科目名	国語科教育法	教員名	岸本　憲一良（単独）	免許・資格との関係	保育士	
					幼稚園教諭	
					小学校教諭	必修
ナンバリングコード	UE2-2017-00100				中学校教諭(英語)	
		年次配当	２年前期		高等学校教諭(英語)	
授業形態	講義				特別支援学校教諭	
				卒業要件	初等幼児教育専攻	選択
単位数	2				中等教育専攻	

科目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校）
各科目に含めることが必要な事項	各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）
教科目	
系列	
授業テーマ	国語科教育、制度、歴史、理念、動向
授業概要	小学校国語科で扱う教材を取り上げ、教材研究、学習指導の在り方などについて考究する。

達成目標

	科目DP：(4)				
DP番号	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)
1．学習指導要領に示された小学校国語科の目標及び主な内容評価並びに全体構造を理解している。			○	◎	
2．「知識及び技能」の重要性を理解し、小学校国語の授業を構想することができる。		◎	○		
3．「思考力、判断力、表現力等」の育成に留意しながら、「話すこと・聞くこと」の授業を構想することができる。			○	○	◎
4．「思考力、判断力、表現力等」の育成に留意しながら、「書くこと」の授業を構想することができる。			◎	○	○
5．「思考力、判断力、表現力等」の育成に留意しながら、「読むこと」の授業を構想することができる。	◎			○	

履修条件・注意事項	
授業計画	1．オリエンテーション（シラバス説明、国語科の目標と内容について等）（目標 1） 2．国語科における「知識及び技能」について（目標 2） 3．「話すこと・聞くこと」とコミュニケーションについて１（主として対話）（情報機器及び教材の活用）（目標 2,3） 4．「話すこと・聞くこと」とコミュニケーションについて２（主として公話）（学習指導案の作成）（目標 2,3） 5．「書くこと」の指導について１（主として説明的文章）（目標 2,4） 6．「書くこと」の指導について２（主として韻文）（目標 2,4） 7．「書くこと」の指導について３（主として生活文）（情報機器及び教材の活用）（目標 2,4） 8．「読むこと」の指導について１（国語と読書指導）（学習指導案の作成）（目標 1,5） 9．「読むこと」の指導について２（昔話の考究）（目標 2,3,5） 10．「読むこと」の指導について３（主として韻文）（目標 2,5） 11．「読むこと」の指導について４（主として説明的文章）（学習指導案の作成）（情報機器及び教材の活用）（目標 2,5） 12．「読むこと」の指導について５（同上）（模擬授業と振り返り）（目標 2,5） 13．「読むこと」の指導について６（主として文学的文章）（学習指導案の作成）（目標 2,5） 14．「読むこと」の指導について７（同上）（模擬授業と振り返り）（目標 2,5） 15．まとめ（目標 1,2,3,4,5） 定期試験
アクティブ・ラーニング	グループワーク、ディスカッション、模擬授業
成績評価基準	評価の方法：定期試験（60%）、提出課題の内容（20%）、授業態度等（20%）を考慮し、総合的に評価する。 評価の基準：国語科の指導を進める上で留意すべき点について説明することができる。
フィードバックの方法	課題回収後、解説を行う。
時間外の学習について	予習：次回までに課題が出た場合は、必ずそのことについて学習すること。 各回45分程度 復習：本時のまとめを復習しておくこと。 各回45分程度
教材にかかわる情報	テキスト：小学校学習指導要領、文部科学省『小学校学習指導要領解説　国語編』（平成29年度版） 参考書：特になし 参考資料等：
担当者からのメッセージ等実務経験について	授業の際に、小テストを実施したり課題を出したりすることがある。

授業科目名	社会科教育法	教員名	浦田　敏明 (実務経験) (単独)	免許・資格との関係	保育士	
					幼稚園教諭	
					小学校教諭	必修
ナンバリングコード	UE2-2018-00100				中学校教諭(英語)	
					高等学校教諭(英語)	
授業形態	講義	年次配当	2年後期		特別支援学校教諭	
				卒業要件	初等幼児教育専攻	選択
単位数	2				中等教育専攻	

科目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校）
各科目に含めることが必要な事項	各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）
教科目	
系列	
授業テーマ	小学校社会科の学習指導法（目標、学習内容、指導法、評価）を理解する。
授業概要	現代社会における社会科教育の果たす役割と、社会科で育てる子供像を明らかにするとともに、小学校学習指導要領解説社会編に示された目標、内容、育成されるべき資質・能力について理解を深める。小学校社会科の教材研究、教材開発、指導方法、学習評価等の授業設計を、実践事例の考察と学習指導理論を踏まえた具体的な授業を構想することを通して理解する。いずれも学び合う中で自己との対話を促進し、授業実践の意欲を高める。

達成目標

	科目DP：(4)				
DP番号	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)
1．社会科成立の歴史的経緯を知り、今日求められる社会科教育の役割と特質を理解する。		○	○	○	
2．小学校社会科の学習指導要領における目標、内容、評価、全体構造を理解する。		○	○		
3．小学校社会科の授業構成と学習指導理論を理解して授業を設計し、具体的な学習指導案を作成する。	○	○	○	○	○
4．模擬授業と振り返り、グループワーク等を通して、実践的な教材研究及び授業改善の視点を身に付ける。	○	○	○	○	○

履修条件・注意事項	履修人数は、50名程度とする。
授業計画	1．社会科教育の役割と社会科で育てる子供像・社会科のめざす方向について（目標 1） 2．小学校社会科の目標・内容・評価・全体構造について（情報機器及び教材の活用）（目標 2） 3．第３学年の目標･内容と授業（1）－単元「わたしたちの市のようす」の具体について（目標 1,2,3） 4．第３学年の目標・内容と授業（2）－単元「学校のまわり」の具体について（目標 1,2,3） 5．子どもの側に立つ社会科の授業Ⅰ－教材研究・教材開発について（情報機器及び教材の活用）（目標 1,2,3,4） 6．子どもの側に立つ社会科の授業Ⅱ（目標 1,2,3） 第４学年の目標・内容と授業（1）－単元「ごみのゆくえ①」の計画、授業構成の実際について 7．子どもの側に立つ社会科の授業Ⅲ（目標 1,2,3） 第４学年の目標・内容と授業（2）－単元「ごみのゆくえ②」の授業の実際、評価について 8．子どもの側に立つ社会科の授業Ⅳ（目標 1,2,3,4） 第４学年の目標・内容と授業（3）－単元「ごみのゆくえ③」の模擬授業、振り返りについて 9．社会科学習指導案の作成（演習）－具体的な授業設計と評価の概観について（目標 1,2,3） 10．単元「店ではたらく人①」指導案の作成と模擬授業、振り返りについて（目標 1,2,3,4） 11．単元「店ではたらく人②」模擬授業、評価、見取りについて（目標 1,2,3,4） 12．第５学年の目標・内容と授業（1）－単元「米づくり①」授業展開と学び合いについて（模擬授業と振り返り）（目標 1,2,3,4） 13．第５学年の目標･内容と授業（2）－単元「米づくり②」授業展開と自己との対話について（模擬授業と振り返り）（目標 1,2,3,4） 14．第６学年の目標･内容と授業（1）－単元「縄文のむらから古墳のくにへ①」ポスターセッションについて（模擬授業と振り返り）（目標 1,2,3,4） 15．第６学年の目標･内容と授業（2）－単元「縄文のむらから古墳のくにへ②」ポスターセッションについて 小学校社会科の学習指導法について確かな授業観･指導観･児童観をもつ(模擬授業と振り返り)（目標 1,2,3,4）
アクティブ･ラーニング	課題解決型学習・ディスカッション・グループワーク・プレゼンテーション・フィールドワーク・ロールプレイ・模擬授業
成績評価基準	評価の方法：毎回の授業の最後に提出するレポート40%　宿題・授業外レポート20%　模擬授業・演習20%　授業への参加態度20% 評価の基準：子どもが主体的に学ぶ社会科授業の教材開発、学習指導法、評価の仕方が理解できているか。
フィードバックの方法	授業内レポート返却時等に講評及び質疑応答を行う。
時間外の学習について	予習：参考資料および振り返りレポートを読み、レポートを含めた次回学習への準備をしておくこと。各回45分程度 復習：本時のまとめを復習しておくこと。各回20分程度
教材にかかわる情報	テキスト：小学校学習指導要領解説　社会編（平成29年度版－ 文部科学省） 参考書：小学校社会科教科書、小学校社会科地図帳、山口県・山口市小学校社会科副読本はこちらで用意する。 参考資料等：授業中に適宜資料を配付する。
担当者からのメッセージ等 実務経験について	グループワークなどを用いた演習があります。主体的・協働的な学びの姿が「授業力」を高めるとは何かを一緒に考えましょう。 Email：urata.t@yamaguchi-u.ac.jp 山口大学教職センターに勤務。小学校教員経験：実務経験をもとに、基本的な社会教育の指導方法のあり方について学生が互いに学び合う授業を行います。

授業科目名	算数科教育法	教員名	大場　仁史 （単独）	免許・資格との関係	保育士	
					幼稚園教諭	
					小学校教諭	必修
ナンバリングコード	UE2-2019-00100				中学校教諭（英語）	
		年次配当	２年前期		高等学校教諭（英語）	
授業形態	講義				特別支援学校教諭	
				卒業要件	初等幼児教育専攻	選択
単位数	2				中等教育専攻	

科目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校）
各科目に含めることが必要な事項	各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）
教科目	
系列	
授業テーマ	算数科教育の目標、内容及び指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）
授業概要	算数科教育の目標、算数科の学習内容、指導方法、児童の理解の仕方、学習（算数）障害についても理解する。

達成目標

	科目DP：(4)				
DP番号	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)
１．学習指導要領に示された算数科教育の目標（算数的活動の一層の充実、基礎的・基本的な知識・技能を確実に身に付ける、数学的な思考力・表現力を育てる、自ら学ぶ意欲を高める）について理解する。		◎	○		
２．１年生から６年生までの学習内容を系統別に把握する。		◎	○		
３．１年生から６年生までの学習内容から選択した内容、評価について指導案・板書案・シナリオ案を作成して、それらの検討及び模擬授業を通して指導方法を理解し、体得していく。		◎	○		
４．児童の知的精神的発達と算数科教育、行動や学習態度等の把握の方法と学習（算数）障害等について理解し、その指導方法を学ぶ。		◎	○		

履修条件・注意事項

授業計画

1．学習指導要領と算数科教育の目標について（1）－５項目（目標 1,2）
2．学習指導要領と算数科教育の目標について（2）－算数的活動、算数の学習障害（目標 1,2）
3．算数教育の内容と各学年での系統について（目標 1,2）
4．授業の組み立て方、指導案、板書案の書き方、児童のノートの取り方について（目標 2,3,4）
5．学年と分野を選んで指導案の作成、班別内評価について（目標 1,2,3,4）
6．模擬授業の実施と評価、反省について（情報機器及び教材の活用）（目標 1,2,3,4）
7．九九と計算の指導法、指導案の作成と評価について（目標 1,2,3,4）
8．時計の発達と学習について（目標 1,2,3,4）
9．円周率の計算とその進化について（目標 1,2,3,4）
10. 伴って変わる量（比例、反比例）について（学習指導案の作成）（情報機器及び教材の活用）（目標 1,2,3,4）
11. 三角形の合同と証明について（学習指導案の作成）（目標 1,2,3,4）
12. 数学がたどってきた道、さまざまな単位について（模擬授業と振り返り）（目標 1,2,3,4）
13. 知的発達と学習（算数）障害について（模擬授業と振り返り）（目標 1,2,3,4）
14. 教育実習における算数科授業について（目標 1,2,3,4）
15. 遊び心から育てる算数科教育（目標 1,2,3,4）
定期試験

アクティブ・ラーニング	模擬授業
成績評価基準	評価の方法：定期試験 80%、指導案・板書案の作成等の提出物 20% 評価の基準：・算数科教育の目標、算数の学習内容について理解しているか。 ・指導方法、児童の理解の仕方、学習障害について理解しているか。 ・算数を学ぶことの意義、授業案や板書案等の作成ができるか。
フィードバックの方法	数式だけで解答するのではなく、言葉で説明するようにする。
時間外の学習について	予習：必要に応じて指示する。 各回45分程度 復習：必要に応じて指示する。 各回45分程度
教材にかかわる情報	テキスト：プリント 参考書：小学校学習指導要領 算数の教科書（1年～6年）、小学校学習指導要領解説算数編、その他必要に応じて示す。 参考資料等：
担当者からのメッセージ等実務経験について	算数はまず考えることから始まり、その計算方法・計算となります。そういう意味では言語と同じですから日頃から自分の考えをまとめること、他の人に説明できる力を養ってほしい。

授業科目名	理科教育法	教員名	源田　智子 （単独）	免許・資格との関係	保育士	
					幼稚園教諭	
					小学校教諭	必修
					中学校教諭（英語）	
ナンバリングコード	UE3-2020-00100	年次配当	３年前期		高等学校教諭（英語）	
					特別支援学校教諭	
授業形態	講義			卒業要件	初等幼児教育専攻	選択
単位数	2				中等教育専攻	

科目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校）
各科目に含めることが必要な事項	各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）
教科目	
系列	
授業テーマ	＜教科教育法、理科実験法、安全教育＞
授業概要	この講義では指導要領に示された理科の目標、内容、評価について理解し、小学校で行われている理科実験に対する基礎的基本的事項を学ぶとともに、安全に行える実験授業の方法を学ぶ。

達成目標

科目DP：(4)

DP番号	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)
１．学習指導要領に示された理科の目標、内容を理解する。		◎		○	
２．安全に実験を行う手法を修得する。		◎		○	
３．理科４領域の基礎を理解する。		◎	○		
４．理科４領域の実験方法を修得する。		○	◎		
５．小学校理科に対応した実験方法や教材について考えることができる。		○	◎		
６．授業を設計し指導法の検討を行うと共に、指導案の作成や模擬授業を通して指導方法を修得する。				◎	○

履修条件・注意事項

授業計画

１．小学校理科教育の目標を知る。安全教育とは何かを学ぶ（目標 1,4）
２．実験器具の説明、取り扱い上の注意点を学ぶ（情報機器及び教材の活用）（目標 1,4,5）
３．化学領域の内容及び実験授業（1）ものの溶け方（アルコールランプの使い方）（指導法の検討）（目標 1,2,3,4,6）
４．化学領域の内容及び実験授業（2）溶解度（天秤の使い方）（目標 2,3,4）（指導法の検討）（目標 1,2,3,4,6）
５．化学領域の内容及び実験授業（3）酸・塩基反応（学習指導案の作成及び模擬授業）（目標 1,2,3,4,6）
６．物理領域の内容及び実験授業（1）てこの原理（指導法の検討）（目標 2,3,4,6）
７．物理領域の内容及び実験授業（2）振り子の運動（指導法の検討）（目標 2,3,4,6）
８．物理領域の内容及び実験授業（3）電気回路（電流計、テスターの使い方）（学習指導案の作成及び模擬授業）（目標 1,2,3,4,6）
９．生物領域の内容及び実験授業（1）植物の生長（指導法の検討）（目標 1,2,3,4,6）
10．生物領域の内容及び実験授業（2）気孔の観察（顕微鏡の使い方）（指導法の検討）（目標 1,2,3,4,6）
11．生物領域の内容及び実験授業（3）動物の行動（反射実験を含む）（指導法の検討）（目標 1,2,3,4,6）
12．生物領域の内容及び実験授業（4）植物の形態（スケッチの手法）（学習指導案の作成及び模擬授業）（目標 1,2,3,4,6）
13．地学領域の内容及び実験授業（1）土と砂（粒度分析、機器の使い方を含む）（指導法の検討）（目標 1,2,3,4,6）
14．地学領域の内容及び実験授業（2）気象（資料を用い問題を解く、VTR等を利用）（指導法の検討）（目標 2,3,4,6）
15．地学領域の内容及び実験授業（3）天体（星座早見表の使い方）（学習指導案の作成及び模擬授業）（目標 2,3,4,6）

アクティブ・ラーニング	本授業は班活動を主体とする。実験を行うときや結果をまとめるときには班員同士で話し合いながら進めることができる。また教員の投げた課題に個人、あるいは班で話し合った上で全体での共有を図ることができる。
成績評価基準	・毎回の授業後に授業に対するレポートを次回に提出または当日配布の小テストを提出（90%）･･･各時間の目標、実験方法などを理解できているかどうか。また科学における再現性に従事した記述ができているかどうか。 ・グループ内での実験への参加度（10%）･･･話し合い等に積極的に意見をだせているかどうか。
フィードバックの方法	レポートにコメントを返す。
時間外の学習について	予習：次回の授業課題を予告するので、内容や実験法について調べ、理解しておく。各回45分程度 復習：授業後レポート作成を行う際に関連する原理や定義などを調べ報告できるようにする。各回45分程度
教材にかかわる情報	テキスト：「小学校理科の指導」建帛社 参考書：小学校学習指導要領、小学校教科書「理科3～6」、その他、授業中に適宜資料を配布する。 参考資料等：
担当者からのメッセージ等実務経験について	実験を行うので、汚れても良い服装、安全面を重視した服装を心がけて下さい。小さなタオルを持参すると良い。（最初の授業で注意事項を説明する。）

授業科目名	英語科教育法（小）	教員名	ダグラス・パーキン（実務経験）（単独）	免許・資格との関係	保育士	
					幼稚園教諭	
					小学校教諭	必修
ナンバリングコード	CM3-2021-00100				中学校教諭（英語）	
		年次配当	３年前期		高等学校教諭（英語）	
授業形態	講義				特別支援学校教諭	
				卒業要件	初等幼児教育専攻	選択
単位数	2				中等教育専攻	選択

科目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校）
各科目に含めることが必要な事項	各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）
教科目	
系列	
授業テーマ	小学生へ英語を教える方法を学ぶ
授業概要	小学校で教科として英語を指導するために求められる知識と技術の習得を目指す。外国語を運用する能力は使いながら学ぶことによって成長が促される。第二言語習得研究の知見を取り入れた英語科指導、ALTとのティーム・ティーチング、ICTの活用、学習状況の評価方法について理解を深める。

達成目標

	科目DP：(4)				
DP番号	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)
1．小学校外国語教育の変遷、小学校の外国語活動・外国語、中・高等学校の外国語科の目標・内容について理解している。				○	◎
2．主教材の趣旨・構成・特徴について理解している。				○	◎
3．言語使用を通して言語を習得することを理解し、指導に生かすことができる。				○	◎
4．題材の選定、教材研究の仕方について理解し、適切に題材選定・教材研究ができる。				○	◎
5．ALT等とのティーム・ティーチングによる指導の在り方や評価について理解している。				○	◎
6．ICT等の効果的な活用の仕方について理解し、指導に生かすことができる。				○	◎

履修条件・注意事項

授業計画

第１回：授業についての説明（目標 1,2,3,4,5,6）
第２回：E-learning・学習指導要領の変遷と小学校の外国語活動・外国語教育の目標の理解（目標 1,2,3）
第３回：E-learning・第二言語習得プロセスに基づいた指導（目標 1,2,3）
第４回：E-learning・教室英語・小学校で用いられる教材（目標 1,2,3,4）
第５回：E-learning・外国語活動と英語科の学習内容の理解（目標 1,2,3,4,5,6）
第６回：E-learning・外国語教育において小学校が果たす役割（目標 1,2,3,4,6）
第７回：E-learning・音声によるインプットの重要性（目標 1,2,3）
第８回：E-learning・学習到達目標と1時間の授業づくり・学習評価（目標 1,2,3,4,5,6）
第９回：E-learning・教師による指導法実演（We Can!）（目標 1,2,3,4,6）
第10回：中学校の英語科授業（DVD視聴）・ALTとのティーム・ティーチング（目標 1,3,5）
第11回：授業準備：英語での語りかけかた・指導案作成・教材準備（情報機器及び教材の活用）（目標 1,2,3,4,5,6）
第12回：受講生による模擬授業（導入）・教師からのフィードバック・振り返り（目標 1,2,3,4,5,6）
第13回：受講生による模擬授業（コミュニケーション活動）・教師からのフィードバック・振り返り（目標 1,2,3,4,5,6）
第14回：受講生による模擬授業（デジタルテキスト）・教師からのフィードバック・振り返り（目標 1,2,3,4,5,6）
第15回：授業についての振り返り・成果と課題の確認（目標 1,2,3,4,5,6）

アクティブ・ラーニング

Students participate as elementary students in demonstration lessons, conduct mini lessons each class, research, lesson plan, and perform team taught final exams. Students must also actively communicate in English regularly, by proactively questioning faculty members when using the Question Crazy Card System. 模擬授業、ディスカッション、グループワーク

成績評価基準

評価の方法：予習・復習：10%　e-learning：10%　Question Crazy Card System：10%
模擬授業（単独）：10%　模擬授業（Team Teaching）：50%　振り返りシート：10%
評価の基準：The criteria used to evaluate this course are students' levels of English skills and teaching techniques they use as they apply to students in elementary school.

フィードバックの方法

模擬授業等への指導、助言及び提出物に対するコメント

時間外の学習について

予習：特になし
復習：授業中に配布された資料の復習。授業で出てきた新しい単語の習得。各回45分程度

教材にかかわる情報

テキスト：小学校学習指導要領
『Let's Try! 1』『Let's Try! 2』『We Can! 1』『We Can! 2』文部科学省
東洋館出版社編集部.（2017）『平成29年度版 小学校学習指導要領ポイント総整理』東洋館出版社
参考書：佐藤久美子.（2017）『今すぐ教えられる小学校英語指導案集』朝日出版社
参考資料等：

担当者からのメッセージ等 実務経験について

母国であるカナダでの小学校教員としての経験や国内小学校でのＡＬＴの経験を生かして、小学校英語教育に携わる上での英語運用能力や指導法の授業をします。また、e-ラーニングを活用し、個々人の習熟度に応じた学習を進めます。

授業科目名	生活科教育法	教員名	上田　保明 (実務経験) (単独)	免許・資格との関係	保育士	
					幼稚園教諭	
					小学校教諭	必修
					中学校教諭(英語)	
ナンバリングコード	UE3-2022-00100	年次配当	３年前期		高等学校教諭(英語)	
					特別支援学校教諭	
授業形態	講義			卒業要件	初等幼児教育専攻	選択
単位数	2				中等教育専攻	

科目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校）
各科目に含めることが必要な事項	各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）
教科目	
系列	
授業テーマ	生活科のカリキュラム作りと実践的な指導の方法と技術を習得する。
授業概要	低学年児童の活動できるカリキュラムの要件、具体例を知り、実際的な指導方法を学ぶ。

達成目標

	科目DP：(4)				
DP番号	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)
1．小学校低学年児童が取り組めるカリキュラムのあり方と作成の手立てを知る。		○			
2．幼稚園から小学校へ、入学直後からのスタートカリキュラムの内容とあり方を知る。		○			
3．生活科授業と学級指導（学級づくり）の関連を知るとともに、学級づくりの指導技術も習得する。			◎	○	
4．具体的な活動や体験を通した生活科の指導原理が「間接指導」であることを知る。		○		○	
5．Ａ４ノートを各自で準備し、自主的な調査活動とノート作りを進める。			○		◎

履修条件・注意事項

授業計画

1．入学式および入学直後の学級指導（オリエンテーション）。（目標 2,5）
2．新１年生、学年始めの学級づくりと指導方法（着席、呼名の指導から）。（目標 2）
3．最初の授業での指導内容と指導技術。（目標 1,2）
4．「言葉の力」の指導は入学の日から始まる―対話的な発言・発表指導。（目標 2,3）
5．「入学式から研究授業までの17日間」（１）―班の編成と班活動。（目標 2,3）
6．「入学式から研究授業までの17日間」（２）―発表の仕方と聞き方。（目標 2,3）
7．「入学式から研究授業までの17日間」（３）―授業始まりの指導。（目標 2,3）
8．アサガオと１年生（１）―アサガオ栽培と理科・生活科（情報機器及び教材を活用した模擬授業と振り返り）。（目標 2）
9．アサガオと１年生（２）―アサガオ栽培が誘発する活動と言葉。（目標 2）
10．アサガオと１年生（３）―情報機器を利用した教材収集と指導案づくり。（目標 2）
11．２年間を見通した生活科のカリキュラム（事例の検討）。（目標 1,3）
12．生活科と表現活動（話す・書く・描く・動作化・劇表現の特質）（模擬授業と振り返り）。（目標 1,4）
13．アクティブ・ラーニングを促す生活科の指導案づくりと授業指導の実践（模擬授業など）。（目標 1,3）
14．Ｓ児４年夏休みの体験学習「のぞみが通った駅と府県」の指導過程（模擬授業と振り返り）。（目標 1,4）
15．生活科から総合的学習へ（幼児「駅の名前」の学習、1年国語「り」の学習）（模擬授業と振り返り）（目標 1,4）

アクティブ・ラーニング	①事前に課した特定のテーマを調査し、ノートを提出する。発表もする（パワーポイント使用も）。 ②少人数グループを決めてあるので、ディスカッション、グループ代表発表等を行う。
成績評価基準	評価の方法：受講態度（20%）、毎回講義終了時のミニレポート（40%）、ノート（40%） 評価の基準：達成目標に到達したか。
フィードバックの方法	①毎回授業の最後にミニレポートを課し、次回の始めに返却、解説する。 ②ノートのやりとりを通して、その時々の到達度を確認する。
時間外の学習について	予習：前時に提示したキーワードや重要用語を事典類で調べてノートに書く。 各回45分程度 復習：発展的な専門用語や課題について自主的な調査をしてノートに書く。 各回45分程度
教材にかかわる情報	テキスト:小学校学習指導要領、桒原昭徳著『入学式から研究授業までの17日間』、桒原昭徳著『講義補充資料』 桒原昭徳著『学習規律のゴールイメージ』の前半。以上を、講義の中で適宜配布する。 参考書：生活科のカリキュラムづくりや間接指導などの文献を、適宜、紹介する。 参考資料等：
担当者からのメッセージ等 実務経験について	出席回数、受講態度も重視する。毎回A4ノートを持参してメモやノートづくり、講義外での自主的な調査活動も進めてほしい。ノートも重要な評価対象とする。 小学校教員経験：実務経験をもとに生活科教育や教員としてのあり方について話をします。

授業科目名	音楽科教育法	教員名	河北　邦子 （単独）	免許・資格との関係	保育士	
					幼稚園教諭	
					小学校教諭	必修
ナンバリングコード	UE2-2023-00100				中学校教諭（英語）	
		年次配当	２年後期		高等学校教諭（英語）	
授業形態	講義				特別支援学校教諭	
				卒業要件	初等幼児教育専攻	選択
単位数	2				中等教育専攻	

科目	教科及び教職に関する科目（小学校）教科及び教科の指導法に関する科目
各科目に含めることが必要な事項	各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）
教科目	
系列	
授業テーマ	音楽科の教科特性、目標、指導内容、表現、歌唱活動、器楽活動、音楽づくり活動、鑑賞、評価
授業概要	学習指導要領に示される初等音楽科の目標や内容、全体構造、及び評価を理解する。小学校現場のDVD視聴により、指導計画の意義を知り、指導者の音楽や指導言語の在り方、表現力の必要性、板書や情報機器の用い方等を理解する。授業を構想し指導案作成、模擬授業実践、グループ（G）ディスカッションにより実践力を養う。

達成目標

	科目DP：(4)				
DP番号	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)
1．学習指導要領に示された音楽科の目標や内容、全体構造を理解する。		◎			○
2．音楽科の学習内容について理解する。（指導上の留意点を理解/学習評価の考え方を理解）	◎	○			
3．基礎的な学習指導理論を理解する。（子どもの認識や思考、学力などを考慮した授業設計を理解）		○	○	◎	
4．授業場面を想定した授業設計を行う。（学習指導案の構成理解/具体的な授業を想定し学習指導案を作成/個別の学習内容理解/情報機器等の活用法の理解/他学問領域との関係を教材研究に活用）		◎	◎	◎	
5．模擬授業の実施とその振り返りを通して、授業改善の視点を身に付ける。				◎	◎

履修条件・注意事項	
授業計画	1．学習指導要領に示される初等音楽科の目標、内容、全体構造の理解　（目標 1） 2．学習内容の流れ　共通事項の理解　（目標 1,2,3） 3．歌唱教材の研究（低・中学年）　歌唱活動の実践　（目標 1,2,3） 4．歌唱教材の研究（中・高学年）　教育現場DVDの視聴とGディスカッション　（目標 2,3,4） 5．器楽教材の研究（低・中学年）　器楽活動の実践　（目標 1,2,3） 6．器楽教材の研究（中・高学年）　教育現場DVDの視聴とGディスカッション　（目標 2,3,4） 7．音楽づくり教材の研究（全学年）教育現場DVDの視聴とGディスカッション　（目標 1,2,3,4） 8．鑑賞教材の研究（全学年）教育現場DVDの視聴とGディスカッション　（目標 1,2,3,4） 9．電子教材の研究（全学年）デジタル教材の視聴と操作　（目標 3,4） 10. 音楽科の指導法（指導言語、板書、音楽表現等）（目標 3,4） 11. 音楽学習の評価　学習指導案作成の在り方について　（目標 2,3,4） 12. 学習指導案作成　（目標 ２・３・４） 13. １～４G歌唱活動系模擬授業とGディスカッション　（目標 2,3,4,5） 14. ５～８G器楽活動系模擬授業とGディスカッション　（目標 2,3,4,5） 15. ９～12G音楽づくり・鑑賞系模擬授業とGディスカッション　まとめ　（目標 2,3,4,5） 定期試験
アクティブ・ラーニング	課題、及び模擬授業実践において、グループ・ディスカッションとグループを超えた意見交流を行う。
成績評価基準	評価の方法：定期試験（70%），指導案の作成と模擬授業の発表内容（30%） 評価の基準：初等音楽科の基本的事項を理解し、指導案を作成の上、模擬的に授業実践ができる。
フィードバックの方法	提出物について、コメントを添えて返却する。 模擬授業について、改善点をコメントする。
時間外の学習について	予習：次回の授業のテーマについて、予め学習しておく。 各回45分程度 復習：毎時間の演習を復習する。不明な点は質問すること。 各回45分程度
教材にかかわる情報	テキスト：小学校学習指導要領 『初等音楽科学習指導要領解説』文部科学省（平成29年度版）、『小学生の音楽１～６』教育芸術社 参考書：指導者用音楽デジタル教科書「小学生の音楽１～6」教育芸術社DVD-ROM版 参考資料等：
担当者からのメッセージ等 実務経験について	教育現場のデータを用い、また歌唱や器楽、創作活動などの演習を伴いながら、講義を進める。 高等学校教員（音楽）の実務経験をもとに、歌唱表現の指導について行っています。

授業科目名	図画工作科教育法	教員名	中村　登 （実務経験） （単独）	免許・資格との関係	保育士	
					幼稚園教諭	
					小学校教諭	必修
ナンバリングコード	UE3-2024-00100				中学校教諭（英語）	
					高等学校教諭（英語）	
授業形態	講義	年次配当	3年前期		特別支援学校教諭	
単位数	2			卒業要件	初等幼児教育専攻	選択
					中等教育専攻	

科目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校）
各科目に含めることが必要な事項	各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）
教科目	
系列	
授業テーマ	図画工作科の特性とねらいを踏まえ、学習指導要領に示された内容について理解する。
授業概要	学習指導要領に示された図画工作科の表現領域や鑑賞領域と〔共通事項〕の内容について望ましい指導や評価のあり方を学ぶ

達成目標

	科目DP：(4)				
DP番号	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)
1．学習指導要領に示された表現の内容や鑑賞の内容の指導法について望ましい指導や評価のあり方を学ぶ。（教科の特性としての社会的意義とねらいを踏まえた内容について理解する）	◎	○			
2．図画工作科の領域・年間指導計画等について理解できる。（全教科内の図画工作科の位置付けと役割について理解する）		◎	○		
3．図画工作科の指導法や評価規準・評価の仕方等について理解できる。（教科の特性を生かし、地域に合った教材の大切さや必要性を理解する）			○		◎
4．図画工作科の題材研究を通して指導案作成方法を修得する。（主に表現活動と鑑賞活動の題材研究を通して教科の魅力と楽しさを味わい意欲を高める）			○	◎	

履修条件・注意事項	
授業計画	1．授業説明（図画工作科の特性と内容及び授業計画等）について　（目標 1） 2．図画工作科の目標と内容について　（目標 1） 3．図画工作科の学年別目標と内容について　（目標 1） 4．①図画工作科の領域について　（目標 1,2） 5．表現領域の内容Ⅰ　造形あそびの活動について（情報機器及び教材の活用）（目標 1,2） 6．表現領域の内容Ⅱ　絵や立体、工作の活動について（情報機器及び教材の活用）（目標 1,2） 7．鑑賞領域の内容　作品などの鑑賞活動について（情報機器及び教材の活用）（目標 1,2） 8．②年間指導計画について　（目標 1,2） 9．図画工作科の指導法Ⅰ　指導計画作成上の配慮事項について　（目標 1,3） 10．図画工作科の指導法Ⅱ　内容の取扱と指導上の配慮事項について　（目標 1,3） 11．図画工作科の指導と評価について　（目標 1,3） 12．評価規準と評価の仕方について　（目標 1,3） 13．学習指導案の研究Ⅰ　表現領域について（模擬授業）（目標 1,3,4） 14．学習指導案の研究Ⅱ　鑑賞領域について（模擬授業）（目標 1,3,4）. 15．授業のまとめ　模擬授業の反省及び事後評価　（目標 1,2,3,4） 定期試験
アクティブ・ラーニング	ディスカッション・模擬授業
成績評価基準	評価の方法：試験（50%） レポートや小テスト（30%） 授業への取り組み（20%） 評価の基準：学習指導要領に示された内容について理解し、図画工作科の指導法や評価のあり方を修得しているか
フィードバックの方法	授業後の振り返りのため、感想やレポートを提出し、知識・理解の定着を図る。
時間外の学習について	予習：学習指導要領（図画工作編）について解説予定範囲の下調べ（各回45分程度） 復習：解説内容の振り返りレポート（各回45分程度）
教材にかかわる情報	テキスト：小学校学習指導要領 小学校学習指導要領解説（図画工作編）（平成29年度版） 参考書：造形教育の探求（林　建造著）　これからの鑑賞指導を求めて（山口県造形教育研究会発行） 参考資料等：
担当者からのメッセージ等 実務経験について	子どもの好きな図画工作科（教育法）を学ぶことで楽しい指導方法を身につけよう。 山口県小学校教諭（図画工作）専科教員としての実務経験をもとに指導法や評価について話をします。

授業科目名	家庭科教育法	教員名	西　敦子（単独）	免許・資格との関係	保育士	
					幼稚園教諭	
					小学校教諭	必修
ナンバリングコード	UE3-2025-00100				中学校教諭（英語）	
		年次配当	３年前期		高等学校教諭（英語）	
授業形態	講義				特別支援学校教諭	
				卒業要件	初等幼児教育専攻	選択
単位数	2				中等教育専攻	

科目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校）
各科目に含めることが必要な事項	各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）
教科目	
系列	
授業テーマ	家庭科教育　歴史　目標　教材　指導法
授業概要	小学校家庭科の歴史的変遷をたどることで教科の特徴を概観するとともに、家庭科授業の目標、教材、指導法について学び、教員としての資質能力を高める。

達成目標

	科目DP：(4)				
DP番号	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)
1．家庭科の本質及び小学校家庭科の学習指導要領に示された目標・内容を理解する。	○	◎			
2．学習内容に応じた指導上の留意点を理解する。		◎	○		
3．家庭科の教材研究の方法を理解し、教材の収集及び作成ができる。		○	◎		○
4．情報機器を活用した、具体的な授業を想定した授業設計と学習指導案の作成ができる。			◎	○	
5．模擬授業の実施とその振り返りを通して、授業改善に努めるとともに授業づくりの方法を習得する。	○			◎	○

履修条件・注意事項	履修人数は，50名程度とする。
授業計画	1．家庭科とは何か～これまでの学習経験を振り返り、自分の家庭科観を捉える　（目標 1） 2．小学校学習指導要領の変遷から家庭科教育の歴史を読み解く　（目標 1,2） 3．現行及び改訂学習指導要領を読み解く　（目標 1,2） 4．家族の授業について～情報機器を活用した学習指導案の作成及び模擬授業と協議（目標 1,2,3,4,5） 5．家族の授業について～教材と指導法　（目標 1,2,3） 6．家族の触れ合いと食生活について～情報機器を活用した学習指導案の作成及び模擬授業と協議（目標 1,2,3,4,5） 7．家族の触れ合いと食生活について～教材と指導法　（目標 1,2,3） 8．家族の触れ合いと衣生活について～情報機器を活用した学習指導案の作成及び模擬授業と協議（目標 1,2,3,4,5） 9．家族の触れ合いと衣生活について～教材と指導法　（目標 1,2,3） 10．家族の触れ合いと住生活について～情報機器を活用した学習指導案の作成及び模擬授業と協議（目標 1,2,3,4,5） 11．家族に触れ合いと住生活について～教材と指導法　（目標 1,2,3） 12．消費生活と環境について～情報機器を活用した学習指導案の作成及び模擬授業と協議（目標 1,2,3,4,5） 13．消費生活と環境について～教材と指導法　（目標 1,2,3） 14．ガイダンスの授業について～教材と指導法　（目標 1,2,3） 15．まとめ～家庭科の授業づくりをどう考えるか（模擬授業の振り返り）（目標 1,2,3,5）
アクティブ・ラーニング	模擬授業　グループワーク　ディスカッション
成績評価基準	模擬授業の発表内容（30%）…目標の達成、教材研究、指導の態度などが適切か 模擬授業に関するレポート（60%）…授業の振り返りや授業改善の視点を適切に捉えているか 家庭科教育の歴史に関する小テスト（10%）…家庭科教育の歴史に関する基本的事項を理解しているか
フィードバックの方法	コメントシートによる
時間外の学習について	予習：テキストを読むこと。課題をすること。（各回45分程度） 復習：学習資料を読み返し、要点を整理すること。（各回45分程度）
教材にかかわる情報	テキスト：小学校学習指導要領、文部科学省『小学校学習指導要領の解説　家庭編』平成29年度告示版 『小学校家庭科教科書　わたしたちの家庭科　５・６』開隆堂 参考書：日本家庭科教育学会編『生活をつくる家庭科』第1巻～第3巻、ドメス出版、2007 その他、授業中に適宜資料を配付する。 参考資料等：
担当者からのメッセージ等実務経験について	

授業科目名	体育科教育法	教員名	舩場　大資 （実務経験） （単独）	免許・資格との関係	保育士	
					幼稚園教諭	
					小学校教諭	必修
ナンバリングコード	UE2-2026-00100				中学校教諭（英語）	
		年次配当	２年後期		高等学校教諭（英語）	
授業形態	講義				特別支援学校教諭	
				卒業要件	初等幼児教育専攻	選択
単位数	2				中等教育専攻	

科目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校）
各科目に含めることが必要な事項	各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）
教科目	
系列	
授業テーマ	学校教育における体育授業の役割
授業概要	本講義では、教員としての基本的な資質を身に付けるとともに、体育授業の方法論について学ぶことを目的とする。その中で、新たに学習指導要領に加わったダンス（表現運動）を始め、体育教育における黒板の活用など、子どもにとって分かりやすい体育とは何かを考察する。また、学校内で行われるスポーツイベントの運営も学ぶことで、学校運営における個人の役割や組織についても検討する。

達成目標

	科目DP：(4)				
DP番号	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)
１．わが国における今日の学校教育を理解する。（公教育の目的を理解し、その担い手である教員の存在意義を理解する。また現代社会の課題を理解し、学校教育に結び付けることができる。）		○		○	
２．学校教育の歴史を理解し、学習指導要領に示された体育科の目的及び指導法を理解する。（日本の教育史の変遷、とりわけ体育史を学習した上で、体育教育の在り方を理解する。）		○			○
３．基礎的な学習指導理論を理解し、具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身に付ける。（学習指導要領に記載される指導領域及び目的を網羅し、指導要領に沿って指導案を作成できる。）		○	○	○	○
４．授業の実践及びその振り返りと授業評価（指導案や計画書に沿った授業実践とその反省を行えるようになり、かつ改善するための視野を身に付ける。また、体育授業における評価の方法を理解する。）		○	○	○	

履修条件・注意事項	
授業計画	１．遊戯論―遊びとは何か。体育と何か―（目標 1,2） ２．学校教育史―戦前の教育から現代の教育まで。求められる現代教育とは―（目標 1,2） ３．体育教育史―現代体育の課題と変遷（体育におけるケガの予防や体罰問題など）―（目標 1,2） ４．体育科授業法―教室経営における体育の役割（情報機器及び教材の活用）―（目標 3） ５．体育科授業法―体育の「わかる」と「できる」と評価―（目標 3,4） ６．体育科授業法―体育の音読と体育ノートとその評価―（目標 3,4） ７．学習指導要領―三つの球技、球技の目的と指導方法―（学習指導案の作成）（目標 3,4） ８．体育科授業法―体育授業の視点―(情報機器及び教材を活用した模擬授業と振り返り)(目標 3,4) ９．学習指導要領―体つくり運動と陸上競技の目的と指導方法―（学習指導案の作成）（目標 3,4） 10．学習指導要領―水泳の目的と指導方法―（学習指導案の作成）（目標 3,4） 11．学習指導要領―ダンスの目的と指導方法―（学習指導案の作成）（目標 3,4） 12．ダンスサテライト運営―スポーツイベントの組織づくり―(模擬授業と振り返り)（目標 1,2,3,4） 13．ダンスサテライト運営―スポーツイベントの準備及び事故防止―（模擬授業と振り返り）（目標 1,2,3,4） 14．ダンスサテライト運営―スポーツイベントの実践及び運営と反省―（模擬授業と振り返り）（目標 1,2,3,4） 15．総括―体育授業の改善方法と評価方法―（情報機器及び教材を活用した模擬授業と振り返り）（目標 1,2,3,4） 定期試験
アクティブ・ラーニング	「ディスカッション」、「グループワーク」、「ロールプレイ」、「模擬授業」
成績評価基準	評価の方法：中間レポート20%　　スポーツイベント運営の実践20%　　期末試験60% 評価の基準：達成目標に到達したか。
フィードバックの方法	指導案作成等においての重要な部分は、通低して指示を行う。 また、前回の復習を行うことで、重要な部分を再確認できるようにする。
時間外の学習について	予習：事前にテキストをよく読むこと 復習：適宜指示する
教材にかかわる情報	テキスト：小学校学習指導要領 体育授業のためのやさしい教授学・学習指導要領小学校体育編解説（平成29年度版） 参考書：山口県ダンスサテライトDVD 内海和雄『戦後スポーツ体制の確立』・小林一久『体育の授業づくり論』・阪田尚彦『体育の授業と技術』 坂上康博『権力装置としてのスポーツ』 参考資料等：
担当者からのメッセージ等実務経験について	レポートを作成することがあります。 高等学校教員として体育・保健の授業を担当。実務経験をもとに、体育の方法論や指導方法について話をします。

授業科目名	総合的な学習の時間の指導法（小）	教員名	藤上　真弓（単独）	免許・資格との関係	保育士	
					幼稚園教諭	
					小学校教諭	必修
ナンバリングコード	UE2-2027-00100				中学校教諭（英語）	
		年次配当	２年前期		高等学校教諭（英語）	
授業形態	講義				特別支援学校教諭	
				卒業要件	初等幼児教育専攻	選択
単位数	1				中等教育専攻	

科目	教科及び教職に関する科目（小学校） 道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目
各科目に含めることが必要な事項	・総合的な学習の時間の指導法
教科目	
系列	
授業テーマ	
授業概要	総合的な学習の時間の教育理念や教育原理、子どもに育む資質・能力、カリキュラム・マネジメントや単元開発、授業づくり等に必要な視点や方法、考え方等について学ぶとともに、ディスカッションやグループワーク、プレゼンテーション等を通じて、実践化を図るための資質・能力を高める講義を行う。

達成目標		科目DP：(4)				
	DP番号	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)
	1．総合的な学習の時間の教育理念や教育原理、目標、内容、方法、課題等や、総合的な学習の時間の意義や果たすべき役割について、資質・能力の育成の視点から理解している。（総合的な学習の時間の意義や、各学校において目標及び内容を定める際の考え方を理解する）		◎	○		
	2．総合的な学習の時間において、主体的・対話的で深い学びを生み出すためのカリキュラム・マネジメントや単元計画、授業づくりに必要な視点や方法、考え方等や、各教科等の関連性の図り方について理解する。（総合的な学習の時間の指導計画作成の考え方を理解し、その実現のために必要な基礎的な能力を身に付ける。）		○	○	◎	
	3．探究的な学びを生み出す教師の手立てや総合的な学習の時間における評価方法について理解する。（総合的な学習の時間の指導と評価の考え方および実践上の留意点を理解する。）		○	○	◎	

履修条件・注意事項	
授業計画	1．総合的な学習の時間の意義と果たす役割（目標、教育理念、教育原理、カリキュラム・マネジメント）（目標 1,2） 2．主体的・対話的で深い学びを生み出すカリキュラム・マネジメント、単元デザインのポイント（目標 2,3） 3．総合的な学習の時間に身に付けたい資質・能力とカリキュラム・マネジメント、指導計画作成のあり方（各教科等との関連、考えるための技法やワークシートの活用のあり方）（目標 1,2,3） 4．目標を実現するためにふさわしい探究的な課題や探究的な学習の過程を生み出すための手立て（目標 1,2,3） 5．キャリア教育を取り扱う際のカリキュラム・マネジメント、単元開発・授業づくりのポイント（目標 1,2,3） 6．環境や福祉等、現代的課題を取り扱う際のカリキュラム・マネジメント、単元開発・授業づくりのポイント（目標 1,2,3） 7．地域や学校の特色に応じた課題を取り扱う際のカリキュラム・マネジメント、単元開発・授業づくりのポイント（目標 1,2,3） 8．総合的な学習の時間における評価（見取り、グループモデレーション等）（目標 1,3） 定期試験
アクティブ・ラーニング	ディスカッション・グループワーク
成績評価基準	・毎回授業終了時の小レポート（35%）…講義内容を踏まえて総合的な学習の時間に対する考えを表明できるか ・参加度［グループ活動、発表等］（5%）…意欲的に自分の考えを述べたり、活動に参加したりしているか ・授業内プレゼンテーション（10%）…グループディスカッションの過程や結果を論理的に説明できるか ・試験（50%）…総合的な学習の時間の存在意義や育むべき資質・能力、カリキュラム開発・単元づくり・授業づくり・評価等に関する知識・技能を修得しているか
フィードバックの方法	授業内レポートへのコメント等
時間外の学習について	予習：講義内で提示した資料や参考文献を次の講義までに読んでおくこと。各回45分程度。 復習：定期試験に備え、各回の講義内容の要旨を整理しておくこと。各回45分程度。
教材にかかわる情報	テキスト：小学校学習指導要領 文部科学省「小学校学習指導要領解説総合的な学習の時間編」 参考書：都留覚・藤上真弓「小学校プロ教師に学ぶ総合的な学習の時間授業の基礎技術」東洋館出版社、2012 文部科学省「（小学校編）今、求められる力を高める総合的な学習の時間の展開」教育出版、2010 文部科学省国立教育政策研究所「総合的な学習の時間における評価方法等の工夫改善のための参考資料【小学校】」教育出版、2012 文部科学省「小学校キャリア教育の手引き＜改訂版＞」教育出版、2011 その他、授業中に適宜資料を配布する。 参考資料等：
担当者からのメッセージ等 実務経験について	

授業科目名	道徳教育の指導法（小）	教員名	川野　哲也 （単独）	免許・資格との関係	保育士	
					幼稚園教諭	
					小学校教諭	必修
ナンバリングコード	UE2-2028-00100				中学校教諭（英語）	
		年次配当	２年前期		高等学校教諭（英語）	
授業形態	講義				特別支援学校教諭	
				卒業要件	初等幼児教育専攻	選択
単位数	2				中等教育専攻	

科目	教科及び教職に関する科目（小学校） 道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目
各科目に含めることが必要な事項	・道徳の理論及び指導法
教科目	
系列	
授業テーマ	道徳教育の理論、道徳の指導法
授業概要	道徳教育の意義や本質等を踏まえ、学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育及びその要となる道徳科の目標や内容、指導計画等を理解するとともに、教材研究と模擬授業等を通して適切な授業計画を立案する。

達成目標	科目DP：(4)				
DP番号	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)
１．現代社会における課題、道徳教育の意義、道徳の本質について理解する。		◎		○	
２．道徳教育の目標、内容、評価、子どもの道徳性発達について理解する。		◎		○	
３．道徳の授業計画と指導方法を理解し、自らも立案することができる。				◎	○

履修条件・注意事項	
授業計画	第１回：道徳の本質、現代における道徳教育の意義について。（いじめ、情報モラル、等）（目標 1） 第２回：道徳の本質、古代ギリシアの思想について。（ソクラテスの議論、徳とは何か、等）（目標 1） 第３回：道徳の本質、リベラリズムの思想について。（個人の自由とは何か、法と道徳、等）（目標 1） 第４回：道徳の本質、カントの思想について。（結果と動機、自律と他律、普遍的法則、等）（目標 1） 第５回：道徳教育の理論、コールバーグの理論について。（道徳性発達、等）（目標 2） 第６回：道徳教育の理論、学習指導要領の変遷について。（現代的課題、道徳科の設置、等）（目標 2） 第７回：道徳教育の理論、道徳教育の目標と内容について。（学習指導要領、全体計画と指導計画、等）（目標 2） 第８回：道徳の指導法について。（指導計画と教材研究：生活習慣、努力、希望）（目標 2,3） 第９回：道徳の指導法について。（指導計画と教材研究：誠実、善悪の判断、自由）（目標 2,3） 第10回：道徳の指導法について。（指導計画と教材研究：礼儀、親切、思いやり）（目標 2,3） 第11回：道徳の指導法について。（指導計画と教材研究：友情、相互理解、寛容）（目標 2,3） 第12回：道徳の指導法について。（指導計画と教材研究：勤労、公共の精神、学校生活）（目標 2,3） 第13回：道徳の指導法について。（指導計画と教材研究：家族愛、伝統文化、愛国心）（目標 2,3） 第14回：道徳の指導法について。（指導計画と教材研究：生命の尊さ、動植物の命）（目標 2,3） 第15回：まとめ
アクティブ・ラーニング	１～７回では、ディスカッション、８～14回では、模擬授業、ロールプレイを取り入れる。
成績評価基準	評価の方法：授業時に数回実施する確認テスト80%、レポート20% 評価の基準：道徳教育に関する基本的事項について説明できるか、適切な指導計画を立案できるか
フィードバックの方法	毎時最後に小課題を出す。回収の後、翌週に再度解説を行う。
時間外の学習について	予習：次週の課題を予告した場合には、調べる等して準備しておくこと。（各回45分程度） 復習：授業で扱った内容については復習し、分からないことは調べておくこと。（各回45分程度）
教材にかかわる情報	テキスト：小学校学習指導要領 参考書：西村正登著『現代道徳教育の構想』風間書房、2008年。 『新しい道徳』東京書籍（教科書）『道徳　きみがいちばんひかるとき』光村図書（教科書） 参考資料等：
担当者からのメッセージ等 実務経験について	

授業科目名	特別活動の指導法（小）	教員名	森　俊博 （実務経験） （単独）	免許・資格との関係	保育士	
					幼稚園教諭	
					小学校教諭	必修
ナンバリングコード	UE3-2029-00100				中学校教諭（英語）	
		年次配当	３年後期		高等学校教諭（英語）	
授業形態	講義				特別支援学校教諭	
				卒業要件	初等幼児教育専攻	選択
単位数	2				中等教育専攻	

科目	教科及び教職に関する科目（小学校） 道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目
各科目に含めることが必要な事項	・特別活動の指導法
教科目	
系列	
授業テーマ	主体的活動を呼び起こす特別活動の内容と指導方法
授業概要	特別活動の理念と目的（目標）、意義、内容等を理解し、実際的な指導方法を習得する。

達成目標

	科目DP：(4)				
DP番号	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)
1．小学校教育における特別活動の意義、目的、位置づけ、歩み、主な内容等を理解する。		◎			
2．小学校の年間行事を知り、学校・学級生活、学級指導の見通しをもつことができる。		○	○	○	
3．学級指導の目的と意義、内容を理解し、朝会・掃除・給食・終会の指導方法も習得する。			◎	○	
4．特別活動と授業指導の密接な関係を理解し、学習規律の指導方法も習得する。			○	◎	
5．小学校で実際に行われた劇や卒業式練習のビデオの視聴。DVDの再生・視聴などの器械の操作も習熟する。	○	○	○	○	
6．A4ノートを準備し自主的なノート作りをする。講義要項・資料・ミニレポ等を貼付し、レポートおよび調査課題を提出し、発展的な自主学習を行う。	○				◎

履修条件・注意事項	
授業計画	第１回：荒れる学級の実態と指導の見通し（特別活動の意義、ノートについて）。（目標 1,5） 第２回：小学校教育の中の特別活動の意義と位置、特別活動の歩み。（目標 1） 第３回：特別活動の歩み、目標および内容区分。（目標 1） 第４回：学級会（学級話し合い）の意義と指導。（目標 1,2） 第５回：学級行事の多様さと実践原則。（目標 2,3） 第６回：児童会活動の意義と指導事例。（目標 1） 第７回：クラブ活動の意義と指導事例。（目標 1） 第８回：クラブ活動の意義と指導。（目標 1） 第９回：特別活動と道徳・総合的学習及び家庭・地域や関係機関との連携。（目標 1） 第10回：学級指導と授業（日直、係のあり方と指導方法。体験的、対話的活動の指導方法。）（目標 4） 第11回：学習規律の理論と授業の実際（桒原指導「ごんぎつね」のビデオ視聴）（目標 4） 第12回：授業における学習規律の指導と特別活動　（目標 4） 第13回：学校行事の意義、目標と内容区分。（目標 2,3） 第14回：学習発表会の指導（６年劇「手紙」）。資料冊子の解説とビデオ視聴とグループ討論。（目標 4） 第15回：卒業式の計画と第１回全校練習の指導。冊子解説とビデオ視聴。グループ討論。（目標 4）
アクティブ・ラーニング	①事前に課した特定のテーマを調査し、ノートを提出する。発表もする（パワーポイント使用も）。 ②少人数グループを決めてあるので、日直活動、ディスカッション、グループ代表発表等を行う。
成績評価基準	評価の方法：受講態度（20%）、毎回講義終了時のミニレポート（40%）、ノート（40%） 評価の基準：
フィードバックの方法	①毎回授業の最後にミニレポートを課し、次回始めに返却、解説する。 ②ノートのやりとりを通して、その時々の到達度を確認する。
時間外の学習について	予習：前時に提示したキーワードや重要用語を事典類で調べてノートに書く。（各回45分程度） 復習：発展的な専門用語や課題について自主的な調査をしてノートに書く。（各回45分程度）
教材にかかわる情報	テキスト：小学校学習指導要領、『小学校学習指導要領　解説・特別活動編』（平成29年3月　文部科学省） 桒原昭徳著『学習規律のゴールイメージ』後半。テキストは講義の中で適宜、配布する。 参考書：桒原昭徳著『学習規律を育てる』ほか、桒原の学級づくり・授業づくり実践に関する著作については本学図書館の開架図書として、総てが収蔵されている。 参考資料等：
担当者からのメッセージ等実務経験について	出席回数、受講態度も重視する。毎回A4ノートを持参してメモやノートづくり、講義外での自主的な調査活動も進めてほしい。ノートも重要な評価対象とする。

授業科目名	生徒・進路指導論（小）	教員名	森　俊博 （実務経験） （単独）	免許・資格との関係	保育士	
					幼稚園教諭	
					小学校教諭	必修
ナンバリングコード	UE2-2030-00100				中学校教諭（英語）	
		年次配当	２年後期		高等学校教諭（英語）	
授業形態	講義				特別支援学校教諭	
単位数	2			卒業要件	初等幼児教育専攻	選択
					中等教育専攻	

科目	教科及び教職に関する科目（小学校） 道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目
各科目に含めることが必要な事項	・生徒指導の理論及び方法
教科目	
系列	
授業テーマ	生徒指導の理論と方法、進路指導の理論と方法、生徒指導・進路指導の推進体制
授業概要	生徒指導の理論と方法、進路指導の理論と方法、生徒指導･進路指導の推進体制について説明する。

達成目標

	科目DP：(2)				
DP番号	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)
1．生徒指導の基本的な考え方を理解することができる。		◎			
2．生徒指導の方法について理解することができる。		◎			
3．進路指導の基本的考え方を理解することができる。		◎			
4．進路指導の方法について理解することができる。		◎			
5．生徒指導・進路指導の推進体制について理解することができる。		◎			
6．生徒指導・進路指導の具体的な事例によりその対策を学習する。		◎			

履修条件･注意事項	テキストや配布資料を必ず事前に読んで、授業に臨むこと
授業計画	第１回：オリエンテーション～授業のねらい、授業の内容、評価の方法等の説明　（目標 1,2,3,4,5） 第２回：生徒指導の基本的考え方（１）～生徒指導のねらいと意義、教育課程と生徒指導　（目標 1） 第３回：生徒指導の基本的考え方（２）～児童の発達と理解　（目標 1） 第４回：生徒指導の基本的考え方(３)～集団指導･個別指導の方法原理　生徒指導の評価　（目標 1） 第５回：生徒指導の推進（１）～いじめ問題への実践的対応　（目標 2） 第６回：生徒指導の推進（２）～校内暴力、不登校への実践的対応　（目標 2） 第７回：生徒指導の推進（３）～インターネット・携帯電話にかかわる問題、生活習慣の問題などへの実践的対応（目標 2） 第８回：生徒指導・進路指導の推進体制　（目標 5） 第９回：進路指導の基本的考え方（１）～進路指導における「職業」の概念、進路指導のねらい、社会の変容と進路指導　（目標 3） 第10回：進路指導の基本的考え方（２）～進路指導の定義、進路指導概念のポイント　（目標 3） 第11回：キャリア教育の推進(１)～基本的な考え方と充実方策､キャリア教育重視の背景　（目標 3） 第12回：各学校段階における指針のポイント　（目標 4） 第13回：キャリア教育の推進（２）～小学校における指導計画の事例的考察　（目標 4） 第14回：事例研究１（生徒指導における問題行動例）（目標 6） 第15回：事例研究１（進路指導における問題例）（目標 6）
アクティブ･ラーニング	コメントシート，ディスカッション
成績評価基準	評価の方法：授業内レポート及び小テスト50%、授業のまとめのレポート50% 評価の基準：達成目標がおおむね満足されていること。
フィードバックの方法	
時間外の学習について	予習：講義資料を読んでくること。(各回45分程度) 復習：毎時間の授業について復習し、不明な点があれば教員に質問すること。(各回45分程度)
教材にかかわる情報	テキスト：生徒指導提要 参考書：中央教育審議会答申『今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について』2011年 文部科学省『小学校キャリア教育の手引き＜改訂版＞』2011年 参考資料等：
担当者からのメッセージ等 実務経験について	

授業科目名	教職概論（小）	教員名	佐々木　司 （単独）	免許・資格との関係	保育士	
					幼稚園教諭	
					小学校教諭	必修
ナンバリングコード	UE1-2031-00100				中学校教諭（英語）	
					高等学校教諭（英語）	
授業形態	講義	年次配当	1年前期		特別支援学校教諭	
				卒業要件	初等幼児教育専攻	必修
単位数	2				中等教育専攻	

科目	教科及び教職に関する科目（小学校）教育の基礎的理解に関する科目
各科目に含めることが必要な事項	・教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む。）
教科目	
系列	
授業テーマ	教職の意義・役割、職務内容、資質能力、研修、服務・身分保障、進路選択と教職論
授業概要	この講義で教員としての基本的な資質を養うとともに、教職に就くにあたって基礎的基本的事項を考察する。教師をとりまく状況、教職の意義と魅力、学校教育活動の諸場面における教員の役割、職務内容、組織として「チーム学校」の一員として諸課題に対応することについて話題を提供し、ディスカッションやグループプレゼンテーション等を通じて教職への意欲を高める。

達成目標						科目DP：(2)
	DP番号	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)
	1．我が国における今日の学校教育や教職の社会的意義を理解する。（公教育の目的を踏まえ、その担い手である教員の存在意義を理解する／教職の職業的特徴を理解する）		○	○	○	○
	2．教員の役割・資質能力を理解する。（教職観の変遷を踏まえ、現在求められている教員の役割を理解する／今日の教員に求められる基礎的な資質能力を理解する）		○	○	○	○
	3．教員の職務内容の全体像や教員に課せられる服務上・身分上の義務を理解する。（教員の職務の全体像を理解する／生涯にわたって学び続けることの必要性を理解する／職務上及び身分上の意義及び身分保障を理解する）		○	○	○	○
	4．学校内外の専門家と連携・分担して対応する必要性を理解する。（チームとして組織的に諸課題に対応することの重要性を理解する）		○	○	○	○

履修条件・注意事項	テキスト等を事前に読んで、授業に臨むこと。
授業計画	第１回：オリエンテーション、教職の位置づけ－公教育の目的と教員（目標 1,2） 第２回：教育実習とそこへ至る学び～教職課程、教育実習について（目標 1,2） 第３回：教員免許状と教職への進路（目標 1,2,3） 第４回：授業をつくる－「教える」ということの意味（目標 1,2,3） 第５回：学級通信からみた学級経営（目標 1,2,3,4） 第６回：生き方の指導としての生徒指導・進路指導（目標 2,3） 第７回：特別活動の意義とその指導（目標 1,2,3,4） 第８回：「困っている子」として捉える特別支援教育（目標 1,2,3,4） 第９回：すべての教師が参画する学校経営（チームとしての活動）（目標 1,2,3,4） 第10回：研修と教師のライフステージ（目標 1,2,3） 第11回：教師に求められる資質・能力（目標 1,2,3） 第12回：教員養成制度の歴史と課題（目標 1,2,3） 第13回：グローバル化社会における教師（目標 2,3,4） 第14回：私（受講者）の進路選択と教職論～発表と指導（Aグループ）（目標 1,2,3,4） 第15回：私（受講者）の進路選択と教職論～発表と指導（Aグループ）（目標 1,2,3,4） 定期試験
アクティブ・ラーニング	ディスカッション、グループワーク、プレゼンテーション、ロールプレイ、模擬授業
成績評価基準	評価の方法：授業内レポート（30%）・・・教職に対する受講生の適性や意欲を表明できるか 期末試験（70%）・・・教職に関する基礎的基本的事項（教員の存在意義、教職に求められている役割、職務内容、学校内外の多様な専門性を持つ人材との効果的な連携・分担のあり方など）を修得しているか
フィードバックの方法	希望者には、毎回、授業終了時刻から質問への応答、課題に対するコメント等を行う。
時間外の学習について	予習：テキスト該当章の事前通読、不明箇所のノートへの書き出し（各回45分） 復習：ノートの充実化、個別発展学習（各回45分）
教材にかかわる情報	テキスト：佐々木司・三山緑（編）『これからの学校教育と教師』ミネルヴァ書房、2014 参考書：文部科学省『小学校学習指導要領』（平成29年度版） その他、授業中に適宜紹介する。 参考資料等：
担当者からのメッセージ等実務経験について	座席は出席番号順の固定制とする。予習＝90分、授業＝90分、復習＝90分を基本とする。

授業科目名	教育原論（幼・小）	教員名	川野　哲也（単独）	免許・資格との関係	保育士	必修
					幼稚園教諭	必修
					小学校教諭	必修
ナンバリングコード	UE1-2032-11100				中学校教諭（英語）	
		年次配当	1年後期		高等学校教諭（英語）	
授業形態	講義				特別支援学校教諭	
単位数	2			卒業要件	初等幼児教育専攻	必修
					中等教育専攻	

科目	教科及び教職に関する科目（幼稚園・小学校）教育の基礎的理解に関する科目
各科目に含めることが必要な事項	・教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想
教科目	必修教育科目（保育士）
系列	保育の本質・目的に関する科目
授業テーマ	教育の理念、思想、目的、現代教育課題の検討
授業概要	教育の基本的概念、教育の目標、教育を成立させている要因（子ども、教員、家庭、学校、地域）、代表的な教育思想について学ぶとともに、これまでの教育及び学校の営みがどのように捉えられ、変遷してきたのかを理解する。さらに歴史や思想を踏まえた上で現代の教育課題についても考察する。

達成目標

	科目DP：(2)				
DP番号	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)
1．教育の基本的概念・本質・目標、教育が成立する要因（学校や家庭等）とその関係を理解する。		◎		○	
2．教育の歴史についての基礎的知識を身に付け、家族・社会・近代的教育制度の歴史的変遷を理解する。		◎	○		
3．教育に関する代表的な思想を理解する。		◎		○	
4．思想や歴史を踏まえた上で、現代の教育課題について理解し、考察する。			◎	○	

履修条件・注意事項

授業計画

第１回：教育学の概念、教育の理念と思想を学ぶことの意義について。（目標 1）
第２回：人間とは何か、人間と動物の違い、遺伝、人権と差別について。（目標 1,4）
第３回：ルソーの教育思想と近代教育について。（子どもの発見、近代以前から近代への教育の変遷）（目標 2,3）
第４回：ペスタロッチの教育思想について。（調和的発達、メトーデ）（目標 2,3）
第５回：フレーベルの教育思想について。（恩物、子どもの遊び、保育、家庭のあり方）（目標 2,3）
第６回：近代教育制度の成立と展開について。（産業革命、国家と教会、モニトリアルシステム）（目標 2,3）
第７回：デューイの教育思想について。（経験、児童中心主義、発問）（目標 2,3）
第８回：教育課程の変遷について。（昭和30年代の学習指導要領の定着、学力テスト）（目標 2）
第９回：教育課程の変遷について。（昭和から平成にかけて、受験競争、ゆとり、学力向上）（目標 2）
第10回：学校教育の本質と課題について。（特別活動、個性伸長、学級会、地域との関係）（目標 1,4）
第11回：学校教育の本質と課題について。（生徒指導、人権尊重、いじめ、不登校、家庭との連携）（目標 1,4）
第12回：学校教育の本質と課題について。（教育者の資質、リーダーシップ、研修、教員免許）（目標 1,4）
第13回：学校教育の本質と課題について。（教育者の資質、褒める、叱る、学級崩壊、体罰）（目標 1,4）
第14回：学校教育の本質と課題について。（保護者との関係、学校選択制度の導入）（目標 1,4）
第15回：現代の教育課題について考察する。ディスカッション（目標 1,2,3,4）

アクティブ・ラーニング	毎時必ずディスカッションを取り入れる。
成績評価基準	評価の方法：授業時に数回実施する確認テスト80%、レポート20% 評価の基準：教育学の基本的概念、教育の理念、代表的思想、歴史的変遷等の基本的事項についての説明できるか 歴史や思想を踏まえて現代の教育課題について考察できるか
フィードバックの方法	毎時最後に小課題を出す。回収の後、翌週に再度解説を行う。
時間外の学習について	予習：事前に配布したプリントを読み、必要に応じて調べること。（各回45分程度） 復習：プリント、ノートを見て確認すること。（各回45分程度）
教材にかかわる情報	テキスト：田代直人・佐々木司編著『新しい教育の原理』ミネルヴァ書房、2010年。 参考書：川野・阿川・桒原『小学校授業入門　山口学芸大学』 参考資料等：
担当者からのメッセージ等実務経験について	

授業科目名	教育心理学（小）	教員名	堂野　佐俊 （実務経験） （単独）	免許・資格との関係	保育士	
					幼稚園教諭	
					小学校教諭	必修
ナンバリングコード	UE1-2033-11100				中学校教諭（英語）	
		年次配当	1年後期		高等学校教諭（英語）	
授業形態	講義				特別支援学校教諭	
				卒業要件	初等幼児教育専攻	必修
単位数	2				中等教育専攻	

科目	教科及び教職に関する科目（小学校）教育の基礎的理解に関する科目
各科目に含めることが必要な事項	・幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程
教科目	
系列	
授業テーマ	幼児・児童及び生徒の心身の発達、特別支援児童・生徒、学習過程
授業概要	教育場面における効果的な学習活動について、心理学的立場から子どもの特性を理解し、子どもと関わる場合に必要となる教育の基本的な知識や技術について概説し、教育実践における効果の向上についての理解を深める。

達成目標

	科目DP：(2)				
DP番号	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)
1．教育心理の意義について理解する。	○			◎	
2．発達の過程及び特徴を理解する。		◎	○		
3．学習の領域と過程について理解する。		◎	○		
4．記憶と学習の転移について理解する。		◎	○		
5．学習過程と動機づけについて理解する。		◎		○	
6．学級集団の力学と構造について理解する。				○	◎

履修条件・注意事項	基礎となる「心理学」関係の授業を履修していることが望ましい
授業計画	第１回：人間発達の概念と教育心理学の概念　（目標 1,2） 第２回：発達の過程と教育心理学の意義　（目標 1,2） 第３回：教育心理学的研究方法　（目標 1） 第４回：学習の概念　（目標 3） 第５回：学習の領域　（目標 3） 第６回：各時期における発達の特徴及び言語学習・思考的学習・社会的学習　（目標 2,3） 第７回：各時期における発達の特徴及び記憶と忘却　（目標 2,4） 第８回：学習の転移　（目標 4） 第９回：学習と動機づけ・レディネス　（目標 5） 第10回：教授=学習過程と学習指導　（目標 5） 第11回：学級集団の概念　（目標 6） 第12回：学級集団の規範とリーダーシップ　（目標 6） 第13回：学級集団構造の理解　（目標 6） 第14回：学級集団の人間関係　（目標 6） 第15回：学級集団の指導　（目標 6） 定期試験
アクティブ・ラーニング	毎回講義後のアクション・シートを用いた意見交換による問題解決学習を展開する。
成績評価基準	評価の方法：中途での教育心理学ノートの作成＜参加態度＞（30%）、及び期末試験（70%）の結果を総合的に評価する 評価の基準：60点以上を合格とする
フィードバックの方法	毎講義後のアクション・シートに対して、次回の冒頭に講評及び応答を行なう。
時間外の学習について	予習：予め配布された資料（次回講義の為の）に基づいてノートを作成する。（各回45分程度） 復習：作成済みのノートへの講義中の記入について再度確認・点検し、整理する。（各回45分程度）
教材にかかわる情報	テキスト：「教育心理学要論」（堂野佐俊・堂野恵子（編））北大路書房 参考書：進行に応じてその都度提示する。講義は毎回パワーポイント等を使用し、視聴覚的にも提示する。 参考資料等：特には指定しないが、講義内容に関する資料を適宜配布する。
担当者からのメッセージ等 実務経験について	毎回の授業後の質問・コメントカードを積極的に活用してほしい Where there is a will, there is a way. 国立大学附属特別支援学校長（４年間）としての経験に基づいた子ども達の心理発達に関する話題を提供します。

授業科目名	教育制度論（幼・小）	教員名	川野　哲也 （単独）	免許・資格との関係	保育士	
					幼稚園教諭	選択
					小学校教諭	選択
ナンバリングコード	UE3-2034-02200				中学校教諭（英語）	
		年次配当	３年後期		高等学校教諭（英語）	
授業形態	講義				特別支援学校教諭	
単位数	2			卒業要件	初等幼児教育専攻	選択
					中等教育専攻	

科目	教科及び教職に関する科目（幼稚園・小学校）教育の基礎的理解に関する科目
各科目に含めることが必要な事項	・教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）
教科目	
系列	
授業テーマ	教育制度、教育法規、教育制度改革の歴史的変遷、現代的教育課題
授業概要	戦前から戦後、現在に至る教育制度の変遷をとらえ、現代の教育制度についての基礎的な知識、学校と地域との連携に関する基礎的な知識、学校安全への対応に関する基礎的知識を身に付ける。さらに教育制度に関連する教育課題について考察する。

達成目標

	科目DP：(2)				
DP番号	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)
1．公教育の原理・理念、教育関係法規、教育行政の仕組みについて理解する。		◎		○	
2．学校と地域との連携について理解する。		◎	○		
3．学校安全への対応について理解する。		◎	○		
4．教育制度をめぐる教育課題について理解し、例示しながら、考察する。			◎	○	

履修条件・注意事項	
授業計画	第１回：公教育の原理、教育制度の歴史的変遷について。（明治時代における学制、教育令、等）（目標 1） 第２回：公教育の原理、教育制度の歴史的変遷について。（戦後の改革、日本国憲法、教育基本法、等）（目標 1） 第３回：教育制度の歴史的変遷について。（教育基本法の改正、現在における法体系、等）（目標 1） 第４回：義務教育について。（就学義務、費用、国庫負担、教育財政、等）（目標 1,4） 第５回：各学校の目的について。（一条学校、私立学校と宗教の問題、等）（目標 1,4） 第６回：教育行政の仕組みについて。（中央と地方の役割分担、教育委員会、総合教育会議、等）（目標 1,4） 第７回：教育水準の維持向上について。（ゆとりから学力向上策へ、中央教育審議会の役割、等）（目標 1,4） 第８回：アメリカにおける教育制度について。（公設民営学校：チャータースクール、等）。（目標 1,2,4） 第９回：学校選択制度の導入について。（学区制、保護者の教育要求、等）（目標 1,2,4） 第10回：学校の教員組織、開かれた学校づくりについて。（学校評議員、地域運営学校、等）（目標 1,2,4） 第11回：教員の養成と研修について。（免許制度、教員の任用と免職、服務、研修制度、等）（目標 1,4） 第12回：出席管理と記録について。（不登校、出席停止、指導要録、健康診断、等）（目標 1,4） 第13回：学校生活の安全について。（安全な学校施設、事件や事故の対応、安全教育、等）（目標 1,3,4） 第14回：自然災害への対応について。（各学校における取組）（目標 1,3,4） 第15回：現代の教育制度をめぐる課題について。ディスカッション。（目標 1,2,3,4）
アクティブ・ラーニング	ディスカッションを取り入れる。
成績評価基準	評価の方法：授業時に数回実施する確認テスト80%、レポート20% 評価の基準：教育制度の基本的事項（公教育の原理、教育法規、教育行政の仕組み等）を説明できるか。教育制度に関する現代の課題、今後の教育制度について考察できるか。
フィードバックの方法	毎時最後に小課題を出す。回収の後、翌週に再度解説を行う。
時間外の学習について	予習：事前にプリントを配布するので、自分なりに考察し、分からないことは調べておくこと。 復習：授業で扱った内容については復習し、分からないことは調べておくこと。 （予習・復習は45分程度）
教材にかかわる情報	テキスト：特になし 参考書：『平成29年度版　教育小六法』学陽書房（教育基本法、学校教育法、地方教育行政の組織及び運営に関する法律、等） 河野和清編『現代教育の制度と行政』福村出版、2017年。 参考資料等：
担当者からのメッセージ等 実務経験について	

授業科目名	教育社会学（幼・小）	教員名	御旅屋　達（単独）	免許・資格との関係	保育士	
					幼稚園教諭	選択
					小学校教諭	選択
ナンバリングコード	UE3-2035-02200				中学校教諭（英語）	
		年次配当	３年後期		高等学校教諭（英語）	
授業形態	講義				特別支援学校教諭	
				卒業要件	初等幼児教育専攻	選択
単位数	2				中等教育専攻	

科目	教科及び教職に関する科目（幼稚園・小学校）教育の基礎的理解に関する科目
各科目に含めることが必要な事項	・教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）
教科目	
系列	
授業テーマ	教育の社会的機能，教育現場という社会，社会問題と教育
授業概要	教育やその周辺領域における「思い込み」や「常識」から距離を取り，広い視野を持って教育的事象を把握し，考える。この作業を通じて教育社会学における思考の様式や態度の基礎を身につけることを狙う。

達成目標

	科目DP：(2)				
DP番号	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)
1．教育と社会がどのような関係にあるか理解する。		◎			
2．教育現場という社会がどのように成立しているか理解する。		◎			
3．教育にまつわる社会的な問題についての知識，関連する施策についての知識を獲得する。		◎			
4．海外の教育事情や政策についての知識を獲得し，比較の視点を持つ。		◎			
5．学校と地域社会の関係について理解する。		◎			

履修条件・注意事項	
授業計画	第１回：オリエンテーション――教育学と社会学の間にある「教育社会学」の成り立ち，射程について（目標 1,2,3,4,5） 第２回：教育の社会的機能（１）――教育の社会化機能（目標 1） 第３回：教育の社会的機能（２）――教育の選抜・配分・正当化機能（目標 1） 第４回：職業へのトランジション（１）――日本の労働市場の変化（目標 1,3,4） 第５回：職業へのトランジション（２）――学校から職業への移行とオルタナティブな道（目標 1,3,5） 第６回：教育における平等と自由――再生産論などを切り口にいかなる平等の形が望ましいのか考える（目標 1,3） 第７回：学力問題と教育改革――これまで行われてきた教育改革がいかなる目的のもと行われてきたか考える（目標 2,3） 第８回：学歴社会と「能力」――現代社会では，いかなる能力によって選抜されるのか，それはいかにして測定可能か（目標 1,4） 第９回：ジェンダーと教育――教室の中の男子と女子。教育事象についてジェンダーの視点から検討する（目標 1,2,3） 第10回：学校に行かない／行けないということ――不登校の現状と施策の歴史について学び，学校の意義を問い直す（目標 1,2,3,5） 第11回：教室という社会――教室において生じる問題，いじめ問題やスクールカーストについて考える（目標 2,3,4） 第12回：非行・逸脱の社会学――非行問題や少年犯罪はどのように語られてきたか（目標 1,2,3） 第13回：開かれた学校づくりとリスク――学校の安全と開かれた学校は両立するか（目標 2,3） 第14回：国際社会と教育――教育現場における多文化共生について考える（目標 2,3,4） 第15回：まとめ――なぜ社会問題が「教育」の問題として語られるのか，現代社会において教育のできることは何か（目標 1,2,3,4,5）
アクティブ・ラーニング	コメントシート，ディスカッション
成績評価基準	評価の方法：授業内レポート及びコメントシート40%，期末レポート60% 評価の基準：達成目標がおおむね満足されていること。
フィードバックの方法	提出されたレポートにコメントを付し，返却する。
時間外の学習について	予習：事前に課題を指示する。 復習：核内の内容を復習し，疑問点をまとめておく。（予習・復習とも45分程度）
教材にかかわる情報	テキスト：特になし 参考書：苅谷剛彦他，2010，『教育の社会学（新版）』有斐閣.、片山悠樹他，2017，『半径5メートルからの教育社会学』大月書店．など 参考資料等：
担当者からのメッセージ等実務経験について	

授業科目名	教育課程論（幼・小）	教員名	松村　納央子（単独）	免許・資格との関係	保育士	
					幼稚園教諭	必修
					小学校教諭	必修
ナンバリングコード	UE2-2036-01100				中学校教諭（英語）	
					高等学校教諭（英語）	
授業形態	講義	年次配当	２年後期		特別支援学校教諭	
				卒業要件	初等幼児教育専攻	選択
単位数	2				中等教育専攻	

科目	教育の基礎的理解に関する科目（幼稚園・小学校）
各科目に含めることが必要な事項	教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）
教科目	専門教育科目（保育士）
系列	
授業テーマ	小学校教育を中心とした教育課程の方法及び教育課程の変遷
授業概要	学習指導要領を基準として各学校において編成される教育課程について、その意義や編成の方法を理解するとともに、各学校の実情に合わせてカリキュラム・マネジメントを行うことの意義を理解する。

達成目標

	科目DP：(2)				
DP番号	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)
1．学校教育において教育課程が有する役割や機能、並びに意義：学習指導要領の正確および位置づけを理解する／学習指導要領の変遷並びに主な改訂内容を理解する／学校教育課程が社会において果たしている役割を理解する		○	◎		
2．教育課程編成の基本原理、並びに学校の教育実践に即した教育課程編成の方法：教育課程編成の基本原理を理解する／教科・領域を横断して教育内容を選択・配置する方法を理解する／生徒の実態や学校が置かれている環境を踏まえた教育課程・指導計画を検討する重要性を理解する		○	◎		
3．教科・領域・学年をまたいでカリキュラムを把握し、学校教育課程全体をマネジメントすることの意義：学習指導要領に示されたカリキュラム・マネジメントの意義を理解する／カリキュラム評価の基礎的な考え方を理解する		○	◎		○

履修条件・注意事項	
授業計画	第１回：学校において教育課程はなぜ編成されるのか－公教育の目的を踏まえて（目標 1） 第２回：教育課程の編成の原理と類型（目標 1） 第３回：ナショナル・カリキュラムとしての学習指導要領（1）－昭和22年「試案」ならびに昭和26年改訂（目標 1,2） 第４回：ナショナル・カリキュラムとしての学習指導要領（2）－昭和33年改訂ならびに昭和43年改訂（目標 1,2） 第５回：ナショナル・カリキュラムとしての学習指導要領（3）－昭和52年改訂ならびに平成元年改訂（目標 1,2） 第６回：ナショナル・カリキュラムとしての学習指導要領（4）－平成10年・平成20年改訂（目標 1,2） 第７回：ナショナル・カリキュラムとしての学習指導要領（5）－平成29年改訂（目標 1,2） 第８回：教科・領域横断的な視点とは　（目標 2,3） 第９回：教科・領域横断カリキュラムの事例（1）－メディア・リテラシー育成を目標としたカリキュラム（目標 2・3） 第10回：教科・領域横断カリキュラムの事例（2）－市民性育成を目標としたカリキュラム（目標 2,3） 第11回：カリキュラム・マネジメント（1）－教育目標の設定　（目標 1,2,3） 第12回：カリキュラム・マネジメント（2）－教育内容の選択と配列、人的・物的資源の組み合せ（目標 1,2,3） 第13回：カリキュラム・マネジメント（3）－ルーブリックの作成（目標 1,2,3） 第14回：カリキュラム・マネジメント（4）－学習者自身の評価（目標 1,2,3） 第15回：カリキュラム・マネジメント（5）－「社会に開かれた教育課程」とするには（目標 1,2,3） レポート
アクティブ・ラーニング	
成績評価基準	評価の方法：・毎回授業終了時の小レポート（30%）…各時間に扱ったキーワードを説明できるか ・最終レポート（70%）…現代社会で課題となっているトピックをテーマとした年間指導計画を立案、分析し、教育課程編成ならびにカリキュラム評価の手法を理解しているか 評価の基準：
フィードバックの方法	授業終了時にコメントシートに記入、次回の授業時に担当者からコメントを返す。
時間外の学習について	予習：前時提示したキーワードや重要用語を事典類で調べ、ノートに記す。また、テキストを精読する。 復習：ノートを読み返し、レポートを作成する。（予習・復習とも45分程度）
教材にかかわる情報	テキスト：広岡義之（編）『はじめて学ぶ教育課程』ミネルヴァ書房、2016 参考書：文部科学省『小学校学習指導要領』 その他、授業中に適宜資料を配布する。 参考資料等：
担当者からのメッセージ等実務経験について	

授業科目名	教育方法論（小）	教員名	森　俊博 （実務経験） （単独）	免許・資格との関係	保育士	
					幼稚園教諭	
					小学校教諭	必修
ナンバリングコード	UE2-2037-00100				中学校教諭（英語）	
		年次配当	２年前期		高等学校教諭（英語）	
授業形態	講義				特別支援学校教諭	
				卒業要件	初等幼児教育専攻	選択
単位数	2				中等教育専攻	

科目	教科及び教職に関する科目（小学校） 道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目
各科目に含めることが必要な事項	・教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む。）
教科目	
系列	
授業テーマ	小学校の各教科・領域の授業に関する一般的指導の理論と方法を習得する。
授業概要	小学校の授業実践における各段階の指導方法を理論的、実践的に把握する。

達成目標

	科目DP：				
	DP番号	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)
1．教育方法に関わる問題意識をたかめる。			◎	○	○	
2．教育方法の基本的事項の理解をふかめる。			◎	○		
3．教育方法理論への関心と考察力、授業の指導実践力をたかめる。			○			◎

履修条件・注意事項	
授業計画	第１回：近代教授学の始まり。コメニウス『大教授学』の時代背景、概要と影響　（目標 1,2） 第２回：コメニウスの「学校の４段階」、現代の幼稚園および小学校教育の原型　（目標 1,2） 第３回：教育方法から見るルソー、ペスタロッチ―、ヘルバルト、フレーベルの思想　（目標 1,2） 第４回：日本のフレーベル、倉橋惣三の人と業績。間接指導への着目。（目標 1,3） 第５回：わが国の小学校教育の発展過程（学制、学校教育法、第3の教育改革）（目標 1,3） 第６回：小学校学習指導要領の変遷過程。小学校の教育課程（カリキュラム）（目標 1,3） 第７回：現行学習指導要領の要請する授業像と改訂指導要領の授業像　（目標 1,3） 第８回：協働型授業を指導するための「学級指導と授業指導」（情報機器及び教材の活用）（目標 3） 第９回：アクティブラーニング指導のための「3つの指導」（情報機器及び教材の活用）（目標 3） 第10回：わかる授業の構造と指導方法（情報機器及び教材の活用）（目標 1.2.3） 第11回：わかる授業の実践事例　（目標 3） 第12回：学級担任の仕事（スタート・カリキュラム）、教師の仕事（初任者指導教師からのメッセージ）（目標 1,2,3） 第13回：模擬授業（小2国語、詩教材を予定）。子ども役、ビデオ撮影、授業記録作成（情報機器の使用）、教室（会場）設営準備などの役割分担、ビデオ視聴。（目標 2,3） 第14回：授業をめぐる体験を発表し合う（子ども役、参観者、授業者から）（目標 2,3） 第15回：教材解釈と指導案の説明、授業者からの意見。質疑応答。（目標 2,3） レポート課題「模擬授業の体験から学んだこと」
アクティブ・ラーニング	①事前に課した特定のテーマを調査し、ノートを提出する。発表もする（パワーポイント使用も）。 ②少人数グループを決めてあるので、日直活動、ディスカッション、グループ代表発表等を行う。
成績評価基準	評価の方法：受講態度、毎回のミニレポート、ノートの評価など 評価の基準：
フィードバックの方法	①毎回授業の最後にミニレポートを課し、次回始めに返却、解説する。 ②ノートのやりとりを通して、その時々の到達度を確認する。
時間外の学習について	①日直活動（大学授業においてグループ日直を体験して、アクティブ・ラーニングの入門とする。） ②テキストの音読・グループ話し合い等を導入して授業のアクティブ化を図る。 予習：次回のテーマの趣旨、問題を伝え、テキストの該当箇所を読むことを求める。 復習：ノート提出を求め、ノート記述を点検する。（予習・復習とも45分程度）
教材にかかわる情報	テキスト：小学校学習指導要領、文部科学省『小学校学習指導要領解説　総則』（平成29年3月　文部科学省） 参考書：桒原『学習規律を育てる』ほか、桒原の学級づくり・授業づくり実践に関する著作については本学図書館の開架図書として、総てが収蔵されている。 参考資料等：
担当者からのメッセージ等 実務経験について	真面目さ・誠実さは教職への土台であり、原動力である。

授業科目名	特別支援教育概論（幼･小）	教員名	門脇　弘樹（単独）	免許・資格との関係	保育士	
					幼稚園教諭	必修
					小学校教諭	必修
ナンバリングコード	UE1-2038-01100				中学校教諭(英語)	
		年次配当	1年後期		高等学校教諭(英語)	
授業形態	講義				特別支援学校教諭	
単位数	1			卒業要件	初等幼児教育専攻	必修
					中等教育専攻	

科目	教科及び教職に関する科目（幼稚園・小学校・特別支援）教育の基礎的理解に関する科目
各科目に含めることが必要な事項	・特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解
教科目	
系列	
授業テーマ	
授業概要	多様なニーズのある子どもの理解と支援

達成目標

	科目DP：(2)				
DP番号	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)
1．特別の支援を必要とする幼児・児童の障害特性や発達について理解する。（インクルーシブ教育システムを含めた特別支援教育に関する制度の理念や仕組みを理解する／発達障害や軽度知的障害等の特別の支援を必要とする幼児・児童の心身の発達、心理的特性及び学習の過程を理解する／視覚障害・聴覚障害・知的障害・肢体不自由・病弱等を含む様々な障害のある幼児・児童の学習上または生活上の困難について基礎的な知識を身に付ける）		◎	○		
2．特別の支援を必要とする幼児・児童の教育課程及び支援方法について理解する。（発達障害や軽度知的障害等の特別の支援を必要とする幼児・児童に対する支援の方法について例示することができる／「通級による指導」及び「自立活動」の教育課程上の位置付けと内容を理解する／特別支援教育に関する教育課程の枠組みを踏まえ、個別の指導計画及び個別の教育支援計画を作成する意義と方法を理解する／特別支援教育コーディネーター、関係機関や家庭と連携しながら支援体制を構築することの必要性を理解する）			◎	◎	○
3．障害はないが特別の教育的ニーズのある幼児・児童の実態や支援方法について理解する。（母国語や貧困の問題等により特別の教育的ニーズのある幼児・児童の学習上又は生活上の困難や組織的な対応の必要性を理解する）		◎	○	○	○

履修条件・注意事項	
授業計画	第１回：特別支援教育の歴史と制度の理念　（目標 1,3） 第２回：インクルーシブ教育システムの理念　（目標 1,3） 第３回：障害のある幼児・児童の発達（1）― 視覚障害・聴覚障害について　（目標 1,2） 第４回：障害のある幼児・児童の発達（2）― 知的障害・肢体不自由・病弱について　（目標 1,2） 第５回：障害のある幼児・児童の発達（2）― 発達障害・軽度知的障害について　（目標 1,2） 第６回：特別の支援を必要とする幼児・児童の教育課程 ―「自立活動」について　（目標 1,2） 第７回：通常の学級における特別の支援を必要とする幼児・児童に対する教育的ニーズと支援方法（目標 1,2,3） 第８回：「通級による指導」における特別の支援を必要とする幼児・児童に対する教育的ニーズと支援方法　（目標 1,2,3） 第９回：特別の支援を必要とする幼児・児童の保幼小接続　（目標 1,2,3） 第10回：個別の指導計画の作成　（目標 1,2,3） 第11回：個別の教育支援計画の作成　（目標 1,2,3） 第12回：特別支援教育コーディネーターの役割 ― 校内委員会の設置と校内連携について（目標 1,2,3） 第13回：貧困の問題等により支援を必要とする幼児・児童に対する教育的ニーズと支援方法（目標 1,2,3） 第14回：外国籍の幼児・児童に対する教育的ニーズと支援方法　（目標 1,2,3） 第15回：外部機関との連携 ― 家庭や療育施設等の関係機関との連携について　（目標 1,2,3） 定期試験
アクティブ・ラーニング	グループワーク
成績評価基準	評価の方法：授業中の参加態度・授業での発表（50%）　定期試験（50%） 評価の基準：授業中の参加態度･授業での発表(授業に積極的に参加している)、定期試験(講義で扱った内容を理解できる)
フィードバックの方法	授業中にコメントを述べる。
時間外の学習について	予習：授業で配布する資料を読んでおく（各回45分程度)。 復習：授業で配布した資料を中心に復習する（各回45分程度)。
教材にかかわる情報	テキスト：各授業において適宜資料を配布する。 参考書：『特別支援教育総論――インクルーシブ時代の理論と実践』 その他、適宜授業中に紹介していく。 参考資料等：
担当者からのメッセージ等実務経験について	

授業科目名	教育相談（幼・小）	教員名	森　俊博 （実務経験） （単独）	免許・資格との関係	保育士	
					幼稚園教諭	必修
					小学校教諭	必修
ナンバリングコード	UE3-2039-01100	年次配当	3年後期		中学校教諭（英語）	
					高等学校教諭（英語）	
授業形態	講義				特別支援学校教諭	
単位数	2			卒業要件	初等幼児教育専攻	選択
					中等教育専攻	

科目	教科及び教職に関する科目（幼稚園・小学校） 道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目
各科目に含めることが必要な事項	・教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法
教科目	
系列	
授業テーマ	教育相談、心理テスト、援助技法、幼児・児童の問題行動や障害、関係機関
授業概要	幼児・児童の発達の状況に即しつつ、個々の心理的特質や教育的課題を適切に捉え、支援するために必要な基礎的知識（カウンセリングの意義、理論や技法に関する基礎的知識を含む）を身につける。

達成目標

	科目DP：(2)				
DP番号	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)
1．教育相談の意義と内容を理解する。（教育相談の目的や意義、カウンセリングマインドの重要性を理解している／行動観察・面接・心理テスト（知能テスト・パーソナリティテスト・発達テスト）等を通した問題行動の理解の仕方を理解している）		◎	○		
2．教育相談の技法を理解する。（もっぱら言葉を用いる言語的技法について理解している／身体的技法やイメージ的技法について理解している）		○	◎		
3．幼児・児童の問題行動と対応について理解を深める。（登園・登校拒否、自殺問題ならびに児童虐待の問題への対応について理解している／心身症と発達障害への対応について理解している）		◎		○	
4．園・学校内外の専門家との連携と関連法律について理解を深める。（園内・校内の教職員や園外・校外の専門家と効果的に連携・分担し、チームとして組織的に対応していくことの重要性を理解している／教育相談活動にまつわるさまざまな法律の意義と重要性を理解している）		◎			○

履修条件・注意事項	
授業計画	1．教育相談について―幼稚園・小学校における教育相談の意義と内容、カウンセリングマインドの重要性（カウンセリングにおける受容・傾聴・共感的理解）（目標 1） 2．教育相談における行動観察と面接のやり方について （目標 1） 3．心理テストについて―知能テスト・パーソナリティテスト・発達テストの留意点 （目標 1） 4．家族関係のアセスメントについて―母子画・食卓画・動的家族画等 （目標 1） 5．教育相談の技法について（1）言語的技法（質問・明確化他）（目標 1,2） 6．教育相談の技法について（2）身体的技法（プレイセラピー・呼吸法）（目標 1,2） 7．教育相談の技法について（3）イメージ的技法（イメージ療法・箱庭療法・絵画療法）（目標 1,2） 8．登園拒否・登校拒否の理解と対応について （目標 1,2,3） 9．子どもの自殺問題の理解と対応について（いじめ自殺・自傷行為を含む）（目標 1,2,3） 10．児童虐待の理解と対応について （目標 1,2,3） 11．幼児期から前思春期までの心身症の理解と対応について （目標 1,2,3） 12．発達障害（自閉スペクトラム症・ADHD・LD等）の理解と対応について （目標 1,2,3） 13．養護教諭・教育相談担当教員・生徒指導担当教員・SC・SSW等の役割と連携、教育相談の計画と組織的取組みについて （目標 1,4） 14．教育相談の関係機関について―児童相談所・家庭裁判所・教育センター・養護施設・児童自立支援センター・教育支援センター（適応指導教室）（目標 1,4） 15．教育相談に関連する法律について―学校教育法・児童福祉法・児童虐待の防止等に関する法律・発達障害者支援法・少年法・自殺対策基本法・いじめ防止対策推進法 （目標 1,4）
アクティブ・ラーニング	ディスカッション、グループワーク、ロールプレイ
成績評価基準	評価の方法：レポート（70%）、合計3回の小テスト（30%） 評価の基準：幼児・児童の教育相談に関する基礎的かつ基本的な事柄を理解し、自分の考えと共に説明できる。
フィードバックの方法	小テストの結果をコメントする。課題回収後に解説を行う。
時間外の学習について	予習：次回の授業のテーマについて予め学習しておく。 復習：自分なりのまとめのノートを作っておく。（予習・復習とも45分程度）
教材にかかわる情報	テキスト：特になし。 参考書：文部科学省（2010）『生徒指導提要』、 参考資料等：教育相談等に関する調査研究協力者会議（2017）「児童生徒の教育相談の充実について―学校の教育力を高める組織的な教育相談体制づくり（報告）」その他、授業中に適宜資料を配布する
担当者からのメッセージ等実務経験について	遊び場面や面接場面での言葉のかけかた、不安や緊張のゆるめ方、アセスメントにおける描画法の使い方といったものを実際に練習してもらいます。 スクールカウンセラー：20年以上の経験に基づいて幼児・児童の心の問題にアプローチします。

授業科目名	現代教育課題Ⅰ	教員名	檜垣　英夫 (実務経験) (単独)	免許・資格との関係	保育士	
					幼稚園教諭	
					小学校教諭	
					中学校教諭(英語)	
ナンバリングコード	CM3-2040-00000	年次配当	3年後期		高等学校教諭(英語)	
					特別支援学校教諭	
授業形態	演習			卒業要件	初等幼児教育専攻	選択
単位数	2				中等教育専攻	選択
科目						
各科目に含めることが必要な事項						
教科目						
系列						

授業テーマ	今日、学校を取り巻く環境は複雑化・多様化し、学校に求められる役割が拡大している中、実践的指導力をもつ教員の育成は喫緊の課題である。変化の激しい社会における教育的課題に柔軟に対応し、深い教育的愛情と使命感をもつ教師としての在り方を検討する。
授業概要	グローバル化や知識基盤社会の到来、少子高齢化の進展など、社会の急速な変化を理解した上で、学習指導要領がめざす教育、グローバル人材の育成、キャリア教育・職業教育の推進、いじめ・不登校等の児童生徒指導上の諸課題への対応、道徳教育、教職員の資質能力の向上等の様々な教育に関するトピックを収集するとともに、その具体的な支援や対応について検討する。

達成目標

	科目DP：(2)				
DP番号	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)
1．教育課題等を収集できる。		◎	○	○	
2．収集した教育課題等を理解できる。		○	◎	○	○
3．教育課題解決に向けての支援や対応を理解できる。		◎	○	◎	
4．教育課題解決に向けての支援や対応を考えることができる。	○	○	○	◎	○
5．教育課題等について考え、発表することができる。	○	○	○	○	◎

履修条件・注意事項	小・中・高等学校の教員を希望している者
授業計画	1．イントロダクション［授業の目的・内容・進め方／教育課題等の検討、収集の意義　他］（目標 1） 2．グローバル化や知識基盤社会、少子高齢化の進展等の現状と課題（目標 1,2） 3．国の教育課題の流れ（目標 1,2,3） 4．新学習指導要領がめざす教育（目標 1,2,3） 5．学力向上の推進（目標 1,2,3） 6．キャリア教育・職業教育の推進（目標 1,2,3） 7．学校安全・防災教育の在り方（目標1,2,3） 8．地域連携の在り方（目標 1,2,3） 9．教育の情報化における現状と課題（目標 1,2,3） 10．人権教育における現状と課題（目標 1,2,3） 11．特別支援教育における現状と課題（目標 1,2,3）. 12．体罰・セクハラ・パワハラ等の現状（目標 1,2,3） 13．いじめへの対応（目標 1,2,3,4,5） 14．不登校児童・生徒への対応（目標 1,2,3,4,5） 15．教員に求められる資質・能力（目標 1,2,3,4,5）
アクティブ・ラーニング	ディスカッション、グループワーク、プレゼンテーション等
成績評価基準	評価の方法：小テスト（10%）レポート（20%）発表（30%）授業態度・グループワーク等への参加度（40%） 評価の基準：教育課題等の現状と課題を理解し、その具体的な支援や対応について発表することができる。
フィードバックの方法	小テスト時、教育課題等の発表後や随時プリント等にて還元指導
時間外の学習について	予習：指定された単元について概要を収集しておく。各回45分程度 復習：既習内容を理解し、実際に自分で発表できるようにする。各回45分程度
教材にかかわる情報	テキスト：資料配布 参考書：『これからの学校教育を担う教師を目指す』学事出版 『教員の最新事情がよくわかる本３』教育開発研究所 『最新の教育改革』教育開発研究所 『生徒指導提要』文部科学省 『文部科学省白書』文部科学省 参考資料等：随時プリント配布
担当者からのメッセージ等 実務経験について	学校教育の直接の担い手となる皆さんには、様々な教育課題に柔軟に対応する力が求められています。日頃から新聞や関係書籍等で教育課題に触れ、児童生徒の視点に立った教育支援や対応を考え、授業に臨んでください。授業者は、学校現場及び教育行政機関での経験をもとに、様々な教育課題への対応等について話をします。

授業科目名	現代教育課題Ⅱ	教員名	檜垣　英夫 (実務経験) (単独)	免許・資格との関係	保育士	
					幼稚園教諭	
					小学校教諭	
					中学校教諭(英語)	
ナンバリングコード	CM4-2041-00000	年次配当	4年前期		高等学校教諭(英語)	
					特別支援学校教諭	
授業形態	演習			卒業要件	初等幼児教育専攻	選択
単位数	2				中等教育専攻	選択
科目						
各科目に含めることが必要な事項						
教科目						
系列						

授業テーマ	今日、学校を取り巻く環境は複雑化・多様化し、学校に求められる役割が拡大している中、実践的指導力をもつ教員の育成は喫緊の課題である。変化の激しい社会における教育的課題に柔軟に対応し、深い教育的愛情と使命感をもつ教師としての在り方を検討する。
授業概要	グローバル化や知識基盤社会の到来、少子高齢化の進展に伴った急速な社会の変化等を理解するとともに、第３期教育振興基本計画や国の答申・通知等を踏まえ、教育をめぐる様々な現状や課題等を収集、分析、検討する。また、その教育課題等に対する支援・対応にあたり、学校組織の一員として、学校及び家庭、地域・関係機関との連携の在り方を身につける。

達成目標

科目DP：(2)					
DP番号	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)
1．教育課題等を収集・分析できる。		◎	○	○	
2．収集・分析した教育課題等を理解し、発表できる。		◎	◎	○	○
3．教育課題等を整理し、その支援や対応を考えることができる。		○	○	◎	
4．教育課題等に対して､学校の一員としての支援や対応を考えることができる。	○	○	○	◎	○
5．教育課題等に対して、家庭、地域・関係機関との連携を視野に入れ、支援や対応を発表することができる。	○	○	○	○	◎

履修条件･注意事項	小・中・高等学校の教員を希望している者
授業計画	1．イントロダクション［授業の目的･内容･進め方　他］／教育をめぐる現状と課題①（目標 1,2,3） 2．教育をめぐる現状と課題②（目標 1,2,3） 3．国の教育改革［第３期教育振興基本計画の概要　他］（目標 1,2,3） 4．新学習指導要領の方向性［育成すべき資質・能力／主な改定項目　他］（目標 1,2,3） 5．地域と連携した学校づくり［コミュニティスクール／カリキュラムマネジメント　他］（目標 1,2,3,4,5） 6．教員の資質・能力の向上（目標 1,2,3,4,5） 7．授業改善、指導と評価の一体化による授業づくり　他（目標 1,2,3,4,5） 8．いじめ防止基本方針を踏まえた対応の在り方（目標 1,2,3,4,5） 9．不登校児童生徒への支援の在り方（目標 1,2,3,4,5） 10．キャリア教育（目標 1,2,3,4） 11．学校安全・学校事故・学校防災（目標 1,2,3,4,5） 12．共生社会の形成［インクルーシブ教育／合理的配慮　他］（目標 1,2,3,4,5） 13．教育の情報化・プログラミング教育（目標 1,2,3,4） 14．道徳教育（目標 1,2,3,4） 15．働き方改革の動向（目標 1,2,3,4,5）
アクティブ･ラーニング	ディスカッション、グループワーク、プレゼンテーション等
成績評価基準	評価の方法：小テスト（10%）レポート（20%）発表（30%）授業態度・グループワーク等への参加度（40%） 評価の基準：教育課題等の現状と課題を学校組織の一員としての視点から理解することができ、家庭、地域・関係機関との連携を踏まえて、その具体的な支援や対応について発表することができる。
フィードバックの方法	小テスト時、教育課題等の発表後や随時プリント等にて還元指導
時間外の学習について	予習：指定された単元について概要を収集しておく。各回45分程度 復習：既習内容を理解し、実際に自分で発表できるようにする。各回45分程度
教材にかかわる情報	テキスト：資料配布 参考書：『これからの学校教育を担う教師を目指す』学事出版 『教員の最新事情がよくわかる本３』教育開発研究所 『最新の教育改革』教育開発研究所 『生徒指導提要』『文部科学省白書』文部科学省 参考資料等：随時プリント配布
担当者からのメッセージ等 実務経験について	学校教育の直接の担い手となる皆さんには、様々な教育課題に柔軟に対応する力が求められています。日頃から新聞や関係書籍等で教育課題に触れ､児童生徒の視点に立った教育支援や対応を考え、授業に臨んでください。授業者は、学校現場及び教育行政機関での経験をもとに、様々な教育課題への対応等について話をします

授業科目名	教育の方法と技術	教員名	三池　秀敏（単独）	免許・資格との関係	保育士	
					幼稚園教諭	必修
					小学校教諭	必修
ナンバリングコード	UE3-2042-01100				中学校教諭(英語)	
					高等学校教諭(英語)	
授業形態	演習	年次配当	3年後期		特別支援学校教諭	
				卒業要件	初等幼児教育専攻	選択
単位数	2				中等教育専攻	選択

科目	教科及び教職に関する科目（幼稚園・小学校） 道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目
各科目に含めることが必要な事項	・教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む。）
教科目	
系列	
授業テーマ	教育の方法と技術に関し、情報コミュニケーション技術（ICT）の活用方法を実践的に学ぶ
授業概要	本授業では、伝統的な従来の知識伝達を重視した一斉授業に加えて、急速に進化する現代の高度情報化社会においては、創造的・主体的な学習を重視する新しい教育に対応した教育方法・技術、すなわち、情報機器や教材を活用した教育方法・技術を習得するとともに、ICTを教育現場の指導に活用する有効な方法（メディアリテラシー）を実践的に学習する。

達成目標

	科目DP：(2)				
DP番号	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)
1．これからの社会を担う子供たちに求められる資質・能力を育成するために必要な教育方法：教育方法の基礎的理論と実践を理解する／教育方法の在り方（主体的・対話的で深い学びの実現等）を理解する／授業・保育を構成する基礎的な要件を理解する／学習評価の基礎的な考え方を理解する					◎
2．教育目的に適した指導技術：話法、板書等、授業・保育を行う上での基礎的な技術を身に付けている／基礎的な学習指導理論を踏まえて、目標・内容、教材・教具、授業・保育展開、学習形態・評価基準等の視点を含めた学習指導案を作成できる		○	○		
3．情報機器を活用した効果的な授業や適切な教材の作成・活用に関する基礎的な能力：子供たちの興味・関心を高めたり課題を明確につかませたり学習内容を的確にまとめさせたりするために、情報機器を活用して効果的に教材等を作成・提示できる／子供たちの情報活用能力（情報モラルを含む）を育成するための指導法を理解している		○			

履修条件・注意事項	毎回情報処理演習室Ａ301で講義・調査し、図書館を活用する。
授業計画	第１回：教育の方法と技術に関する概念（目標 1） 第２回：学校現場の現状と課題（情報収集・分析）（目標１１） 第３回：授業における教師の役割と指導１（目標 1,2）（学校教育における教材活用と指導技術の基本的な考え方） 第４回：授業における教師の役割と指導２（目標 1,2）（情報機器を活用した効果的な授業のあり方） 第５回：情報・知識の伝達方法と技術（目標 1,2） 第６回：学習意欲を引き出す工夫と授業（目標 1,2） 第７回：教育におけるメディアの形態の多様性とその変遷（目標 2） 第８回：教育メディアの種類と機能（視聴覚機器を含む各種メディアの特性と利用）（目標 3） 第９回：ICT活用の有効性と留意点、効果的なプレゼンテーションの方法（目標 3） 第10回：学習教材の作成１（ディジタルコンテンツを活用した教材作成等：準備）（目標 3） 第11回：学習教材の作成２（ディジタルコンテンツを活用した教材作成等：制作）（目標 3） 第12回：教育における評価（評価の方法と処理）（目標 1,2） 第13回：情報セキュリティーや情報モラル等の指導の在り方（目標 3） 第14回：選択研究課題によるレポート作成（目標 1,2,3） 第15回：まとめ（総合課題）（目標 1,2,3） 定期試験
アクティブ・ラーニング	毎回「調査課題」を課し、インターネットや図書館を利用した調査によりレポートを作成・印刷して提出させる。
成績評価基準	評価の方法：・毎回授業終了時の小レポート（40%）：教職に対する受講生の適正や意欲を評価するとともに情報機器や教材を活用した教育方法・技術の習得度を確認する。 ・試験（60%）：教育目的に適した指導技術、すなわち、話法、板書等、授業・保育を行う上での基礎的な技術を身に付け、情報機器を活用した効果的な授業や適切な教材の作成・活用に関する能力を身に付けているかを確認する。 評価の基準：調査レポートの量（字数）と質（課題への回答の的確性）、及び定期試験の点数（100点満点）
フィードバックの方法	課題等にコメントを付して返却し、学生の理解を深める。
時間外の学習について	予習：次の授業の課題などを見つけて、インターネット等を活用して学習しておくこと。 復習：授業だけでは解らない時には、授業後できるだけ早く調査等の復習に取り組むことが必要。 （予習・復習とも45分程度）
教材にかかわる情報	テキスト：プリントを配布する 参考書：文部科学省『幼稚園教育要領』／内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』／『小学校学習指導要領』／岡本敏雄、伊東幸宏、家本修、坂元昂著「ICT活用教育（先端教育への挑戦）」海青社、2006／その他、授業で紹介し、資料を配布する。 参考資料等：
担当者からのメッセージ等実務経験について	情報処理（1年）、情報科学（2年）、及び教育の方法と技術（3年）の一連の講義の中で、小学校における「プログラミング教育」に対応できる基本的な能力を身に付けます。

授業科目名	英語学概論	教員名	西田　光一（単独）	免許・資格との関係	保育士	
					幼稚園教諭	
					小学校教諭	
					中学校教諭（英語）	必修
ナンバリングコード	US1-2043-00010	年次配当	1年前期		高等学校教諭（英語）	必修
授業形態	講義				特別支援学校教諭	
単位数	2			卒業要件	初等幼児教育専攻	
					中等教育専攻	選択
科目	教科及び教職に関する科目（中学校・高等学校　英語）教科及び教科の指導法に関する科目					
各科目に含めることが必要な事項	教科に関する専門的事項					
教科目						
系列						
授業テーマ	学問としての英語学がいかに奥が深く、重要で、且つ面白いものであるかを学び取ります。					
授業概要	英語学が対象とする範囲は広範囲に及ぶ。本講義では1500年前までは僅か15万人しか話者人口がいなかった弱小言語が如何にして地球規模の言語にまで成長してきたかをまず歴史的に概観し、以下、その進化の過程で起こった諸々の事象を具体的に示し、最後は21世紀の、激変していく英語の姿を概観することにする。					

達成目標	科目DP：(5)					
	DP番号	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)
	1．英語学の全体像が習得できる。			○		◎
	2．英語学の基礎知識及び各項目における重要な鍵語が習得できる。		○			◎
	3．毎回、教育現場で役立つであろう英語学の知識（発音、文法、統語論等）が習得できる。				○	◎

履修条件・注意事項	中・高等学校の英語教員免許取得を希望している者
授業計画	第１回：英語の時代区分：古英語、中英語、近・現代英語　（目標 1） 第２回：How languages work　（目標 1,2,3） 第３回：Put it in writing　（目標 1,2,3） 第４回：Still more about writing it down　（目標 1,2,3） 第５回：Passing the cranberry test　（目標 1,2,3） 第６回：Clustering beyond the cranberries　（目標 1,2,3） 第７回：Sentences grow on trees　（目標 1,2,3） 第８回：A middle ground（目標 1, 2, 3） 第９回：How many languages can fit on a planet?　（目標 1,2,3） 第10回：Nuclear English　（目標 1,2,3） 第11回：Multiple meanings（目標　1,2,3） 第12回：Language in context　（目標 1,2,3） 第13回：How humans learn their languages　（目標 1,2,3） 第14回：Geographical and diachronic linguistics（目標　1,2,3） 第15回：A linguistic bestiary　（目標 1,2,3） 定期試験
アクティブ・ラーニング	ディスカッションとロールプレイ
成績評価基準	評価の方法：定期試験（70%）、毎回の授業での積極的姿勢（発表等）（30%） 評価の基準：定期試験、授業への取り組み態度
フィードバックの方法	それぞれの授業の翌週に要所の理解ができているか確認する。
時間外の学習について	予習：毎回の授業内容分を一通り目を通しておくこと。とても大事なことです。各回30分程度 復習：授業で特に力説された部分を丸暗記するくらいにしっかり頭に叩き込むこと。各回30分程度
教材にかかわる情報	テキスト：What is Language?（三修社、2,052円） 参考資料等：教室でその都度、関連文献を呈示します。
担当者からのメッセージ等実務経験について	すべてにおいて「継続は力なり」を心に銘記しておいて欲しいです。

授業科目名	英語史	教員名	下笠　徳次（単独）	免許・資格との関係	保育士	
					幼稚園教諭	
					小学校教諭	
					中学校教諭（英語）	選択
ナンバリングコード	US3-2044-00020				高等学校教諭（英語）	選択
授業形態	講義	年次配当	３年前期		特別支援学校教諭	
単位数	2			卒業要件	初等幼児教育専攻	
					中等教育専攻	選択

科目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校・高等学校）
各科目に含めることが必要な事項	教科に関する専門的事項
教科目	
系列	
授業テーマ	1500年に及ぶ英語の歴史を鳥瞰図的に眺め、各時代の出来事などを簡潔にまとめる。
授業概要	テキストは180頁に亘り、古英語期から中英語期、そして近・現代英語期に至るまでの個々の資料の呈示と簡潔な説明がなされているので、その要点を掻い摘んで平易に解説を加えていくことにする。英語の長い歴史の知識・習得が如何に利するかが分かる授業となる。

達成目標

	科目DP：(5)				
DP番号	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)
１．絶えず歴史的観点から英語の成長と発達を知ることができる。			○		◎
２．各時代ごとの要点を確実に脳裏に叩き込むことができる。		○	◎		
３．児童や生徒からの英語史に関する質問に答えられるような知識が獲得できている。		○			◎

履修条件・注意事項	中・高等学校の英語教員免許取得を希望している者
授業計画	第１回：序論；英語の系統、ゲルマン語の特徴、英語史の時代区分　（目標 1,2,3） 第２回：英語の綴り字の変遷；古英語、中英語、近・現代英語　（目標 1,2,3） 第３回：語形態の変遷；名詞、人称代名詞、動詞　（目標 1,2,3） 第４回：統語法の変遷；語順の確立　（目標 1,2,3） 第５回：統語法の変遷；迂言法の発達　（目標 1,2,3） 第６回：統語法の発達；未来・完了時制、叙想法、進行形、比較変化　（目標 1,2,3） 第７回：語彙の変遷；消滅と増加　（目標 1,2,3） 第８回：語彙の変遷；ケルト語、ラテン語、古ノルド語　（目標 1,2,3） 第９回：語彙の変遷；フランス語、ギリシャ語、外来語からの借入　（目標 1,2,3） 第10回：英語の地方言；古英語の地方言　（目標 1,2,3） 第11回：英語の地方言；西サクソン方言と他の地方言との比較　（目標 1,2,3） 第12回：英語の地方言；中英語の地方言区分とその資料　（目標 1,2,3） 第13回：英語の地方言；中英語地方言と近・現代英語　（目標 1,2,3） 第14回：英語の地方言；近代標準語の系譜　（目標 1,2,3） 第15回：英語の地方言；現代英語の地方言　（目標 1,2,3） 定期試験
アクティブ・ラーニング	ディスカッションとロールプレイ
成績評価基準	評価の方法：定期試験（70%）、毎回の授業での積極的姿勢（発表等）（30%） 評価の基準：定期試験、授業への取り組み態度
フィードバックの方法	それぞれの授業の翌週に要所の理解ができているか確認する。
時間外の学習について	予習：毎回の授業内容分を一通り目を通しておくこと。とても大事なことです。各回30分程度 復習：授業で特に力説された箇所を丸暗記するくらいにしっかり頭に叩き込むこと。各回30分程度
教材にかかわる情報	テキスト：「英語史入門」（慶応出版、2,640円） 参考資料等：授業のなかでその都度関連文献を呈示します。
担当者からのメッセージ等	すべてにおいて「継続は力なり」を心に銘記しておいて欲しいです。

授業科目名	英文法演習	教員名	福屋　利信 （単独）	免許・資格との関係	保育士	
					幼稚園教諭	
					小学校教諭	
					中学校教諭（英語）	選択
ナンバリングコード	US2-2045-00020	年次配当	２年前期		高等学校教諭（英語）	選択
					特別支援学校教諭	
授業形態	演習			卒業要件	初等幼児教育専攻	選択
単位数	2				中等教育専攻	選択

科目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校・高等学校）
各科目に含めることが必要な事項	教科に関する専門的事項 English as an International Language
教科目	
系列	
授業テーマ	日本におけるK-POP受容の歴史に関する英文を読み解く過程で、コンテントベースの英文法を獲得する。
授業概要	英文法を理解しないと、仕事で英語を使用するレベルには到達しない。本授業では、そのレベルに対応できる「世界共通語としての英語」の獲得を目指す。

達成目標	科目DP：(5)				
	DP番号 (1)	(2)	(3)	(4)	(5)
グローバルな場において英語でコミュニケーションが取れる。			○		◎
認知的アプローチから英文法の必要性を理解する。		◎		○	
音楽とその背景にある社会情勢との関係を理解する。	◎		○		

履修条件・注意事項	
授業計画	1．American Base Camps, the Cradle of Japanese Pop 2．Early Days of Japanese Pop 3．Early Days of Japanese Rock & Roll Scene 4．The Sociological Meaning of the Beatles' Tokyo Performance in 1966 5．The Influence of the Electric Guitar Boom led by the Ventures 6．Development of Japanese Pop 7．From Japanese Pop to J-POP 8．Korean Base Camps, the Cradle of Korean Pop 9．The Influence of Seoul Olympic on K-POP Acceptance in Japan 10. Analysis of the lyrics of Torawayo! Pusan Hane,: Return to Pusan Harbor 11. The Sociological Meaning of the FIFA World Cup Korea / Japan in 2002 12. From Korean Pop to K-POP initiated by BOA, TVXQ, KARA and Girls Generation 13. The Difference of TWICE & BLACK PINK 14. The Possibility of BTS 15. Discussion 定期試験（最終レポート提出）
アクティブ・ラーニング	学生間でのディスカッション
成績評価基準	評価の方法：最終レポート50%、授業への参加度（自主的な音読及び積極的発言等）30%、出席率20% 評価の基準：
フィードバックの方法	
時間外の学習について	予習：授業計画に従って、次回の項目を予習しておくこと。 復習：授業内容を自身で振り返ること（ノートテイキングしたことに自身の学びを重ね、最終レポートの準備をしておくこと）
教材にかかわる情報	テキスト：A Brief History of J-POP / The History of K-POP Acceptance in Japan 参考書： 参考資料等：
担当者からのメッセージ等実務経験について	テキスト（２種類）は、いずれも担当者が作成したものゆえ、授業中に無料配布する。

授業科目名	英語音声学	教員名	岩中　貴裕 (実務経験) (単独)	免許・資格との関係	保育士	
					幼稚園教諭	
					小学校教諭	
ナンバリングコード	US1-2046-00020				中学校教諭(英語)	選択
		年次配当	1年後期		高等学校教諭(英語)	選択
授業形態	講義				特別支援学校教諭	
				卒業要件	初等幼児教育専攻	選択
単位数	2				中等教育専攻	選択

科目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校・高等学校）
各科目に含めることが必要な事項	教科に関する専門的事項
教科目	
系列	
授業テーマ	英語のリズムとイントネーション
授業概要	英語音声学の理論に基づき英語の音声的特徴について理解を深め、英語教師として相応しい発音を身に付ける。さらに小学生や中高生を対象とした効果的な発音指導について理解を深め、英語教師としての実践力を高める。

達成目標	科目DP：(5)				
	DP番号 (1)	(2)	(3)	(4)	(5)
1．英語の調音音声学に関する理論を理解できる。			○		◎
2．国際社会で通用する英語発音が習得できている。			○		◎
3．日本人英語学習者を対象として効果的に発音指導を行うことができる。			○		◎
4．アルファベットと音の関係を体系的に説明することができる。			○		◎

履修条件・注意事項	出席は評価とは関係ありませんが、出席状況の悪い学生は履修を取り消すことがあります。
授業計画	第１回：英語音声学とは？・英語の音声的特徴　（目標 1） 第２回：音声器官：名称と役割　（目標 1） 第３回：日本語のアクセントと英語のアクセント　（目標 1,2） 第４回：アルファベットと発音の関係：子音字・母音字の読み方　（目標 1,2,4） 第５回：アルファベットと発音の関係：フォニックス　（目標 1,2,4） 第６回：日本人英語学習者のための発音指導：強音節と弱音節　（目標 1,2,3） 第７回：日本人英語学習者のための発音指導：閉音節　（目標 1,2,3） 第８回：日本人英語学習者のための発音指導：強音節の等時性　（目標 1,2,3） 第９回：弱音節と強音節：母音の弱化　（目標 1,2,3） 第10回：日本人英語学習者の発音の特徴と問題点　（目標 1,2,3） 第11回：音声学の理論：子音と母音　（目標 1,2,3,4） 第12回：音声学の理論：音素と異音　（目標 1,2,3,4） 第13回：音声学の理論：同化と消失　（目標 1,2,3,4） 第14回：コミュニケーションにおける発音の重要性　（目標 1,2,3,4） 第15回：英語のリズムと日本語のリズム　（目標 1,2,3,4） 定期試験
アクティブ・ラーニング	グループでプロジェクト活動に取り組む。
成績評価基準	評価の方法：授業での貢献（発表・ディスカッション）：40%　発音テスト：30%　定期試験：30% 評価の基準：態度と意欲を重視した評価を行う。
フィードバックの方法	毎回の授業で振り返りシートの記入を行います。
時間外の学習について	予習：テキストの指定された箇所を理解した上で、授業に臨んでください。各回30分程度 復習：発音練習が復習（授業後の活動）として課されます。各回30分程度
教材にかかわる情報	テキスト：竹林滋 他（2013）『初級英語音声学』大修館書店 参考書：武田千代城（2011）『驚異のフォニックスワーク35』明治図書 参考資料等：
担当者からのメッセージ等 実務経験について	正しい発音は英語教師にとって非常に大切です。正しい発音を習得するためには地道に練習するしかありません。この授業で、英語教師に相応しい発音を身につけましょう。 高等学校教員としての実務経験に基づいて効果的な発音指導等について話をします。

授業科目名	第二言語習得論	教員名	岩中　貴裕 (実務経験) (単独)	免許・資格との関係	保育士	
					幼稚園教諭	
					小学校教諭	
					中学校教諭(英語)	選択
ナンバリングコード	US1-2047-00020	年次配当	1年後期		高等学校教諭(英語)	選択
授業形態	講義				特別支援学校教諭	
単位数	2			卒業要件	初等幼児教育専攻	
					中等教育専攻	選択

科目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校・高等学校）
各科目に含めることが必要な事項	教科に関する専門的事項
教科目	
系列	
授業テーマ	第二言語習得のメカニズム
授業概要	第二言語習得研究は「人がどういうメカニズムで第二言語を習得するのか」を科学的に明らかにする学問である。本講義では，人が第二言語を習得するメカニズムを理解し，その知見をいかに教育場面で役立てるのかについて考察を加える。

達成目標	科目DP：(5)				
	DP番号	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)
	1．第二言語習得研究がどのような学問であるのかを説明することができる。			○		◎
	2．学習者の個人差を理解し各自に適した指導・学習方法を提案することができる。			○		◎
	3．第二言語習得研究から得られた知見を英語教育に生かすことができる。			○		◎

履修条件・注意事項	
授業計画	第１回：ガイダンス（授業の概要・発表担当決定）（目標 1） 第２回：第二言語習得とはどのような学問分野か？（目標 1） 第３回：第二言語習得のプロセス（目標 1） 第４回：第二言語習得に必要なインプット量とは？（目標 1,2,3） 第５回：インプットの「量」「質」を増やすための手段（目標 1,2,3） 第６回：アウトプットはなぜ必要か？（目標 1,2,3） 第７回：第二言語習得におけるアウトプットの役割（目標 1,2,3） 第８回：アウトプットの「量」「質」を増やすための手段（目標 1,2,3） 第９回：動機づけ（目標 1,2,3） 第10回：動機づけの向上と下降（目標 1,2,3） 第11回：自己決定理論：3つの心理的欲求を取り入れた学習活動（目標 1,2,3） 第12回：学習方略（目標 1,2,3） 第13回：メタ認知・メタ認知をトレーニングする方法（目標 1,2,3） 第14回：学習スタイル（目標 1,2,3） 第15回：学習スタイルと指導スタイル（目標 1,2,3） 定期試験
アクティブ・ラーニング	受講生による発表とディスカッションを中心とした授業を行う。
成績評価基準	評価の方法：授業での貢献（発表・ディスカッション）：50%　　レポート：20% 定期試験：30% 評価の基準：態度と意欲を重視した評価を行う。
フィードバックの方法	毎回の授業でワークシートを用いて理解度を確認します。
時間外の学習について	予習：教科書以外の資料を授業内で配布します。内容を理解した上で授業の臨んでください。 各回30分程度 復習：授業終了時に振り返りの指示を出します。指示に従って授業で学んだ内容をまとめ、提出してください。各回30分程度
教材にかかわる情報	テキスト：廣森友人（2015）『英語学習のメカニズム』大修館書店 参考書：白井恭弘（2012）『英語教師のための第二言語習得論入門』大修館書店 鈴木渉（2017）『実践例で学ぶ第二言語習得研究に基づく英語指導』大修館書店 参考資料等：
担当者からのメッセージ等 実務経験について	第二言語習得（Second Language Acquisition）は、英語教師を目指す者が知っておくべき情報を提供してくれます。この授業から得た情報を自分自身の英語学習にも役立ててください。 高等学校教員としての実務経験に基づいて専門的英語科教育の話をします。

授業科目名	英語文学概論	教員名	福屋　利信（単独）	免許・資格との関係	保育士	
					幼稚園教諭	
					小学校教諭	
					中学校教諭(英語)	必修
ナンバリングコード	US2-2048-00010	年次配当	２年前期		高等学校教諭(英語)	必修
授業形態	講義				特別支援学校教諭	
単位数	2			卒業要件	初等幼児教育専攻	
					中等教育専攻	選択

科目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校・高等学校）
各科目に含めることが必要な事項	教科に関する専門的事項
教科目	
系列	
授業テーマ	英語文学の理解が文語・口語の理解にいかに直結するかを簡潔直截にまとめてゆきます。43刷りを数える評判の教材で毎回、骨子となる鍵語を抑える。
授業概要	本教材は「イギリス文学史入門」とあるが、それは歴史的に見事に各時代の思潮を踏まえつつ、文学の特徴を特記しているからである。全13章から成り、各章ごとに①時代思潮、②ジャンル別解説、③代表作家と作品の三部構成で、コンパクトに解説し、この一冊を読破することにより、イギリス文学の全体像が掴めるように編集されている。途中でアメリカ文学の登場に合わせて、並行して講義を進めてゆくことにする。各時代の代表的作品の原典を別に作成して配布する。なお、新世紀(21世紀）の文学の流れも概観する。

達成目標

	科目DP：(5)				
	DP番号 (1)	(2)	(3)	(4)	(5)
１．英語文学の全体像の概要を把握できる。		○			◎
２．古英語文学から現代英語文学に至る個々の作品を鑑賞できる。		○	◎		

履修条件・注意事項	中・高等学校の英語教員免許取得を希望している者
授業計画	第１回：古期から中世へ（７世紀から15世紀）（目標 1,2） 第２回：ルネサンスが花ひらく（15世紀から16世紀）（目標 1,2） 第３回：演劇時代の到来（16世紀後半）（目標 1,2） 第４回：そしてシェイクスピア登場（1590 – 1613）（目標 1,2） 第５回：時代は清教徒革命に向かう（17世紀前半）（目標 1,2） 第６回：清教徒革命の後（17世紀後半）（目標 1,2） 第７回：18世紀の散文、詩、そして劇（1700 – 1798）（目標 1,2） 第８回：小説時代の到来（18世紀）（目標 1,2） 第９回：ロマン主義の光と影（1798 – 1836）（目標 1,2） 第10回：ヴィクトリア朝の詩と散文（1837 – 1901）（目標 1,2） 第11回：ヴィクトリア朝の小説（1837 – 1901）（目標 1,2） 第12回：20世紀の詩と劇　（目標 1,2） 第13回：20世紀の小説　（目標 1,2） 第14回：21世紀の英語文学特にポスト・コロニアルの作家について　（目標 1,2） 第15回：カズオ・イシグロの文学作品を概観する。（目標 1,2） 定期試験
アクティブ・ラーニング	ディスカッションとロールプレイ
成績評価基準	評価の方法：定期試験80%、授業への取り組み態度20% 評価の基準：定期試験、授業への取り組み態度
フィードバックの方法	毎回の授業の内容を次回の授業の中で、受講生全員に覚えているかを確認する作業を5分程度設ける。
時間外の学習について	予習：毎回の授業内容分を一通り目を通しておくこと。各回30分程度 復習：授業で特に力説された個所を丸暗記するくらい、しっかりと頭に叩き込むこと。 各回30分程度
教材にかかわる情報	テキスト：『イギリス文学史入門』(2,484円、研究社) 参考書：『はじめて学ぶアメリカ文学史』（ミネルヴァ書房） 参考資料等：
担当者からのメッセージ等実務経験について	すべてにおいて「継続は力なり」を心に銘記して欲しいです。

授業科目名	英語文学演習	教員名	福屋　利信 （単独）	免許・資格との関係	保育士	
					幼稚園教諭	
					小学校教諭	
					中学校教諭（英語）	選択
ナンバリングコード	US2-2049-00020	年次配当	２年後期		高等学校教諭（英語）	選択
					特別支援学校教諭	
授業形態	演習			卒業要件	初等幼児教育専攻	
単位数	2				中等教育専攻	選択

科目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校・高等学校）
各科目に含めることが必要な事項	教科に関する専門的事項
教科目	
系列	
授業テーマ	永遠不滅の英文学作品の英語の、特に有名な個所を精読してゆき、美しい英語を学び取ります。
授業概要	１．全12章から成り立つが、毎回1章を、特に最重要箇所を精読していくことにする。 ２．教育現場に出たとき、即、役立つような英語表現を暗記し、身に着けるような授業を目指す。 ３．多くの関係資料の呈示、CDやカセットテープを利用し、美しいイギリス英語に触れる。

達成目標	科目DP：(5)				
	DP番号 (1)	(2)	(3)	(4)	(5)
１．英語文学作品『不思議の国のアリス』で使われている言葉をしっかりと身に着ける。		○	◎		◎
２．『不思議の国のアリス』に見られるイギリスの英語の特質、背景、文化の多様性を学ぶ。		○	◎		
３．この名作から英語全般についての総合的知識を身に着けて英語へのより深い理解に達する。			○		◎

履修条件・注意事項	中・高等学校の英語教員免許取得を希望している者
授業計画	第１回：この名作の価値について：なぜ英語教育に欠かせない教材なのか（目標 2） 第２回：児童文学とファンタジーについて：英語という言語の観点から（目標 2） 第３回：第1章：Down the Rabbit-Hole（最初から名文に遭遇します）（目標 1,2,3） 第４回：第2章：The Pool of Tears（ねずみとの面白い会話）（目標 1,2,3） 第５回：第3章：A Caucus-Race and a Long Tale（コーカスレースとは？）（目標 1,2,3） 第６回：第4章：The Rabbit Sends in a Little Bill（下層階級の発音は？）（目標 1,2,3） 第７回：第5章：Advice from a Caterpillar（芋虫に翻弄されるアリス）（目標 1,2,3） 第８回：第6章：Pig and Pepper（チェシャー猫との遭遇）（目標 1,2,3） 第９回：第7章：A Mad Tea-Party（世にも不思議な茶会始まり！（目標 1,2,3） 第10回：第8章：The Queen's Croquet-Ground（英国版ゲートボール（目標 1,2,3） 第11回：第9章：The Mock-Turtle's Story（偽海亀が海で学んだ教科は？）（目標 1,2,3） 第12回：第10章：The Lobster Quadrille（海辺でのけったいなダンス）（目標 1,2,3） 第13回：第11章：Who Stole the Tart?（不思議の国の不思議な裁判）（目標 1,2,3） 第14回：第12章：Alice's Evidence（アリス、夢の世界から目覚める！）（目標 1,2,3） 第15回：全体の復習（目標 1,2,3） 定期試験
アクティブ・ラーニング	ディスカッションとロールプレイ
成績評価基準	評価の方法：定期試験80%、授業への取り組み態度20% 評価の基準：定期試験、授業への取り組み態度
フィードバックの方法	それぞれの授業の翌週に要所の理解ができているか確認する。
時間外の学習について	予習：毎回の授業内容分を一通り目を通しておくこと。とても大事なことです。各回30分程度 復習：授業で特に力説された部分を丸暗記するくらいにしっかり頭に叩き込むこと。各回30分程度
教材にかかわる情報	テキスト：「不思議の国のアリス」（Alice's Adventures in Wonderland）（英光社） 参考書：「鏡の国のアリス」（Through the Looking-Glass）（英光社） 参考資料等：
担当者からのメッセージ等 実務経験について	すべてにおいて「継続は力なり」を心に銘記して欲しいです。

授業科目名	Creative English Ⅰ	教員名	ダグラス・パーキン（実務経験）（単独）	免許・資格との関係	保育士	
					幼稚園教諭	
					小学校教諭	
					中学校教諭（英語）	必修
ナンバリングコード	US1-2050-00010	年次配当	1年前期		高等学校教諭（英語）	必修
授業形態	演習				特別支援学校教諭	
単位数	1			卒業要件	初等幼児教育専攻	
					中等教育専攻	選択

科目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校・高等学校）
各科目に含めることが必要な事項	教科に関する専門的事項
教科目	
系列	
授業テーマ	
授業概要	授業内では認知負荷の高いアウトプット活動に従事します。受講生は個人、またはグループで課題に取り組みます。本授業によって「英語力の向上」、「チームで協力して課題に取り組む能力の向上」、「英語使用に対する自信の向上」がもたらされます。

達成目標

	科目DP：(5)				
DP番号	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)
1．様々なジャンルの英語を聴きその内容を理解することができる。			○		◎
2．様々なジャンルの英語を読みその内容と構成を理解することができる。			○		◎
3．様々な話題について英語で話すこと［やり取り・発表］ができる。			○		◎
4．プロジェクト活動を通して英語で様々なトピックについて英語で書くことができる。			○		◎
5．4技能を統合した言語活動を遂行することができる。			○		◎

履修条件・注意事項

授業計画

第１回：授業についての説明（目標 1,2,3）
第２回：英語での自己紹介・他己紹介（目標 1,2,3,4,5）
第３回：E-learning・英語での自己紹介・プレゼンテーション課題の説明（目標 1,2,3）
第４回：E-learning・Question Crazy Card System・英語での自己紹介・振り返り（目標 1,2,3,4）
第５回：E-learning・英語での自己紹介・プレゼンテーション準備（目標 1,2,3,4,5）
第６回：E-learning・グループでのプレゼンテーション準備（目標 1,2,3,4,5）
第７回：E-learning・英語での自己紹介・振り返り・グループでのプレゼンテーション準備（目標 1,2,3）
第８回：E-learning・英語での自己紹介・相互評価・プレゼンテーション進捗状況確認（目標 1,2,3）
第９回：E-learning・プレゼンテーション原稿作成（目標 1,2,3,4,5）
第10回：E-learning・プレゼンテーション原稿完成・スライド作成（目標 1,2,3,4）
第11回：E-learning・グループプレゼンテーションリハーサル（目標 1,2,3,4）
第12回：グループプレゼンテーション（1）・自己評価・振り返り（目標 1,2,3,4,5）
第13回：グループプレゼンテーション（2）・自己評価・ピア評価・振り返り（目標 1,2,3,4,5）
第14回：グループプレゼンテーション（3）・自己評価・ピア評価・教師による評価・振り返り（目標 1,2,3,4,5）
第15回：授業全体の振り返り・各自の課題の確認（目標 1,2,3）

アクティブ・ラーニング

Students must create presentations as individuals, to introduce themselves to the class using ICT. They must proactively communicate in English with faculty members, using the Question Crazy Card System. The students must also work in groups to prepare original presentations supported by research, creative writing, and well-rehearsed performances.

成績評価基準

評価の方法：授業内での貢献・予習・復習：10%　Tell Me More Software：10%　Question Crazy Card System：10%　自己紹介：10%　自己紹介振り返り：5%　プレゼンテーション：45%　プレゼンテーション振り返り：10%
評価の基準：Criteria used for evaluation are English skill level, group work skills, research ability, the ability to fully understand questions, and presentation skills.

フィードバックの方法

Feedback is given regularly after each activity is performed by the students. It takes the form of peer, self, and teacher feedback. Students are also required to conduct written reflections to be submitted to the course instructor. In addition, regular meetings occur between the course instructor and the activity groups in the class.

時間外の学習について

予習：Students must prepare for presentations individually and in groups. Research, writing, creating PowerPoint presentations, and practicing are all necessary.
復習：Students are required to review items covered in class as well as any handouts given to them. They must focus on self-improvement by reviewing important items discussed in class, then take proper actions to achieve personal growth.（予習・復習とも30分程度）

教材にかかわる情報

テキスト：Fettig, C., Najafi, K. (2014). Pathways Foundations: Listening, Speaking, and Critical Thinking. Cengage Learning. ￥2,800 ISBN: 9781285177489
参考書：授業内で資料を配付する。
参考資料等：

担当者からのメッセージ等 実務経験について

ネイティブの教員として、国内での十年以上の中学校、高等学校教員の経験を生かし、アウトプット活動を中心とした授業等により、英語科教師育成のための専門教育を指導します。

授業科目名	Creative English Ⅱ	教員名	ダグラス・パーキン（実務経験）（単独）	免許・資格との関係	保育士	
					幼稚園教諭	
					小学校教諭	
					中学校教諭（英語）	選択
ナンバリングコード	US1-2051-00020				高等学校教諭（英語）	選択
授業形態	演習	年次配当	1年後期		特別支援学校教諭	
単位数	1			卒業要件	初等幼児教育専攻	
					中等教育専攻	選択

科目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校・高等学校）
各科目に含めることが必要な事項	教科に関する専門的事項
教科目	
系列	
授業テーマ	
授業概要	授業内では認知負荷の高いアウトプット活動に従事します。受講生は個人、またはグループで課題に取り組みます。本授業によって「英語力の向上」、「チームで協力して課題に取り組む能力の向上」、「英語使用に対する自信の向上」がもたらされます。

達成目標	科目DP：(5)				
DP番号	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)
1．様々なジャンルの英語を聴きその内容を理解することができる。			○		◎
2．様々なジャンルの英語を読みその内容と構成を理解することができる。			○		◎
3．様々な話題について英語で話すこと［やりとり・発表］ができる。			○		◎
4．プロジェクト活動を通して様々なトピックについて英語で書くことができる。			○		◎
5．4技能を統合した言語活動を遂行することができる。			○		◎

履修条件・注意事項	
授業計画	第１回：授業についての説明（目標 1,2） 第２回：e-learning・1分間スピーチ・スキット説明　（目標 1,2,3,4,5） 第３回：1分間スピーチ・1分間スピーチ振り返り・グループプレゼンテーション説明　（目標 1,2,3） 第４回：1分間スピーチ・1分間スピーチ振り返り・スキット準備・グループプレゼンテーション説明　（目標 1,2,3,4） 第５回：1分間スピーチ・QC Cards・スキット上演　（目標 1,2,3,4,5） 第６回：1分間スピーチ・スキット上演・グループプレゼンテーション打合せ　（目標 1,2,3,4,5） 第７回：1分間スピーチ・スキット上演・グループプレゼンテーション草稿完成　（目標 1,2,3,4） 第８回：1分間スピーチ・スキット上演・グループプレゼンテーション草稿修正　（目標 1,2,3） 第９回：1分間スピーチ・スキット上演・グループプレゼンテーションスライド作成　（目標 1,2,3） 第10回：スキット上演・グループプレゼンテーション原稿スライドチェック　（目標 1,2,3,4,5） 第11回：スキット上演・グループプレゼンテーション準備物最終確認　（目標 1,2,3,4） 第12回：グループプレゼンテーションその1・アイコンタクト・振り返り　（目標 1,2,3,4,5） 第13回：グループプレゼンテーションその2・ジェスチャー・振り返り　（目標 1,2,3,4,5） 第14回：グループプレゼンテーションその3・聞き手に対する配慮・振り返り　（目標 1,2,3,4,5） 第15回：授業の振り返り・到達目標の確認　（目標 1,2,3）
アクティブ・ラーニング	Students create individual presentations, prepare and perform group skits while using costumes and ICT, plus make a creative group presentation/performance which is presented in front of the class. Students actively engage in questioning and answering challenging questions, as part of their final presentation test. Students must be active to be successful!
成績評価基準	評価の方法：授業内での貢献・予習・復習：10％　e-learning：10%　Question Crazy Card System：10%、1分間スピーチ：10%　1分間スピーチ振り返り：5%　スキット：10%　グループプレゼンテーション：35%、グループプレゼンテーション振り返り：10% 評価の基準：Criteria used for evaluation are English writing and presentation skills, group work skills, and the ability to effectively use ICT and costumes to give presentations and performances.
フィードバックの方法	Feedback is given regularly after each activity is performed by the students. It takes the form of peer, self, and teacher feedback. Students are also required to conduct written reflections to be submitted to the course instructor. In addition, regular meetings occur between the course instructor and the activity groups in the class.
時間外の学習について	予習：Students must prepare for presentations individually and in groups. Research, writing, creating PowerPoint presentations, and practicing are all necessary. 復習：Students are required to review items covered in class as well as any handouts given to them. They must focus on self-improvement by reviewing important items discussed in class, then take proper actions to achieve personal growth.（予習・復習とも30分程度）
教材にかかわる情報	テキスト：Fettig, C., Najafi, K. (2014). Pathways Foundations: Listening, Speaking, and Critical Thinking. Cengage Learning. ￥2,800 ISBN: 9781285177489 参考書：授業内で資料を配付する。 参考資料等：
担当者からのメッセージ等実務経験について	ネイティブの教員として、国内での十年以上の中学校、高等学校教員の経験を生かし、アウトプット活動を中心とした授業等により、英語科教師育成のための専門教育を指導します。

授業科目名	Applied English Ⅰ	教員名	ダグラス・パーキン（実務経験）（単独）	免許・資格との関係	保育士	
					幼稚園教諭	
					小学校教諭	
					中学校教諭（英語）	選択
ナンバリングコード	US2-2052-00020				高等学校教諭（英語）	選択
授業形態	演習	年次配当	２年前期		特別支援学校教諭	
単位数	1			卒業要件	初等幼児教育専攻	
					中等教育専攻	選択

科目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校・高等学校）
各科目に含めることが必要な事項	教科に関する専門的事項
教科目	
系列	
授業テーマ	
授業概要	この授業では英語運用能力を向上させると同時に望ましい英語指導方法について検討します。認知的負荷の高いアウトプット活動に従事することによって英語使用に対する自信を育てます。ペア、小グループでの活動を通して自律的な学習習慣を確立します。

達成目標	科目DP：(5)				
DP番号	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)
1．4技能を使って統合的な言語活動に従事することができる。			○		◎
2．自信を持って人前で英語のスピーチやプレゼンテーションを行うことができる。			○		◎
3．仲間と協力して英語のプロジェクト活動を行うことができる。			○		◎
4．英語で認知負荷の高い活動に従事することができる。			○		◎
5．自信を持って英語を使うことができる。			○		◎

履修条件・注意事項	
授業計画	第１回：授業についての説明（目標 1,2,5） 第２回：e-learning・プレゼンテーション準備・グループプレゼンテーション説明（目標 1,3,4,5） 第３回：プレゼンテーションその1・グループプレゼンテーション打合せ（目標 1,2,3,4,5） 第４回：プレゼンテーションその2・グループプレゼンテーション準備（目標 1,2,3,4,5） 第５回：プレゼンテーションその3・グループプレゼンテーション進捗状況確認（目標 1,2,3,4,5） 第６回：プレゼンテーション振り返り・グループプレゼンテーションスライド作成（目標 1,2,3,4,5） 第７回：e-learning・QC Card進捗状況確認・グループプレゼンテーション進捗状況報告（目標 1,2,3,4,5） 第８回：プレゼンテーションその4・グループプレゼンテーション草稿提出（目標 1,2,3,4） 第９回：プレゼンテーションその5・グループプレゼンテーション内容確認（目標 1,2,3） 第10回：プレゼンテーションその6・グループプレゼンテーション最終原稿完成（目標 1,2,3） 第11回：グループプレゼンテーション最終準備（原稿・スライド・ICT）（目標 3,4） 第12回：グループプレゼンテーションその1・自己評価・振り返り（目標 1,2,3,4,5） 第13回：グループプレゼンテーションその2・他己評価・振り返り（目標 1,2,3,4,5） 第14回：グループプレゼンテーションその3・教師による評価・振り返り（目標 1,2,3,4,5） 第15回：授業に対する振り返り・到達目標の確認（目標 1,4）
アクティブ・ラーニング	Students reflect on their past learning and experiences, project what they want and need for the future, and create an individual presentation to be given to the class. In groups they must create an original skit, then prepare and present it to the class. In groups they create a presentation/performance as teachers, who also give a test to the class.
成績評価基準	評価の方法：授業での貢献：5%　e-learning：10%　Question Crazy Card System：10%　プレゼンテーション：10%　リフレクション（プレゼンテーション）：5%　10分間活動：10%　グループプレゼンテーション：40%　リフレクション（グループプレゼンテーション）：10% 評価の基準：Criteria used for evaluation are the ability to reflect and apply information, presentation skills, creativity, performance ability, as well as English and team work skills.
フィードバックの方法	Feedback is given regularly after each activity is performed by the students. It takes the form of peer, self, and teacher feedback. Students are also required to conduct written reflections to be submitted to the course instructor. In addition, regular meetings occur between the course instructor and the activity groups in the class.
時間外の学習について	予習：Students must prepare for activities individually and in groups. Research, writing, creating PowerPoint presentations, and practicing are all necessary. 復習：Students are required to review items covered in class as well as any handouts given to them. They must focus on self-improvement by reviewing important items discussed in class, then take proper actions to achieve personal growth.（予習・復習とも30分程度）
教材にかかわる情報	テキスト：Chase, B(. 2013). Pathways 1: Listening, Speaking, and Critical Thinking. Cengage Learning. ￥2,800　ISBN: 9781133307679 参考書：授業内で必要な資料を配布します。 参考資料等：
担当者からのメッセージ等実務経験について	国内での中学校、高等学校での英語科教員やALTの経験を生かして、英語を用いたアクティブラーニングの手法やティームティーチングの基礎などの指導をします。

授業科目名	Applied English Ⅱ	教員名	ダグラス・パーキン（実務経験）（単独）	免許・資格との関係	保育士	
					幼稚園教諭	
					小学校教諭	
					中学校教諭（英語）	選択
ナンバリングコード	US2-2053-00020	年次配当	２年後期		高等学校教諭（英語）	選択
授業形態	演習				特別支援学校教諭	
単位数	1			卒業要件	初等幼児教育専攻	
					中等教育専攻	選択

科目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校・高等学校）
各科目に含めることが必要な事項	教科に関する専門的事項
教科目	
系列	
授業テーマ	
授業概要	この授業では受講生は英語を教授言語として英語指導を行うという活動に従事します。英語を用いて英語を教えるという活動に従事することによって、生徒の英語コミュニケーション運用能力向上をもたらす活動の在り方に対する理解を深めます。

達成目標

	科目DP：(5)				
DP番号	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)
１．4技能を使って統合的な言語活動に従事することができる。			○		◎
２．英語を指導するスキルを実践することができる。			○		◎
３．コミュニケーション能力を育てる英語指導を行うことができる。			○		◎
４．認知負荷の高いトピックについて英語で話すように生徒を動機づけることができる。			○		◎
５．英語を教授言語として自信を持って使用することができる。			○		◎

履修条件・注意事項	
授業計画	第１回：授業概要についての説明（目標 1,2） 第２回：e-learning・10分間授業の説明・Debate/Discussionフォーラム説明（目標 1,2,3） 第３回：e-learning・10分間授業・Debate/Discussionフォーラム（目標 1,2,3,4,5） 第４回：10分間授業・Debate/Discussionフォーラム・ティームティーチング説明（目標 1,2,3,4,5） 第５回：10分間授業・Debate/Discussionフォーラム・ティームティーチング準備（目標 1,2,3,4,5） 第６回：10分間授業振り返り・Debate/Discussionフォーラム振り返り・ティームティーチング準備（目標 1,2,3,4,5） 第７回：e-learning進捗状況確認・QC Card進捗状況確認・ティームティーチング進捗状況確認（目標 1,2,3,4,5） 第８回：10分間授業・Debate/Discussionフォーラム・ティームティーチング指導案作成（目標 1,2,3,4,5） 第９回：10分間授業・Debate/Discussionフォーラム・ティームティーチング指導案確認（目標 1,2,3,4,5） 第10回：10分間授業・Debate/Discussionフォーラム・ティームティーチング実施詳細確認（目標 1,2,3,4,5） 第11回：ティームティーチング教材作成（目標 1,2,3,4） 第12回：ティームティーチング（グループ1・2）・自己評価・振り返り（目標 1,2,3,4,5） 第13回：ティームティーチング（グループ3・4）・他己評価・振り返り（目標 1,2,3,4,5） 第14回：ティームティーチング（グループ5・6）・教師による評価・振り返り（目標 1,2,3,4,5） 第15回：授業に対する振り返り・到達目標の確認（目標 2,4）
アクティブ・ラーニング	Students become much more active as teachers, by conducting 10 minute mini lessons to the class. In pairs they also conduct a 25-30 minute debate or discussion with the class, being responsible for the creation and implementation of everything. The final test, is a 40 minute pair team teaching test, where students become either an ALT or a JTE.
成績評価基準	評価の方法：授業での貢献：5%　e-learning：10%　Question Crazy Card：10%　10分間授業：10%　10分間授業振り返り：5%　Debate/Discussion フォーラム：10%　ティームティーチング：40%　授業振り返り：10% 評価の基準：The criteria used for evaluation are critical thinking skills, group work skills, ability to state and support opinions, plus the ability to teach English at a junior and senior high schools, using appropriate language levels.
フィードバックの方法	Feedback is given regularly after each activity is performed by the students. It takes the form of peer, self, and teacher feedback. Students are also required to conduct written reflections to be submitted to the course instructor. In addition, regular meetings occur between the course instructor and the activity groups in the class.
時間外の学習について	予習：Students must prepare for activities individually and in groups. Research, writing, creating PowerPoint presentations, and practicing are all necessary. Understanding teaching methodology, is an import item to prepare for in this course. 復習：Students are required to review items covered in class as well as any handouts given to them. They must focus on self-improvement by reviewing important items discussed in class, then take proper actions to achieve personal growth.（予習・復習とも30分程度）
教材にかかわる情報	テキスト：Chase, B(. 2013). Pathways 1: Listening, Speaking, and Critical Thinking. Cengage Learning. ￥2,800　ISBN: 9781133307679 参考書：授業内で必要な資料を配布します。 参考資料等：
担当者からのメッセージ等実務経験について	国内での中学校、高等学校での英語科教員やALTの経験を生かして、英語を用いたアクティブラーニングの手法やティームティーチングの基礎などの指導をします。

授業科目名	Basic English Expression	教員名	岩中　貴裕 (実務経験) (単独)	免許・資格との関係	保育士	
					幼稚園教諭	
					小学校教諭	
					中学校教諭(英語)	必修
ナンバリングコード	US2-2054-00010	年次配当	2年前期		高等学校教諭(英語)	必修
授業形態	演習				特別支援学校教諭	
				卒業要件	初等幼児教育専攻	
単位数	1				中等教育専攻	選択

科目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校・高等学校）
各科目に含めることが必要な事項	教科に関する専門的事項
教科目	
系列	
授業テーマ	
授業概要	生徒に対して理解可能なインプットを与え、生徒の理解を確かめながら英語でインタラクションを勧めていく柔軟な調整能力を身に付ける。

達成目標	科目DP：(5)				
	DP番号 (1)	(2)	(3)	(4)	(5)
1．音声モードの英語インプットを理解することができる。			○		◎
2．文字モードの英語インプットを理解することができる。			○		◎
3．様々な話題について英語で話すこと［やり取り・発表］ができる。			○		◎
4．様々な話題について、目的や場面、状況等に応じて英語で書くことができる。			○		◎
5．複数の領域を統合した言語活動を遂行することができる。			○		◎

履修条件・注意事項	
授業計画	第１回：ガイダンス（授業の進め方・課題について）（目標 1,2,3,4,5） 第２回：パラグラフの構成（目標 4） 第３回：エッセイ執筆：Choosing a Pet （目標 2,4,5） 第４回：エッセイ評価・ディスカッション：Choosing a Pet （目標 1,2,3,4,5） 第５回：エッセイ執筆：School Subjects(目標 2,4,5) 第６回：エッセイ評価・ディスカッション：School Subjects （目標 1,2,3,4,5） 第７回：エッセイ執筆：School Lunch Menu （目標 2,4,5） 第８回：エッセイ評価・ディスカッション：School Lunch Menu （目標 1,2,3,4,5） 第９回：エッセイ執筆：Best Friends （目標 2,4,5） 第10回：エッセイ評価・プレゼンテーション：Best Friends （目標 1,2,3,4,5） 第11回：エッセイ執筆：Person to Remember （目標 2,4,5） 第12回：エッセイ評価・プレゼンテーション：Person to Remember （目標 1,2,3,4,5） 第13回：エッセイ執筆：You Are the Teacher （目標 2,4,5） 第14回：エッセイ評価・プレゼンテーション：You Are the Teacher （目標 1,2,3,4,5） 第15回：プレゼンテーション：My Goals （目標 1,3,5）
アクティブ・ラーニング	グループでの話し合い，受講生による発表が授業活動の中心となる。
成績評価基準	評価の方法：プレゼンテーション・ディスカッション：40%　　エッセイ：40% 授業での貢献：20% 評価の基準：態度と意欲を重視した評価を行う。
フィードバックの方法	授業内で他の受講生及び授業担当者がフィードバックを提供する。
時間外の学習について	授業内でライティングの課題を提示する。原稿の作成は授業外で行う。（予習・復習とも30分程度）
教材にかかわる情報	テキスト：Ishii, T. etal. (2009). Access to Simple English. Tokyo: SEIBIDO. ISBN978-4-7919-1089-2 参考書：文法学習のためにE-learningを使用する。 参考資料等：
担当者からのメッセージ等 実務経験について	高等学校での実務経験に基づいてライティングや英語による言語活動等の英語指導について話をします。

授業科目名	Intermediate English Expression	教員名	岩中　貴裕 (実務経験) (単独)	免許・資格との関係	保育士	
					幼稚園教諭	
					小学校教諭	
					中学校教諭(英語)	選択
ナンバリングコード	US2-2055-00020	年次配当	2年後期		高等学校教諭(英語)	選択
授業形態	演習				特別支援学校教諭	
単位数	1			卒業要件	初等幼児教育専攻	
					中等教育専攻	選択

科目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校・高等学校）
各科目に含めることが必要な事項	教科に関する専門的事項
教科目	
系列	
授業テーマ	
授業概要	生徒に対して理解可能なインプットを与え、生徒の理解を確かめながら英語でインタラクションを勧めていく柔軟な調整能力を身に付ける。

達成目標	科目DP：(5)				
DP番号	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)
1．音声モードの英語インプットを理解することができる。			○		◎
2．文字モードの英語インプットを理解することができる。			○		◎
3．様々な話題について英語で話すこと［やり取り・発表］ができる。			○		◎
4．様々な話題について、目的や場面、状況等に応じて英語で書くことができる。			○		◎
5．複数の領域を統合した言語活動を遂行することができる。			○		◎

履修条件・注意事項	
授業計画	第１回：ガイダンス（授業の進め方・課題について）（目標 1,2,3,4,5） 第２回：パラグラフの構成（目標 4） 第３回：エッセイ執筆：Travel（目標 2,4,5） 第４回：エッセイ評価・ディスカッション：Travel（目標 1,2,3,4,5） 第５回：エッセイ執筆：Your School（目標 2,4,5） 第６回：エッセイ評価・ディスカッション：Your School（目標 1,2,3,4,5） 第７回：エッセイ執筆：Good Person（目標 2,4,5） 第８回：エッセイ評価・ディスカッション：Good Person（目標 1,2,3,4,5） 第９回：エッセイ執筆：Career Decisions（目標 2,4,5） 第10回：エッセイ評価・プレゼンテーション：Career Decisions（目標 1,2,3,4,5） 第11回：エッセイ執筆：Leadership（目標 2,4,5） 第12回：エッセイ評価・プレゼンテーション：Leadership（目標 1,2,3,4,5） 第13回：エッセイ執筆：Special Place（目標 2,4,5） 第14回：エッセイ評価・プレゼンテーション：Special Place（目標 1,2,3,4,5） 第15回：プレゼンテーション：Goals（目標 1,3,5）
アクティブ・ラーニング	グループでの話し合い，受講生による発表が授業活動の中心となる。
成績評価基準	評価の方法：プレゼンテーション・ディスカッション：40%　　エッセイ：40% 授業での貢献：20% 評価の基準：態度と意欲を重視した評価を行う。
フィードバックの方法	授業内で他の受講生及び授業担当者がフィードバックを提供する。
時間外の学習について	授業内でライティングの課題を提示する。原稿の作成は授業外で行う。（予習・復習とも30分程度）
教材にかかわる情報	テキスト：Ishii, T. etal. (2009). Access to Simple English. Tokyo: SEIBIDO. ISBN978-4-7919-1089-2 参考書：文法学習のためにE-learningを使用する。 参考資料等：
担当者からのメッセージ等 実務経験について	高等学校での実務経験に基づいてライティングや英語による言語活動等の英語指導について話をします。

授業科目名	Upper-Intermediate English Expression	教員名	ダグラス・パーキン（実務経験）（単独）	免許・資格との関係	保育士	
					幼稚園教諭	
					小学校教諭	
					中学校教諭（英語）	選択
ナンバリングコード	US3-2056-00020				高等学校教諭（英語）	選択
授業形態	演習	年次配当	３年前期		特別支援学校教諭	
単位数	1			卒業要件	初等幼児教育専攻	
					中等教育専攻	選択
科目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校・高等学校）					
各科目に含めることが必要な事項	教科に関する専門的事項					
教科目						
系列						
授業テーマ						
授業概要	授業ではまとまりのある量の英文を書いてその原稿をベースにして発表を行うという活動に従事します。自分の考えや意見を英語で表現する技術を修得します。個人、またはグループでの発表を通してリーディング力、ライティング力、スピーキング力、リスニング力の向上を目指します。					

達成目標	科目DP：(5)				
DP番号	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)
１．文法と語彙に配慮して英文を書くことができる。			○		◎
２．各自の興味や関心のあるトピックを選んで英文で書くことができる。			○		◎
３．必要な情報を収集して英文を書くことができる。			○		◎
４．収集した情報を聞き手の理解を促すように構成し発表することができる。			○		◎
５．文字モード、音声モードで収集した情報を発表することができる。			○		◎

履修条件・注意事項	
授業計画	第１回：授業説明・ライティングプロセス（目標 1,24） 第２回：日記・My Life（作文）・ニュース報告（ペアライティング）（目標 1,2,3,4,5） 第３回：Pen Pals・My Life（発表）・ニュース報告（ペアでの発表）（目標 1,4,5） 第４回：Pen Pals・My Life・ニュース報告・トークショーグループ決定（目標 1,2,3,4,5） 第５回：書き出し文・My Life・ニュース報告・トークショーグループワーク（目標 1,2,3,4,5） 第６回：書き出し文・Pen Pals・トークショー原稿作成（目標 1,2,3,4,5） 第７回：ライティングプロセス・ピアエディティング・トークショー原稿完成（目標 1,2,5） 第８回：Pen Pals・トークショー原稿提出（目標 1,4,5） 第９回：Pen Pal・トークショー原稿書き直し（目標 1,4,5） 第10回：Pen Pals・トークショーグループ練習（目標 1,4,5） 第11回：トークショーリハーサル・準備物確認（目標 3,4） 第12回：トークショー（グループ１／２）・自己評価（目標 1,5） 第13回：トークショー（グループ３／４）・他己評価（目標 1,5） 第14回：トークショー（グループ５／６）・教師による評価（目標 1,5） 第15回：授業振り返り・到達目標の確認（目標 1,2,3,4,5）
アクティブ・ラーニング	Students will work individually and in groups to express their thoughts and ideas in writing. They will create a class journal, a daily diary, write about their lives, write about news, and produce a final test on current events in the form of a talk show. Students will share many written pieces with the rest of the class in various ways.
成績評価基準	評価の方法：日記：20%　Question Crazy Card System：10%　Pen Pals：10%　News Reporting：10%　My Life（作文・発表）：10%　トークショー：30%　振り返り：10% 評価の基準：The criteria used for evaluation are English writing skills level for grammar usage and vocabulary, creativity, and the ability to clearly express thoughts and feelings.
フィードバックの方法	Feedback is given regularly after each activity. It takes the form of peer, self, and teacher feedback. Students will build a written portfolio of their work, which will be filled with feedback from the instructor, peers, and by the students themselves in the form of reflections. Regular meetings will occur between the course instructor and groups in the class.
時間外の学習について	予習：Students must prepare for class by regularly writing in their diaries, conducting research for their individual and group assignments, plus practicing for any presentations they must give throughout the course. 復習：Students are required to review assignments given by the instructor, any key points covered in class, as well as their own work which they have created. Self-review and correction is a must in this course.（予習・復習とも30分程度）
教材にかかわる情報	テキスト：授業内で必要な資料を配布します。 参考書：授業内で必要な資料を配布します。 参考資料等：
担当者からのメッセージ等実務経験について	ネイティブの教員として、また国内での中、高校での英語科教員の経験、ハイレベルなスピーチコンテストの指導者の経験等を活かして、中・高校の英語教育に不可欠な４技能の総合力を高める指導をします。

授業科目名	Advanced English Expression	教員名	ダグラス・パーキン（実務経験）（単独）	免許・資格との関係	保育士	
					幼稚園教諭	
					小学校教諭	
					中学校教諭（英語）	選択
ナンバリングコード	US3-2057-00020	年次配当	３年後期		高等学校教諭（英語）	選択
授業形態	演習				特別支援学校教諭	
単位数	1			卒業要件	初等幼児教育専攻	
					中等教育専攻	選択
科目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校・高等学校）					
各科目に含めることが必要な事項	教科に関する専門的事項					
教科目						
系列						
授業テーマ						
授業概要	4技能を統合的に扱う上級レベルの授業です。自分で作成した英語の原稿を用いてプレゼンテーションを行います。聞き手を納得させるためにはどのような点に気をつけるべきかを体験的に学びます。個人、グループで様々なプロダクション活動に従事します。					

達成目標	科目DP：(5)				
DP番号	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)
1．目的に焦点を合わせてその内容を文字モードで表現することができる。			○		◎
2．収集した情報を論理性に考慮しながら文字モードで表現することができる。			○		◎
3．内容を効果的に伝える方法に配慮しながら文字モードで表現することができる。			○		◎
4．聴衆の反応に配慮しながら伝えるべき意味内容を効果的に伝えることができる。			○		◎

履修条件・注意事項	
授業計画	第１回：ライティングプロセスについての説明（目標 1,3） 第２回：自由日記・スピーチライティング・自叙伝（目標 1,2,3） 第３回：Mini Group Plays・ファンタジー・スピーチライティング・自叙伝（目標 1,2,3,4） 第４回：Mini Group Plays・スピーチ・自叙伝発表・Final Group Plays準備（目標 1,2,3,4） 第５回：スピーチ・自叙伝発表・Final Group Plays原稿作成（目標 1,2,3,4） 第６回：ファンタジー・Mini Group Plays・Final Group Plays進捗状況確認（目標 1,2,3,4） 第７回：スピーチ・自叙伝発表・Final Group Plays草稿完成（目標 1,24） 第８回：ファンタジー・スピーチ・自叙伝・Final Group Plays原稿提出（目標 1,4） 第９回：ファンタジー・Final Group Plays原稿修正（目標 1,24） 第10回：ファンタジー・Final Group Plays準備物確認（目標 1,4） 第11回：Final Group Playsリハーサル・順番決定（目標 3,4） 第12回：Final Group Plays（グループ1/2）・自己評価・振り返り（目標 4） 第13回：Final Group Plays（グループ3/4）・他己評価・振り返り（目標 4） 第14回：Final Group Plays（グループ5/6）・教師による評価・振り返り（目標 4） 第15回：振り返り・到達目標の確認（目標 1,2,3,4）
アクティブ・ラーニング	This course is advanced actively as students are to express themselves using every skill they have achieved in English writing and in creative expression. They will work individually and in groups to create a fictional daily diary, research and present a speech, create a memoir, produce a class manga fantasy book, and produce plays.
成績評価基準	評価の方法：自由日記：10%　ファンタジー：10%　Question Crazy Card System：10%　自叙伝（ライティング・発表）：10%　スピーチ：10%　Mini Group Plays：10%　Final Group Plays：30%　振り返り：10% 評価の基準：The criteria used for evaluation are students' ability to express themselves in written and in spoken form, as well as creativity and the ability to clearly express thoughts and feelings.
フィードバックの方法	Feedback is given regularly after each activity. It takes the form of peer, self, and teacher feedback. Students will build a written portfolio of their work, which will be filled with feedback from the instructor, peers, and by the students themselves in the form of reflections. Regular meetings will occur between the course instructor and groups in the class.
時間外の学習について	予習：Students must prepare for class by regularly writing in their fictional diaries, conducting research for their individual and group assignments, plus practicing for any presentations they must give throughout the course. 復習：Students are required to review assignments given by the instructor, any key points covered in class, as well as their own work which they have created. Self-review and correction is a must in this course.（予習・復習とも30分程度）
教材にかかわる情報	テキスト：授業内で必要な資料を配布します。 参考書：授業内で必要な資料を配布します。 参考資料等：
担当者からのメッセージ等実務経験について	ネイティブの教員として、また国内での中、高校での英語科教員の経験、ハイレベルなスピーチコンテストの指導者の経験等を活かして、中・高校の英語教育に不可欠な４技能の総合力を高める指導をします。

授業科目名	異文化コミュニケーション	教員名	福屋　利信（単独）	免許・資格との関係	保育士	
					幼稚園教諭	
					小学校教諭	
					中学校教諭（英語）	選択
ナンバリングコード	US2-2058-00020	年次配当	２年後期		高等学校教諭（英語）	選択
授業形態	演習				特別支援学校教諭	
単位数	2			卒業要件	初等幼児教育専攻	
					中等教育専攻	選択
科目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校・高等学校）					
各科目に含めることが必要な事項	教科に関する専門的事項					
教科目						
系列						
授業テーマ	毎回異なるテーマを多角的に読みながら、異文化・国際理解の方法を確認していく。イギリス文化の特質を学びながら読解力と作文力の向上を目指す。内容把握問題、文法事項の練習問題、英語表現問題等でも英語力を鍛えられることになる。					
授業概要	毎回、その章に出てくる重要語彙を確認し、英文本文を読み、内容の理解を確認する問題に取り組み、後置されている諸々の練習問題を解いてゆき、当該賞の完全なる理解の確認作業をする。					

達成目標	科目DP：(5)				
DP番号	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)
1．異文化コミュニケーションの概念が理解できる。			○		◎
2．諸々の練習問題を完全に理解する。		○	◎		
3．異文化に暮らす人々の考えを理解し、共感を持つ人間になることが可能となる。		○			◎

履修条件・注意事項	
授業計画	第１回：The Royal Mail（通信）（目標 1,2,3） 第２回：British Sports Everywhere（スポーツ）（目標 1,2,3） 第３回：The Beatles Forever!（音楽）（目標 1,2,3） 第４回：From the Cradle to the Grave?（薬）（目標 1,2,3） 第５回：Great Novelists（文学）（目標 1,2,3） 第６回：History of the Royal Families（王室）（目標 1,2,3） 第７回：Pound or Euro?（通貨）（目標 1,2,3） 第８回：What is the Tube?（交通）（目標 1,2,3） 第９回：Two-Party Politics?（政治）（目標 1,2,3） 第10回：Art Collections in Britain（芸術）（目標 1,2,3） 第11回：New House, Old House（住宅）（目標 1,2,3） 第12回：Are British Foods Tasty?（食べ物）（目標 1,2,3） 第13回：Newspaper, TV or iPad?（メディア）（目標 1,2,3） 第14回：Public School and Hogwarts（教育）（目標 1,2,3） 第15回：VAT and Consumption（税金）（目標 1,2,3） 定期試験
アクティブ・ラーニング	ディスカッションとロールプレイ
成績評価基準	評価の方法：定期試験（70%）、毎回の授業での積極的姿勢（発表等）（30%） 評価の基準：
フィードバックの方法	授業で学んだことを理解しているか否かを調べるために毎回、次回の授業で受講生全員に確認する。
時間外の学習について	予習：毎回の授業内容分を一通り目を通しておくこと。各回30分程度 復習：授業で特に力説された個所を丸暗記するくらいにしっかりと頭に叩き込むこと。 各回30分程度
教材にかかわる情報	テキスト：Cross-Cultural Views on Britain（南雲堂、2,160円） 参考書等：英書・和書による異文化コミュニケーション関係の類書はその都度、教室で紹介する。
担当者からのメッセージ等実務経験について	すべてにおいて「継続は力なり」を心に銘記しておいて欲しい。

授業科目名	異文化理解	教員名	岩中　貴裕 (実務経験) (単独)	免許・資格との関係	保育士	
					幼稚園教諭	
					小学校教諭	
					中学校教諭(英語)	必修
ナンバリングコード	US2-2059-00010	年次配当	2年前期		高等学校教諭(英語)	必修
授業形態	講義				特別支援学校教諭	
単位数	2			卒業要件	初等幼児教育専攻	選択
					中等教育専攻	選択

科目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校・高等学校）
各科目に含めることが必要な事項	教科に関する専門的事項
教科目	
系列	
授業テーマ	異文化受容・他者理解
授業概要	他者理解・異文化理解の重要性及び現状と課題について学ぶ。併せて、英語が使われている国・地域の文化を通じて、英語による表現力への理解を深める。

達成目標

	科目DP：(5)				
	DP番号 (1)	(2)	(3)	(4)	(5)
1．世界の文化の多様性や異文化コミュニケーションの現状と課題を理解している。			○		◎
2．多様な文化的背景を持った人々との交流を通して文化の多様性及び異文化理解の意義について体験的に理解している。			○		◎
3．英語が使われている国・地域の歴史・社会・文化について基本的な内容を理解している。			○		◎
4．価値観や考え方の異なる人と協力して協同作業に取り組むことができる。			○		◎

履修条件・注意事項

授業計画

第１回：ガイダンス（授業の進め方・異文化理解の重要性について）（目標 1）
第２回：異文化を理解する（目標 1,2）
第３回：文化の氷山モデル（目標 1,2）
第４回：トータルカルチャーとサブカルチャー（目標 1,2）
第５回：異文化適応（目標 1,2）
第６回：地域の外国人（ALT等）との交流・ディスカッション（目標 1,2）
第７回：違いに気づく（目標 1,2）
第８回：異文化の認識（目標 1,2）
第９回：差別を考える（目標 1,2）
第10回：世界の価値観（目標 1,2）
第11回：異文化トレーニング：劇の企画（目標 1,2,3,4）
第12回：異文化トレーニング：劇の上演（目標 1,2,3,4）
第13回：異文化受容（目標 1,2）
第14回：非言語コミュニケーション（目標 1,2）
第15回：多文化共生社会の実現に向けて（目標 1,2,3,4）

アクティブ・ラーニング	グループでプロジェクト活動に取り組む。
成績評価基準	評価の方法：授業での貢献（発表・ディスカッション）：40%　　レポート：20%　　劇制作：40% 評価の基準：態度と意欲を重視した評価を行う。
フィードバックの方法	課題等は授業担当者のコメントを添えて返却します。
時間外の学習について	予習：教科書の指定された箇所の内容を理解し、要点をまとめてから授業に臨んでください。 復習：授業で出された指示に従って振り返りのレポートを作成してください。 （予習・復習とも45分程度）
教材にかかわる情報	テキスト：原沢伊都夫（2013）『グローバルな時代を生きるための異文化理解入門』研究社 参考書：授業内でプリントを配布する。 参考資料等：
担当者からのメッセージ等 実務経験について	異文化は私たちの日常生活の中に様々な形で存在しています。この授業を通してそれに気づき、受け入れる能力を習得しましょう。 高等学校での実務経験に基づいて異文化トレーニング等について話をします。

授業科目名	英語科教育法Ⅰ	教員名	岩中　貴裕 (実務経験) (単独)	免許・資格との関係	保育士	
					幼稚園教諭	
					小学校教諭	
					中学校教諭(英語)	必修
ナンバリングコード	US2-2060-00010	年次配当	2年前期		高等学校教諭(英語)	必修
授業形態	講義				特別支援学校教諭	
単位数	2			卒業要件	初等幼児教育専攻	
					中等教育専攻	選択

科目	教科及び教職に関する科目（中学校・高等学校　英語）教科及び教科の指導法に関する科目
各科目に含めることが必要な事項	各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）
教科目	
系列	
授業テーマ	英語指導方法に対する理解
授業概要	本講義によって中学校及び高等学校における外国語（英語）の学習・指導に関する知識と授業指導の基礎を身に付ける。ディスカッション、グループプレゼンテーション、授業観察、模擬授業を通して生徒がコミュニケーションのツールとして英語を使えるようになるためにはどのような授業を行うべきかについて理解を深める。

達成目標	科目DP：(5)				
DP番号	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)
1．中学校及び高等学校の外国語（英語）の学習指導要領と教科用図書について理解している。				○	◎
2．聞くことの指導と読むことの指導について理解し、授業指導に生かすことができる。				○	◎
3．話すことの指導と書くことの指導について理解し、授業指導に生かすことができる。				○	◎
4．学習到達目標に基づく授業の組み立てを理解し、授業指導に生かすことができる。				○	◎
5．教材及びICT機器の活用について理解し、授業指導に生かすことができる。				○	◎

履修条件・注意事項	中・高等学校の英語教員免許取得を希望している者
授業計画	第１回：英語教育と英語科教育の違い・教科用図書とは？　（目標 1） 第２回：英語の授業構成・DVDによる授業観察　（目標 4） 第３回：音声と文字の指導　（目標 2） 第４回：リスニング指導　（目標 2） 第５回：スピーキング（やり取り）指導　（目標 3） 第６回：スピーキング（発表）指導　（目標 3） 第７回：リーディング指導　（目標 2） 第８回：ライティング指導　（目標 3） 第９回：英語の授業におけるICT機器の活用　（目標 5） 第10回：授業担当者による模範授業に生徒として参加　（目標 4） 第11回：教室の使用言語　（目標 4） 第12回：授業の準備と計画・学習指導案の作成　（目標 4） 第13回：学生による模擬授業第一グループ・リフレクション　（目標 1,2,3,4,5） 第14回：学生による模擬授業第二グループ・リフレクション　（目標 1,2,3,4,5） 第15回：現状と課題の確認　（目標 1,2,3,4,5）
アクティブ・ラーニング	模擬授業，グループワークを取り入れる。
成績評価基準	評価の方法：成績は下記の点を考慮して総合的に判定します。 授業での貢献（発表・質問）：25%　授業内ミニレポート：25%　模擬授業：30% レポート：20% 評価の基準：意欲と態度を重視した評価を行う。
フィードバックの方法	課題等は授業担当者のコメントを添えて返却します。
時間外の学習について	予習：テキストの指定された箇所を読んで、内容をまとめた上で授業に臨んでください。 各回30分程度 復習：振り返りのレポートが課されます。授業内の指示に従って作成し、提出してください。 各回30分程度
教材にかかわる情報	テキスト：中学校学習指導要領、高等学校学習指導要領、文部科学省（著）『中学校学習指導要領解説 外国語編』 文部科学省（著）『高等学校学習指導要領解説 外国語編』、笹島準一他『New Horizon English Course 1/2/3』 参考書：JACET教育問題研究会（編）『新しい時代の英語教育の基礎と実践』 参考資料等：
担当者からのメッセージ等実務経験について	自信を持って教育実習に臨めるように、真面目に取り組んでください。この授業を通して「英語を英語で」教えるスキルを身につけましょう。 高等学校での実務経験に基づいて英語指導方法の基礎について話をします。

授業科目名	英語科教育法Ⅱ	教員名	岩中　貴裕 (実務経験) (単独)	免許・資格との関係	保育士	
					幼稚園教諭	
					小学校教諭	
					中学校教諭(英語)	必修
ナンバリングコード	US2-2061-00010	年次配当	2年後期		高等学校教諭(英語)	必修
授業形態	講義				特別支援学校教諭	
単位数	2			卒業要件	初等幼児教育専攻	
					中等教育専攻	選択

科目	教科及び教職に関する科目（中学校・高等学校　英語）教科及び教科の指導法に関する科目
各科目に含めることが必要な事項	各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）
教科目	
系列	
授業テーマ	英語指導方法に対する理解
授業概要	本講義によって中学校及び高等学校における外国語（英語）の学習・指導に関する知識と授業指導及び学習評価の基礎を身に付ける。小学校の外国語活動・外国語の学習指導要領並びに教材・教科書について理解を深め、小・中・高等学校間の連携について考える。また年間指導計画・単元計画・各時間の指導計画及び授業の組み立てについて理解し、学習指導案の作成方法を身に付ける。

達成目標

	科目DP：(5)				
DP番号	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)
1．学習指導要領の「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力等」、「学びに向かう力等」の3つの資質・能力とともに、領域別の学習到達目標の設定、年間指導計画、単元計画、各授業時間の指導計画について理解している。				○	◎
2．小学校の外国語活動・外国語の学習指導要領や教科用図書等の教材、並びに小・中・高等学校を通した英語教育の在り方の基本について理解している。				○	◎
3．複数の領域を統合した言語活動の指導について理解し、授業指導に生かすことができる。				○	◎
4．英語の音声的な特徴に関する指導について理解し、授業指導に生かすことができる。				○	◎
5．文字の指導について理解し、授業指導に生かすことができる。				○	◎
6．語彙・表現に関する指導について理解し、授業指導に生かすことができる。				○	◎
7．文法に関する指導について理解し、授業指導に生かすことができる。				○	◎
8．学習指導案の作成について理解し、授業指導に生かすことができる。				○	◎

履修条件・注意事項	自分が教える立場になる時に注意しておくべき点があります。自分が教えられた方法で教えてはいけないということです。指導方法は進歩しています。先入観を持たずに授業に参加してください。
授業計画	第１回：3つの資質・能力と英語科教育が目指すもの　(目標 1) 第２回：専門性向上のためのポートフォリオ（J-POSTL）(目標 1,2,3,4,5,6,7,8) 第３回：日本人英語学習者にとって習得が困難な英語の音声　(目標 4) 第４回：統合的アウトプット活動：ディクトグロス・誘導要約・テキストの書き直し　(目標 3) 第５回：複数領域を統合した言語活動　(目標 3) 第６回：小・中・高等学校間の連携　(目標 2) 第７回：音声と文字の指導：フォニックス　(目標 4,5) 第８回：語彙・表現の指導　(目標 6) 第９回：文法指導　(目標 7) 第10回：様々な言語活動　(目標 3) 第11回：授業担当者による模範授業に生徒として参加　(目標 1,2,3,4,5,6,7,8) 第12回：授業の準備と計画・学習指導案の作成　(目標 1,2,3,4,5,6,7,8) 第13回：学生による模擬授業第一グループ・リフレクション　(目標 1,2,3,4,5,6,7,8) 第14回：学生による模擬授業第二グループ・リフレクション　(目標 1,2,3,4,5,6,7,8) 第15回：現状と課題の確認　(目標 1,2,3,4,5,6,7,8)
アクティブ・ラーニング	模擬授業，グループワークを取り入れる。
成績評価基準	評価の方法：成績は下記の点を考慮して総合的に判定します。 授業での貢献：20%　授業内ミニレポート：20%　模擬授業：30% リフレクション：30% 評価の基準：受講生の意欲と態度を重視する。
フィードバックの方法	課題等は授業担当者のコメントを添えて返却します。
時間外の学習について	予習：テキストの指定された箇所を読んで、内容をまとめた上で授業に臨んでください。 各回30分程度 復習：振り返りのレポートが課されます。授業内の指示に従って作成し、提出してください。 各回30分程度
教材にかかわる情報	テキスト：中学校学習指導要領、高等学校学習指導要領、JACET教育問題研究会（編）『新しい時代の英語教育の基礎と実践』三修社 参考書：米山朝二他『英語科教育実習ハンドブック』大修館書店 参考資料等：
担当者からのメッセージ等実務経験について	自信を持って教育実習に臨めるように、真面目に取り組んでください。この授業を通して「英語を英語で」教えるスキルを身につけましょう。 高等学校での実務経験に基づいて英語指導方法の実践について話をします。

授業科目名	英語科教育法Ⅲ	教員名	中垣　謙司（単独）	免許・資格との関係	保育士	
					幼稚園教諭	
					小学校教諭	
ナンバリングコード	US3-2062-00020				中学校教諭(英語)	必修
					高等学校教諭(英語)	必修
授業形態	講義	年次配当	3年前期		特別支援学校教諭	
				卒業要件	初等幼児教育専攻	
単位数	2				中等教育専攻	選択

科目	教科及び教職に関する科目（中学校・高等学校　英語）教科及び教科の指導法に関する科目
各科目に含めることが必要な事項	各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）
教科目	
系列	
授業テーマ	グローバル社会の急速な進展により、実践的なコミュニケーション能力の育成が喫緊の課題となり、小・中・高等学校を通じた系統的な外国語教育の充実が求められている。学習指導要領を理解し、具体的な指導の在り方を身につける。
授業概要	本講義では、小学校の外国語活動・外国語の学習指導要領及び教科用図書等の教材について知るとともに、小・中・高等学校を通した英語教育の連携の在り方について理解する。また、学習者が第二言語・外国語を習得するプロセスについての基礎的な内容や観点別評価の在り方を理解するとともに、異文化に関する指導・英語でのインタラクションについても理解を深め、実際の授業における指導に生かすことができるようにする。

達成目標	科目DP：(5)				
DP番号	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)
1．小学校の外国語活動・外国語の学習指導要領、教科用図書等の教材、並びに小・中・高等学校の連携を視野に入れた英語教育の在り方の基本について理解している。				○	◎
2．第二言語習得論とその活用について理解し、授業指導に生かすことができる。				○	
3．異文化に関する指導について理解し、実際の授業における指導に生かすことができる。				○	◎
4．英語でのインタラクションについて理解し、実際の授業における指導に生かすことができる。				○	◎
5．観点別学習状況の評価について理解し、実際の授業における指導に生かすことができる。				○	◎

履修条件・注意事項	中・高等学校の英語教員免許取得を希望している者
授業計画	第１回：小学校外国語活動の現状・小学校外国語導入の経緯及び小・中・高等学校の連携　（目標 1） 第２回：小学校外国語活動・外国語の学習指導要領及び教科用図書等教材等　（目標 1） 第３回：小・中・高等学校を通した英語教育の在り方　（目標 1） 第４回：第二言語習得論とその活用　（目標 2） 第５回：異文化理解・異文化に関する指導の方向性　（目標 3） 第６回：英語でのインタラクション　（目標 4） 第７回：観点別学習状況の評価　（目標 5） 第８回：小・中連携を視野に入れた学習指導案（導入部分）の作成　（目標 1,2,3,4,5） 第９回：小・中・高等学校連携を視野に入れた学習指導案（導入部分）の作成　（目標 1,2,3,4,5） 第10回：学習指導案（展開部分）の作成　（目標 1,2,3,4,5） 第11回：学習指導案（まとめ・振り返り部分）の作成　（目標 1,2,3,4,5） 第12回：導入部分を中心とした模擬授業　（目標 1,2,3,4,5） 第13回：展開部分を中心とした模擬授業　（目標 1,2,3,4,5） 第14回：まとめ・振り返り部分を中心とした模擬授業　（目標 1,2,3,4,5） 第15回：現状と課題の確認（目標 1,2,3,4,5）
アクティブ・ラーニング	ペアワーク、グループワーク、プレゼンテーション、模擬授業等
成績評価基準	評価の方法：授業への取組：20%　　課題・小テスト：30%　　模擬授業：50% 評価の基準：クラスルームイングリッシュを活用し、小・中学校の連携を意識した授業が実践できる。学習指導要領を踏まえた４技能を育成するための教科書の活用・教材研究の在り方を理解している。
フィードバックの方法	模擬授業後や配布プリント等で随時個別還元指導
時間外の学習について	予習：指定された単元について概要を理解しておく。各回45分程度 復習：既習内容を理解し、実際に実践できるようにする。各回45分程度
教材にかかわる情報	テキスト：資料配付 参考書：中学校学習指導要領、高等学校学習指導要領、伊東治己 著『インタラクティブな英語リーディングの指導』研究社 馬場今日子他 著『第二言語習得論講義―英語学習への複眼的アプローチ』大修館書店、村野井仁他 著『実践的英語科教育法　総合的コミュニケーション能力を育てる指導』成美堂、文部科学省 著『小学校外国語活動・外国語研修ガイドブック』、文部科学省 著『中学校学習指導要領解説 外国語編』、文部科学省 著『高等学校学習指導要領解説 外国語編』 参考資料等：随時プリント配布
担当者からのメッセージ等実務経験について	英語はコミュニケーションの手段です。単なる言語材料（文法知識）等の詰め込みにならず、また英語が苦手な生徒に配慮するという視点を忘れず、学習指導要領を理解し、英語が使用される場面や目的を意識した言語活動を実践していくという姿勢を身につけてください。

授業科目名	英語科教育法Ⅳ	教員名	中垣　謙司（単独）	免許・資格との関係	保育士	
					幼稚園教諭	
					小学校教諭	
					中学校教諭（英語）	必修
ナンバリングコード	US3-2063-00020	年次配当	３年後期		高等学校教諭（英語）	必修
授業形態	講義				特別支援学校教諭	
単位数	2			卒業要件	初等幼児教育専攻	
					中等教育専攻	選択

科目	教科及び教職に関する科目（中学校・高等学校　英語）教科及び教科の指導法に関する科目
各科目に含めることが必要な事項	各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）
教科目	
系列	
授業テーマ	グローバル社会の急速な進展により、実践的なコミュニケーション能力の育成が喫緊の課題となり、外国語教育の充実が求められている。評価の視点を意識した具体的な指導の在り方を身につける。
授業概要	本講義では、ALT等とのT・Tの方法、生徒の特性や習熟度に応じた指導を学んだ上で、中・高等学校における年間を通した学習到達目標に基づく評価の在り方、観点別学習状況の評価に基づく各単元における評価規準の設定、評定への総活の仕方について理解する。また、生徒が話したり書いたりする活動の過程や結果を評価する方法等、言語能力の測定と評価の方法についても理解する。最終的に、指導と評価の一体化を視野に入れた学習指導案（ALT等の活用を含む）を作成し、その指導案に沿って授業ができることをめざす。

達成目標	科目DP：(5)				
DP番号	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)
1．ALT等とのT・Tについて理解し、実際の授業における指導に生かすことができる。				○	◎
2．生徒の特性・習熟度への対応について理解し、実際の授業における指導に生かすことができる。				○	◎
3．観点別学習状況の評価とそれに基づく評価規準の設定や総括、並びに言語能力の測定と評価（パフォーマンス評価等を含む）について理解し、指導に生かすことができる。				○	◎
4．指導と評価の一体化を視野に入れた学習指導案の基本的な作成ができる。				○	◎

履修条件・注意事項	中・高等学校の英語教員免許取得を希望している者
授業計画	第１回：ALT等とのT・Tの在り方　（目標 1） 第２回：生徒の特性・習熟度への対応　（目標 2） 第３回：観点別学習状況の評価及びそれに基づく評価規準の設定　（目標 3） 第４回：CAN-DO リスト・評価規準の総括　（目標 3） 第５回：言語能力の測定と評価　（目標 3） 第６回：指導と評価の一体化　（目標 3,4） 第７回：ALT等を活用した学習指導案（導入部分）の作成　（目標 1,2） 第８回：ALT等を活用した学習指導案（展開部分）の作成　（目標 1,2,3） 第９回：ALT等を活用した学習指導案（まとめ・振り返り部分）の作成　（目標 1,2,3,4） 第10回：模擬授業　（目標 1,2,3,4） 第11回：模擬授業　（目標 1,2,3,4） 第12回：模擬授業　（目標 1,2,3,4） 第13回：模擬授業　（目標 1,2,3,4） 第14回：模擬授業　（目標 1,2,3,4） 第15回：現状と課題の確認　（目標 1,2,3,4） 定期試験
アクティブ・ラーニング	ペアワーク、グループワーク、プレゼンテーション、模擬授業等
成績評価基準	評価の方法：授業への取組：20%　　課題・小テスト：30%　　模擬授業：50% 評価の基準：クラスルームイングリッシュを駆使し、意味内容・言語形式・言語機能を意識した授業が実践できる。 評価の視点をもち、４技能を育成するための教科書の活用・教材研究の在り方を理解している。
フィードバックの方法	模擬授業後や配布プリント等で随時個別還元指導
時間外の学習について	予習：指定された単元について概要を理解しておく。各回45分程度 復習：既習内容を理解し、実際に実践できるようにする。各回45分程度
教材にかかわる情報	テキスト：資料配付 参考書：中学校学習指導要領、高等学校学習指導要領、望月昭彦他 編 『英語４技能評価の理論と実践―CAN-DO・観点別評価から技能統合的活動の評価まで』大修館書店、望月正道他 著『英語で教える英語の授業―その進め方・考え方』大修館書店 文部科学省 著 『中学校学習指導要領解説 外国語編』、文部科学省 著 『高等学校学習指導要領解説 外国語編』 参考資料等：随時プリント配布
担当者からのメッセージ等実務経験について	英語はコミュニケーションの手段です。単なる言語材料（文法知識）等の詰め込みにならず、また英語が苦手な生徒に配慮するという視点を忘れず、学習指導要領を理解し、英語が使用される場面や目的を意識した言語活動を実践していくという姿勢を身につけてください。

授業科目名	総合的な学習の時間の指導法（中・高）	教員名	藤上　真弓（単独）	免許・資格との関係	保育士	
					幼稚園教諭	
					小学校教諭	
					中学校教諭(英語)	必修
ナンバリングコード	US2-2064-00010	年次配当	２年後期		高等学校教諭(英語)	必修
授業形態	講義				特別支援学校教諭	
単位数	1			卒業要件	初等幼児教育専攻	
					中等教育専攻	選択

科目	教科及び教職に関する科目（中学校・高等学校） 道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目
各科目に含めることが必要な事項	・総合的な学習の時間の指導法
教科目	
系列	
授業テーマ	総合的な学習の時間の原理・果すべき役割の理解
授業概要	総合的な学習の時間の教育理念や教育原理、子どもに育む資質・能力、カリキュラム・マネジメントや単元開発、授業づくり等に必要な視点や方法、考え方等について学ぶとともに、ディスカッションやグループワーク、プレゼンテーション等を通じて、実践化を図るための資質・能力を高める講義を行う。

達成目標	科目DP：(4)				
DP番号	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)
1．総合的な学習の時間の教育理念や教育原理、目標、内容、方法、課題等や、総合的な学習の時間の意義や果たすべき役割について、資質・能力の育成の視点から理解している。（総合的な学習の時間の意義や、各学校において目標及び内容を定める際の考え方を理解する）		◎	○		
2．総合的な学習の時間において、主体的・対話的で深い学びを生み出すためのカリキュラム・マネジメントや単元計画、授業づくりに必要な視点や方法、考え方等や、各教科等の関連性の図り方について理解する。（総合的な学習の時間の指導計画作成の考え方を理解し、その実現のために必要な基礎的な能力を身に付ける。）		○	○	◎	
3．探究的な学びを生み出す教師の手立てや総合的な学習の時間における評価方法について理解する。（総合的な学習の時間の指導と評価の考え方および実践上の留意点を理解する。）		○	○	◎	

履修条件・注意事項	
授業計画	第１回：総合的な学習の時間の意義と果たす役割（目標、教育理念、教育原理、カリキュラム・マネジメント）（目標 1,2） 第２回：主体的・対話的で深い学びを生み出すカリキュラム・マネジメント、単元デザインのポイント（目標 2,3） 第３回：総合的な学習の時間に身に付けたい資質・能力とカリキュラム・マネジメント、指導計画作成のあり方（各教科等との関連、考えるための技法やワークシートの活用のあり方）（目標 1,2,3） 第４回：目標を実現するためにふさわしい探究的な課題や探究的な学習の過程を生み出すための手立て（目標 1,2,3） 第５回：キャリア教育を取り扱う際のカリキュラム・マネジメント、単元開発・授業づくりのポイント（目標 1,2,3） 第６回：環境や福祉等、現代的課題を取り扱う際のカリキュラム・マネジメント、単元開発・授業づくりのポイント（目標 1,2,3） 第７回：地域や学校の特色に応じた課題を取り扱う際のカリキュラム・マネジメント、単元開発・授業づくりのポイント（目標 1,2,3） 第８回：総合的な学習の時間における評価（見取り、グループモデレーション等）（目標 1,3） 定期試験
アクティブ・ラーニング	ディスカッション・グループワーク
成績評価基準	・毎回授業終了時の小レポート（35%）…講義内容を踏まえて総合的な学習の時間に対する考えを表明できるか ・参加度［グループ活動、発表等］（5%）…意欲的に自分の考えを述べたり、活動に参加したりしているか ・授業内プレゼンテーション（10%）…グループディスカッションの過程や結果を論理的に説明できるか ・試験（50%）…総合的な学習の時間の存在意義や育むべき資質・能力、カリキュラム開発・単元づくり・授業づくり・評価等に関する知識・技能を修得しているか
フィードバックの方法	授業内レポートへのコメント等
時間外の学習について	予習：講義内で提示した資料や参考文献を次の講義までに読んでおくこと。各回45分程度。 復習：定期試験に備え、各回の講義内容の要旨を整理しておくこと。各回45分程度。
教材にかかわる情報	テキスト：中学校学習指導要領、高等学校学習指導要領、文部科学省「中学校学習指導要領解説総合的な学習の時間編」 文部科学省「高等学校学習指導要領解説総合的な探究の時間（名称仮）編」 参考書：文部科学省「（中学校編）今、求められる力を高める総合的な学習の時間の展開」教育図書出版社、2010 文部科学省「（高等学校編）今、求められる力を高める総合的な学習の時間の展開」教育出版,2013 文部科学省国立教育政策研究所「総合的な学習の時間における評価方法等の工夫改善のための参考資料【中学校】」教育出版、2012 文部科学省国立教育政策研究所「総合的な学習の時間における評価方法等の工夫改善のための参考資料【高等学校】」教育出版、2012 文部科学省「中学校キャリア教育の手引き」教育出版、2011 文部科学省「高等学校キャリア教育の手引き」教育出版、2012 その他、授業中に適宜資料を配布する。 参考資料等：
担当者からのメッセージ等 実務経験について	

授業科目名	道徳教育の指導法（中）	教員名	川野　哲也 （単独）	免許・資格との関係	保育士	
					幼稚園教諭	
					小学校教諭	
					中学校教諭（英語）	必修
ナンバリングコード	US2-2065-00010	年次配当	２年前期		高等学校教諭（英語）	必修
授業形態	講義				特別支援学校教諭	
単位数	2			卒業要件	初等幼児教育専攻	
					中等教育専攻	選択

科目	教科及び教職に関する科目（中学校） 道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目
各科目に含めることが必要な事項	・道徳の理論及び指導法
教科目	
系列	
授業テーマ	道徳教育の理論、道徳の指導法
授業概要	道徳教育の意義や本質等を踏まえ、学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育及びその要となる道徳科の目標や内容、指導計画等を理解するとともに、教材研究と模擬授業等を通して適切な授業計画を立案する。

達成目標

	科目DP：(4)				
DP番号	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)
１．現代社会における課題、道徳教育の意義、道徳の本質について理解する。		◎		○	
２．道徳教育の目標、内容、評価、子どもの道徳性発達について理解する。		◎		○	
３．道徳の授業計画と指導方法を理解し、自らも立案することができる。				◎	○

履修条件・注意事項	
授業計画	第１回：道徳の本質、現代における道徳教育の意義について。（いじめ、情報モラル、等）（目標 1） 第２回：道徳の本質、古代ギリシアの思想について。（ソクラテスの議論、徳とは何か、等）（目標 1） 第３回：道徳の本質、リベラリズムの思想について。（個人の自由とは何か、法と道徳、等）（目標 1） 第４回：道徳の本質、カントの思想について。（結果と動機、自律と他律、普遍的法則、等）（目標 1） 第５回：道徳教育の理論、コールバーグの理論について。（道徳性発達、等）（目標 2） 第６回：道徳教育の理論、学習指導要領の変遷について。（現代的課題、道徳科の設置、等）（目標 2） 第７回：道徳教育の理論、道徳教育の目標と内容について。（学習指導要領、全体計画と指導計画、等）（目標 2） 第８回：道徳の指導法について。（指導計画と教材研究：生活習慣、努力、希望）（目標 2,3） 第９回：道徳の指導法について。（指導計画と教材研究：誠実、善悪の判断、自由）（目標 2,3） 第10回：道徳の指導法について。（指導計画と教材研究：礼儀、親切、思いやり）（目標 2,3） 第11回：道徳の指導法について。（指導計画と教材研究：友情、相互理解、寛容）（目標 2,3） 第12回：道徳の指導法について。（指導計画と教材研究：勤労、公共の精神、学校生活）（目標 2,3） 第13回：道徳の指導法について。（指導計画と教材研究：家族愛、伝統文化、愛国心）（目標 2,3） 第14回：道徳の指導法について。（指導計画と教材研究：生命の尊さ、動植物の命）（目標 2,3） 第15回：まとめ
アクティブ・ラーニング	１～７回では、ディスカッション、８～14回では、模擬授業、ロールプレイを取り入れる。
成績評価基準	評価の方法：授業時に数回実施する確認テスト80％、レポート20％ 評価の基準：道徳教育に関する基本的事項について説明できるか、 適切な指導計画を立案できるか
フィードバックの方法	毎時最後に小課題を出す。回収の後、翌週に再度解説を行う。
時間外の学習について	予習：事前にプリントを配布するので、自分なりに考察し、分からないことは調べておくこと。 復習：授業で扱った内容については復習し、分からないことは調べておくこと。 （予習・復習とも45分程度）
教材にかかわる情報	テキスト：中学校学習指導要領、高等学校学習指導要領 参考書：西村正登著『現代道徳教育の構想』風間書房、2008年。 『新しい道徳』東京書籍（教科書）『道徳　きみがいちばんひかるとき』光村図書（教科書） 参考資料等：
担当者からのメッセージ等 実務経験について	

授業科目名	特別活動の指導法（中･高）	教員名	熊井　将太（単独）	免許・資格との関係	保育士	
					幼稚園教諭	
					小学校教諭	
ナンバリングコード	US3-2066-00010				中学校教諭(英語)	必修
		年次配当	３年後期		高等学校教諭(英語)	必修
授業形態	講義				特別支援学校教諭	
				卒業要件	初等幼児教育専攻	
単位数	2				中等教育専攻	選択
科目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目（中学校･高等学校）					
各科目に含めることが必要な事項	特別活動の指導法					
教科目						
系列						
授業テーマ	本授業では、特別活動の理論と実際について理解を深め、子どもの指導のために教師として必要とされる方法的・技術的力量の基礎を養うこと目標とする。					
授業概要	まず特別活動の理論や歴史を検討し、学校教育における特別活動の位置付け、およびその意義や課題を考察する。その後、学習指導要領の内容もふまえながら、特別活動の具体的活動（生徒会活動、学級活動、学校行事など）の指導方法を検討する。					

達成目標	科目DP：(4)				
	DP番号 (1)	(2)	(3)	(4)	(5)
1．特別活動の歴史的変遷や今日的課題をふまえ、その成立経緯と存在意義を理解する。		◎	◎		
2．学習指導要領における特別活動の位置付け、意義、目的、内容を理解する。		◎	◎	◎	
3．中・高等学校の年間行事を知り、学級指導、生徒指導、教師生活の見通しをもつことができる。				◎	
4．子どもをとりまく現状をふまえて、教科外領域での具体的な指導方法を構想する力を獲得する。	◎				◎

履修条件･注意事項	
授業計画	第１回：学校教育における特別活動の位置とその意義　(目標 1,2,4) 第２回：特別活動の歴史（１）―戦前の教科外活動―　(目標 1) 第３回：特別活動の歴史（２）―戦後学習指導要領の変遷―　(目標 1,2) 第４回：学級活動の指導（１）―学級会の現状と今日的課題―　(目標 2,3) 第５回：学級活動の指導（２）―学級会の指導実践―　(目標 3,4) 第６回：学級活動の指導（３）―班づくりの意義と課題―　(目標 2,3,4) 第７回：学級活動の指導（４）―係・当番活動のデザインと指導―　(目標 2,3,4) 第８回：学級活動の指導（５）―学級びらきの構想と指導―　(目標 2,3,4) 第９回：生徒会活動の現状と課題　(目標 2,3) 第10回：生徒活動の実践例と指導過程　(目標 3,4) 第11回：学校行事の現状と課題　(目標 2,3) 第12回：学校行事の実践例と指導過程―行事を通じた学校づくり―　(目標 3,4) 第13回：部活動の現状と課題　(目標 2,3) 第14回：部活動の実践例と指導過程　(目標 3,4) 第15回：特別活動の今日的課題―子どもをとりまく環境の変化―　(目標 1,2,3)
アクティブ･ラーニング	ディスカッション、グループワーク
成績評価基準	評価の方法：毎時の授業で行うポートフォリオ型小レポートおよび学期末の課題レポートから総合的に評価する。 評価の基準：教師という立場に立って特別活動の指導を考えることができているかを評価する。
フィードバックの方法	・発表については、振り返り講評を行う。 ・小レポートから意見や質問を取り出し、次時に応答を行う。
時間外の学習について	予習・復習の方法については授業内で指示を行う。例えば、配布された教育実践記録を講読してくる、提示された課題について自身の考えをまとめてくる、等。(各回でおよそ１時間程度)
教材にかかわる情報	テキスト：特になし。 参考書：中学校学習指導要領、高等学校学習指導要領、山田浩之編『特別活動論』協同出版、2014年。文部科学省『中学校学習指導要領解説　特別活動編』、文部科学省『高等学校学習指導要領解説　特別活動編』 参考資料等：
担当者からのメッセージ等実務経験について	

授業科目名	生徒・進路指導論（中・高）	教員名	森　俊博 （実務経験） 田代　直人	免許・資格との関係	保育士	
					幼稚園教諭	
					小学校教諭	
					中学校教諭（英語）	必修
ナンバリングコード	US3-2067-00010	年次配当	３年前期		高等学校教諭（英語）	必修
授業形態	講義				特別支援学校教諭	
単位数	2			卒業要件	初等幼児教育専攻	
					中等教育専攻	選択
科目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目（中学校・高等学校）					
各科目に含めることが必要な事項	特別活動の指導法					
教科目	専門教育科目（保育士）					
系列						
授業テーマ	生徒指導の理論と方法、進路指導の理論と方法、生徒指導・進路指導の推進体制					
授業概要	生徒指導、進路指導の理論と方法を中心に講義を行う					

達成目標	（2）科目DP：				
	DP番号	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)
	1．生徒指導の基本的考え方を理解することができる。		◎			
	2．生徒指導の方法について理解することができる。		◎			
	3．進路指導の基本的考え方を理解することができる。		◎			
	4．進路指導の方法について理解することができる。		◎			
	5．生徒指導・進路指導の推進体制について理解することができる。		◎			

履修条件・注意事項	
授業計画	第１回：オリエンテーション～授業のねらい、授業の内容、評価の方法等の説明　（目標 1,2,3,4,5） 第２回：生徒指導の基本的考え方（１）～生徒指導のねらいと意義、教育課程と生徒指導　（目標 1） 第３回：生徒指導の基本的考え方（２）～児童の発達と理解　（目標 1） 第４回：生徒指導の基本的考え方（３）～集団指導・個別指導の方法原理　生徒指導の評価　（目標 1） 第５回：生徒指導の推進（１）～いじめ問題への実践的対応　（目標 2） 第６回：生徒指導の推進（２）～校内暴力、不登校への実践的対応　（目標 2） 第７回：生徒指導の推進（３）～インターネット・携帯電話にかかわる問題、生活習慣の問題などへの実践的対応（目標 2） 第８回：進路指導の基本的考え方（１）～進路指導における「職業」の概念、進路指導のねらい、社会の変容と進路指導　（目標 3） 第９回：進路指導の基本的考え方（２）～進路指導の定義、進路指導概念のポイント　（目標 3） 第10回：キャリア教育の推進（１）～基本的な考え方と充実方策、社会的・職業的自立、学校から社会・職業への円滑な移行に必要な力、キャリア教育重視の背景（ニート問題等）（目標 3） 第11回：キャリア教育の推進（２）～各学校段階における指針のポイント　（目標 4） 第12回：キャリア教育の推進（３）～中学校・高等学校における指導計画の事例的考察　（目標 4） 第13回：生徒指導・進路指導の推進体制（１）～学校経営の原理、職員体制、校務分掌組織　（目標 5） 第14回：生徒指導・進路指導の推進体制（２）～学校と家庭・地域の連携　（目標 5） 第15回：「ガイダンス」としての生徒指導・進路指導の源流の探求～米国における職業指導（vocationalguidance）の発展とその背景定期試験
アクティブ・ラーニング	コメントシート，ディスカッション
成績評価基準	授業の一定区分終了時のレポート（40%）：基本的原理や進め方のポイントについて理解しているか 試験（60%）：基本的事項（生徒・進路指導に関する考え方・基本的知識）を修得しているか
フィードバックの方法	提出されたレポートはコメントして返却する。
時間外の学習について	予習：講義資料を読んでくること。 復習：毎時間の授業について復習し、不明な点があれば教員に質問すること。 （予習・復習とも45分程度）
教材にかかわる情報	テキスト：生徒指導提要、田代直人他編著『新しい教育の原理』ミネルヴァ書房　2010年、中央教育審議会答申『今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について』2011年、文部科学省『中学校キャリア教育の手引き』2011年、文部科学省『高等学校キャリア教育の手引き』2011年 参考書：田代直人『米国職業教育・職業指導の展開』風間書房　1995年　他 参考資料等：
担当者からのメッセージ等 実務経験について	

授業科目名	教職概論（中・高）	教員名	松村　納央子（単独）	免許・資格との関係	保育士	
					幼稚園教諭	
					小学校教諭	
					中学校教諭（英語）	必修
ナンバリングコード	US1-2068-00010	年次配当	1年前期		高等学校教諭（英語）	必修
授業形態	講義				特別支援学校教諭	
単位数	2			卒業要件	初等幼児教育専攻	
					中等教育専攻	必修

科目	教育の基礎的理解に関する科目（中学校・高等学校）
各科目に含めることが必要な事項	教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む。）
教科目	
系列	
授業テーマ	教職の○○、意義、教員養成制度、教師の専門職性
授業概要	この講義で教員としての基本的な資質を養うとともに、将来教職に就くにあたって基礎的基本的事項を考察する。教師をとりまく状況、教職の意義と魅力、学校教育活動の諸場面における教員の役割、職務内容、組織として「チーム学校」の一員として諸課題に対応することについて話題を提供し、ディスカッションやグループプレゼンテーション等を通じて教職への理解を深める。

達成目標

	科目DP：(2)				
DP番号	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)
1．わが国における今日の学校教育や教職の社会的意義：公教育の目的を踏まえ、その担い手である教員の存在意義を理解する／受講生の進路選択に向け、他の職業と比較しつつ教職の職業的特徴を理解する		◎	○	○	
2．教員の役割・資質能力：教職観の変遷を踏まえ、現在求められている教員の役割を理解する／その役割を担うための基礎的な資質能力について理解する		◎	○	○	
3．教員の職務内容の全体像並びに教員に課せられる服務上・身分上の義務：児童生徒理解に基づく教育活動に関わる職務の全体像を理解する／「学び続ける教員」であるための研修の意義および制度上の位置づけを理解する／教員に課せられる服務上・身分上の義務及び身分保障を理解する		◎	○	○	
4．学校内外の専門家との連携・分担して対応することの必要性：学校が担う役割の拡大や多様化に対応するために、チームとして組織的に諸課題に対応する重要性を理解する		◎	○	○	

履修条件・注意事項	テキスト等を事前に読んで、授業に臨むこと。
授業計画	第１回：教職の位置づけ－公教育の目的と教員（目標 1） 第２回：教員養成の歴史－社会の近代化に伴う教員養成制度の発達について（目標 1,2） 第３回：歴史の中の教師像・教師モデル－教師に求められる役割の多様性について（目標 1,2） 第４回：教師の役割と仕事（1）－授業研究について（目標 1,2,3） 第５回：教師の役割と仕事（2）－校務分掌と職責について（目標 1,2,3,4） 第６回：教師の役割と仕事（3）－教員の研修制度について（目標 1,2,3,4） 第８回：教師の役割と仕事（4）－「チーム学校」の一員として取り組む生徒指導（目標 1,2,3,4） 第８回：教師の役割と仕事（5）－「チーム学校」の一員として取り組む進路指導、キャリア教育（目標 1,2,3,4） 第９回：教師の役割と仕事（6）－「チーム学校」の一員として取り組むインクルーシブ教育システム構築（目標 1,2,3,4） 第10回：教員の任用と服務－教員の職業倫理や服務規定について（目標 1,2,3） 第11回：教職への進路選択と教員採用－大学での学び、教員採用試験と採用プロセスについて（目標 1,2,3） 第12回：教師のライフコース－「学び続ける教員」像と各ステージ（目標 1,2,3） 第13回：教師の専門職性－「専門職」としての教師モデルとその果たすべき役割について（目標 1,2,3） 第14回：教師の同僚性と学校づくり－教師の協働による学校づくりの方策とその具体例について（目標 1,2,3,4） 第15回：教育改革の中の教師－近年の教育改革動向について（目標 1,2,3,4） レポート
アクティブ・ラーニング	グループワーク、プレゼンテーション
成績評価基準	評価の方法：・毎回授業終了時の小レポート（30%）…教職に対する受講生の適性や意欲を表明できるか ・レポート（70%）…教職に関する基礎的基本的事項（教員の存在意義、教職に求められている役割、職務内容、校内外の多様な専門性を持つ人材との効果的な連携・分担のあり方など）を修得しているか 評価の基準：
フィードバックの方法	毎回授業終了時にコメントシートに記入、次回担当者よりコメントを返す。
時間外の学習について	予習：前時に提示したキーワード・重要事項に関する記述をテキストから探し、読む。 復習：発展的な課題（専門用語）について自主的に調査を行う。（予習・復習とも45分程度）
教材にかかわる情報	テキスト：佐々木司・三山緑（編）『これからの学校教育と教師』ミネルヴァ書房、2014 参考書：文部科学省『中学校学習指導要領』／文部科学省『高等学校学習指導要領』 その他、授業中に適宜資料を配布する。 参考資料等：
担当者からのメッセージ等実務経験について	

授業科目名	教育原論（中・高）	教員名	川野　哲也（単独）	免許・資格との関係	保育士	
					幼稚園教諭	
					小学校教諭	
					中学校教諭(英語)	必修
ナンバリングコード	US1-2069-00010	年次配当	1年後期		高等学校教諭(英語)	必修
授業形態	講義				特別支援学校教諭	
単位数	2			卒業要件	初等幼児教育専攻	
					中等教育専攻	必修

科目	教科及び教職に関する科目（中学校・高等学校）教育の基礎的理解に関する科目
各科目に含めることが必要な事項	・教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想
教科目	
系列	
授業テーマ	教育の理念、思想、目的、現代的教育課題の検討
授業概要	教育の基本的概念、教育の目標、教育を成立させている要因（子ども、教員、家庭、学校、地域）、代表的な教育思想について学ぶとともに、これまでの教育及び学校の営みがどのように捉えられ、変遷してきたのかを理解する。さらに歴史や思想を踏まえた上で現代の教育課題についても考察する。

達成目標

	科目DP：(2)				
DP番号	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)
1．教育の基本的概念・本質・目標、教育が成立する要因（学校や家庭等）とその関係を理解する。		◎		○	
2．教育の歴史についての基礎的知識を身に付け、家族・社会・近代的教育制度の歴史的変遷を理解する。		◎	○		
3．教育に関する代表的な思想を理解する。		◎		○	
4．思想や歴史を踏まえた上で、現代の教育課題について理解し、考察する。			◎	○	

履修条件・注意事項	
授業計画	第１回：教育学の概念、教育の理念と思想を学ぶことの意義について。（目標 1） 第２回：人間とは何か、人間と動物の違い、遺伝、人権と差別について。（目標 1,4） 第３回：ルソーの教育思想と近代教育について。（子どもの発見、近代以前から近代への教育の変遷）（目標 2,3） 第４回：ペスタロッチの教育思想について。（調和的発達、メトーデ）（目標 2,3） 第５回：フレーベルの教育思想について。（恩物、子どもの遊び、保育、家庭のあり方）（目標 2,3） 第６回：近代教育制度の成立と展開について。（産業革命、国家と教会、モニトリアルシステム）（目標 2,3） 第７回：デューイの教育思想について。（経験、児童中心主義、発問）（目標 2,3） 第８回：教育課程の変遷について。（昭和30年代の学習指導要領の定着、学力テスト）（目標 2） 第９回：教育課程の変遷について。（昭和から平成にかけて、受験競争、ゆとり、学力向上）（目標 2） 第10回：学校教育の本質と課題について。（特別活動、個性伸長、学級会、地域との関係）（目標 1,4） 第11回：学校教育の本質と課題について。（生徒指導、人権尊重、いじめ、不登校、家庭との連携）（目標 1,4） 第12回：学校教育の本質と課題について。（教育者の資質、リーダーシップ、研修、教員免許）（目標 1,4） 第13回：学校教育の本質と課題について。（教育者の資質、褒める、叱る、学級崩壊、体罰）（目標 1,4） 第14回：学校教育の本質と課題について。（保護者との関係、学校選択制度の導入）（目標 1,4） 第15回：現代の教育課題について考察する。ディスカッション（目標 1,2,3,4）
アクティブ・ラーニング	毎時必ずディスカッションを取り入れる。
成績評価基準	評価の方法：授業時に数回実施する確認テスト80%、レポート20% 評価の基準：教育学の基本的概念、教育の理念、代表的思想、歴史的変遷等の基本的事項についての説明できるか 歴史や思想を踏まえて現代の教育課題について考察できるか
フィードバックの方法	毎時最後に小課題を出す。回収の後、翌週に再度解説を行う。
時間外の学習について	予習：事前に配布したプリントを読み、必要に応じて調べること。 復習：プリント、ノートを見て確認すること。（予習・復習とも45分程度）
教材にかかわる情報	テキスト：田代直人・佐々木司編著『新しい教育の原理』ミネルヴァ書房、2010年。 参考書：適宜紹介する。 参考資料等：
担当者からのメッセージ等実務経験について	

授業科目名	教育心理学（中・高）	教員名	堂野　佐俊 （実務経験） （単独）	免許・資格との関係	保育士	
					幼稚園教諭	
					小学校教諭	
					中学校教諭（英語）	必修
ナンバリングコード	US1-2070-00010	年次配当	1年後期		高等学校教諭（英語）	必修
授業形態	講義				特別支援学校教諭	
単位数	2			卒業要件	初等幼児教育専攻	
					中等教育専攻	必修

科目	教科及び教職に関する科目（中学校・高等学校）教育の基礎的理解に関する科目
各科目に含めることが必要な事項	・幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程
教科目	
系列	
授業テーマ	心理学的知見を教育の世界に適用して効果的な学習のあり方について理解する。
授業概要	教育という行為は、人間社会の多様な場面で行われるものである。大人と子ども、先生と生徒、先輩と後輩、障害のある子どもと適応に困難を示す子ども、など、教える側の人と教えられる側の人の関係は様々な形態となっている。また、教育の内容や方法も複雑多様で、単純な手引き書的な原理だけでは効果的な教育が期待できない場合が多い。望ましい教育関係の背景には、適切な理論的基盤に立脚した指導や実践が伴っている。本講では、心理学的な立場から子どもの発達や特性を理解し、子どもと関わる場合に必要となる教育の基本的な知識や技術について概説し、教育実践における効果の向上についての理解を深める。

達成目標

	科目DP：(2)				
DP番号	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)
1．人間発達の概念及び教育心理の意義について理解する。		◎			
2．発達の過程及び特徴を理解する。		◎			
3．学習の領域と過程について理解する。		◎			
4．記憶と学習の転移について理解する。		◎			
5．学習過程と動機づけについて理解する。		◎			
6．学級集団の力学と構造について理解する。		◎			

履修条件・注意事項	
授業計画	第１回：人間発達の概念と教育心理学の概念　（目標 1,2） 第２回：発達の過程と教育心理学の意義　（目標 1,2） 第３回：教育心理学的研究方法　（目標 1） 第４回：学習の概念　（目標 3） 第５回：学習の領域　（目標 3） 第６回：各時期における発達の特徴及び言語学習・思考的学習・社会的学習　（目標 2,3） 第７回：各時期における発達の特徴及び記憶と忘却　（目標 2,4） 第８回：学習の転移　（目標 4） 第９回：学習と動機づけ・レディネス　（目標 5） 第10回：教授=学習過程と学習指導　（目標 5） 第11回：学級集団の概念　（目標 6） 第12回：学級集団の規範とリーダーシップ　（目標 6） 第13回：学級集団構造の理解　（目標 6） 第14回：学級集団の人間関係　（目標 6） 第15回：学級集団の指導　（目標 6） 定期試験
アクティブ・ラーニング	
成績評価基準	評価の方法：中途でのレポート（30%）、及び定期試験（70%）の結果を総合的に評価する。 評価の基準：
フィードバックの方法	毎講義後のコメントシートに対して、次回の冒頭に講評及び応答を行なう。
時間外の学習について	予習：前もって配布された資料に従ってテキストを理解する。 復習：配布され授業中に書き込まれた資料を自分のノートとして作成する。 （予習・復習とも45分程度）
教材にかかわる情報	テキスト：「教育心理学要論」（堂野佐俊・堂野恵子（編））北大路書房 参考書：講義の進行に応じてその都度提示する。講義は、毎回（ＩＴ）パワーポイント等を使用し、視聴覚的にも提示する。 参考資料等：
担当者からのメッセージ等 実務経験について	毎回の授業後の質問・コメントカードを積極的に活用してほしい Where there is a will, there is a way. 心理学教育に関して、中学校教員としての経験も加味しながら現場の教育に立脚した諸課題について話題を提供します。 山口県臨床心理士会長（８年間）としての立場で、多くの臨床心理士（スクールカウンセラー等としての）とともに不登校、いじめ等の事象に関する話題を提供します。

授業科目名	教育制度論（中・高）	教員名	川野　哲也 （単独）	免許・資格との関係	保育士	
					幼稚園教諭	
					小学校教諭	
					中学校教諭（英語）	選択
ナンバリングコード	US3-2071-00020	年次配当	３年前期		高等学校教諭（英語）	選択
授業形態	講義				特別支援学校教諭	
単位数	2			卒業要件	初等幼児教育専攻	
					中等教育専攻	選択

科目	教科及び教職に関する科目（中学校・高等学校）教育の基礎的理解に関する科目
各科目に含めることが必要な事項	・教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）
教科目	
系列	
授業テーマ	教育制度、教育法規、教育制度改革の歴史的変遷、現代的教育課題。
授業概要	戦前から戦後、現在に至る教育制度の変遷をとらえ、現代の教育制度についての基礎的な知識、学校と地域との連携に関する基礎的な知識、学校安全への対応に関する基礎的知識を身に付ける。さらに教育制度に関連する教育課題について考察する。

達成目標	科目DP：(4)				
	DP番号 (1)	(2)	(3)	(4)	(5)
１．公教育の原理・理念、教育関係法規、教育行政の仕組みについて理解する。		◎		○	
２．学校と地域との連携について理解する。		◎	○	○	
３．学校安全への対応について理解する。		◎	○	○	
４．教育制度をめぐる教育課題について理解し、例示しながら、考察する。			◎	○	

履修条件・注意事項	
授業計画	第１回：公教育の原理、教育制度の歴史的変遷について。（明治時代における学制、教育令、等）（目標 1） 第２回：公教育の原理、教育制度の歴史的変遷について。（戦後の改革、日本国憲法、教育基本法、等）（目標 1） 第３回：教育制度の歴史的変遷について。（教育基本法の改正、現在における法体系、等）（目標 1） 第４回：義務教育について。（就学義務、費用、国庫負担、教育財政、等）（目標 1,4） 第５回：各学校の目的について。（一条学校、私立学校と宗教の問題、等）（目標 1,4） 第６回：教育行政の仕組みについて。（中央と地方の役割分担、教育委員会、総合教育会議、等）（目標 1,4） 第７回：教育水準の維持向上について。（ゆとりから学力向上策へ、中央教育審議会の役割、等）（目標 1,4） 第８回：アメリカにおける教育制度について。（公設民営学校：チャータースクール、等）。（目標 1,2･4） 第９回：学校選択制度の導入について。（学区制、保護者の教育要求、等）（目標 1,2･4） 第10回：学校の教員組織、開かれた学校づくりについて。（学校評議員、地域運営学校、等）（目標 1,2･4） 第11回：教員の養成と研修について。（免許制度、教員の任用と免職、服務、研修制度、等）（目標 1,4） 第12回：出席管理と記録について。（不登校、出席停止、指導要録、健康診断、等）（目標 1,4） 第13回：学校生活の安全について。（安全な学校施設、事件や事故の対応、安全教育、等）（目標 1,3･4） 第14回：自然災害への対応について。（各学校における取組）（目標 1,3･4） 第15回：現代の教育制度をめぐる課題について。ディスカッション。（目標 1,2,3,4）
アクティブ・ラーニング	ディスカッションを取り入れる。
成績評価基準	評価の方法：授業時に数回実施する確認テスト80％、レポート20％ 評価の基準：教育制度の基本的事項（公教育の原理、教育法規、教育行政の仕組み等）を説明できるか。教育制度に関する現代の課題、今後の教育制度について考察できるか。
フィードバックの方法	毎時最後に小課題を出す。回収の後、翌週に再度解説を行う。
時間外の学習について	予習：事前に配布したプリントを読み、必要に応じて調べること。 復習：プリント、ノートを見て確認すること。（予習・復習とも45分程度）
教材にかかわる情報	テキスト：特になし 参考書：『平成29年度版　教育小六法』学陽書房（教育基本法、学校教育法、地方教育行政の組織及び運営に関する法律、等） 河野和清編『現代教育の制度と行政』福村出版、2017年。 参考資料等：
担当者からのメッセージ等 実務経験について	

授業科目名	教育社会学（中・高）	教員名	御旅屋　達（単独）	免許・資格との関係	保育士	
					幼稚園教諭	
					小学校教諭	
					中学校教諭(英語)	選択
ナンバリングコード	US3-2072-00020				高等学校教諭(英語)	選択
授業形態	講義	年次配当	３年後期		特別支援学校教諭	
単位数	2			卒業要件	初等幼児教育専攻	
					中等教育専攻	選択

科目	教科及び教職に関する科目（中学校・高等学校）教育の基礎的理解に関する科目
各科目に含めることが必要な事項	・教育に関する社会的､制度的又は経営的事項(学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。)
教科目	
系列	
授業テーマ	教育の社会的機能，教育現場という社会，社会問題と教育
授業概要	教育やその周辺領域における「思い込み」や「常識」から距離を取り，広い視野を持って教育的事象を把握し，考える。この作業を通じて教育社会学における思考の様式や態度の基礎を身につけることを狙う。

達成目標

	科目DP：(2)				
DP番号	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)
１．教育と社会がどのような関係にあるか理解する。		◎			
２．教育現場という社会がどのように成立しているか理解する。		◎			
３．教育にまつわる社会的な問題についての知識，関連する施策についての知識を獲得する。		◎			
４．海外の教育事情や政策についての知識を獲得し，比較の視点を持つ。		◎			
５．学校と地域社会の関係について理解する。		◎			

履修条件･注意事項	
授業計画	第１回：オリエンテーション――教育学と社会学の間にある「教育社会学」の成り立ち，射程について（目標1,2,3,4,5） 第２回：教育の社会的機能（１）――教育の社会化機能（目標1） 第３回：教育の社会的機能（２）――教育の選抜・配分・正当化機能（目標1） 第４回：職業へのトランジション（１）――日本の労働市場の変化（目標1,3,4） 第５回：職業へのトランジション（２）――学校から職業への移行とオルタナティブな道（目標1,3,5） 第６回：教育における平等と自由――再生産論などを切り口にいかなる平等の形が望ましいのか考える（目標1,3） 第７回：学力問題と教育改革――これまで行われてきた教育改革がいかなる目的のもと行われてきたか考える（目標2,3） 第８回：学歴社会と「能力」――現代社会では，いかなる能力によって選抜されるのか，それはいかにして測定可能か（目標1,4） 第９回：ジェンダーと教育――教室の中の男子と女子。教育事象についてジェンダーの視点から検討する（目標1,2,3） 第10回：学校に行かない／行けないということ――不登校の現状と施策の歴史について学び，学校の意義を問い直す（目標1,2,3,5） 第11回：教室という社会――教室において生じる問題，いじめ問題やスクールカーストについて考える（目標2,3,4） 第12回：非行・逸脱の社会学――非行問題や少年犯罪はどのように語られてきたか（目標1,2,3） 第13回：開かれた学校づくりとリスク――学校の安全と開かれた学校は両立するか（目標2,3） 第14回：国際社会と教育――教育現場における多文化共生について考える（目標2,3,4） 第15回：まとめ――なぜ社会問題が「教育」の問題として語られるのか，現代社会において教育のできることは何か（目標1,2,3,4,5）
アクティブ･ラーニング	コメントシート，ディスカッション
成績評価基準	評価の方法：授業内レポート及びコメントシート40%，期末レポート60% 評価の基準：達成目標がおおむね満足されていること。
フィードバックの方法	提出されたレポートにコメントを付し，返却する。
時間外の学習について	予習：事前に課題を指示する。 復習：各回の内容を復習し，疑問点をまとめておく。(予習・復習とも45分程度)
教材にかかわる情報	テキスト：特になし。 参考書：苅谷剛彦他，2010，『教育の社会学（新版)』有斐閣. 片山悠樹他，2017，『半径5メートルからの教育社会学』大月書店. 参考資料等：
担当者からのメッセージ等実務経験について	

授業科目名	教育課程論（中・高）	教員名	松村　納央子 川野　哲也 山本　朗登 （複数）	免許・資格との関係	保育士	
					幼稚園教諭	
					小学校教諭	
					中学校教諭（英語）	必修
ナンバリングコード	US2-2073-00010				高等学校教諭（英語）	必修
授業形態	講義				特別支援学校教諭	
単位数	2	年次配当	2年後期	卒業要件	初等幼児教育専攻	
					中等教育専攻	選択

科目	教育の基礎的理解に関する科目（中学校・高等学校）
各科目に含めることが必要な事項	教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）
教科目	
系列	
授業テーマ	教育課程の編成、学習指導要領の変遷、カリキュラム改革
授業概要	学習指導要領を基準として各学校において編成される教育課程について、その意義や編成の方法を理解するとともに、各学校の実情に合わせてカリキュラム・マネジメントを行うことの意義を理解する。

達成目標

	科目DP：(2)				
DP番号	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)
1．学校教育において教育課程が有する役割や機能、並びに意義：学習指導要領の正確および位置づけを理解する／学習指導要領の変遷並びに主な改訂内容を理解する／学校教育課程が社会において果たしている役割を理解する		○	◎		
2．教育課程編成の基本原理、並びに学校の教育実践に即した教育課程編成の方法：教育課程編成の基本原理を理解する／教科・領域を横断して教育内容を選択・配置する方法を理解する／生徒の実態や学校が置かれている環境を踏まえた教育課程・指導計画を検討する重要性を理解する		○	◎		
3．教科・領域・学年をまたいでカリキュラムを把握し、学校教育課程全体をマネジメントすることの意義：学習指導要領に示されたカリキュラム・マネジメントの意義を理解する／カリキュラム評価の基礎的な考え方を理解する		○	◎		○

履修条件・注意事項	
授業計画	第１回：学校において教育課程はなぜ編成されるのか－公教育の目的を踏まえて（目標 1） 第２回：教育課程の編成の原理と類型（目標 1） 第３回：ナショナル・カリキュラムとしての学習指導要領（1） －昭和22年「試案」ならびに昭和26年改訂・昭和31年改訂（目標 1,2） 第４回：ナショナル・カリキュラムとしての学習指導要領（2） －昭和33年（中）・昭和35年（高）改訂ならびに昭和44年（中）・昭和45年（高）改訂（目標 1,2） 第５回：ナショナル・カリキュラムとしての学習指導要領（3） －昭和52年（中）・昭和53年（高）改訂ならびに平成元年改訂（目標 1,2） 第６回：ナショナル・カリキュラムとしての学習指導要領（4） －平成10年（中）・平成11年（高）改訂ならびに平成20年（中）・平成21年（高）改訂（目標 1,2） 第７回：ナショナル・カリキュラムとしての学習指導要領（5）－平成29年（中）改訂（目標 1,2） 第８回：教科・領域横断的な視点とは　（目標・3） 第９回：教科・領域横断カリキュラムの事例（1）－メディア・リテラシー育成を目標としたカリキュラム（目標 2,3） 第10回：教科・領域横断カリキュラムの事例（2）－市民性育成を目標としたカリキュラム（目標 2,3） 第11回：カリキュラム・マネジメント（1）－教育目標の設定（目標 1,2,3） 第12回：カリキュラム・マネジメント（2）－教育内容の選択と配列、人的・物的資源の組み合せ（目標 1,2,3） 第13回：カリキュラム・マネジメント（3）－ルーブリックの作成（目標 1,2,3） 第14回：カリキュラム・マネジメント（4）－学習者自身の評価（目標 1,2,3） 第15回：カリキュラム・マネジメント（5）－「社会に開かれた教育課程」とするには（目標 1,2,3） レポート
アクティブ・ラーニング	
成績評価基準	評価の方法：・毎回授業終了時の小レポート（30%）…各時間に扱ったキーワードを説明できるか ・最終レポート（70%）…現代社会で課題となっているトピックをテーマとした年間指導計画を立案、分析し、教育課程編成ならびにカリキュラム評価の手法を理解しているか 評価の基準：達成目標に到達しているか。
フィードバックの方法	授業終了時にコメントシートに記入、次回の授業時に担当者からコメントを返す。
時間外の学習について	予習：前時に提示したキーワード・重要要項について辞典類で調べ、ノートに記す。 復習：発展的な課題（専門用語）について自主的な調査を行う。（予習・復習とも45分程度）
教材にかかわる情報	テキスト：広岡義之（編）『はじめて学ぶ教育課程』ミネルヴァ書房、2016 参考書：文部科学省『中学校学習指導要領』／文部科学省『高等学校学習指導要領』 その他、授業中に適宜資料を配布する。 参考資料等：
担当者からのメッセージ等実務経験について	

授業科目名	教育方法論（中・高）	教員名	川野　哲也 岩中　貴裕 （オムニバス）	免許・資格との関係	保育士	
					幼稚園教諭	
					小学校教諭	
					中学校教諭（英語）	必修
ナンバリングコード	US2-2074-00010	年次配当	２年前期		高等学校教諭（英語）	必修
					特別支援学校教諭	
授業形態	講義			卒業要件	初等幼児教育専攻	
単位数	2				中等教育専攻	選択

科目	教科及び教職に関する科目（中学校・高等学校） 道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目
各科目に含めることが必要な事項	・教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む。）
教科目	
系列	
授業テーマ	中学・高校の授業に関する一般的指導法、教育メディアの活用。
授業概要	これからの社会を担う子供たちに求められる資質・能力を育成するために必要な、教育の方法、教育の技術、情報機器及び教材の活用に関する基礎的な知識・技能を身に付けるものである。

達成目標	科目DP：(2)				
DP番号	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)
1．教育方法の基礎理論、教育を構成する基礎的な要件（教員、子ども、学級、教材等）、評価について理解する。		◎			
2．「生きる力」「確かな学力」等の資質・能力を育成する教育方法（主体的で対話的な深い学び）について理解する。		◎		○	
3．基礎的な指導技術を理解し、身に付け、指導計画が立案できる。			○	◎	
4．教育メディア（ICT機器）の特性を理解し、活用方法を身に付ける。			◎	○	

履修条件・注意事項	
授業計画	第１回：教育方法の基礎理論について。（問題解決学習）（目標 1）【川野】 第２回：教育方法の基礎理論について。（発見学習）（目標 1）【川野】 第３回：教育方法の基礎理論について。（集団主義　集団づくり　生活と学習）（目標 1）【川野】 第４回：教育方法の基礎理論について。（正統的周辺参加理論　学びの共同体論）（目標 1）【川野】 第５回：教育方法の基礎理論について。（観点別評価、主体的で対話的な深い学び）（目標 2）【川野】 第６回：指導技術について。（算数の場合、問題の提示、グループワーク、学び合いの充実）（目標 2,3）【川野】 第７回：指導技術について。（国語の場合、発問、板書の仕方、発表のさせ方、朗読）（目標 2,3）【川野】 第８回：指導技術について。（社会の場合、調べ学習、討論の仕方）（目標 2,3）【川野】 第９回：指導技術について。（英語の場合、授業展開、指示の出し方）（目標 2,3）【岩中】 第10回：指導技術について。（英語の場合、ペアワーク、グループワーク）（目標 2,3）【岩中】 第11回：指導技術について。（英語の場合、音読指導、コミュニケーション活動）（目標 2,3）【岩中】 第12回：指導技術（ICT機器の活用、著作権、情報モラル）（目標 3,4）【岩中】 第13回：指導技術（ICT機器の活用、デジタル教材の作成：フラッシュカード）（目標 3,4）【岩中】 第14回：指導技術（ICT機器の活用、デジタル教材の作成：テキストの反転表示）（目標 3,4）【岩中】 第15回：まとめ。振り返り、（目標 1,2,3,4）【川野・岩中】
アクティブ・ラーニング	ディスカッション、模擬授業、ロールプレイを取り入れる。
成績評価基準	評価の方法：授業時における議論内容40％、発表20％、レポート20％、作成した教材20％ 評価の基準：教育方法の基礎理論、効果的な教育方法についての説明できるか。 ICT機器を活用した指導ができるか。
フィードバックの方法	毎回最後に小課題を出す。回収の後、翌週に再度解説を行う。
時間外の学習について	予習：事前にプリントを配布するので、自分なりに考察し、分からないことは調べておくこと。 復習：授業で扱った内容については復習し、分からないことは調べておくこと。 （予習・復習とも45分程度）
教材にかかわる情報	テキスト：特になし 参考書：中学校学習指導要領、高等学校学習指導要領、佐藤学著『教育方法学』岩波書店、1996年。 日本教育方法学会編『日本の授業研究 上・下』学文社、2009年。、反転授業研究会編『反転授業が変える教育の未来』明石書籍、2014年。 西山正一著『英語教材の使い方・作り方マニュアル』明治図書、2014年。 大塚謙二著『感動する英語授業！教師のためのICT簡単面白活用術55』明治図書、2010年。 唐澤博・米田謙三著『英語デジタル教材作成・活用ガイド』大修館書店、2014年。 参考資料等：
担当者からのメッセージ等 実務経験について	

授業科目名	特別支援教育概論 （中・高）	教員名	門脇　弘樹 （単独）	免許・資格との関係	保育士	
					幼稚園教諭	
					小学校教諭	
					中学校教諭（英語）	必修
ナンバリングコード	US1-2075-00010	年次配当	1年後期		高等学校教諭（英語）	必修
授業形態	講義				特別支援学校教諭	
単位数	1			卒業要件	初等幼児教育専攻	
					中等教育専攻	必修
科目	教科及び教職に関する科目（中学校・高等学校・特別支援学校）教育の基礎的理解に関する科目					
各科目に含めることが必要な事項	・特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解					
教科目						
系列						
授業テーマ						
授業概要	多様なニーズのある子どもの理解と支援					

達成目標	科目DP：(2)				
DP番号	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)
1．特別の支援を必要とする生徒の障害特性や発達について理解する。（インクルーシブ教育システムを含めた特別支援教育に関する制度の理念や仕組みを理解する／発達障害や軽度知的障害等の特別の支援を必要とする生徒の心身の発達、心理的特性及び学習の過程を理解する／視覚障害・聴覚障害・知的障害・肢体不自由・病弱等を含む様々な障害のある生徒の学習上または生活上の困難について基礎的な知識を身に付ける）		◎	○		
2．特別の支援を必要とする生徒の教育課程及び支援方法について理解する。（発達障害や軽度知的障害等の特別の支援を必要とする生徒に対する支援の方法について例示することができる／「通級による指導」及び「自立活動」の教育課程上の位置付けと内容を理解する／特別支援教育に関する教育課程の枠組みを踏まえ、個別の指導計画及び個別の教育支援計画を作成する意義と方法を理解する／特別支援教育コーディネーター、関係機関や家庭と連携しながら支援体制を構築することの必要性を理解する）			◎	◎	○
3．障害はないが特別の教育的ニーズのある生徒の実態や支援方法について理解する。（母国語や貧困の問題等により特別の教育的ニーズのある生徒の学習上又は生活上の困難や組織的な対応の必要性を理解する）		◎	○	○	○

履修条件・注意事項	
授業計画	第１回：特別支援教育の歴史と制度の理念　（目標 1,3） 第２回：インクルーシブ教育システムの理念　（目標 1,3） 第３回：障害のある生徒の発達（1）―視覚障害・聴覚障害について　（目標 1,2） 第４回：障害のある生徒の発達（2）―知的障害・肢体不自由・病弱について　（目標 1,2） 第５回：障害のある生徒の発達（2）―発達障害・軽度知的障害について　（目標 1,2） 第６回：特別の支援を必要とする生徒の教育課程―「自立活動」について　（目標 1,2） 第７回：通常の学級における特別の支援を必要とする生徒に対する教育的ニーズと支援方法（目標 1,2,3） 第８回：「通級による指導」における特別の支援を必要とする生徒に対する教育的ニーズと支援方（目標 1,2,3） 第９回：特別の支援を必要とする生徒の小中接続　（目標 1,2,3） 第10回：個別の指導計画の作成　（目標 1,2,3） 第11回：個別の教育支援計画の作成　（目標 1,2,3） 第12回：特別支援教育コーディネーターの役割―校内委員会の設置と校内連携について（目標 1,2,3） 第13回：貧困の問題等により支援を必要とする生徒に対する教育的ニーズと支援方法　（目標 1,2,3） 第14回：外国籍の生徒に対する教育的ニーズと支援方法　（目標 1,2,3） 第15回：外部機関との連携―家庭や療育施設等の関係機関との連携について　（目標 1,2,3） 定期試験
アクティブ・ラーニング	グループワーク
成績評価基準	評価の方法：授業中の参加態度・授業での発表（50%）　定期試験（50%） 評価の基準：授業中の参加態度・授業での発表（授業に積極的に参加している）、定期試験（講義で扱った内容を理解できる）
フィードバックの方法	授業中にコメントを述べる。
時間外の学習について	予習：授業で配布する資料を読んでおく（各回45分程度）。 復習：授業で配布した資料を中心に復習する（各回45分程度）。
教材にかかわる情報	テキスト：各授業において適宜資料を配布する。 参考書：『特別支援教育総論――インクルーシブ時代の理論と実践』 その他、適宜授業中に紹介していく。 参考資料等：
担当者からのメッセージ等 実務経験について	

授業科目名	教育相談（中・高）	教員名	名島　潤慈 （実務経験） （単独）	免許・資格との関係	保育士	
					幼稚園教諭	
					小学校教諭	
					中学校教諭（英語）	必修
ナンバリングコード	US3-2076-00010	年次配当	3年後期		高等学校教諭（英語）	必修
授業形態	講義				特別支援学校教諭	
単位数	2			卒業要件	初等幼児教育専攻	
					中等教育専攻	選択

科目	教科及び教職に関する科目（中学校・高等学校） 道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目
各科目に含めることが必要な事項	・教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法
教科目	
系列	
授業テーマ	教育相談、援助技法、思春期・青年期の問題行動と障害、関係機関と法律
授業概要	思春期・青年期にある生徒の発達の状況に即しつつ、個々の心理的特性や教育課題を適切に捉え、支援するために必要な基礎的知識（カウンセリングの意義、理論や技法に関する基礎的知識を含む）を身につける。

達成目標

	科目DP：(2)				
DP番号	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)
1．教育相談の意義と内容を理解する。（教育相談の目的や意義、カウンセリングマインドの重要性を理解している／行動観察・面接・心理テスト（知能テスト・パーソナリティテスト・発達テスト）等を通した問題行動の理解の仕方を理解している）		◎	○		
2．教育相談の技法を理解する。（もっぱら言葉を用いる言語的技法について理解している／身体的技法やイメージ的技法について理解している）		○	◎		
3．思春期・青年期の生徒たちの問題行動と対応について理解を深める。（登校拒否、自殺問題、自傷行為への対応について理解している／心身症、いじめ・非行、発達障害への対応について理解している）		◎		○	
4．学校内外の専門家との連携と関連法律について理解を深める。（校内の教職員や校外の専門家と効果的に連携・分担し、チームとして組織的に対応していくことの重要性を理解している／教育相談活動にまつわるさまざまな法律の意義と重要性を理解している）		◎			○

履修条件・注意事項	
授業計画	1．教育相談について―生徒指導と教育相談、中学・高校における教育相談の意義と内容、カウンセリングマインドの重要性（カウンセリングにおける受容、傾聴、共感的理解）（目標 1） 2．生徒のパーソナリティの理解について―防衛機制と対処機制、コンプレックス（目標 1） 3．心理テストと問題行動の理解について（目標 1） 4．教育相談の技法について（1）言語的技法（質問・明確化・解釈他）（目標 1,2） 5．教育相談の技法について（2）身体的技法（呼吸法・漸進的弛緩法・自律訓練法）（目標 1,2） 6．教育相談の技法について（3）イメージ的技法（イメージ療法・夢分析）（目標 1,2） 7．登校拒否の理解と対応について（目標 1,2,3） 8．思春期・青年期の生徒たちの自殺問題の理解と対応について（いじめ自殺・指導死を含む）（目標 1,2,3） 9．思春期・青年期の生徒たちの自傷行為の理解と対応について（目標 1,2,3） 10．思春期・青年期における心身症の理解と対応について（目標 1,2,3） 11．いじめ・非行の理解と対応について（目標 1,2,3） 12．発達障害（自閉スペクトラム症・ADHD・LD等）の理解と対応について（目標 1,2,3） 13．養護教諭・教育相談担当教員・生徒指導担当教員・SC・SSW等の役割と連携、教育相談の計画と組織的取組みについて（目標 1,4） 14．教育相談の関係機関について―児童相談所・精神保健福祉センター・家庭裁判所・少年鑑別所・教育センター・養護施設・精神科病院・精神科クリニック・児童自立支援センター・教育支援センター（適応指導教室）（目標 1,4） 15．教育相談に関連する法律について―学校教育法・児童福祉法・発達障害者支援法・少年法・少年院法・自殺対策基本法・麻薬五法・毒物および劇物取締法・いじめ防止対策推進法（目標 1,4） 定期試験
アクティブ・ラーニング	ディスカッション、グループワーク、ロールプレイ
成績評価基準	評価の方法：試験（70%）、合計3回の小テスト（30%） 評価の基準：思期期・青年期の生徒の教育相談に関する基礎的かつ基本的な事柄を理解し、自分の考えと共に説明できる。
フィードバックの方法	小テストの結果をコメントする。
時間外の学習について	予習：次回の授業のテーマについて予め学習しておく。（45分程度） 復習：自分なりのまとめのノートを作っておく。（45分程度）
教材にかかわる情報	テキスト：特になし 参考書：文部科学省（2010）『生徒指導提要』 参考資料等：資料は適宜配布する。
担当者からのメッセージ等 実務経験について	講義だけでなく、例えば簡単な投映法を用いた深い生徒理解、言葉やイメージを用いたカウンセリング技法、過緊張を一挙に低減させる弛緩技法、自殺の危険度・緊急度のアセスメントの仕方、自殺生徒が出た場合の連鎖自殺の予防法など、可能な限り実際に即した練習を行う。 スクールカウンセラー：20年以上の経験に基づいて生徒の心の問題にアプローチします。

授業科目名	幼児理解	教員名	大田　紀子 （単独）	免許・資格との関係	保育士	
					幼稚園教諭	必修
					小学校教諭	
ナンバリングコード	UE3-2077-01000				中学校教諭（英語）	
					高等学校教諭（英語）	
授業形態	演習	年次配当	３年前期		特別支援学校教諭	
				卒業要件	初等幼児教育専攻	選択
単位数	2				中等教育専攻	

科目	教科及び教職に関する科目（幼稚園） 道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目
各科目に含めることが必要な事項	・幼児理解の理論及び方法
教科目	
系列	
授業テーマ	保育実践の基盤としての幼児理解の理論と方法
授業概要	保育実践の基盤は保育者の幼児理解にあるといわれるように、保育者がその子をどう理解するのかによって保育のありようは大きく異なると考えられる。保育者の幼児理解は保育実践の出発点であると捉え、幼児理解にはじまる保育者の援助とその方法について考えていく。さらに、幼児理解をもとに保育を計画、実践し、それらを省察するという保育実践のサイクルに基づいて検討する力を身につける。

達成目標

	科目DP：(2)				
DP番号	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)
1．幼児理解についての知識や理論を身につけ、幼児理解に基づく保育実践の考え方及び基礎的態度を理解する。		◎			
2．幼児理解から発達及び遊びや学びを捉える原理を理解する。		◎			
3．様々な環境や状況、背景から幼児を理解しようとするとともに、保護者対応の基礎的な方法を理解する。		◎	○		
4．観察及び記録の意義並びに目的、目的に応じた観察法等、幼児理解の方法を具体的に理解する。		◎	○		
5．幼児理解をもとに保育を計画、実践、省察することができる。			◎	○	

履修条件・注意事項	
授業計画	第１回：オリエンテーション　保育の方法を支える専門性　（目標 1） 第２回：幼児理解と保育者の援助　（目標 1,2,3） 第３回：保育の計画と環境構成　（目標 2,3,5） 第４回：幼児の遊びと発達　（目標 1,2） 第５回：幼児の遊びの発展と保育者の援助　（目標 1,2,3） 第６回：保育者の援助と保護者対応　（目標 1,3） 第７回：保育における協同と保育者の援助　（目標 1,2,3） 第８回：幼児同士のトラブルと保育者の援助　（目標 3） 第９回：食育に関する活動と保育者の援助　（目標 1,2） 第10回：障害児への理解と保育者の援助　（目標 1,2,3） 第11回：保育における記録の意義とその方法①：観察法　（目標 4） 第12回：保育における記録の意義とその方法②：エピソード　（目標 4） 第13回：保育者の省察とカンファレンス①：省察とカンファレンス　（目標 3,4,5） 第14回：保育者の省察とカンファレンス②：個人の省察　（目標 3,4,5） 第15回：保育者の省察とカンファレンス③：共同の省察　（目標 3,4,5）
アクティブ・ラーニング	ディスカッション、グループワーク
成績評価基準	評価の方法：演習やロールプレイ等授業への取り組み（40%）、課題・レポート（60%） 評価の基準：身につけた知識や理論を活用して積極的に演習へ参加しているか、他者と協力して学びを深めようとしているか 期限内に提出できているか、身につけた知識や理論を反映させて自分なりの意見を述べることができるか
フィードバックの方法	課題やレポート、ロールプレイ等に対してコメントを出す。
時間外の学習について	予習・復習：新聞等の保育や幼児教育に関する時事的な問題に関する記事に関心を持ち、読んでおくこと。（各回30分程度）
教材にかかわる情報	テキスト：なし。（適宜資料を配布する） 参考書：「幼児理解からはじまる　保育・幼児教育方法」小田豊・中坪史典編著　2009年 建帛社 その他、授業中に適宜資料を配布する。 参考資料等：
担当者からのメッセージ等 実務経験について	

授業科目名	幼児教育概論	教員名	松村　納央子	免許・資格との関係	保育士	選択
					幼稚園教諭	必修
					小学校教諭	
ナンバリングコード	UE1-2078-21000	年次配当	1年前期		中学校教諭(英語)	
					高等学校教諭(英語)	
授業形態	講義				特別支援学校教諭	
単位数	2			卒業要件	初等幼児教育専攻	選択
					中等教育専攻	

科目	教育の基礎的理解に関する科目（幼稚園）
各科目に含めることが必要な事項	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想
教科目	選択必修科目（保育士）
系列	保育の本質・目的に関する科目
授業テーマ	幼児教育の基礎基本および方法の初歩を理解する
授業概要	幼児教育の基本的概念は何か、また、幼児教育の理念にはどのようなものがあり、幼児教育の歴史や思想において、それらがどのように現れてきたかについて19世紀ドイツの幼稚園創設者フレーベルに注目して学ぶとともに、これまでの幼児教育及び幼稚園の営みがどのように捉えられ、変遷してきたのかを理解する。

達成目標

	科目DP：(2)				
DP番号	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)
1．幼児教育の基本的概念：幼児を対象とする教育に関わる諸概念並びに教育の本質、目標を理解する／幼児、家庭、幼稚園、家庭を成り立たせる要素とそれらの相互関係を理解する		◎	○		
2．幼児教育に関する歴史：幼児を対象とした家庭・社会による教育の歴史を理解している／幼稚園の成立と展開を理解する／現代社会における幼児教育の課題を歴史的な視点から理解する		◎	○		
3．幼児教育に関する思想：家庭での教育、幼児を対象とする教育思想を理解する／学校制度の一端を担う幼稚園教育の思想を理解する／フレーベル及びその周辺の主な幼児教育に関する提唱者の思想を理解する		◎	○		

履修条件・注意事項

授業計画

第１回：幼児教育とはどのような教育か－幼児教育へのイメージを整理する（目標 1）
第２回：歴史に見る「こども」(1) －日本における「こども」の捉え方の歴史（目標 1,2）
第３回：歴史に見る「こども」(2) －ヨーロッパ史においてはいつから教育の対象となったか（目標 1,2）
第４回：ヨーロッパ幼児教育史の展開 (1) －ルソー『エミール』に描かれた乳幼児の教育（目標 1,2,3）
第５回：ヨーロッパ幼児教育史の展開 (2) －ペスタロッチ「居間の教育」（目標 1,2,3）
第６回：ヨーロッパ幼児教育史の展開 (3) －フレーベルの登場－幼年期・青年期の取り組み（目標 1,2,3）
第７回：ヨーロッパ幼児教育史の展開 (4) －「幼稚園」設立の背景と実践（目標 1,2,3）
第８回：ヨーロッパ幼児教育史の展開 (5) －『母の歌と愛撫の歌』から読み解く「教育する母親（女性）」像と幼稚園教師の資質（目標 1,2,3）
第９回：フレーベルの遊戯教育学－幼児にとって「遊び」とは（目標 1,2,3）
第10回：フレーベルの教育遊具 (1) －球、立方体、円柱（目標 1,2,3）
第11回：フレーベルの教育遊具 (2) －積み木を手にすることでどんな遊びがうまれるか（目標 1,2,3）
第12回：フレーベルの教育遊具 (3) －平面（色板）にヒントを得た遊び（目標 1,2,3）
第13回：フレーベルの教育遊具 (4) －線や点を用いた遊び（目標 1,2,3）
第14回：フレーベルの教育遊具 (5) －遊び（幼児教育）から学び（初等教育）へ仲介する教育遊具（目標 1,2,3）
第15回：現代に連なる幼児教育の諸課題（目標 1,2,3,4）

アクティブ・ラーニング	グループワーク、プレゼンテーション
成績評価基準	評価の方法：毎回授業終了時の小レポート（30%）、学修ポートフォリオ（70%）… 評価の基準：幼児教育に関しての新たな発見や確認した事柄を表明できるか／毎回の学びを記録するとともに、「自分が幼児を前にしたら」という意識を持って振り返りができるか
フィードバックの方法	毎回授業終了時にコメントシートに記入、次回の授業にて担当者がコメントを返す。
時間外の学習について	予習：前時に提示したキーワードや重要用語を事典類で調べ、ノートに記す。 復習：発展的な専門用語や課題について、自主的な調査をしノートに記す。(予習・復習とも45分程度)
教材にかかわる情報	テキスト：M.ロックシュタイン（小笠原道雄監訳／木内陽一・松村納央子訳）『遊びが子どもを育てる－フレーベルの〈幼稚園〉と〈教育遊具〉』福村出版、2014年 参考書：文部科学省『幼稚園教育要領』、内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』 その他、授業中に適宜資料を配布する。 参考資料等：
担当者からのメッセージ等実務経験について	出席回数、受講態度も重視する。毎回A4ノートを持参してメモやノートづくり、講義外での自主的な調査活動も進めてほしい。ノートも重要な評価対象とする。

授業科目名	幼児音楽Ⅰ	教員名	坂本　久美子（単独）	免許・資格との関係	保育士	必修
					幼稚園教諭	必修
					小学校教諭	
ナンバリングコード	UE1-2079-11000				中学校教諭(英語)	
					高等学校教諭(英語)	
授業形態	演習	年次配当	1年前期		特別支援学校教諭	
				卒業要件	初等幼児教育専攻	選択
単位数	1				中等教育専攻	

科目	領域及び保育内容の指導法に関する科目（幼稚園）
各科目に含めることが必要な事項	領域に関する専門的事項
教科目	必修科目（保育士）
系列	保育の内容・方法に関する科目
授業テーマ	歌唱力、歌唱表現、幼児歌曲、あそびうた
授業概要	声を出すことの心地よさや、声を合わせて歌う楽しさを知り、歌唱表現への意欲を高め、保育者としての基礎的な歌唱力を身につける。また、子どもの歌やあそびうたなど、多くの歌唱教材に触れ、それらの遊び方や音楽的な特徴を学び、保育の現場で活かせる知識や技能を身につける。

達成目標

	科目DP：(4)				
DP番号	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)
1．音程やリズムに気をつけながら、子どもの歌を歌うことができる。	○		◎		
2．あそびうたにおける基本的な身体表現を身につける。	○		◎		
3．子どもの歌の特徴を、歌詞や音楽から捉える視点を持つ。	○		◎		
4．子どもをイメージしながら、あそびうたの展開方法を知る。	◎		○		

履修条件・注意事項	
授業計画	1．ガイダンス　発声のしくみ　（目標 1,3） 2．保育におけるあそびうたの意義　（目標 1,2,3,4） 3．子どもの歌（春の歌）　手あそびうた　（目標 1,2,3,4） 4．子どもの歌（夏の歌）　指あそびうた　（目標 1,2,3,4） 5．子どもの歌（秋の歌）　模倣あそびうた　（目標 1,2,3,4） 6．子どもの歌（冬の歌）　ジャンケンあそびうた　（目標 1,2,3,4） 7．子どもの歌（動物の歌）　身体あそびうた　（目標 1,2,3,4） 8．子どもの歌（食べ物の歌）　身体あそびうた（集団）（目標 1,2,3,4） 9．子どもの歌の歴史　（目標 3） 10. 子どもの歌（生活の歌）　輪あそびうた　（目標 1,2,3,4） 11. 子どもの歌（動きのある歌）　列あそびうた　（目標 1,2,3,4） 12. 子どもの歌（楽器の歌）　手合わせうた　（目標 1,2,3,4） 13. 子どもの歌（行事の歌）　かぞえあそびうた　（目標 1,2,3,4） 14. 子どもの歌（ファンタジーの歌）　ふれあいあそびうた　（目標 1,2,3,4） 15. あそびうたの発表とまとめ　（目標 1,2,3,4） 試験（歌唱）
アクティブ・ラーニング	グループワーク
成績評価基準	評価の方法：歌唱試験60%、レポート20%、授業の取り組み20% 評価の基準：正しい音程やリズム・一定の声量で子どもの歌やあそびうたを歌うことができる。歌唱活動に積極的である。
フィードバックの方法	実技試験終了後、改善点をコメントする。
時間外の学習について	予習：幼児歌曲やあそびうたに関心を持ち、「歌う」ことに積極的に取り組んでおく。 復習：既習のあそびうたは、次回までにできるようにしておく。（各回30分程度）
教材にかかわる情報	テキスト：河北邦子・坂本久美子編著『幼稚園・保育所・家庭で　楽しくうたあそび　123』（ミネルヴァ書房） 参考書：本廣明美・加藤照恵編著『幼稚園・保育園のうた/ピアノ伴奏集』（ＤＯＲＥＭＩ） 参考資料等：
担当者からのメッセージ等実務経験について	

授業科目名	幼児音楽Ⅱ	教員名	永田　実穂 （単独）	免許・資格との関係	保育士	選択
					幼稚園教諭	選択
					小学校教諭	
ナンバリングコード	UE1-2080-22000				中学校教諭（英語）	
		年次配当	1年後期		高等学校教諭（英語）	
授業形態	演習				特別支援学校教諭	
				卒業要件	初等幼児教育専攻	選択
単位数	1				中等教育専攻	

科目	領域及び保育内容の指導法に関する科目（幼稚園）
各科目に含めることが必要な事項	領域に関する専門的事項
教科目	選択必修科目（保育士）
系列	保育の内容・方法に関する科目
授業テーマ	幼児の器楽指導、即興的なアンサンブル、合奏
授業概要	保育の現場で扱う楽器の使い方や子どもの合奏の指導法を修得する。音遊びや音探し、様々なアンサンブルの体験を通して音への関心や感性を養い、効果的な楽器の使い方や指導の展開法を身につける。

達成目標

	科目DP：(4)				
DP番号	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)
1．子どもが使用する楽器の知識や扱い方を修得する		◎		○	
2．子どもの成長や発達に応じた楽器の選択や指導方法を身につける			◎	◎	
3．ドラムサークル、ドラムサークルファシリテーションを通して、即興的なアンサンブルや音によるコミュニケーションの方法を身につける	○			◎	◎
4．自然の音や、素材、発音方法で変化する音色への関心、また他の領域にも目を向けて、子どもの音楽的表現を豊かに展開するために必要な知識や表現力を身につける	◎			○	
5．アンサンブルを通して、子どもの合奏や簡易な編曲法、合奏の指導法を修得する。	○	○	◎		○

履修条件・注意事項	
授業計画	1．授業のガイダンス　リズムについての指導法（言葉とリズム）（目標 4） 2．楽器やリズムを使った音遊びと種々の簡易打楽器についての分類、音探し（擬音について）（目標 1,2,3,4） 3．カスタネット、鈴、トライアングル、タンブリンの扱い方と指導法、およびアンサンブル（目標 1,2,4,5） 4．木琴、鉄琴、オルフ楽器の扱い方と指導法、およびアンサンブル（目標 1,2,4,5） 5．大太鼓、小太鼓、シンバルの扱い方と指導法、およびアンサンブル（目標 1,2,4,5） 6．ラテン系、さまざまな小物楽器（効果音楽器）等の扱い方、即興的なアンサンブル（ドラムサークル）（目標 1,2,3,4） 7．ドラムサークルファシリテーション①（目標 1,2,3,4） 8．ドラムサークルファシリテーション②（目標 1,2,3,4） 9．鍵盤ハーモニカの扱い方と指導法、およびアンサンブル（目標 1,2,4,5） 10. 子どものアンサンブルの指揮法について（目標 4,5） 11. 楽器作り（手作り楽器）（目標 4） 12. 鍵盤ハーモニカアンサンブルの試験（小テスト）及び、各グループで合奏課題曲の選定（目標 4,5） 13. 合奏課題曲の楽譜作り（簡易編曲）、合奏の練習（目標 2,4,5） 14. 合奏課題曲の練習、楽譜修正、合奏指導（目標 2,4,5） 15. 合奏課題曲の練習、及び楽器、合奏についてのまとめ（目標 2,4,5） 試験（筆記、合奏）
アクティブ・ラーニング	グループワーク
成績評価基準	評価の方法：小テスト（20%）レポート（10%）アンサンブル実技（20%）筆記試験（30%）授業の取り組み（20%） 評価の基準：子どもの扱う楽器についての知識や指導法を理解している。表現力豊かに楽器の演奏や行うことができる。主体的に授業に取り組み、積極的にグループ活動を行うことができる。
フィードバックの方法	定期試験後に解答を示し、振り返りをする。
時間外の学習について	予習：幼児の歌や曲に関心を持ち、合奏おける楽器の練習や楽譜の準備をしておく。 復習：配布するプリントで楽器の使い方や特徴を確認する。（各回30分程度）
教材にかかわる情報	テキスト：授業時に適宜プリントを配布 参考書：木許隆、高倉秋子、高橋一行、三縄公一編著「保育者のためのリズム遊び」（音楽之友社）、細田淳子著わくわく音遊びでかんたん発表会」（すずき出版）、教芸音楽研究グループ打楽器スーパーガイド（教育芸術社）飯田和子、石川武、菊本るり子著「はじめてのドラムサークル」音楽之友社 参考資料等：
担当者からのメッセージ等実務経験について	楽器や言葉を使ったコミュニケーションの楽しさや方法を学び、保育、教育の現場で活かせるようにしてください。

授業科目名	幼児造形Ⅰ	教員名	井本　勝美 （単独）	免許・資格との関係	保育士	必修
					幼稚園教諭	必修
					小学校教諭	
ナンバリングコード	UE1-2081-11000				中学校教諭（英語）	
					高等学校教諭（英語）	
授業形態	演習	年次配当	1年前期		特別支援学校教諭	
				卒業要件	初等幼児教育専攻	選択
単位数	1				中等教育専攻	

科目	領域及び保育内容の指導法に関する科目（幼稚園）
各科目に含めることが必要な事項	領域に関する専門的事項
教科目	必修科目（保育士）
系列	保育の内容・方法に関する科目
授業テーマ	豊かな感性と人間性を育む幼児期の造形遊びで扱う主な材料・用具の特性と基本的な扱い方に関する知識と技能を学び取り、幼稚園教諭・保育士、小学校教員としての基礎的素養を身につける。
授業概要	平面造形を中心にした題材演習を通じて、幼児期に扱う主な造形材料・用具の扱い方と造形遊びに関する基本的な知識の理解と技術の習得を図る。

達成目標

	科目DP：(4)				
DP番号	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)
1．幼児期の造形に用いる主な材料・用具の特性や扱い方、技法等に関する知識を理解することができる。		◎	○		
2．習得した材料用具の扱い方や技法を生かして、創意工夫した作品をつくることができる。	○	○	◎		○
3．課題をもとにアイデアを生かして制作に取り組み、その過程を振り返り自己評価することができる。	○		○	◎	
4．幼児や学生の平面作品について、そのよさや美しさを理解しながら鑑賞することができる。	◎	○		○	○

履修条件・注意事項	幼児造形の内容は、前期「平面造形」、後期「立体造形」の二部に分けて履修する。
授業計画	1．授業の目標、概要、演習計画と準備物等の説明と造形に関する実態・希望調査 2．造形遊びⅠ　（身の回りの材料を使って）　（目標 1,2,3,4） 3．造形遊びⅡ　（環境を活かして）　（目標 1,2,3,4） 4．クレヨン・パスを用いた表現　（目標 1,2,3） 5．コンテを用いた表現　（目標 1,2,3） 6．マーカーを用いた表現　（目標 1,2,3） 7．水彩絵の具を用いた表現Ⅰ　（基礎編）　（目標 1,2,3） 8．水彩絵の具を用いた表現Ⅱ　（応用編）　（目標 1,2,3） 9．その他の描画材料を用いた表現　（目標 1,2,3） 10．版を用いた表現Ⅰ　（スタンピング）　（目標 1,2,3） 11．版を用いた表現Ⅱ　（スチレン版画）　（目標 1,2,3） 12．貼り絵・切り絵による表現　（目標 1,2,3） 13．共同制作　（大型紙を用いた絵遊び）　（目標 1,2,3,4） 14．幼児作品の見方と評価　（作品鑑賞）　（目標 1,2,3,4） 15．幼児造形Ⅰのまとめと評価　（目標 1,2,4）
アクティブ・ラーニング	毎回の受講内容をスケッチブックに自分のセンスと構成力を発揮してわかりやすく美的にまとめること、ペアワークやグループワークによって造形遊びのテーマづくり、遊びの創出等を主体的、協調的に行うこと
成績評価基準	評価の方法：提出作品、構想スケッチ、スケッチブックのまとめ等60％、自己評価票の内容20％、受講態度20％の割合で評価 評価の基準：材料・用具の特性や技法を理解して、演習や作品づくりに習得技能を発揮することができること
フィードバックの方法	提出された作品、構想スケッチ、自己評価票、スケッチブックのまとめ等に毎回講評や評価点を付して本人に返し、振り返りを行う。
時間外の学習について	予習：次時関連の資料収集と材料・用具の確認と準備　（各回30分程度） 復習：受講内容のスケッチブックへのまとめ、写真や配付資料の整理、課題作品の仕上げ・提出準備等　（各回30分程度）
教材にかかわる情報	テキスト：特になし 参考書： 参考資料等：
担当者からのメッセージ等実務経験について	幼稚園・保育所の造形遊びや小学校の図画工作科で用いられている基本的な材料や用具の扱い方について、演習や作品づくりを通して全般的に学び取ることができ、幼稚園教諭・保育士・小学校教諭等、指導者としての基本的な知識と技能を身につけることができます。

授業科目名	幼児造形Ⅱ	教員名	井本　勝美 （単独）	免許・資格との関係	保育士	選択
					幼稚園教諭	選択
					小学校教諭	
ナンバリングコード	UE1-2082-22000				中学校教諭（英語）	
		年次配当	1年後期		高等学校教諭（英語）	
授業形態	演習				特別支援学校教諭	
				卒業要件	初等幼児教育専攻	選択
単位数	1				中等教育専攻	

科目	領域及び保育内容の指導法に関する科目（幼稚園）
各科目に含めることが必要な事項	領域に関する専門的事項
教科目	選択必修科目（保育士）
系列	保育の内容・方法に関する科目
授業テーマ	豊かな感性と人間性を育む幼児期の造形遊びで扱う主な材料・用具の特性と基本的な扱い方に関する知識と技能を学び取り、幼稚園教諭・保育士、小学校教員としての基礎的素養を身につける。
授業概要	立体造形を中心にした題材演習を通じて、幼児期に扱う主な造形材料・用具の扱い方と造形遊びに関する基本的な知識の理解と技術の習得を図る。

達成目標

	科目DP：(4)				
DP番号	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)
1．幼児期の造形に用いる主な材料・用具の特性や扱い方、技法等に関する知識を理解することができる。		◎	○		
2．習得した材料・用具の扱い方や技法を生かして、創意工夫した作品をつくることができる。	○	○	◎		○
3．課題をもとにアイデアを生かして制作に取り組み、その過程を振り返り自己評価することができる。	○		○	◎	
4．幼児や学生の立体作品について、そのよさや美しさを理解しながら鑑賞することができる。	◎	○		○	○

履修条件・注意事項	「幼児造形Ⅰ」の単位を取得済みであること
授業計画	1．授業の目標、概要、演習計画と準備物等の説明と造形に関する実態・希望調査 2．造形遊びⅠ　新聞紙を用いて　（目標 1,2,3,4） 3．造形遊びⅡ　木片を用いて　（目標 1,2,3,4） 4．紙を用いた造形Ⅰ　（新聞紙・広告紙）　（目標 1,2,3,4） 5．紙を用いた造形Ⅱ　（折紙・画用紙）　（目標 1,2,3,4） 6．紙を用いた造形Ⅲ　（段ボール紙）　（目標 1,2,3,4） 7．生活廃材を用いた造形　（ペットボトル）　（目標 1,2,3,4） 8．粘土を用いた造形Ⅰ　（粘土遊び・形づくり）　（目標 1,2,3,4） 9．粘土を用いた造形Ⅱ　（仕上げ・鑑賞）　（目標 1,2,3,4） 10．子どものための制作A　Ⅰ　（ペープサートの基本形づくり）　（目標 1,2） 11．子どものための制作A　Ⅱ　（仕上げ・鑑賞）　（目標 2,3,4） 12．子どものための制作B　Ⅰ　（パネル〈エプロン〉シアターの構想・制作）　（目標 1,2） 13．子どものための制作B　Ⅱ　（登場物の制作）　（目標 2,3） 14．子どものための制作B　Ⅲ　（仕上げ・鑑賞）　（目標 2,3） 15．作品鑑賞・評価と幼児造形Ⅱのまとめ　（目標 3,4）
アクティブ・ラーニング	グループワークにより材料をもとにした共同遊びを創出したり、自分の考えたシナリオをもとにして一人で制作・複数の役柄の演出・演技を行ったりする。
成績評価基準	評価の方法：提出作品、構想スケッチ、シナリオ等60%、自己評価票、相互評価票等20%、演技・受講態度20%の割合で評価 評価の基準：材料・用具の特性や技法を理解して、演習や作品づくり、演技等に習得技能を発揮できること
フィードバックの方法	提出された作品、構想スケッチ、評価票、シナリオ等に毎回講評や評価点を付して本人に返し、振り返りを実施
時間外の学習について	予習：次時関連の資料収集と材料・用具の確認と準備　（各回30分程度） 復習：配付資料をもとにした受講内容のまとめと確認、課題作品の制作・仕上げ、提出準備等（各回30分程度）
教材にかかわる情報	テキスト：特になし 参考書： 参考資料等：
担当者からのメッセージ等実務経験について	幼稚園や保育所の造形遊びや小学校の図画工作科で用いられている基本的な材料や用具の扱い方について、演習や作品づくりを通じて全般的に学び取ることができ、幼稚園教諭・保育士・小学校教諭等、指導者としての基本的な知識と技能を身につけることができます。

授業科目名	幼児体育Ⅰ	教員名	舩場　大資 (実務経験) (単独)	免許・資格との関係	保育士	必修
					幼稚園教諭	必修
					小学校教諭	
ナンバリングコード	UE1-2083-11000				中学校教諭(英語)	
					高等学校教諭(英語)	
授業形態	演習	年次配当	1年前期		特別支援学校教諭	
				卒業要件	初等幼児教育専攻	選択
単位数	1				中等教育専攻	

科目	領域及び保育内容の指導法に関する科目（幼稚園）
各科目に含めることが必要な事項	領域に関する専門的事項
教科目	必修科目（保育士）
系列	保育の内容・方法に関する科目
授業テーマ	幼児体育の指導法、発達に応じた身体活動の理解、模擬授業の作成と実践
授業概要	幼児体育の基本的な指導方法を理解するとともに、幼児の発達の段階に応じた保育目的を設定できるようになる。指導能力を高めるとともに、実践計画を作成できるようになる。

達成目標

	科目DP：(4)				
DP番号	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)
1．幼児体育に必要な理論を学ぶ。		◎		○	
2．幼児の身体的な発達と一日の運動量の理解を深める。		○		◎	
3．運動（あそび）環境づくりができるようになる。		○	○	○	
4．実践の指導とその指導案を作成できるようになる。		○	◎		
5．模擬保育を通じて、議論し、設定保育を改善することができる。				○	◎

履修条件・注意事項	
授業計画	1．オリエンテーション。現代の幼児を取り巻く環境について（目標 1） 2．幼児の発達と身体活動の変化（目標 1,2） 3．幼児の睡眠時間と朝の活動の変化と子どもの運動時間の理解（目標 1,2） 4．運動環境の理解（目標 3） 5．ボール投げ運動と発達段階ごとの投フォームの理解（目標 2,3） 6．ボール投げを利用した模擬保育（目標 4） 7．タオルや新聞紙を利用した運動遊び（目標 2,3） 8．身近な物を利用した模擬保育（目標 4） 9．マットを利用した運動遊び（目標 2,3） 10. マットを利用した模擬保育（目標 4） 11. 模擬保育の改善と議論（目標 5） 12. ティーボールを利用した運動遊び（目標 2,3） 13. ティーボールを利用した模擬保育（目標 4） 14. 模擬保育実践発表（目標 4） 15. 模擬保育の改善と議論（目標 5）
アクティブ・ラーニング	模擬授業・ディスカッション
成績評価基準	評価の方法：期末レポート40点・模擬保育40点・実技点20点 評価の基準：幼児の発達段階を理解し、運動指導を組み立てることができる
フィードバックの方法	模擬保育・ディスカッションに対してコメントをだす
時間外の学習について	予習：模擬保育の準備 復習：模擬保育の議論の準備
教材にかかわる情報	テキスト： 参考書：日本幼児体育学会『幼児体育指導ガイド』大学教育出版 参考資料等：適宜配布します
担当者からのメッセージ等 実務経験について	運動できる恰好で授業に臨んでください。また水分補給ができるように準備してください。 現場での幼児体育指導の経験を踏まえてお話します。

授業科目名	幼児体育Ⅱ	教員名	舩場　大資 (実務経験) (単独)	免許・資格との関係	保育士	選択
					幼稚園教諭	選択
					小学校教諭	
ナンバリングコード	UE1-2084-22000				中学校教諭(英語)	
		年次配当	1年後期		高等学校教諭(英語)	
授業形態	演習				特別支援学校教諭	
				卒業要件	初等幼児教育専攻	選択
単位数	1				中等教育専攻	

科目	領域及び保育内容の指導法に関する科目（幼稚園）
各科目に含めることが必要な事項	領域に関する専門的事項
教科目	選択必修科目（保育士）
系列	保育の内容・方法に関する科目
授業テーマ	幼児体育の指導法、発達に応じた身体活動の理解、模擬授業の作成と実践
授業概要	幼児体育の基本的な理解から応用まで理解し、それを踏まえて運動遊びの導入から展開、まとめまでの指導案作成を学ぶ。また、幼児の体力測定や実際の現場での取り組みを理解しながら、実践的な幼児の健康改善への取り組みについて学ぶ。

達成目標	科目DP：(4)				
DP番号	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)
1．幼児体育に必要な理論を学ぶ		◎		○	
2．現場の実践を学ぶ		◎		○	
3．幼児の体力測定ができるようになる		○		◎	
4．応用的な実践とその指導力を身につける		○	◎		
5．模擬保育を振り返り改善できるようになる				○	◎

履修条件・注意事項	
授業計画	1．オリエンテーション。現代の幼児を取り巻く環境について（目標 1） 2．幼少連携からみる運動能力と健康（目標 1,2） 3．新体力テスト等からみる子どもの運動能力の課題（目標 1,2） 4．MKS幼児体力テストの実践（目標 3） 5．MKS幼児体力テストの評価方法と全国平均値の理解（目標 3） 6．２人組遊びの実践と社会性の形成理解（目標 1,4） 7．鉄棒の実践と指導方法（目標 4） 8．平均台とマットの実践方法（目標 4） 9．転がしドッチボールと簡単な体操実践（目標 4） 10. 巧緻性を高める運動実践（目標 4） 11. 模擬保育実践（ボール運動）（目標 4） 12. 模擬保育実践（器具を使った運動）（目標 4） 13. 模擬保育実践（２人組以上の運動）（目標 4） 14. 障害物競走などの運動会種目の実践（目標 2,4） 15. 模擬保育実践反省会とディスカッション（目標 5）
アクティブ・ラーニング	模擬授業・ディスカッション
成績評価基準	評価の方法：期末レポート40点・模擬保育40点・実技点20点 評価の基準：幼児の発達段階を理解し、運動指導を組み立てることができる
フィードバックの方法	模擬保育・ディスカッションに対してコメントをだす
時間外の学習について	予習：模擬保育の準備 復習：模擬保育の議論の準備
教材にかかわる情報	テキスト： 参考書：日本幼児体育学会『幼児体育指導ガイド２』大学教育出版 参考資料等：適宜配布します
担当者からのメッセージ等 実務経験について	運動できる恰好で授業に臨んでください。また水分補給ができるように準備してください。 現場での幼児体育指導の経験を踏まえてお話します。

授業科目名	保育者論	教員名	香川　智弘 澄田　悦子 （複数）	免許・資格との関係	保育士	必修
					幼稚園教諭	必修
					小学校教諭	
					中学校教諭（英語）	
ナンバリングコード	UE1-2085-11000	年次配当	1年前期		高等学校教諭（英語）	
					特別支援学校教諭	
授業形態	講義			卒業要件	初等幼児教育専攻	選択
単位数	2				中等教育専攻	

科目	教科及び教職に関する科目（幼稚園）教育の基礎的理解に関する科目
各科目に含めることが必要な事項	教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む。）
教科目	必修科目（保育士）
系列	保育の本質・目的に関する科目
授業テーマ	幼稚園・保育所の役割、幼稚園教諭・保育所保育士の役割及びその職務内容を学ぶ
授業概要	この講義で教員（保育者）としての基本的な資質を養うとともに、将来教職に就くにあたって基礎的基本的事項を考察する。教員（保育者）をとりまく状況、教職の意義と魅力、学校教育活動の諸場面における教員（保育者）の役割、職務内容、組織として「チーム学校」の一員として諸課題に対応することについて話題を提供し、ディスカッションや教育現場における見学・体験活動等を通じて教職への理解を深める。

達成目標	科目DP：(2)				
DP番号	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)
1．わが国における今日の学校教育や教職の社会的意義：公教育の目的を踏まえ、その担い手である教員の存在意義を理解する／受講生の進路選択に向け、他の職業と比較しつつ教職の職業的特徴を理解する					
2．教員（保育者）の役割・資質能力：教職観の変遷を踏まえ、現在求められている教員の役割を理解する／その役割を担うための基礎的な資質能力について理解する					
3．教員（保育者）の職務内容の全体像並びに教員（保育者）に課せられる服務上・身分上の義務：幼児理解に基づく教育活動に関わる職務の全体像を理解する／「学び続ける教員」であるための研修の意義および制度上の位置づけを理解する／教員に課せられる服務上・身分上の義務及び身分保障を理解する					
4．学校内外の専門家との連携・分担して対応することの必要性：学校が担う役割の拡大や多様化に対応するために、チームとして組織的に諸課題に対応する重要性を理解する					

履修条件・注意事項	
授業計画	第１回：教職（保育職）の位置づけ－公教育の目的と教員（目標 1） 第２回：教員（保育者）養成の歴史－養成制度の変遷について（目標 1,2） 第３回：求められる保育者像－役割の多様性について（目標 1,2） 第４回：教員（保育者）の役割と仕事（1）－保育者モデルとその果たすべき役割について（目標 1,2,3） 第５回：教員（保育者）の役割と仕事（2）－校務分掌と職責について（目標 1,2,3,4） 第６回：教員（保育者）の役割と仕事（3）－研修制度について（目標 1,2,3,4） 第７回：教員（保育者）の役割と仕事（4）－他の専門職・専門機関との連携「チーム学校」への対応（目標 1,2,3,4） 第８回：教員（保育者）の役割と仕事（5）－保護者支援・地域社会との連携（目標 1,2,3,4） 第９回：保育現場見学実習Ⅰ事前指導－幼稚園における一日見学体験活動を効果的に実施するための事前指導（目標 1,2,3,4） 第10回：保育現場見学実習Ⅰ－付属幼稚園における見学・体験活動によって教職の意義及び教員（保育者）の役割・職務内容を実践的に学ぶ（目標 1,2,3,4） 第11回：保育現場見学実習Ⅰ事後指導－見学・体験活動による学びをより深めるため学生によるグループディスカッションと意見発表を行う（目標 1,2,3,4） 第12回：保育現場見学実習Ⅱ事前指導－保育所における一日見学・体験活動を効果的に実施するための事前指導（目標 1,2,3,4） 第13回：保育現場見学実習Ⅱ－保育所における見学・体験活動によって教職の意義及び教員（保育者）の役割・職務内容を実践的に学ぶ（目標 1,2,3,4） 第14回：保育現場見学実習Ⅱ事後指導－見学・体験活動による学びをより深めるため学生によるグループディスカッションと意見発表を行う（目標 1,2,3,4） 第15回：教員（保育者）の任用と服務－教員の職業倫理や服務規定について（目標 1,2,3）
アクティブ・ラーニング	
成績評価基準	評価の方法：・レポート3回（75％）…教職に対する適性や意欲を表明できるか。 ・見学・体験活動（25％）…取組への積極性や・適性など活動状況。 評価の基準：
フィードバックの方法	レポートを返却し講評する。発表させ講評する。
時間外の学習について	予習：学修内容をノートにまとめる（30分） 復習：学修内容をノートにまとめる（30分）
教材にかかわる情報	テキスト：特になし 参考書：幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領他授業中に適宜資料を配布する。 参考資料等：
担当者からのメッセージ等 実務経験について	

授業科目名	保育方法論	教員名	中原　久子 (実務経験) (単独)	免許・資格との関係	保育士	選択
					幼稚園教諭	必修
					小学校教諭	
					中学校教諭(英語)	
ナンバリングコード	UE1-2086-21000	年次配当	1年後期		高等学校教諭(英語)	
					特別支援学校教諭	
授業形態	講義			卒業要件	初等幼児教育専攻	選択
単位数	2				中等教育専攻	

科目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目（幼稚園）
各科目に含めることが必要な事項	教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む。）
教科目	選択必修科目（保育士）
系列	保育の内容・方法に関する科目
授業テーマ	乳幼児期に経験させたい保育内容や保育実施のための保育形態・保育方法について理解する。
授業概要	この講義で幼稚園教諭としての基本的な資質を養うとともに、幼児の幼稚園教育において育みたい資質能力を理解し、幼稚園教育要領に示された当該領域のねらい及び内容について背景となる５つの領域と関連させて理解を深め、幼児の発達に即して、主体的・対話的で深い学びが実現する過程を踏まえて具体的な指導場面を想定しながら保育を構想する方法を学ぶ。

達成目標

	科目DP：(2)				
DP番号	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)
1．幼稚園教育要領に示された幼稚園教育の基本を踏まえ、幼稚園教育の全体構造を理解する。		○	○		
2．幼稚園教育に示された５領域のねらい・内容及び指導上の留意点を学び、小学校の教科等とのつながりを理解する。		◎			
3．幼児の発達や学びの過程を理解し、具体的な指導場面を想定した指導案の作成や、保育を構想する方法を学ぶ。				◎	◎
4．各領域の特性及び幼児の体験との関連を考慮した、情報機器及び教材の活用法を理解し、保育構想の向上に取り組むことの重要性を学ぶ。	○		◎		

履修条件・注意事項	
授業計画	第１回：幼稚園教育の目的と目標及び今日の幼児教育の在り方について（目標 1） 第２回：幼稚園教育要領に示された「生きる力」の基礎となる資質・能力の“３つの柱”について（目標 1,2） 第３回：幼稚園教育の各領域のねらい・内容・内容の取り扱いについて（目標 1,2） 第４回：幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿について（目標 1,2,3） 第５回：幼稚園教育要領で示された「主体的・対話的で深い学び」について（目標 1,2,3,4） 第６回：幼稚園教育におけるカリキュラム・マネジメントとPDCAサイクルについて（目標 1,2,3,4） 第７回：幼稚園教育における評価のとらえ方について（目標 1,2,3） 第８回：保育の計画と実践（1）－日案作成と保育実践の評価・反省：3歳児について（目標 1,2,3,4） 第９回：保育の計画と実践（2）－日案作成と保育実践の計画・反省：4歳児について（目標 1,2,3,4） 第10回：保育の計画と実践（3）－日案作成と保育実践の計画・反省：5歳児について（目標 1,2,3,4） 第11回：こどもの「なぜ」「どうやって」が入ってくるような深い学びの活動や遊びの展開についての指導案の立案・模擬保育について（目標 1,2,3,4） 第12回：模擬保育とその振り返り・保育の改善について（目標 1,2,3） 第13回：幼稚園教育における教材の捉え方・情報機器活用について（目標 1,2,3,4） 第14回：幼児が５領域で経験し身につけていく内容の関連性及び小学校教育との接続について（目標 1,2,3,4） 第15回：教師の役割とその専門性について（目標 1,2） 定期試験
アクティブ・ラーニング	テーマを決めてディスカッション・グループワーク、模擬保育
成績評価基準	・毎回授業終了時の小レポート・指導案の作成（30%）…教職に対する受講生の適性や意欲を表明できるか ・試験（70%）…幼稚園教育に関する基礎的基本的事項を理解し、保育を構想する方法を修得しているか
フィードバックの方法	コメントをつけて返却する。
時間外の学習について	予習：次の授業で扱う内容を事前に読んでおくこと。製作課題がある場合は事前に下準備をすること。（各回30分程度） 復習：授業で扱った内容をもう一度見返しておくこと。（各回30分程度）
教材にかかわる情報	テキスト：神長美津子・津金美智子・五十嵐市郎　（編著）『保育方法論』株式会社光生館 参考書：文部科学省『幼稚園教育要領』／厚生労働省『保育所保育指針』 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』 その他、授業中に適宜資料を配布する。 参考資料等：
担当者からのメッセージ等 実務経験について	幼稚園教諭・保育士が熟知しなければならない保育方法の基本を学ぶとともに、実践事例に接する。幼稚園教諭として幼稚園に勤務。実務経験をもとにこれからの保育を創造するための保育の方法について話をします。

授業科目名	保育の心理学	教員名	堂野　佐俊 （単独）	免許・資格との関係	保育士	必修
					幼稚園教諭	必修
					小学校教諭	
ナンバリングコード	UE2-2087-11000				中学校教諭（英語）	
		年次配当	２年前期		高等学校教諭（英語）	
授業形態	講義				特別支援学校教諭	
				卒業要件	初等幼児教育専攻	選択
単位数	2				中等教育専攻	

科目	教科及び教職に関する科目（幼稚園）教育の基礎的理解に関する科目
各科目に含めることが必要な事項	・幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程
教科目	必修科目（保育士）
系列	保育の対象の理解に関する科目
授業テーマ	幼児・児童及び生徒の心身の発達、特別支援児童・生徒、学習過程
授業概要	人間発達のメカニズムについて心理学的に理解する。現代社会における子どもの成長発達に関して実態に即して把握し、日常生活や教育場面、家庭・地域における人間の生涯発達の様相について理解を深める。誕生からの発達の過程、子どもの心性と発達のメカニズム、仲間集団の体験が及ぼす発達への影響、特別支援児を含めた子ども達の発達の特徴について、ハードとソフトの両面から現代社会に焦点を当てて人間発達を捉え、その発達段階を踏まえた学習指導や学習過程の基礎を理解する。

達成目標

	科目DP：(2)				
DP番号	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)
1．人間の発達に関して、その原理と要因について理解する。		◎			
2．心理学的発達課題及び各発達段階における特徴について理解する。		◎			
3．子どもから高齢者、特別支援者の視点も含めながら生涯発達の観点から理解する。		◎			
4．発達加速現象とモラトリアムの意義について理解する。		◎			
5．人格的発達の観点からパーソナリティ形成について理解する。		◎			
6．学習過程・学習指導の基礎を理解する。		◎			

履修条件・注意事項	基礎となる「心理学」関係の授業を履修していることが望ましい
授業計画	第１回：人間発達の概念　（目標 1） 第２回：発達の過程と可能性　（目標 1） 第３回：発達の要因と発達環境　（目標 1） 第４回：発達の原理と「個性化・社会化」（目標 1） 第５回：発達段階と発達課題（目標 2） 第６回：乳幼児期の発達　（目標 3） 第７回：幼児期から児童期への思考の発達　（目標 3） 第８回：児童期の発達と脱中心化　（目標 3） 第９回：青年期の発達と自我の確立　（目標 3） 第10回：発達加速現象と青年期の長期化　（目標 4） 第11回：成人期から老年期への発達　（目標 3） 第12回：人格的発達とパーソナリティの形成並びに学習の概念・領域・過程　（目標 5,6） 第13回：認知及び言語的発達と適応の発達並びに学習の動機づけ・集団づくり・評価　（目標 5,6） 第14回：情動の分化と発達を踏まえた学習指導　（目標 5,6） 第15回：社会的発達の側面と学習過程　（目標 5,6） 定期試験
アクティブ・ラーニング	
成績評価基準	評価の方法：毎回提出のレポート（30%）、定期試験（70%）の結果を総合的に評価する 評価の基準：
フィードバックの方法	毎講義後のコメントシートに対して、次回の冒頭に講評及び応答を行なう。
時間外の学習について	予習：予め配布された資料（次回講義の為の）に基づいてノートを作成する。（45分程度） 復習：作成済みのノートへの講義中の記入について再度確認・点検し、整理する。（45分程度）
教材にかかわる情報	テキスト：使用しない。毎回資料を配付する。 参考書：「発達理解の心理学」（堂野佐俊・堂野恵子 <著>）ブレーン出版。講義内容に関する資料を適宜配布する。講義は毎回パワーポイント等（ＩＴ）を使用して視聴覚的にも提示する。 参考資料等：
担当者からのメッセージ等 実務経験について	毎回の授業後の質問・コメントカードを積極的に活用してほしい Where there is a will, there is a way.

授業科目名	保育内容の指導法・健康	教員名	安邉　武子 （単独）	免許・資格との関係	保育士	必修
					幼稚園教諭	必修
					小学校教諭	
					中学校教諭（英語）	
ナンバリングコード	UE2-2088-11000	年次配当	２年後期		高等学校教諭（英語）	
					特別支援学校教諭	
授業形態	演習			卒業要件	初等幼児教育専攻	選択
単位数	1				中等教育専攻	

科目	教科及び教職に関する科目（幼稚園）領域及び保育内容の指導法に関する科目
各科目に含めることが必要な事項	保育内容の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）
教科目	必修科目（保育士）
系列	保育の内容・方法に関する科目
授業テーマ	幼稚園教育要領、保育所保育指針における領域の「健康」についての基礎的知識、理解を深め、技術を身につける。
授業概要	・幼稚園教育要領・保育所保育指針における領域「健康」についてねらい及び内容・指導法の理解を深める ・乳幼児の心と体の発達を理解し、健康で安全な生活をつくり出す力を養う援助・関わりを理解する

達成目標

	科目DP：(4)				
DP番号	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)
1．幼稚園教育要領、保育所保育指針における領域「健康」について、ねらい及び内容（並びに全体構造）を理解する		○	○	○	
2．領域「健康」のねらい及び内容を踏まえ、健康な心と体を育てるための指導上の留意点を理解する		◎	◎	◎	
3．領域「健康」のねらい及び内容を踏まえ、健康で安全な生活をつくり出す力を育てる指導上の留意点を理解する		◎	◎	◎	
4．領域「健康」についての指導案を作成し具体的な指導場面を想定することができる	○	◎	◎	◎	◎

履修条件・注意事項	
授業計画	1．領域「健康」のめざすもの　（目標 1,2,3） 2．幼稚園教育要領、保育所保育指針の領域「健康」のねらいと内容について　（目標 1,2,3,4） 3．幼稚園教育要領、保育所保育指針の領域「健康」のねらいと内容・評価について　（目標 1,2,3,4） 4．領域「健康」乳幼児の身体・運動機能の発達について　（目標 1,2,3,4） 5．領域「健康」乳幼児の健康な心と体とあそびについて　（目標 1,2,3,4） 6．領域「健康」乳幼児の健康と食育について（情報機器及び教材の活用）（目標 1,2,3,4） 7．領域「健康」健康な生活リズムについて　（目標 1,2,3,4） 8．領域「健康」基本的な生活習慣の形成と指導について　（目標 1,2,3,4） 9．領域「健康」発達段階と運動あそびと小学校との接続について　（目標 1,2,3,4） 10．領域「健康」運動あそびの指導案作成について　（目標 1,2,3,4） 11．領域「健康」心の健康について（情報機器及び教材の活用）（目標 1,2,3,4） 12．領域「健康」乳幼児の保健・衛生について　（目標 1,2,3,4） 13．領域「健康」疾病・けがとその対応について　（目標 1,2,3,4） 14．領域「健康」乳幼児の健康と自然環境について　（目標 1,2,3,4） 15．領域「健康」安全教育について（災害時の対応　避難訓練を含む）（目標 1,2,3,4）
アクティブ・ラーニング	グループワーク・模擬授業
成績評価基準	評価の方法：授業への取り組み態度（20%）提出物・発表（30%）レポート（50%） 評価の基準：定期テスト、課題提出、グループワーク・授業への取り組み
フィードバックの方法	課題にコメントをつけて返却する。
時間外の学習について	予習：演習資料の課題を検討し、グループ検討会へ提出（コピーを提出）。グループ発表準備。 復習：知識の定着を図るため、小テストを単元ごとに実施。（各回30分程度）
教材にかかわる情報	テキスト：幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、保育所保育指針 参考書：保育内容「健康」近藤幹生　徳安敦　山本明美　　青踏者社 その他、授業中に適宜資料を配布する。 参考資料等：
担当者からのメッセージ等 実務経験について	・健康をライフサイクルでとらえ、発達段階に合わせた指導を考えられるように、他の教科との連携を大切にしてほしい。 ・グループ討議では、他者の考えを聞く良い機会になるので、積極的に参加してください。 ・実技では、準備から後始末まで責任もって行います。指示待ちにならないように。

授業科目名	保育内容の指導法・人間関係	教員名	中原　久子（実務経験）（単独）	免許・資格との関係	保育士	必修
					幼稚園教諭	必修
					小学校教諭	
					中学校教諭（英語）	
ナンバリングコード	UE2-2089-11000	年次配当	2年前期		高等学校教諭（英語）	
					特別支援学校教諭	
授業形態	演習			卒業要件	初等幼児教育専攻	選択
単位数	1				中等教育専攻	

科目	領域及び保育内容の指導法に関する科目（幼稚園）
各科目に含めることが必要な事項	保育内容の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）
教科目	必修科目（保育士）
系列	保育の内容・方法に関する科目
授業テーマ	幼稚園教育要領・保育所保育指針に示す領域「人間関係」の基本的な知識、人とのかかわりの具体的保育の実践、保育者の役割について理解できる
授業概要	この講義で、領域「人間関係」の「他の人々と親しみ支えあって生活するために自立心を育て人と関わる力を養う」ことを目指し、幼稚園教育で育みたい資質・能力について理解し、幼稚園教育要領に示された領域「人間関係」のねらい及び内容について背景となる専門領域と関連させながら理解を深め、幼児の発達に即した主体的・対話的な深い学びが実現する過程を踏まえた、保育を構想し実践する方法を学ぶ。

達成目標

	科目DP：(4)				
DP番号	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)
1．幼稚園教育要領に示された幼稚園教育の基本を踏まえ、領域「人間関係」のねらいと内容を理解する。	○	○			
2．幼児の発達や学びの過程を理解し、領域「人間関係」に関わる具体的な指導場面を想定し、指導案作成・模擬保育・振り返り・保育の改善（PDCA）などを通して保育を構想する力を身につける。		◎		○	
3．幼児期の集団生活を通して、様々な人と関わる経験で培われる人間性と小学校教育との円滑な接続の重要性について学ぶ。			◎		
4．具体的な事例をロールプレイにより体験することで、様々な人の気持ちを理解し内面の育ちを重視し、領域「人間関係」の視点をより深める。				◎	◎

履修条件・注意事項

授業計画

1．幼稚園教育において育みたい資質・能力の3つの柱について（目標 1）
2．幼児期の終わりまでに育ててほしい10の姿と領域「人間関係」の関連について（目標 1,2）
3．幼稚園教育における評価の考え方について（目標 1,2）
4．領域「人間関係」のねらい・内容・内容の取り扱いとその構造について（目標 1,2,3）
5．領域「人間関係」のねらいと内容（1）－幼稚園生活を楽しみ主体的に行動することで育つ自立心について（目標 1,2,3）
6．教師との信頼関係に支えられて自己発揮する姿を想定した保育指導案の作成について（目標 1,2）
7．領域「人間関係」のねらいと内容（2）－一人一人を生かした集団形成と人と関わる力の育成について（目標 1,2,3,4）
8．領域「人間関係」のねらいと内容（3）－協同性の育ちと人間関係について（目標 1,2,3,4）
9．共通の目的が実現する喜びを味わう保育を計画し、模擬保育とその振り返り・改善について（目標 1,2,3,4）
10．領域「人間関係」のねらいと内容（4）－道徳性と規範意識の芽生えについて（目標 1,2,3,4）
11．領域「人間関係」のねらいと内容(5)－地域・社会・家庭の中で育つ人間関係について(目標 1,2,3,4)
12．ロールプレイで考える「人との関わりが難しい子どもへの支援」と「トラブル」について（目標 1,2,3,4）
13．領域「人間関係」の特性と幼児の体験との関連を踏まえた教材及び情報機器などの活用について（目標 1,2,3）
14．領域「人間関係」においての小学校「道徳」教育との接続について（目標 1,2,3）
15．領域「人間関係」をめぐる現代的課題と保育構想の向上について（目標 1,2,3）
定期試験

アクティブ・ラーニング	テーマを決めてのディスカッションやグループワーク、ロールプレイ
成績評価基準	評価の方法：・指導案作成・模擬保育（30%）…ねらい・内容を理解し意欲的に取り組めたか ・試験（70%）…幼稚園教育要領に示された幼稚園教育の基本と、領域「人間関係」のねらい・内容を深く理解しているか 評価の基準：
フィードバックの方法	コメントをそえて返却する。
時間外の学習について	予習：特に求めない 復習：授業での学びを簡単にまとめる（各回45分程度）
教材にかかわる情報	テキスト：岩立京子・西坂小百合　（編著）『保育内容 人間関係』株式会社光生館 参考書：幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、その他、授業中に適宜資料を配布する。 参考資料等：
担当者からのメッセージ等実務経験について	人が人として生きていく上で欠かすことのできない人とのかかわりが乳幼児期からどう育っていくかを具体的に学ぶ中で、保育者・教育者としてどのように子どもや保護者とのコミュニケーションをとっていくか、演習を交えながら進めて行きます。 幼稚園教諭として幼稚園に勤務。実務経験をもとに保育内容の指導法・人間関係について話をします。

授業科目名	保育内容の指導法・環境	教員名	渡邉　二美子（単独）	免許・資格との関係	保育士	必修
					幼稚園教諭	必修
					小学校教諭	
					中学校教諭（英語）	
ナンバリングコード	UE2-2090-11000	年次配当	２年前期		高等学校教諭（英語）	
					特別支援学校教諭	
授業形態	演習			卒業要件	初等幼児教育専攻	選択
単位数	1				中等教育専攻	

科目	領域及び保育内容の指導法に関する科目（幼稚園）
各科目に含めることが必要な事項	保育内容の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）
教科目	必修科目（保育士）
系列	保育の内容・方法に関する科目
授業テーマ	幼児期は「環境による教育」といわれ、その意義を理解し、領域「環境」の保育の基本的知識として「ねらい・内容・内容の取り扱い」、「保育者の適切な援助」について理解する。
授業概要	領域「環境」は、「周囲の様々な環境に好奇心や探究心をもって関わり、それらを生活に取り入れていこうとする力を養う」ことを目指し、幼稚園教育において育みたい資質･能力について理解し、幼稚園教育要領に示された領域「環境」のねらい及び内容を理解する。幼児の発達に即して、主体的で対話的深い学びのための体験と実感を大切にし、領域「環境」の具体的な保育を構想する力を学ぶ。

達成目標

	科目DP：(4)				
DP番号	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)
1．幼稚園教育要領に示された幼児教育の基本を踏まえ領域「環境」のねらいと内容を理解する。		◎	○		
2．領域「環境」に関わる具体的な指導場面を想定し、指導案の作成や模擬保育とその振り返り又、その保育の改善等を通して保育を構想する方法を身につける。			◎	○	
3．幼稚園教育と小学校教育との円滑な接続のために、領域「環境」において遊びを通した指導の中で、知識、技能、思考力、判断力などの資質や能力が、小学校において生活し学習していくための基盤をつくっていることを理解する。			○	◎	
4．子どものおかれた様々な地域の環境の特殊性、文化、伝統などを踏まえ、地域の行事、自然の特徴、公共施設などを深く学び、保育に取り入れて子どもたちの地域愛につながっていることを理解する。	○			○	◎

履修条件･注意事項	
授業計画	1．幼稚園教育の基本－資質・能力の3の柱と幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿について（目標 1,2） 2．幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿と領域「環境」の関連について（目標 1） 3．幼稚園教育における評価の考え方について（目標 1） 4．領域「環境」のねらい及び内容並びに全体構造について（目標 1,2） 5．領域「環境」のねらいと内容（1）－身近な環境に親しみ自然との関わりについて（目標 1,2） 6．子どもの身近な環境や自然を想定した保育の指導案を作成することについて（目標 1,2） 7．領域「環境」のねらいと内容（2）－身近な環境の中から子どもの「見つけた」の扱い方とそれを生活に取り入れようとすることについて（目標 1,2） 8．領域「環境」のねらいと内容（3）－身近な事象と思考力の芽生えについて（目標 1,2） 9．領域「環境」のねらいと内容（4）－数量・図形・文字への関心と感覚について（目標 1,2） 10．数量･図形の保育を計画し、模擬保育とその振り返り、保育を改善することについて（目標 1,2） 11．領域「環境」のねらいと内容（5）－社会生活との関わりについて（目標 1,2） 12．様々な地域の環境や行事、公共の場所などとの関わりを深めることについて（目標 1） 13．領域「環境」の特性を踏まえ、どのような教材・情報機器などをどのように活用するかについて（目標 1,2） 14．領域「環境」での小学校教育への接続について（目標 1） 15．現代的課題や保育実践の動向について（目標 2） 定期試験
アクティブ･ラーニング	授業の中でプレゼンテーションやグループワーク、ディスカッション等を取り入れ模擬保育を行う
成績評価基準	・演習として指導案・模擬保育（30%）意欲をもって取り組めているか ・試験（70%）…幼稚園教育に関する基礎的事項を理解し、領域「環境」を深くとらえることができているか
フィードバックの方法	授業の理解度や定着度がわかる質問について単元ごとに説明させ、理解度が低いところ、定着していない内容については再度解説する
時間外の学習について	予習：テキストや参考文献を読み、ノートにまとめて予習ノートを作成しておく 復習：授業内容を日々まとめてノートを作成する　（予習・復習とも45分程度）
教材にかかわる情報	テキスト：柴崎正行・若月芳浩（編）『最新保育講座９　保育内容「環境」』　ミネルヴァ書房 参考書：幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、その他、授業中に適宜資料を配布する。 参考資料等：
担当者からのメッセージ等実務経験について	子どもに様々な環境を用意できるのは保育者です。子どもにとって豊かな環境とはどんな環境かを一緒に考えましょう。

授業科目名	保育内容の指導法・言葉	教員名	増原　恵子 （単独）	免許・資格との関係	保育士	必修
					幼稚園教諭	必修
					小学校教諭	
					中学校教諭（英語）	
ナンバリングコード	UE2-2091-11000	年次配当	２年後期		高等学校教諭（英語）	
					特別支援学校教諭	
授業形態	演習			卒業要件	初等幼児教育専攻	選択
単位数	1				中等教育専攻	

科目	教科及び教職に関する科目（幼稚園）領域及び保育内容の指導法に関する科目
各科目に含めることが必要な事項	保育内容の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）
教科目	必修科目（保育士）
系列	保育の内容・方法に関する科目
授業テーマ	領域「言葉」のねらい及び内容を理解し、乳幼児の言葉の発達や学びの過程を踏まえた保育指導・保育者の言葉についての専門知識や技術を身に付ける。
授業概要	領域「言葉」のねらい及び内容について理解を深め、幼児の発達に即した具体的な保育を構想していく力を養う。保育現場での様々な事例を通して考察することで、より具体的に領域「言葉」のねらい及び内容・他領域との関連等についての理解を深める。指導案作成・教材研究・実践等を通して、幼児の主体的・対話的な学びにつながる保育について考え、方法を身に付けることで実践力につなげていく。絵本や紙芝居等の紹介・読み聞かせを随時実践し、文化財への理解を深めると共に「言葉」による表現の楽しさを知る。

達成目標

	科目DP：(4)				
DP番号	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)
1．幼稚園教育要領に示された幼稚園教育の基本を踏まえ、領域「言葉」のねらい及び内容を理解する。（領域「言葉」のねらい及び内容・全体構想について理解する / ねらい及び内容を踏まえた幼児の経験・指導上の留意点について理解する / 幼稚園教育における評価の考え方を理解する / 幼児期の言葉に関する経験や内容の関連性・小学校の教科とのつながりを理解する）		◎		◎	
2．幼児の発達や学びの過程を理解し、領域「言葉」に関わる具体的な指導場面を想定した保育を構想する方法を身に付ける。（幼児の心情、認識、動き等に配慮した保育構想の重要性を理解する / 教材・情報機器等の活用法を理解し、豊かな言語経験につながる保育構想に活用する / 幼児の生活と指導案との関連性を理解し具体的な保育を想定した指導案を作成する / 模擬保育とその振り返りを個人及び学生同士で行うことで保育者としての視点や具体的な改善法を身に付ける / 言葉に関する現代的課題や保育実践の動向を知り、保育構想の向上に取り組む）			◎		○

履修条件・注意事項	
授業計画	1．乳幼児期の言葉の発達について　（目標 1） 2．領域「言葉」と保育方法（1）　ねらい・内容について　（目標 1） 3．領域「言葉」と保育方法（2）　保育者の役割について　（目標 1,2） 4．領域「言葉」と保育方法（3）　環境構成について　（目標 1,2） 5．領域「言葉」と保育方法（4）　指導計画と評価について　（目標 1,2） 6．領域「言葉」と保育の実際（1）自分の気持ちを表現することについて（情報機器及び教材の活用を含む。）（目標 1,2） 7．領域「言葉」と保育の実際（3）イメージや言葉を豊かにすることについて（情報機器及び教材の活用を含む。）（目標 1・2） 8．領域「言葉」と保育の実際（4）文字に親しみ関心をもつことについて　（目標 1,2） 9．領域「言葉」と保育の実際（5）思いを伝えあうことについて　（目標 1,2） 10. 教材研究と実践（1）手作り教材を利用した指導案作成　（目標 2） 11. 教材研究と実践（2）手作り教材作成　（目標 2） 12. 教材研究と実践（3）模擬保育と振り返り　（目標 2） 13. 教材研究と実践（4）ことば遊びの実践　（目標 2） 14. 言葉でのかかわりに配慮を必要とする子どもについて　（目標 1,2） 15. 言葉をめぐる相談への対応について　（目標 1,2） 定期試験
アクティブ・ラーニング	ディスカッション・グループワーク・模擬保育
成績評価基準	・試験（60%）・・領域「言葉」に関する基本的内容・幼児の育ちと保育の関連性について理解しているか ・実践力（30%）・・読み聞かせ・教材づくりや活用、幼児理解に基づいた保育構想・実践ができているか ・教材研究（10%）・・絵本や紙芝居等文化財に関心をもち、幼児に必要な環境として体験したり情報を収集したりしているか
フィードバックの方法	その都度個別に評価・アドバイスを記入し返却すると共に、授業内で課題に対する考え方や保育について具体的方法を示すことで理解を深められるようにする。
時間外の学習について	予習：テキストを読み次回授業内容を把握しておく・絵本等実践に必要な教材の準備 復習：授業の振り返り・適宜レポートを課題とする　（各30分程度）
教材にかかわる情報	テキスト：柴崎正行・戸田雅美・秋田喜代美（編）『保育内容「言葉」』ミネルヴァ書房 事例で学ぶ保育内容　領域　言葉　（萌文書林） 参考書：幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、保育所保育指針 その他、適宜資料配布及び教材紹介をする（絵本・紙芝居・パネルシアター・DVD等） 参考資料等：
担当者からのメッセージ等 実務経験について	絵本や紙芝居の読み聞かせを随時実践します。多くの絵本等に親しみ自らの感性や言葉を豊かにしていく時間をもちましょう 幼稚園教諭としての実務経験をもとに幼児が、人とかかわりながら言語表現を豊かにしていく姿、そしてその育ちを支える保育者の役割について話をします。

授業科目名	保育内容の指導法・音楽表現Ⅰ	教員名	坂本　久美子（単独）	免許・資格との関係	保育士	選択
					幼稚園教諭	必修
					小学校教諭	
					中学校教諭（英語）	
ナンバリングコード	UE1-2092-21000	年次配当	1年後期		高等学校教諭（英語）	
					特別支援学校教諭	
授業形態	演習			卒業要件	初等幼児教育専攻	選択
単位数	1				中等教育専攻	

科目	教科及び教職に関する科目（幼稚園）領域及び保育内容の指導法に関する科目
各科目に含めることが必要な事項	保育内容の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）
教科目	選択必修科目（保育士）
系列	保育の内容・方法に関する科目
授業テーマ	音楽表現、子どもの発達、うたう、ひく、うごく、つくる、きく、遊び性、幼児歌曲
授業概要	「幼稚園教育要領」等に示される表現領域のねらいと内容および全体構造を理解すると共に、乳幼児期の発達及び表現の特徴を知る。保育音楽教材の実践を通して、子どもの発達との関連を考える。具体的な計画～実践～評価の在り方を構想する力を身に着ける。模擬保育実践とグループ（G）ディスカッションを通して具体的な援助・指導の在り方を考え、工夫する力や改善する力を養う。

達成目標

科目DP：(4)					
DP番号	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)
1．幼稚園教育の基本を踏まえ、表現領域のねらい及び内容及び全体構造を理解する。	○	◎			
2．表現領域のねらい及び内容を理解する。（指導上の留意点を理解/評価の考え方を理解）	○	◎			
3．幼児の発達や学びの過程を理解し、具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身に付ける。（幼児の認識・思考、動き等を視野に入れた保育の構想を理解/他領域や小学校教科との関連理解）		○	○	◎	○
4．指導案の構成を理解し、具体的な保育を想定した指導案を作成する。（幼児の認識・思考、動き等を視野に入れた保育の構想の重要性を理解/情報機器及び教材の活用法を理解）		○	○	◎	○
5．模擬保育とその振り返りを通して、保育を改善する視点を身に付ける。	○	○	○	◎	○

履修条件・注意事項	
授業計画	1．「幼稚園教育要領」に示された表現領域のねらいと内容、全体構造を理解する。（目標 1,2） 2．表現とは①「身近なところに音を発見」をテーマに、知覚について実践を通して考える。（目標 2） 3．表現とは②「音との出会でアンサンブル」をテーマに、感受について実践を通して考える。（目標 2） 4．子どもの発達と音楽表現、歌唱能力の発達、評価の理解　（目標 2,3） 5．歌う活動を中心とした表現活動　（目標 1,2,3） 6．奏でる遊びを中心とした表現活動　（目標 1,2,3） 7．動く遊びを中心とした表現活動　（目標 1,2,3） 8．つくる遊びを中心とした表現活動　（目標 1,2,3） 9．聴く遊びを中心とした表現活動、情報機器及び教材の活用　（目標 1,2,3,4） 10．小学校音楽科とのつながり、指導計画、保育指導案の作成について　（目標 1,2,3,4） 11．2～3人グループでの指導案作成　（目標 1,2,3,4） 12．歌う活動を中心とした模擬保育とGディスカッション　（目標 2,3,4,5） 13．奏でる活動を中心とした模擬保育とGディスカッション　（目標 2,3,4,5） 14．動く・つくる活動を中心とした模擬保育とGディスカッション　（目標 2,3,4,5） 15．聴く活動を中心とした模擬保育とGディスカッション　（目標 2,3,4,5）　まとめ 定期試験
アクティブ・ラーニング	授業での課題、また模擬保育実践において、グループ・ディスカッションとグループを超えた意見交流を行う。
成績評価基準	評価の方法：定期試験（70%），保育案の作成と模擬保育の発表内容（30%） 評価の基準：
フィードバックの方法	模擬保育等について、改善点をコメントする。 提出物について、コメントを添えて返却する。
時間外の学習について	予習：次回の授業のテーマについて、予め学習しておく。 復習：毎時間の演習を復習する。不明な点は質問すること。（各30分程度）
教材にかかわる情報	テキスト：幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、保育所保育指針、『楽しくうたあそび123』編著者：河北邦子、坂本久美子　ミネルヴァ書房　(2017) 参考書：『山口のわらべうた』日本のわらべうた全集（19巻下号）著者：内田伸、河北邦子　柳原書店（1992）、授業中に適宜資料を配布する。 参考資料等：
担当者からのメッセージ等 実務経験について	動く活動ができる服装と履物で参加すること。 講義と、保育現場での子どもの活動、つまりあそびを実践しながら授業を進めます。

授業科目名	保育内容の指導法・音楽表現Ⅱ	教員名	坂本　久美子（単独）	免許・資格との関係	保育士	選択
					幼稚園教諭	選択
					小学校教諭	
ナンバリングコード	UE3-2093-22000				中学校教諭（英語）	
		年次配当	3年前期		高等学校教諭（英語）	
授業形態	演習				特別支援学校教諭	
				卒業要件	初等幼児教育専攻	選択
単位数	1				中等教育専攻	

科目	教科及び教職に関する科目（幼稚園）領域及び保育内容の指導法に関する科目
各科目に含めることが必要な事項	保育内容の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）
教科目	選択必修科目（保育士）
系列	保育の内容・方法に関する科目
授業テーマ	音楽表現、子どもの発達、指導案、模擬保育、指導法
授業概要	保育において育みたい音楽的資質や能力を理解し、様々な音楽教育の特性を活かし、子どもの発達を踏まえた教材選択や情報機器等を用いた指導のあり方を考える。また、乳幼児の発達に即して保育指導案を作成し、それに基づいた模擬保育実践と考察を通して、子どもの音楽活動について理解を深める。

達成目標

科目DP：(4)					
DP番号	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)
1．保育における、領域「表現」のねらい及び内容を理解する。		◎			
2．乳幼児の発達や学びの過程を理解し、特徴ある世界の音楽教育を踏まえ、音楽表現に関する保育を構想する。	○	◎	○		
3．子どもが経験し、身につけていく音楽的内容と指導上の留意点を理解する。		○	○	◎	
4．音楽の特性を活かした情報機器や教材の活用法を理解し、保育指導案を作成できる。	○		◎	○	
5．指導案に基づき模擬保育を実践し、考察を通して子どもの音楽活動についての理解を深める。	○	○		◎	

履修条件・注意事項	
授業計画	1．保育における音楽表現活動の意義と評価　（目標 1,2） 2．ダルクローズの音楽教育・理論と演習（目標 2,3） 3．コダーイの音楽教育・理論と演習　（目標 2,3） 4．オルフの音楽教育・理論と演習　（目標 2,3） 5．日本のわらべうた・理論と演習　（目標 2,3） 6．教材研究と保育指導案の作成　（目標 2,3,4） 7．保育指導案の改善　（目標 2,3,4） 8．模擬保育実践：あそびうた　（目標 3,4,5） 9．模擬保育実践：歌と身体表現（個の表現）（目標 3,4,5） 10．模擬保育実践：歌と身体表現（集団での表現）（目標 3,4,5） 11．模擬保育実践：歌と楽器演奏（打楽器を使って）（目標 3,4,5） 12．模擬保育実践：歌と楽器演奏（鍵盤楽器を使って）（目標 3,4,5） 13．模擬保育実践：歌と楽器演奏（手作り楽器を使って）（目標 3,4,5） 14．模擬保育実践：音楽活動と造形活動　（目標 3,4,5） 15．模擬保育実践の振り返りとまとめ・小学校との接続　（目標 1,2,3,4,5） 定期試験
アクティブ・ラーニング	模擬授業
成績評価基準	評価の方法：指導案（30%）、模擬保育（30%）、試験（30%）、平常点（10%） 評価の基準：年齢に応じた保育指導案を作成し、模擬保育を実践することができる。幅広い音楽教育の知識を、教材選択や活動内容に活かすことができる。自己の音楽表現力や指導力の向上に取り組む姿勢がみられる。
フィードバックの方法	オフィスアワー等を利用し、保育指導案の個人指導を行う。模擬保育実践後には、改善点をコメントする。
時間外の学習について	予習：子どもの歌のレパートリーを増やしておく。 復習：授業内容に応じ、自己の音楽力の向上や指導案の改善を行う。（各30分程度）
教材にかかわる情報	テキスト：河北邦子・坂本久美子編著『幼稚園・保育所・家庭で楽しくうたあそび　123』（ミネルヴァ書房） 参考書：幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領 その他、授業中に適宜資料を配布する。 参考資料等：
担当者からのメッセージ等 実務経験について	動きやすい服装で参加すること

授業科目名	保育内容の指導法・造形表現Ⅰ	教員名	中村　登（実務経験）（単独）	免許・資格との関係	保育士	必修
					幼稚園教諭	必修
					小学校教諭	
ナンバリングコード	UE2-2094-11000				中学校教諭（英語）	
					高等学校教諭（英語）	
授業形態	演習	年次配当	2年前期		特別支援学校教諭	
単位数	1			卒業要件	初等幼児教育専攻	選択
					中等教育専攻	

科目	教科及び教職に関する科目（幼稚園）領域及び保育内容の指導法に関する科目
各科目に含めることが必要な事項	保育内容の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）
教科目	必修科目（保育士）
系列	保育の内容・方法に関する科目
授業テーマ	模擬保育実践を通して幼児への関わり方を学び､保育者としての実践的な能力の育成の向上を図る。
授業概要	幼児の造形表現に関する指導案の作成、模擬保育実践、事後評価をセットで行い、保育実践の基礎的事項について学ぶ

達成目標

	科目DP：(4)				
DP番号	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)
1．幼稚園教育要領の基本を理解する。	◎				○
2．幼児の発達段階に応じた造形表現に関わる保育指導について修得する。				○	◎
3．幼児造形で用いる主な材料・用具の特性と基本的な扱い方を修得する。		○	◎		
4．保育指導案の書き方を理解し､造形表現の保育のポイントについて修得する。		◎	○		
5．模擬保育の実践を通して環境構成のあり方や幼児への関わり方、及び評価について修得する。	○			◎	

履修条件・注意事項

授業計画

1．授業説明、授業の目標、題材研究、指導案作成、模擬保育、評価のあり方、内容の関連や小学校教科との関連について　（目標 1,2）
2．幼児の造形遊び　「新聞紙で遊ぼう」　―　題材研究について　（目標 2,3）
3．保育指導案の作成について　（目標 4］
4．模擬保育の実践について（情報機器及び教材の活用）（目標 3,5）
5．模擬保育の反省及び事後評価とまとめについて　（目標 2,4,5）
6．①幼児の造形遊び　「コロッコで遊ぼう」　―　題材研究について　（目標 2,3）
7．保育指導案の作成について　（目標 4）
8．模擬保育の実践について（情報機器及び教材の活用）（目標 3,5）
9．模擬保育の反省及び事後評価とまとめについて　（目標 2,3,4,5）
10．②幼児の造形遊び　「木片で遊ぼう」　―　題材研究について　（目標 2,3）
11．保育指導案の作成について　（目標 4］
12．模擬保育の実践について（情報機器及び教材の活用）（目標 3,5）
13．模擬保育の反省及び事後評価とまとめについて　（目標 2,4,5）
14．造形表現の指導法（造形表現Ⅰ）のまとめ　①　環境構成,指導案作成について（目標 1,2,3,4,5）
15．造形表現の指導法（造形表現Ⅰ）のまとめ　②　保育の展開と幼児への援助について（目標 1,2,3,4,5）

アクティブ・ラーニング	グループワーク、模擬授業
成績評価基準	評価の方法：保育指導案作成と模擬保育の活動内容（70%）　授業態度（30%） 評価の基準：造形表現を通して保育実践の基礎的な事柄を理解することができる
フィードバックの方法	授業後の感想、気付きを記述し理解を深める。
時間外の学習について	予習：テーマにそった実践したい題材研究 復習：模擬保育実習後の反省　（各30分程度）
教材にかかわる情報	テキスト：自作資料 参考書：幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、「新造形表現　（理論・実践編）」、「新造形表現（実技編）」花篤 實・岡田懲吾編著、「保育の中の造形活動」林 建造・岡田懲吾編著、「乳幼児の絵画指導」松岡義和著書 参考資料等：
担当者からのメッセージ等 実務経験について	保育内容の指導法（造形表現Ⅰ）を学ぶことで保育実践の基礎を身に付けよう。 山口市立幼稚園勤務での実務経験をもとに造形表現を通した指導法について話をします。

授業科目名	保育内容の指導法・造形表現Ⅱ	教員名	中村　登（実務経験）（単独）	免許・資格との関係	保育士	選択
					幼稚園教諭	選択
					小学校教諭	
ナンバリングコード	UE3-2095-22000				中学校教諭（英語）	
					高等学校教諭（英語）	
授業形態	演習	年次配当	3年後期		特別支援学校教諭	
単位数	1			卒業要件	初等幼児教育専攻	選択
					中等教育専攻	

科目	教科及び教職に関する科目（幼稚園）領域及び保育内容の指導法に関する科目
各科目に含めることが必要な事項	保育内容の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）
教科目	選択必修科目（保育士）
系列	保育の内容・方法に関する科目
授業テーマ	模擬保育実践を通して保育者としての実践的な能力の育成と資質の向上を図る。
授業概要	幼児の造形表現に関する指導案の作成、模擬保育実践、事後評価をセットで行い保育実践の基礎的事項について学ぶ

達成目標

	科目DP：(4)				
DP番号	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)
1．幼稚園教育要領の内容について理解する。	◎				○
2．幼児の発達段階に応じた造形表現に関わる保育指導について修得する。				○	◎
3．幼児造形で用いる主な材料・用具の特性と基本的な扱い方を習得する。		○	◎		
4．保育指導案の書き方を理解し、造形表現の保育のポイントについて修得する。		◎	○		
5．模擬保育実践を通して、環境構成のあり方や幼児への関わり方、及び評価について修得する。	○			◎	

履修条件・注意事項	
授業計画	1．授業説明、授業の目標、題材研究、指導案作成、幼稚園教育要領、模擬保育、評価のあり方等の概要について　（目標 1,2） 2．幼児の造形遊び「粘土を使って遊ぼう」 ― 題材研究について　（目標 2,3） 3．保育指導案の作成について　（目標 4） 4．模擬保育の実践について（情報機器及び教材の活用）（目標 3,5） 5．模擬保育の反省及び事後評価とまとめについて　（目標 2,4,5） 6．①みたこと・したことを絵に表す「大きな芋がとれたよ」 ― 題材研究について　（目標 2,3） 7．保育指導案の作成について　（目標 4） 8．模擬保育の実践について（情報機器及び教材の活用）（目標 3,5） 9．模擬保育の反省及び事後評価とまとめについて　（目標 2,3,4,5） 10．②空想したことを絵に表す「風船に乗って旅をしよう」 ― 題材研究について　（目標 2,3） 11．保育指導案の作成について　（目標 4） 12．模擬保育の実践について（情報機器及び教材の活用）（目標 3,5） 13．模擬保育の反省及び事後評価とまとめについて　（目標 2,4,5） 14．造形表現の指導法（造形表現Ⅱ）のまとめ①　環境構成や題材研究,指導案作成について（目標 1,2,3,4,5） 15．造形表現の指導法（造形表現Ⅱ）のまとめ②　保育の展開と幼児への援助について（目標 1,2,3,4,5）
アクティブ・ラーニング	グループワーク、模擬授業
成績評価基準	評価の方法：保育指導案作成と模擬保育の活動内容（70%）　授業態度（30%） 評価の基準：造形表現を通して保育実践の基礎的な事柄を理解することができる
フィードバックの方法	授業後の感想、気付きを記述し理解を深める。
時間外の学習について	予習：テーマにそった実践したい題材研究 復習：模擬保育実践後の反省　（各30分程度）
教材にかかわる情報	テキスト：自作資料 参考書：幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、「新造形表現（理論・実践編）」、「新造形表現（実技編）」花篤 實・岡田懿吾編著、「保育の中の造形活動」林 建造・岡田懿吾編著、「乳幼児の絵画指導」松岡義和著書 参考資料等：
担当者からのメッセージ等 実務経験について	保育内容の指導法（造形表現Ⅱ）を学ぶことで保育実践の基礎を身に付けよう。 山口市立幼稚園勤務での実務経験をもとに造形表現を通した指導法について話をします。

授業科目名	保育内容指導法	教員名	澄田　悦子 （実務経験） （単独）	免許・資格との関係	保育士	
					幼稚園教諭	選択
					小学校教諭	
ナンバリングコード	UE4-2096-02000				中学校教諭（英語）	
		年次配当	4年前期		高等学校教諭（英語）	
授業形態	演習				特別支援学校教諭	
				卒業要件	初等幼児教育専攻	選択
単位数	2				中等教育専攻	

科目	教科及び教職に関する科目（幼稚園）領域及び保育内容の指導法に関する科目
各科目に含めることが必要な事項	保育内容の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）
教科目	
系列	
授業テーマ	子どもの発達やさまざまな状況に応じた望ましい援助のありかたを理解する
授業概要	幼児期の保育（教育）は、生涯にわたる人格形成の基礎を培う重要なものであり、環境を通して行うものである。乳幼児の発達や特性、状況に応じた保育者の適切な指導（援助）を通してより充実していくものである。充実した保育を行うために大切な子ども理解・子どもが喜ぶ遊びや、遊びを豊かにする素材、教材、環境構成等、これまでの保育・教育実習やさまざまな事例、保育指導案作成、模擬保育等を通して子どもの成長発達に大切な保育内容、保育指導（援助）方法、保育の環境等について学びを深める。

達成目標

	科目DP：(2)				
DP番号	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)
1．幼稚園教育要領・保育所保育指針に示された保育（教育）の基本を理解し小学校に就学するまでに育みたい資質、能力について理解する。		◎	○	○	○
2．幼稚園教育要領・保育所保育指針に示されたねらい及び内容指導について理解を深める。	○	◎	○	○	
3．乳幼児の発達や学びの過程を具体的なエピソードを通して理解し子ども理解、保育方法、保育形態について理解する。		◎	○		
4．保育指導案を作成、模擬保育等を通して具体的な指導場面を構想することが出来る。	○	◎	○	○	

履修条件・注意事項	
授業計画	1．保育内容と指導→園の一日の流れと保育者の指導（援助）について考える。（目標 1,2,3） 2．保育内容と指導→保育の先駆者の言葉や、実習等さまざまな保育場面を通して保育の指導（援助）について考え話し合い子どもへの望ましい関わりを考える。（目標 1,2,3,4） 3．3歳未満児の生活場面における指導（援助）を考える。（目標 1,2,3,4） 4．3歳未満児の五領域におけるさまざまな指導（援助）を考える。（目標 1,2,3,4） 5．3歳以上児の五領域における指導（援助）を考える。（目標 1,2,3,4） 6．園での生活や遊び等具体的場面を通して保育形態・方法・環境・評価について考える。（目標 1,2,3,4） 7．保育指導案を作成（1題材五領域）、発表し指導のポイントについて考える。（目標 1,2,3,4） 8．保育指導案を作成（子どもの自発的活動をもとに）、発表し指導のポイントについて考える。（目標 1,2,3,4） 9．子ども達が喜ぶ遊びや素材にはどのようなものがあるか考える。（目標 1,2,3,4） 10．前回考えた遊びから選び保育指導案を作成する。（目標 3,4） 11．さまざまな配慮を必要とする子どもと保育内容について考える。（目標 1,2,3,4） 12．家庭や地域との連携のあり方を考える。（目標 1,2,3,4） 13．小学校との連携について学ぶ。（目標 1,2,3,4） 14．3歳未満児の模擬保育（情報機器及び教材の活用を含む）を通して指導について考える。（目標 1,2,3,4）. 15．3歳以上児の模擬保育（情報機器及び教材の活用を含む）を通して指導について考える。（目標 1,2,3,4）
アクティブ・ラーニング	ディスカッション・グループワーク・ロールプレイ
成績評価基準	評価の方法：授業への取り組み態度（20%）　提出物・発表（30%）　レポート（50%） 評価の基準：達成目標に到達しているか。
フィードバックの方法	学生の発表、レポートに対してコメントを加える。
時間外の学習について	予習：授業で必要なことについて事前に考える。準備する。 復習：授業での学び、自分以外の他の学生からの学びを簡単にまとめる。（各回30分程度）
教材にかかわる情報	テキスト：幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、保育所保育指針 参考書：佐々木正美「子どもへのまなざし」 鯨岡峻「保育のためのエピソード入門」「死を招いた保育」「明日をひらく子」「育ての心」 他　紹介　参考資料・映像等適宜紹介する。 参考資料等：
担当者からのメッセージ等 実務経験について	保育士として保育所（園）に勤務。実務経験をもとにこれまでの保育・教育実習や様々な保育事例、模擬保育などを通して子どもの発達や理解を深め、さまざまな状況に応じた望ましい援助（指導）の在り方、保育内容を考えるとともに、活動を豊かにする素材、教材、環境構成、保育形態、保育方法を子どもの園での生活や遊びをもとに理解していくようにする。

授業科目名	保育原理	教員名	澄田　悦子 （実務経験） （単独）	免許・資格との関係	保育士	必修
					幼稚園教諭	
					小学校教諭	
					中学校教諭（英語）	
ナンバリングコード	UE1-2097-10000	年次配当	1年後期		高等学校教諭（英語）	
					特別支援学校教諭	
授業形態	講義			卒業要件	初等幼児教育専攻	選択
単位数	2				中等教育専攻	
科目						
各科目に含めることが必要な事項						
教科目	必修科目（保育士）					
系列	保育の本質・目的に関する科目					
授業テーマ	保育の原理（保育の基礎基本）・保育に関する法令や制度の理解・保育の目標・内容・方法・保育の歴史・保育の課題					
授業概要	保育に関する法令や制度の理解。保育に関する基礎的知識（保育の原理・意義・子ども理解・保育の計画及び内容の理解）を保育所保育指針（幼稚園教育要領・幼保連携型認定子ども園教育保育要領）を通して理解するとともに保育の歴史・保育の課題について理解する。					

達成目標

	科目DP：(2)				
DP番号	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)
1．保育の原理・意義について理解する。		◎	◎		
2．保育における子ども理解を深める	○	◎	◎		○
3．保育所保育指針における保育の基本、内容、計画について理解する		◎	◎	◎	
4．保育の歴史について知る。		◎	○		
5．保育の現状と今後の課題について考察する。			○		○

履修条件・注意事項

授業計画

1．保育の原理・意義→子ども子育てをめぐる状況と保育の基本・方向性・保育に関する諸法令（目標 1）
2．保育の原理・意義→子どもの最善の利益を考慮した保育・保護者との協働（目標 1,3）
3．保育所保育指針と保育の基本
　→養護と教育の一体性・家庭及び地域社会との連携・子育て支援（目標 1,2,3）
4．保育所保育指針と保育の基本→保育の目標・保育の方法・保育の環境（目標 1,2,3）
5．保育所保育指針と保育の基本→子ども理解（発達の捉え方・子ども観・発達観（目標 2,3）
6．保育所保育指針と保育の基本
　→保育で育みたい資質・能力・幼児期の終わりまでに育ってほしい姿（目標 1,2,3）
7．保育所保育指針と保育の目標・内容・方法
　→乳児保育・1歳以上3歳未満児・3歳以上児保育に関わるねらい及び内容（5領域）（目標 2,3）
8．保育所保育指針と保育の目標・内容・方法
　→乳児保育・1歳以上3歳未満児・3歳以上児保育に関わる保育実施上の配慮・留意事項（目標 2,3）
9．保育所保育指針と保育の目標・内容・方法→保育所の一日の流れ・保育形態
10．保育所保育における安全・健康について
　→多様な子どの保育への対応・食育・保育所保育の危機管理・災害対応を考える。（目標 1,2,3）
11．保育所保育指針と保育の目標・内容・方法
　→全体的な計画（保育課程）・指導計画（年間・月案・遇案・日案）について理解する。（目標 1,2,3）
12．保育指導案について
　→乳幼児期の生活や遊び（活動）（素材・教材・個と集団）を中心に保育指導案の立案・実践・記録・評価について理解（目標 1,2,3）
13．保育の歴史→日本及び海外の保育の先駆者と保育思想（目標 4）
14．保育者の専門性→保育者の専門性・資質向上（目標 1,3）
15．保育の現状と今後の課題・多様な保育ニーズへの対応（目標 1,2,3,5）
定期試験

アクティブ・ラーニング	ディスカッション・グループワーク・ロールプレイ
成績評価基準	評価の基準：保育の原理・意義・保育の歴史・保育所保育指針についての理解・知識・関心を深める。 評価の方法：提出物　定期試験　授業への取り組み姿勢
フィードバックの方法	学生の発表、レポートに対してコメントを加える。
時間外の学習について	予習：関連する資料・書籍を読む。 復習：「保育所保育指針」を読む。倉橋惣三著「育ての心」を読む。（各回45分程度）
教材にかかわる情報	テキスト：「保育所保育指針」保育原理（検討中です） 参考書： 参考資料等：DVD 保育実践事例等適宜紹介
担当者からのメッセージ等 実務経験について	保育士として保育所（園）に勤務。実務経験をもとに保育に関する法令や精度、保育の基礎的知識（保育の原理・意義・子ども理解・保育の目標・計画・内容・方法）について保育所保育指針・幼稚園教育要領・幼保連携型認定こども園教育保育要領を通して話します。

授業科目名	保育内容総論	教員名	澄田　悦子 （実務経験） （単独）	免許・資格との関係	保育士	必修
					幼稚園教諭	
					小学校教諭	
ナンバリングコード	UE2-2098-10000	年次配当	２年後期		中学校教諭（英語）	
					高等学校教諭（英語）	
授業形態	演習				特別支援学校教諭	
単位数	1			卒業要件	初等幼児教育専攻	選択
					中等教育専攻	
科目						
各科目に含めることが必要な事項						
教科目	必修科目（保育士）					
系列	保育の内容・方法に関する科目					
授業テーマ	保育内容・保育方法・こども理解					
授業概要	子ども遣に育みたい資質能力。幼矧の終わりまでに育ってほしい10の姿･養護と教育など保育指針･幼稚園教育要領・認定子ども園教育・保育要領を通して理解する。 保育における生活や遊び・5領域の視点から子どもの発達や理解を深めるとともに年齢と保育内容について具体的に理解する。 保育の内容を深める遊びや環境構成、文化財等について学びを深める。					

達成目標

	科目DP：(2)				
DP番号	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)
1．保育所保育指針･幼稚園教育要領･認定子ども園教育保育要領における養護･教育・保育内容の理解		◎	○	○	
2．５領纎の視点からこどもの発達をとらえ保育内容について具体的に理解する。	○	◎	○	○	
3．保育所・幼稚園・子ども閤の一日の保育の流れを理解し保育者の援助・関わりを理解する。		◎	○	○	
4．保育事例や保育指導案立案を通して遊び（活動）内容や環境構成、保育方法、援助について理解する。	○	◎	○	○	○
5．食育・保護者支援について理解する。		◎	○	○	○

履修条件･注意事項	
授業計画	1．保育内容について→保育所保育指針・幼稚園教育要領・子ども園教育保育要領における保育内容（育みたい資質・能力）（幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿）さまざまな支援・配慮を必要とする子どもの保育（目標 1） 2．保育内容について→養護と教育（幼児教育）・生活や遊び・環境（人的・物的・自然物等）を通して行う保育、さまざまな支援・配慮を必要とする子どもの保育（目標 1,2,3） 3．保育指針における養護→生命の保持・情緒の安定と保育者の援助、関わり（目標 1） 4．保育指針における養護→生命の保持・情緒の安定と保育者の援助、関わり（目標 1） 5．保育指針における教育→領域「健康」の理解・保育活動（健康安全・活動内容立案）（目標 2,4） 6．保育指針における教育→領域「人間関係」の理解・保育活動（保育事例・活動内容立案）（目標 2,4） 7．保育指針における教育→領域「環境」の理解・保育活動（保育事例・活動計画立案）（目標 2,4） 8．保育指針における教育→領域「言葉」の理解･保育活動（文化財活用）（素話･保育指導案立案）（目標 2） 9．保育指針における教育→領域｢表現｣の理解･音楽的表現活動（保育指導案立案･発表）（目標 2,4） 10. 保育指針における教育→領域｢表現｣の理解･造形的表現活動（保育指導案立案･発表）（目標 2,4） 11. 園の一日→3歳未満児の保育園の一日及び保育者の援助（目標 3） 12. 園の一日→3歳以上児の保育園・幼稚園の一日と保育者の援助（目標 3） 13. 食育・行事について→保育所の特性を生かした食育・行事を考える（目標 1,5） 14. 保護者支援や地域との連携→保育事例から考える（目標 5） 15. 保育における危機管理・災害対応→保育事例を通して考える（目標 1,4,5） 試験を行います。
アクティブ･ラーニング	保育指導案立案・発表・グループでの話し合い等各自が積極的に学びに向かうようにする
成績評価基準	評価の方法：授業参加度（20%）授業内レポート、保育指導案等提出、発表（70%）授業態度（10%） 評価の基準：保育所保育指針の保育内容についての知識、理解を深める。
フィードバックの方法	学生の発表、レポートに対してコメントを加える。
時間外の学習について	予習：関連する資料・書籍を読む。 復習：授業での学び（ポイント）を簡単にまとめる。（各回30分程度）
教材にかかわる情報	テキスト：『保育内容総論・保育所保育指針』（H29年告示） 参考書：保育実践事例・ＤＶＤ等適宜紹介 参考資料等：
担当者からのメッセージ等 実務経験について	保育士として保育所（園）に勤務。実務経験をもとに保育指導案立案や保育事例を通して子どもたちに育みたい資質能力、幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿、養護と教育などの理解ができるようにする。またより良い保育環境や保育者の援助・関わりの在り方などについて考え保育事例をもとに個あるいはグループで話したりなどしながら理解が深まるようにしていく。

授業科目名	保育の計画と評価	教員名	中原　久子 (実務経験) (単独)	免許・資格との関係	保育士	必修
					幼稚園教諭	
					小学校教諭	
					中学校教諭(英語)	
ナンバリングコード	UE3-2099-10000				高等学校教諭(英語)	
					特別支援学校教諭	
授業形態	講義	年次配当	3年後期			
単位数	2			卒業要件	初等幼児教育専攻	選択
					中等教育専攻	
科目						
各科目に含めることが必要な事項						
教科目	必修科目（保育士）					
系列	保育の内容・方法に関する科目					
授業テーマ	保育の充実・質の向上に必要な保育の計画・記録と評価の関係を理解し立案の基礎を身につける。					
授業概要	乳幼児の保育は、生涯にわたる生きる力の基礎となる資質・能力の“3つの柱”を培う大切な時期である。保育の目標を達成するためには、保育の基本となる、全体的な計画（保育課程）を編成するとともに、具体化した「指導計画」を作成しなければならないことへの理解を深める。なお、各年齢別の発達過程を踏まえ、計画、実践、省察、評価、改善を図る重要性を講述する。					

達成目標

	科目DP：(2)				
DP番号	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)
1．保育の計画と評価の基本・カリキュラムの基礎を理解する		○		◎	
2．児童福祉施設における計画と評価の意義を理解すろ		◎			
3．「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」の重要性を理解する					◎
4．全体的計画（保育課程）　教育課程と指導計画・実践・省察・評価・改善を理解する			◎	○	
5．長期・短期の指導計画の作成と留意点を理解する	◎				○

履修条件・注意事項

授業計画

1．保育の計画と評価の基本・カリキュラムの基礎理論　（目標 1）
2．保育所における保育の計画と評価の意義　（目標 1,2,4）
3．幼稚園・幼保連携型こども園・児童福祉施設における計画と評価の意義　（目標　1,2,3,4）
4．計画、実践、省察、評価、改善の過程の循環による保育の質の向上　（目標 4）
5．保育所における保育の計画・保育所保育指針と幼稚園教育要領と幼保連携認定こども園教育保育要領　（目標 3）
6．全体的計画（保育課程）と指導計画　（目標 4）
7．全体的計画（保育課程）の編成と展開　（目標 3,4）
8．指導計画（長期・短期）の実際と作成上の留意事項　（目標 5）
9．指導計画の作成と展開　（月の指導計画）（目標 4,5）
10．指導計画の作成と展開　（週の指導計画）（目標 4,5）
11．指導計画の作成と展開　（週案から保育指導案へ）（目標 4,5）
12．保育の省察及び記録　（目標 4）
13．保育の計画の再編成　（目標 4）
14．保育士及び保育所の自己評価　（目標 1）
15．生活と発達の連続性を踏まえた保育所指導保育要録　（目標 1）
定期試験

アクティブ・ラーニング

ディスカッション　　グループワークによるプレゼンテーション

成績評価基準

評価の方法：試験50%　　受講態度20%　　レポート30%
評価の基準：全体的計画（保育課程）の編成と指導計画の作成について具体的に理解できたか口述する。

フィードバックの方法

課題にコメントをつけて返却する

時間外の学習について

予習：テキストを一読しておく。
復習：授業での学び（ポイント）を簡単にまとめる。(各回45分程度)

教材にかかわる情報

テキスト：松村和子　近藤幹生　椛島香代　著「就学前教育の計画を学ぶ」 みなみ書房
参考書：「保育所保育指針」「幼稚園教育要領」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」その他、授業中に適宜資料を配布する。
参考資料等：

担当者からのメッセージ等 実務経験について

保育は「計画」と「実践」と「評価」をサイクルにしてつくられていくことが基本である。この三つを一体にして考える視点を養ってほしい。
幼稚園教諭として幼稚園に勤務。実務経験をもとに保育・教育を支える柱、保育の計画と評価について話をします。

授業科目名	社会的養護Ⅰ	教員名	安村　裕美 (実務経験) (単独)	免許・資格との関係	保育士	必修
					幼稚園教諭	
					小学校教諭	
ナンバリングコード	UE2-2100-10000				中学校教諭(英語)	
					高等学校教諭(英語)	
授業形態	講義	年次配当	2年前期		特別支援学校教諭	
単位数	2			卒業要件	初等幼児教育専攻	選択
					中等教育専攻	
科目						
各科目に含めることが必要な事項						
教科目	必修科目（保育士）					
系列	保育の本質・目的に関する科目					
授業テーマ	社会的養護の理念、制度、実施体系等、基本的内容を理解する。					
授業概要	子どもを取り巻く社会情勢を理解し、子どもの育ちと家庭を支援する専門職として、子どもの権利擁護を核とした子ども観を養う。社会的養護の理念、制度、方法（実践）など基本的な内容について理解する。また、社会的養護の歴史的変換、先駆者の業績を学ぶことで、現在の社会的養護の課題と今後のあり方について考察する。					

達成目標

	科目DP：(2)				
DP番号	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)
1．現代社会における社会的養護の意義と歴史的変遷について理解する。		○		◎	
2．児童の権利擁護を踏まえた社会的養護の基本について理解する。		◎			○
3．社会的養護の制度や実施体系等について理解する。		◎	○		
4．社会的養護の対象や形態、関係する専門職等について理解する。		◎	○		
5．社会的養護の現状と課題について理解する。		○		◎	

履修条件・注意事項

授業計画

1．現代社会と社会的養護のあり方について理解し、社会的養護の果たす役割について理解する。（目標 3,5）
2．社会的養護の仕組み、関係する機関、関連する法律について理解する。（目標 3）
3．施設養護の基本理念と原則・家庭養護、家庭的養護について学ぶ。（目標 2）
4．社会的養護の制度の根幹である「措置制度」について理解する。（目標 3）
5．施設養護の対象・形態について理解する。（目標3,4）
6．利用・契約制度の仕組み・対象・形態について理解する。（目標 3,4）
7．日本における社会的養護の歴史的変遷と子ども観の変遷を学ぶ。（目標 1,2）
8．欧米における社会的養護の歴史的変遷と子ども観の変遷を学ぶ。（目標 1,2）
9．社会的養護に関わる専門職とその業務内容、求められている専門性について学ぶ。（目標 2,4）
10. 児童養護施設での実際の支援を学び、施設養護のプロセスごとに行われる支援の要点を理解する。（目標 3）
11. ソーシャルワークの基本を理解し、施設養護でのソーシャルワークの展開について理解する。（目標 2,4）
12. 里親の種類・制度・里親に対する支援制度について学ぶ。（目標 1,2,3,5）
13. 施設の運営管理・費用の仕組み等について学ぶ。（目標 2,3,4）
14. 被措置児童の虐待の現状と虐待防止の取組について理解し、発生要因と課題について考える。（目標 2,3,4,5）
15. 保育士としての資質と倫理について学ぶ。（目標 2）

アクティブ・ラーニング

グループワーク・ロールプレイ

成績評価基準

評価の方法：授業態度（30%）・小テスト（30%）・定期試験（40%）
評価の基準：①テキストに載っている知識を扱った問題に解答できる。社会的養護の理念・概要・制度について理解しているか。子どもの権利擁護の視点をもって自説を述べているか。
②授業内容への関心・意欲、参加態度を評価する。

フィードバックの方法

小課題や小テストに対して、解説を行う。

時間外の学習について

予習：次回の授業のテーマについて予め学習しておく。各回45分程度
復習：テキスト・配布資料を見て、授業内容を確認しておく。各回45分程度

教材にかかわる情報

テキスト：『社会的養護Ⅰ』原田旬哉・杉山宗尚編著，萌文書林
参考書：特になし
参考資料等：適宜配布

担当者からのメッセージ等 実務経験について

児童養護施設実務経験：社会的養護の理念、制度、実践内容についてお話しします。
社会的養護に関する新聞記事やテレビ等の報道に関心を持ち、子どもの権利擁護の視点で考察してください。

授業科目名	社会的養護Ⅱ	教員名	安村　裕美 (実務経験) (単独)	免許・資格との関係	保育士	必修
					幼稚園教諭	
					小学校教諭	
					中学校教諭(英語)	
ナンバリングコード	UE3-2101-10000	年次配当	3年前期		高等学校教諭(英語)	
					特別支援学校教諭	
授業形態	演習			卒業要件	初等幼児教育専攻	選択
単位数	1				中等教育専攻	
科目						
各科目に含めることが必要な事項						
教科目	必修科目（保育士）					
系列	保育の内容・方法に関する科目					
授業テーマ	社会的養護が目指そうとしている方向性と、家族・子どもへの支援のあり方を「子どもの最善の利益」という視点で探求し、考察していく。					
授業概要	児童の権利擁護や保育士等の倫理や責務について理解を深め、施設養護と家庭養護の実際を学ぶ。事例を通して日常生活・治療・自立の視点から支援内容を具体的に検討し考察を行う。相談援助の知識・技術・方法を理解する。家庭支援・児童家庭福祉・地域福祉について理解や認識を深め、社会的養護の課題と展望について検証、考察を行う。社会的擁護を必要とする子どもや保護者の気持ちを理解し、制度や社会について考え支援の方法を考察し、学びを深める。					

達成目標

	科目DP：(2)				
DP番号	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)
1．子どもの理解を踏まえた社会的養護の基礎的な内容について具体的に学ぶ。		◎	○		
2．施設養護及び家庭養護の実際について学ぶ。		◎			○
3．社会的養護における計画・記録・自己評価の実際について学ぶ。		◎	○		
4．社会的養護にかかわるソーシャルワークの方法・技術について理解する。		◎	○		
5．社会的養護における児童虐待の防止と家庭支援について理解する。		○	○	◎	

履修条件・注意事項	
授業計画	1．子どもの権利擁護について理解し、その取り組みや支援の質の向上を図るための方法について学ぶ。(目標 1,5) 2．社会的養護における子どもの理解について学ぶ。(目標 1) 3．日常生活支援に関する事例分析を通して、グループ討議等を通して理解を深める。(目標 1,2,4) 4．治療的支援に関する事例分析を通して、グループ討議等を通して理解を深める。(目標 1,2, 4) 5．自立支援に関する事例分析を通して、グループ討議等を通して理解を深める。(目標 1,2, 4) 6．施設養護の生活特性及び実際（乳児院・児童養護施設・母子生活支援施設）について理解する。(目標 2) 7．施設養護の生活特性及び実際（児童心理治療施設・児童自立支援施設・障害児施設）について理解する。(目標 2) 8．家庭養護の生活特性及び実際（里親・ファミリーホーム事業・養子縁組制度）について理解する。(目標 2) 9．自立支援計画策定について理解し、アセスメントを行う上での視点を学ぶ。(目標 3) 10. 事例をもとに、自立支援計画の策定を通して、子どもの自立への理解を深める。(目標 3) 11. 記録の意義と役割・自己評価について学び、理解を深める。(目標 3) 12. 児童福祉施設における保育士の位置づけを理解し、社会的養護における保育士の専門性について学ぶ。(目標 4) 13. ソーシャルワークの意味,必要性,知識を理解し、実践におけるソーシャルワークについて考察する。(目標 4) 14. 社会的養護における家庭支援について理解を深める。(目標 5) 15. 社会的養護の課題と展望について理解を深め、考察する。(目標 5)
アクティブ・ラーニング	グループワーク・ロールプレイ
成績評価基準	評価の方法：授業態度（30%）・小テスト（30%）・定期試験（40%） 評価の基準：①社会的養護の理念・概要・制度について理解しているか。子どもの権利擁護の視点をもって自説を述べているか。他者の意見を聴き、考察を深めているか。②授業内容への関心・意欲、参加態度を評価する。
フィードバックの方法	小課題や小テストに対して、解説を行う。
時間外の学習について	予習：次回の授業のテーマについて予め学習しておく。各回45分程度。 復習：テキスト・配布資料を見て、授業内容を確認しておく。各回45分程度。
教材にかかわる情報	テキスト：『社会的養護Ⅰ』原田旬哉・杉山宗尚編著，萌文書林 参 考 書：特になし 参考資料等：適宜配布
担当者からのメッセージ等 実務経験について	児童養護施設実務経験：社会的養護の理念、制度、実践内容についてお話しします。 社会的養護に関する新聞記事やテレビ等の報道に関心を持ち、子どもの権利擁護の視点で考察してください。

授業科目名	社会福祉	教員名	佐藤　真澄 （単独）	免許・資格との関係	保育士	必修
					幼稚園教諭	
					小学校教諭	
					中学校教諭（英語）	
ナンバリングコード	UE1-2102-10000	年次配当	1年後期		高等学校教諭（英語）	
					特別支援学校教諭	
授業形態	講義			卒業要件	初等幼児教育専攻	選択
単位数	2				中等教育専攻	
科目						
各科目に含めることが必要な事項						
教科目	必修科目（保育士）					
系列	保育の本質・目的に関する科目					
授業テーマ	社会福祉の理念・制度・実践、相談援助の理論と方法					
授業概要	保育士を社会福祉の専門職という視点から捉え直し、社会福祉における子ども家庭支援の考え方や方法、そのために必要な相談援助の技術について学ぶ。授業は講義が中心となるが、相談援助を扱う回などでは、授業の一部にロールプレイやグループワークなどの演習を取り入れる。					

達成目標

	科目DP：(2)				
DP番号	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)
1．社会福祉における子ども家庭支援の視点について理解する。		◎		○	
2．社会福祉の意義、制度や実施体系等について理解する。		◎		○	
3．社会福祉における相談援助について理解する。			◎		○
4．社会福祉における利用者の保護に関わる仕組みについて理解する。		◎		○	
5．社会福祉の動向と課題について理解する。		○		◎	

履修条件・注意事項	
授業計画	1．社会福祉の理念と概念、歴史的変遷（目標 1,2） 2．子ども家庭支援と社会福祉（目標 1） 3．社会福祉の制度と法体系（目標 2） 4．社会福祉行政と実施機関、社会福祉施設（目標 2） 5．社会福祉の専門職（目標 2） 6．社会保障および関連制度の概要（目標 2） 7．【小テスト】／相談援助の理論（目標 3） 8．相談援助の意義と機能（目標 3） 9．相談援助の対象と過程（目標 3） 10. 相談援助の方法と技術（目標 3） 11. 【小テスト】／社会福祉における利用者の保護に関わる仕組み（目標 4） 12. 少子高齢化社会における子育て支援（目標 1,2） 13. 共生社会の実現と障害者施策（目標 2,5） 14. 在宅福祉・地域福祉の推進（目標 2,5） 15. 【小テスト】／総括（目標 1,2,3,4）
アクティブ・ラーニング	ディスカッション、グループワーク、ロールプレイ
成績評価基準	評価の方法：①小テスト３回（80%）、②授業への参加度（20%） 評価の基準：①教科書および配布資料に載っている知識を扱った問題に解答できる。 ②演習課題やレスポンスシートの記述内容が適切である。
フィードバックの方法	講義の回では、授業終了時にレスポンスシートに記入してもらい、次回の授業時にコメントする。 演習の回では、演習課題を提出してもらい、次回の授業時にコメントする。
時間外の学習について	予習：テキストの該当ページを一読しておく。（各回30分程度） 復習：ノートを作成し、授業内容を整理しておく。小テストでは、自筆のノートのみ持ち込み可。（各回45分程度）
教材にかかわる情報	テキスト：『新・基本保育シリーズ第4巻　社会福祉』中央法規出版 参考書： 参考資料：必要に応じて都度配布する
担当者からのメッセージ等実務経験について	社会福祉を取り巻く情勢は日々変化しています。日頃から、関連する新聞記事やテレビ等の方法に関心を持ってください。

授業科目名	子ども家庭福祉	教員名	松村　納央子（単独）	免許・資格との関係	保育士	必修
					幼稚園教諭	
					小学校教諭	
					中学校教諭（英語）	
ナンバリングコード	UE2-2103-10000	年次配当	２年前期		高等学校教諭（英語）	
					特別支援学校教諭	
授業形態	講義			卒業要件	初等幼児教育専攻	選択
単位数	2				中等教育専攻	
科目						
各科目に含めることが必要な事項						
教科目	必修科目（保育士）					
系列	保育の本質・目的に関する科目					
授業テーマ	現代社会における子ども家庭福祉の重要性					
授業概要	子どもや家庭の生活実態とこれを取り巻く社会情勢、福祉ニーズ（子育て支援、ひとり親家庭、児童虐待やDVの実態を含む）について理解するとともに、子ども家庭福祉制度の歴史や児童の権利について理解を深める。また、援助活動に必要となる子ども家庭福祉制度や、子ども家庭福祉に関連する法律についても理解の上、どのような援助が可能か考察する。					

達成目標	科目DP：(2)				
DP番号	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)
1．現代社会における子ども家庭福祉の意義と歴史的変遷について理解する。		◎	○		
2．子どもの人権擁護について理解する。		◎	○		
3．子ども家庭福祉の制度や実施体系等について理解する。		◎	○		
4．子ども家庭福祉の現状と課題について理解する。		◎	○		
5．子ども家庭福祉の動向と展望について理解する。		◎	○		

履修条件・注意事項	
授業計画	1．現代社会における子ども家庭福祉の意義と歴史的変遷（目標 1,2） 2．現代社会における子ども家庭福祉の歴史的変遷（目標 1,2） 3．子どもの人権擁護に関わる歴史的変遷（目標 1,2） 4．子どもの人権擁護と現代社会における課題・諸外国の動向（目標 1,2,3） 5．子ども家庭福祉の制度と実施体系（目標 3） 6．子ども家庭福祉における援助の基本（目標 3,4,5） 7．母子保健・子どもの健全育成と子ども家庭福祉（目標 3,4,5） 8．地域子育て支援と子ども家庭福祉（目標 3,4,5） 9．就学前の拠点型保育・教育と子ども家庭福祉（目標 3,4,5） 10．社会的養護と子ども家庭福祉（目標 2,3,4,5） 11．虐待を受けている子どもと子ども家庭福祉（目標 2,3,4,5） 12．心理的支援の必要な子どもと子ども家庭福祉（目標 2,3,4,5） 13．子どもの貧困と子ども家庭福祉（目標 2,3,4,5） 14．障がいのある子どもと子ども家庭福祉（目標 2,3,4,5） 15．子ども家庭福祉サービスの動向と展望（目標 3,5） 16．定期試験
アクティブ・ラーニング	各授業終了時にミニレポートを課す。ロールプレイ。
成績評価基準	評価の方法：受講態度（15%）、定期試験（85%） 評価の基準：①授業から表層では見えなかった課題を発見したか、②子どもをケアする観点をもって、受講生なりにどのように子ども家庭福祉に関わればよいか、その理論や方法を追及したか
フィードバックの方法	ミニレポートから受講生の理解度を解説する。
時間外の学習について	予習：テキストを一読し、わからない語句を事前に調べる。 復習：授業中にテーマとなった語句を、子ども家庭福祉の諸場面を想定して説明する。 （各回45分程度）
教材にかかわる情報	テキスト：山縣文治『子ども家庭福祉　第2版（シリーズ・福祉を知る　3)）』ミネルヴァ書房 参考書：山縣文治・福田公教・石田慎二（監修）『ワイド版社会福祉小六法2019』ミネルヴァ書房 参考資料等：
担当者からのメッセージ等実務経験について	matsumura@y-gakugei.ac.jp

授業科目名	子ども家庭支援論	教員名	松村　納央子（単独）	免許・資格との関係	保育士	必修
					幼稚園教諭	
					小学校教諭	
					中学校教諭（英語）	
ナンバリングコード	UE3-2104-10000	年次配当	３年前期		高等学校教諭（英語）	
					特別支援学校教諭	
授業形態	講義			卒業要件	初等幼児教育専攻	選択
単位数	2				中等教育専攻	
科目						
各科目に含めることが必要な事項						
教科目	必修科目（保育士）					
系列	保育の本質・目的に関する科目					
授業テーマ	現代の家族を取り巻く社会的状況の特質と子育て家庭の抱える困難、並びにこれまでの子育て支援政策の思想と現実を吟味し、今日、どのような子育て支援が必要とされているかを明らかにする。					
授業概要	家庭・家族の諸機能の変化について考察する。そして、子どもにとって最初の環境である家庭・家族支援の実際について、幼稚園・保育所における支援、児童福祉施設における支援ならびに地域における支援を取り上げる。最後に、子育て支援を中心としたネットワークの構築の可能性について論及する。これをとおして、今日求められている幼稚園・保育所における子育て支援の機能と保育者の役割についての認識を深めることを目指す。					

達成目標	科目DP：(2)				
DP番号	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)
1．子育て家庭に対する支援の意義・目的を理解する。		◎	○		
2．保育の専門性を活かした子ども家庭支援の意義と基本について理解する。		◎	○		
3．子育て家庭に対する支援の体制について理解する。		◎	○		
4．子育て家庭のニーズに応じた多様な支援の展開と子ども家庭支援の現状、課題について理解する。		◎	○		

履修条件・注意事項	
授業計画	1．子ども家庭支援の意義と必要性（目標 1,2,3,4） 2．保育士による専門性を活かした家庭支援の基本（目標 1,2,3,4） 3．子どもの育ちを共有することの重要性（目標 1,2,3,4） 4．保護者の子育て実践力の向上に資するための支援とは（目標 1,2,3,4） 5．保育者に求められる基本的態度（目標 1,2,3,4） 6．家庭の状況に応じた支援（目標 1,2,3,4） 7．子育て家庭の福祉を図るための社会支援（目標 1,2,3,4） 8．地域の資源や自治体・関係機関との連携と協力（目標 1,2,3,4） 9．子育て支援施策・次世代育成支援対策の推進（目標 1,2,3,4） 10. 多様な支援の展開に向けて－子ども家庭支援の内容と対象（目標 1,2,3,4） 11. 多様な支援の展開に向けて－保育所等を利用する子どもの家庭への支援（目標 1,2,3,4） 12. 多様な支援の展開に向けて－地域の子育て家庭への支援（目標 1,2,3,4） 13. 多様な支援の展開に向けて－要保護児童等及びその家庭に対する支援（目標 1,2,3,4） 14. 子ども家庭支援に関する現状（目標 1,2,3,4） 15. 子ども家庭支援に関する今後の課題（目標 1,2,3,4） 定期試験
アクティブ・ラーニング	各授業終了時にミニレポートを課す。ロールプレイ。
成績評価基準	評価の方法：受講態度（15%）、定期試験（85%） 評価の基準：①授業から表層では見えなかった課題を発見したか、②子どもをケアする観点をもって、受講生なりに子ども家庭支援に向けて求められている資質や能力、及び現代の議論について考察したか
フィードバックの方法	ミニレポートから受講生の理解度を解説する。
時間外の学習について	予習：配布資料を一読し、わからない語句を事前に調べる。 復習：授業中にテーマとなった語句を、子ども家庭支援の諸場面を想定して説明する。 （各回45分程度）
教材にかかわる情報	テキスト：担当者配布の資料 参考書：山縣文治・福田公教・石田慎二（監修）『ワイド版社会福祉小六法』ミネルヴァ書房 参考資料等：授業中適宜紹介する
担当者からのメッセージ等実務経験について	matsumura@y-gakugei.ac.jp

授業科目名	子ども家庭支援の心理学	教員名	堂野　佐俊 (実務経験) (単独)	免許・資格との関係	保育士	必修
					幼稚園教諭	
					小学校教諭	
					中学校教諭(英語)	
ナンバリングコード	UE3-2105-10000	年次配当	3年前期		高等学校教諭(英語)	
					特別支援学校教諭	
授業形態	講義			卒業要件	初等幼児教育専攻	選択
単位数	2				中等教育専攻	
科目						
各科目に含めることが必要な事項						
教科目	必修科目（保育士）					
系列	保育の対象の理解に関する科目					
授業テーマ	人間の健康生活の維持に関する心理学的側面からの理解					
授業概要	ストレス社会ともいわれる現代社会で、心身の健康の維持という観点から、健康的生活の意義、生活習慣と健康、ストレス対処などのトピックスを取り上げ、子どもとおとなのメンタルヘルスについて理解する。その際、子ども達の精神発達に寄与すべき教育・保育や援助のあり方について、家庭生活支援の面からの理解を通して、適応・不適応の概念について認識を深める。					

達成目標	科目DP：(2)				
DP番号	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)
1．生涯発達に関する心理学の基礎的は知識を習得し、初期経験の重要性、発達課題等について理解する。			○	◎	
2．家族・家庭の意義や機能を理解するとともに、親子関係や家族関係等について発達心理学的観点から理解し、子どもとその家庭を包括的に捉える視点を習得する。		◎	◎		
3．子育て家庭をめぐる現代の社会的状況と課題について理解する。	◎				○
4．子どもの精神保健とその課題について理解する。		◎	○		
5．現代社会における子どものストレスとその対処について理解する。				○	◎

履修条件・注意事項	基礎となる「心理学」関係の授業を履修していることが望ましい。
授業計画	1．1.現代社会における生涯発達と子育て 2．人間の発達と「家族心理学」（1）：“ Mind-Body Question ” と健康生活 3．家族と家庭の心理学（1）：意義 4．家族と家庭の心理学（2）：機能 5．家族と家庭の心理学（3）：包括的理解 6．ストレスの心理学 7．ストレスと人間関係 8．ストレス対処の理論 9．精神保健とソーシャルサポート・ソーシャルスキル 10. パーソナリティと適応 11. 適応と適応機制・フラストレーション耐性 12. 生活習慣と生体リズム 13. 睡眠と意識水準 14. メンタルヘルスとアセスメント 15. 情緒的安定と精神的健康 期末試験
アクティブ・ラーニング	毎回講義後のアクション・シートを用いた意見交換による問題解決学習を展開する。
成績評価基準	評価の方法：中途での保育心理学ノートの作成＜参加態度＞（30%）、及び期末試験（70%）の結果を総合的に評価する。 評価の基準：60点以上を合格とする。
フィードバックの方法	毎講義後のコメントシートに対して、次回の冒頭に講評及び応答を行なう。
時間外の学習について	予習：予め配布された資料（次回講義の為の）に基づいてノートを作成する。 復習：作成済みのノートへの講義中の記入について再度確認・点検し、整理する。（各回45分程度）
教材にかかわる情報	テキスト：使用しない。毎回資料を配付する。 参考書：講義内容に関する資料を適宜配布する。講義は毎回パワーポイント等（ＩＴ）を使用して視聴覚的にも提示する。 参考資料等：特には指定しないが、講義内容に関する資料を適宜配布する。
担当者からのメッセージ等 実務経験について	毎回の授業後の質問・アクション・シートを積極的に活用してほしい Where there is a will, there is a way. 米国Maryland大学大学院精神医学教室での留学研修において経験した研究やその教育の方法の実態等に基づく話題を提供します。

授業科目名	子育て支援	教員名	大田　紀子 （単独）	免許・資格との関係	保育士	必修
					幼稚園教諭	
					小学校教諭	
ナンバリングコード	UE4-2106-10000				中学校教諭（英語）	
					高等学校教諭（英語）	
授業形態	演習	年次配当	4年前期		特別支援学校教諭	
単位数	1			卒業要件	初等幼児教育専攻	選択
					中等教育専攻	
科目						
各科目に含めることが必要な事項						
教科目	必修科目（保育士）					
系列	保育の内容・方法に関する科目					
授業テーマ	保育の専門性を背景とした保護者支援、保育士の行う子育て支援					
授業概要	保育士の専門性を背景とした保護者支援について理解を深める。また、実践例やロールプレイ等を通して保育士の行う子育て支援について具体的に理解することを目指す。					

達成目標	科目DP：(2)				
	DP番号	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)
	1．保育士の行う保育の専門性を背景とした保護者支援について、その特性と展開を理解する。		◎			
	2．保育士の行う子育て支援の内容と方法および技術を理解する。		○	◎		
	3．実践例等を通して、子育て支援について具体的に理解する。		○	◎		

履修条件・注意事項

授業計画

1．子どもの保育とともに行う保護者支援　（目標 1,2）
2．日常的・継続的なかかわりを通じた保護者との相互理解と信頼関係の形成　（目標 1,2）
3．保護者や家庭のかかえる支援のニーズへの気づきと多面的な理解　（目標 1,2）
4．子どもおよび保護者の状況・状態の把握　（目標 1,2）
5．支援の計画と環境の構成　（目標 2,3）
6．支援の実践・記録・評価・カンファレンス　（目標 2,3）
7．職員間の連携・協働　（目標 3）
8．社会資源の活用と自治体・関係機関や専門職との連携・協働　（目標 2,3）
9．保育所等における支援　（目標 1,2,3）
10．地域の子育て家庭に対する支援　（目標 3）
11．障害のある子どもおよびその家庭に対する支援　（目標 2,3）
12．特別な配慮を要する子どもおよびその家庭に対する支援　（目標 2,3）
13．子ども虐待の予防と対応　（目標 2,3）
14．要保護児童等の家庭に対する支援　（目標 2,3）
15．多様な支援ニーズをかかえる子育て支援家庭の理解、まとめと確認テスト　（目標 1,2,3）

アクティブ・ラーニング

ディスカッション、グループワーク、ロールプレイ

成績評価基準

評価の方法：演習やロールプレイ等授業（40%）、確認テスト・課題・レポート（60%）
評価の基準：身につけた知識や理論を活用して積極的に演習へ参加しているか、他者と協力して学びを深めようとしているか

フィードバックの方法

課題やレポート、ロールプレイ等に対してコメントをする。

時間外の学習について

予習：子育てに関する時事的な新聞記事等に目を通す。（各回20分程度）
復習：授業内で完成できなかった課題および確認テストに向けて授業内容の整理、復習を行う。（各回30分程度）

教材にかかわる情報

テキスト：特になし
参考書：「新保育シリーズ19子育て支援」公益財団法人児童育成協会＝監修／西村重稀、青井夕貴＝編集　2019年　中央法規出版
参考資料等：

担当者からのメッセージ等 実務経験について

授業科目名	子どもの理解と援助	教員名	大田　紀子 （単独）	免許・資格との関係	保育士	必修
					幼稚園教諭	選択
					小学校教諭	
ナンバリングコード	UE2-2107-10000				中学校教諭（英語）	
					高等学校教諭（英語）	
授業形態	演習	年次配当	２年後期		特別支援学校教諭	
				卒業要件	初等幼児教育専攻	選択
単位数	1				中等教育専攻	

科目	教科及び教職に関する科目（幼稚園）教育の基礎的理解に関する科目
各科目に含めることが必要な事項	・幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程
教科目	必修科目（保育士）
系列	保育の対象の理解に関する科目
授業テーマ	子どもの発達、保育実践、子どもの経験や学習の過程、保育における発達援助
授業概要	保育の心理学で学んだことをもとに，子どもの発達と保育実践についての理解を深める。また，観察や保育記録などを通して子どもの心身の状態や行動を把握する技術を高め，子ども理解に基づく適切な発達援助を行う実践力の習得を目指す。

達成目標	科目DP：(2)				
	DP番号	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)
	１．子どもの心身の発達と保育実践について理解することができる。		◎		○	
	２．生活と遊びを通して学ぶ子どもの経験や学習の過程を理解できる。		◎		○	
	３．保育における発達援助について理解できる。			◎	○	

履修条件・注意事項	保育の心理学を履修済み、もしくは同時履修していることが望ましい。
授業計画	第１回：子ども理解と保育者の援助　（目標 1） 第２回：発達の臨床と保育の実践　（目標 1） 第３回：子どもの行動の理解と観察法　（目標 1,2） 第４回：幼児観察演習－3歳児－　（目標 1,2） 第５回：幼児観察演習－4歳児－　（目標 1,2） 第６回：幼児観察演習－5歳児－　（目標 1,2） 第７回：幼児観察演習－観察記録のまとめ　（目標 1,2） 第８回：子どもの遊びと発達－遊びと学び　（目標 2） 第９回：遊びの発展と保育者の援助　（目標 1,2） 第10回：感情理解の発達－生きる力をつける　（目標 1,2） 第11回：保育における子どもの理解とかかわり－個の理解　（目標 1,3） 第12回：保育におけるさまざまな記録から読みとる子どもの発達①－エピソード記録－（目標 2,3） 第13回：保育におけるさまざまな記録から読み取る子どもの発達②－ビデオによる記録－（目標 2,3） 第14回：子どもの発達とアセスメント－気になる子どもとのかかわりと発達援助　（目標 3） 第15回：保育者の省察とカンファレンス、職員の協働および保護者との連携、まとめと確認テスト（目標 1,2,3）
アクティブ・ラーニング	ディスカッション、グループワーク
成績評価基準	評価の方法：観察演習やグループ討議への取り組み（40%）、確認テスト・課題・レポート（60%） 評価の基準：学び得た知識や理論を活用して積極的に演習へ参加しているか、他者と協力して学びを深めようとしているか。 期限内に提出できているか、身につけた知識や理論を反映させて自分なりの意見を述べることができるか。
フィードバックの方法	課題やレポートに対してコメントを出す。
時間外の学習について	予習：特になし　保育に関する時事的な新聞記事等に目を通す。（各回20分程度） 復習：授業内で完成できなかった課題および確認テストに向けて授業内容の整理、復習を行う。（各回30分程度）
教材にかかわる情報	テキスト：適宜資料を配布する。 参考書：「子どもと保育の心理学－発達臨床と保育実践」 寺見陽子編著　2004年　教育情報出版 「発達と教育の心理学」 麻生武　2007年　培風館 「3年間の保育記録（DVD）」 神長美津子・小田豊監修　2005年　岩波映像株式会社 その他、授業中に適宜資料を配布する。 参考資料等：
担当者からのメッセージ等 実務経験について	

授業科目名	子どもの保健	教員名	浜本　史明 （実務経験） （単独）	免許・資格との関係	保育士	必修
					幼稚園教諭	
					小学校教諭	
					中学校教諭（英語）	
ナンバリングコード	UE2-2108-10000	年次配当	２年前期		高等学校教諭（英語）	
					特別支援学校教諭	
授業形態	講義			卒業要件	初等幼児教育専攻	選択
単位数	2				中等教育専攻	
科目						
各科目に含めることが必要な事項						
教科目	必修科目（保育士）					
系列	保育の対象の理解に関する科目					
授業テーマ	幼児保健の理解、幼児の疾病・事故等予防及び管理					
授業概要	小児保育の実践において、小児保健の基礎と身体発育と生理機能を理解させ、基本的な知識を身に付けさせる。幼児期から学童期における変化の多い身体・精神を理解させ、健康と病気の違いを認識させる。 小児期における感染症の知識と病気に関しては、集団生活に関する最も重要な問題であり、実際の症例等、スライド・ビデオを利用し病気の実際を覚えることにより、より正確な知識や対処を医学的な見地から学ばせる。					

達成目標	科目DP：(2)				
DP番号	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)
1．小児保健の基礎、身体発育と生理機能の理解（各年代における違い）		◎	○		
2．小児期の感染症の理解と予防		◎	○		
3．小児期の病気の理解と知識		◎	○		
4．小児期の事故と予防　以上の基本的な知識を教え実践できるよう指導する。		◎	○		

履修条件・注意事項	
授業計画	1．小児保育の基本　（目標 1） 2．身体発育　（目標 1） 3．生理機能　体温、呼吸、脈拍と血圧、感覚、栄養、排泄、睡眠、自律神経の働き　（目標 1） 4．運動機能　運動機能の発達、新生児・乳児期・幼児期の運動機能、体力　（目標 1） 5．精神発達　言葉、情緒、社会性、精神発達の評価と影響、豊かな心の発達　（目標 1） 6．栄養　小児期の栄養（乳児から離乳）、幼児期の栄養、学童期の栄養、治療用栄養食品　（目標 1） 7．生活　総論、各論　（目標 1） 8．環境　自然環境、住居環境（目標 1） 9．保育の多様化　（目標 1） 10. 新生児　用語、特徴、異常、未熟児、養護（目標 1） 11. 思春期　特徴、身体変化、心理と問題行動、思春期におよぼす影響、問題行動、性の問題　（目標 1） 12. 健康と病気、異常（目標 1,2,3） 13. 事故と応急処置　小児と事故、発生と種類、事故防止、応急処置・手当、異物事故、救命処置（目標 1,4） 14. 感染症と予防接種　感染症、予防接種（目標 2,3） 15. 小児期の病気　感染症、食中毒、発育と栄養障害、アレルギー、消化器、呼吸器、循環器、血液、泌尿器と生殖器、代謝、内分泌、皮膚、臍、運動器、目・耳・鼻、精神・神経系、悪性腫瘍、その他（川崎病、リウマチ熱、乳幼児突然死症候群）（目標 2,3） 定期試験
アクティブ・ラーニング	
成績評価基準	評価の方法：試験、レポート（60%）授業への取り組みと授業態度（40%）及び総合判断により評価する。 評価の基準：知識・理解、小児保健に関する関心と取り組み、疾病に対する対処等を基準にする。
フィードバックの方法	レポートの結果を個別に具体的に評価する
時間外の学習について	予習：講義の終わりに次回の講義範囲を伝えるので質問事項を考えておくこと 復習：講義内容の重要なキーワードを伝え、それに対して答えられるように復習すること （各回45分程度）
教材にかかわる情報	テキスト：『新・小児保健』今村栄一　巷野悟郎　編著（診断と治療社） 『こどもの病気の地図帳』鴨下重彦　柳澤正義／監修　講談社 参考書：『小児保健実習』佐藤益子　編著　みなみ書房　『保健所・幼稚園児の保健』日本医師会第一法規出版 『日本の子ども資料年鑑』KTC中央出版　『学校医の手引き－第４版－』山口県医師会 参考資料等：
担当者からのメッセージ等 実務経験について	小児科医として大学病院等に勤務。その後小児科開業医としての実務経験をもとに小児保健について話をします。

授業科目名	子どもの食と栄養	教員名	白土　由利枝 （実務経験） （単独）	免許・資格との関係	保育士	必修
					幼稚園教諭	
					小学校教諭	
					中学校教諭（英語）	
ナンバリングコード	UE3-2109-10000	年次配当	３年前期		高等学校教諭（英語）	
					特別支援学校教諭	
授業形態	演習			卒業要件	初等幼児教育専攻	選択
単位数	2				中等教育専攻	
科目						
各科目に含めることが必要な事項						
教科目	専門教育科目（保育士）					
系列						
授業テーマ	健康，発育・発達と食生活，栄養の基礎知識，食育，家族・保護者支援，特別な配慮を有する子どもの食。					
授業概要	食と栄養の基礎知識をもとに，食物アレルギーや疾病，障害のある子どもへの対応，家庭や各職員間の連携，食育を推進する力をつける。					

達成目標

科目DP：

	DP番号 (1)	(2)	(3)	(4)	(5)
1．健康な生活の基本としての食生活の意義や栄養に関する基本的知識を習得する。	◎	○			
2．子どもの発育・発達と食生活の関連について理解する。		◎	○	○	○
3．食育の基本とその内容及び食育のための環境を整え，地域社会・文化とのかかわりの中で展開できる。	○		◎	○	◎
4．家庭や児童福祉施設における食生活の現状と課題を把握できる。		○		◎	
5．特別な配慮を要する子どもの食と栄養について理解する。		○		◎	

履修条件・注意事項

授業計画

1．子どもの心身の健康と食生活（目標 1,2）
2．子どもの食生活の現状と課題。食生活の変化と子どもの食生活上の問題点。（目標 1,4）
　＜レポート作成＞
3．栄養の基本的概念と栄養素の種類と機能（目標 1）
4．食事摂取基準、食事バランスガイド
5．乳幼児の授乳・離乳の意義と食生活（目標 2）
6．乳幼児期の心身の発達と食生活（目標 2）
　＜小テスト＞
7．食育における養護と教育の一体性（目標 3）
8．食育の内容と計画及び評価。食育計画指導案作成（目標 3）
9．食育のための環境、地域の関係機関や職員間の連携（目標 3）
10. 食生活指導及び食を通した保護者への支援（目標 4）
11. 家庭における食事と栄養。人間形成の基盤としての食事のあり方（目標 4）
12. 児童福祉施設における食事と栄養（目標 4）
13. 疾病及び体調不良の子どもへの対応（目標 5）
14. 食物アレルギーの子どもへの対応（目標 5）
15. 障害のある子どもへの対応（目標 5）

アクティブ・ラーニング

グループワーク　　プレゼンテーション

成績評価基準

評価の方法：試験50%，小テスト10%，レポート20%，授業への参加度20%
評価の基準：○筆記試験　＊知識・理解の定着度及び考察力・判断力を測定
　・授業で学んだ知識を扱った問題に解答できる。
　・授業をもとに考察し，明確な根拠を示し，自説をわかりやすく説明できる。
○授業態度　＊関心･意欲の測定
　・グループでの活動に積極的である。
　・相手にわかりやすく自説を述べ，他者の意見を聴くことができる。
○レポート　＊技能・表現を測定
　・授業で学んだことを発展させ，豊富な情報やイラストを活用して，わかりやすくまとめることができる。
　・自主的に取り組むことができる。

フィードバックの方法

小テストや試験終了後，内容を再確認する。レポートなど提出物については，コメントを記入し，意欲付けを図る。

時間外の学習について

予習：次回の授業に関連する資料や情報を集め，読んでおくこと。各回30分程度
復習：各章末に示されている課題について，まとめられるよう授業内容を整理しておくこと。
各回30分程度

教材にかかわる情報

テキスト：子どもの食と栄養　中央法規（新・基本保育シリーズ）　2000円＋税
参考書：
参考資料等：

担当者からのメッセージ等 実務経験について

この授業を通して，自分自身の食生活に対しても積極的に向き合ってほしい。
中学校・高等学校の家庭科教員：子どもの食生活の現状と課題，食育への対応について話をします。

授業科目名	子どもの健康と安全	教員名	金子　正枝 (実務経験) (単独)	免許・資格との関係	保育士	必修
					幼稚園教諭	
					小学校教諭	
					中学校教諭(英語)	
ナンバリングコード	UE3-2110-10000	年次配当	3年前期		高等学校教諭(英語)	
					特別支援学校教諭	
授業形態	演習			卒業要件	初等幼児教育専攻	選択
単位数	1				中等教育専攻	
科目						
各科目に含めることが必要な事項						
教科目	必修科目（保育士）					
系列	保育の内容・方法に関する科目					
授業テーマ	保育における保健・衛生・危機管理					
授業概要	厚労省の関連するガイドラインや近年のデータを踏まえ、保育における保育環境や衛生管理・事故防止及び安全対策・危機管理・災害対策について理解する。更に、保育における保健的対応、子どもの体調不良等に対する適切な対応、及び感染症対策について理解する。					

達成目標

	科目DP：(2)				
DP番号	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)
1．保育における感染症対策、事故防止及び事故発生時の対応のためのガイドラインや近年のデータに基づく危機管理について理解し、行動に移すことができる。	○	◎	◎	◎	○
2．保育における保健的観点を踏まえた保育環境や援助について理解できる。	○	◎	○	○	◎
3．子どもの発達や状態等に即した対応について具体的に理解できる。		◎	◎	○	○
4．子どもの体調不良等に対する適切な対応について具体的に理解できる。		◎	◎	○	○
5．保育所における危機管理・災害への備えに関わる組織的取組の計画及び評価について理解できる。	◎	○	○	◎	○

履修条件・注意事項

授業計画

1．保育における厚労省の関連するガイドラインや近年のデータを踏まえ、保健及び危機管理の重要性が理解できる。(目標 1,2,3,4,5)
2．子どもの保健に関する個別対応と子どもの集団全体の健康と安全・衛生管理について理解できる。(健康観察)(目標 1,2,3,4)
3．感染症の集団発生の予防、感染症発症時と罹患後の対応について理解できる。(目標 1,2,5)
4．子どもの発育状態の測定と評価ができる。(身長、体重、胸囲、頭囲測定)実技（目標 2,3)
5．子どもの体調不良の早期発見ができる。(バイタルサイン測定)実技（目標 2,3,4)
6．子どもに多い症状への対応ができる。(発熱、熱中症、けいれん)(目標 1,2,3,4)
7．子どもに多い症状への対応ができる。(嘔吐、脱水、下痢、便秘)(目標 1,2,3,4)
8．子どもに多い症状への対応ができる。(アレルギー、アナフィラキシーショック)(目標 1,2,3,4,5)
9．傷害や事故が発生した場合の対応ができる。(外傷、熱傷)(目標 1,2,3,4,5)
10. 傷害や事故が発生した場合の対応ができる。(頭部打撲、骨折、異物の誤飲・誤嚥)(目標 1,2,3,4,5)
11. 傷害や事故が発生した場合の対応ができる。(衛生材料の使用法、保育所での与薬)実技（目標 1,2,3,4,5)
12. 傷害や事故が発生した場合の対応ができる。(心肺蘇生法、窒息時の応急処置)実技（目標 1,2,3,4,5)
13. 保育における危機管理について理解できる。(目標 1,5)
14. 事故（災害）発生時の対応について理解できる。(目標 1,4,5)
15. 事故防止の組織的取組や事故対応について分析・評価できる。(目標 1,5)
定期試験

アクティブ・ラーニング	ロールプレイ、グループワーク
成績評価基準	評価の方法：定期、小テスト、課題（70%）授業への取組（30%） 評価の基準：目標の内容理解と授業への取組の姿勢を観て判断します。
フィードバックの方法	実技後に学び、感じ、疑問に思った内容をレポート。次回の授業にてコメントして返却します。
時間外の学習について	予習：授業計画の項目について、テキスト等を使い事前学習してください。 復習：小テストを行うので、復習をしておいてください。(各回30分程度)
教材にかかわる情報	テキスト：佐藤益子/中根淳子編著「子どもの保健Ⅱ」ななみ書房 参 考 書：添田久美子/石井拓児編著「事例で学ぶ学校の安全と事故防止」ミネルヴァ書房 参考資料等：
担当者からのメッセージ等 実務経験について	・報道されている新しい情報は、資料として配布します。 ・科学的に考える習慣をつけましょう。科学的な根拠をもって行う技術は、自信につながります。 ・実技では、準備から後始末まで積極的に関わり、指示待ちにならないようにしましょう。

授業科目名	乳児保育Ⅰ	教員名	渡邉　二美子 （実務経験） （単独）	免許・資格との関係	保育士	必修
					幼稚園教諭	
					小学校教諭	
					中学校教諭（英語）	
ナンバリングコード	UE1-2111-10000				高等学校教諭（英語）	
					特別支援学校教諭	
授業形態	講義	年次配当	1年前期			
単位数	2			卒業要件	初等幼児教育専攻	選択
					中等教育専攻	
科目						
各科目に含めることが必要な事項						

教科目	必修科目（保育士）
系列	保育の内容・方法に関する科目
授業テーマ	乳幼児（0・1・2歳児）の発達と保育の内容
授業概要	乳幼児保育の意義と必要性や乳幼児保育の現状を理解し、乳児期の発達を理解した上で「乳児保育」や「1歳以上3歳未満児の保育」に関わるねらい及び内容や保育者との関わりの重要性について学ぶ

達成目標

科目DP：(2)					
DP番号	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)
1．乳幼児保育の意義と必要性・乳幼児保育の現状を知る				◎	
2．乳幼児の発達を理解し、発達一覧表を作って、より発達の連続性を確かにする		◎			
3．保育所が目指す目標や幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿について、0・1・2歳児として考えてみる	◎				
4．「乳児保育（0歳児）」に関わるねらい及び内容について学びその指導案を作成してみる			◎		○
5．「1歳以上3歳未満児の保育」に関わるねらい及び内容について学びその指導案を作成してみる			◎		○

履修条件・注意事項	発達理解のための一覧表を作成することが望ましい
授業計画	1．本科目の目標や概要について知り、本科目に興味・関心を持ち、予習の必要性を知り積極的に学ぶ（目標 1,2,3,4,5） 2．予習したことをもとに乳幼児保育の意義・必要性、乳幼児保育の現状について深く考えてみる（目標 2） 3．0歳児の発達を理解する①発達の一覧表の作成（身体運動・手指の操作）（目標 2） 4．0歳児の発達を理解する②発達の一覧表の作成（対人関係・言葉・認識・生理的特徴）（目標 2） 5．1・2歳児の発達を理解する①発達一覧表の作成（身体運動・手指の操作）（目標 2） 6．1・2歳児の発達を理解する②発達一覧表の作成（対人関係・言葉・認識・生理的特徴）（目標 2） 7．0・1・2歳児の発達を自分で作成した発達一覧表をもとに、映像を見ながら実際を確認し発達のイメージをつかむ （目標 2） 8．保育所が目指す目標について養護と教育が一体的に行われることの大事さをグループで学び合い子どもの「最善の利益」最もふさわしい生活場はどのようなものかを考え合う （目標 3） 9．幼児期の終わりまでに育って欲しい姿を0・1・2歳児として考え、保育のあり方、保育者としてのはたらきかけ方を考えてみる （目標 3） 10．乳児保育（0歳児保育）に関わるねらい及び内容を学び、保育のねらいとしての「3つの視点」について、また養護についてグループで深め合う （目標 4） 11．乳児保育（0歳児保育）の指導案を各自作成してみる （目標 4） 12．1歳以上3歳児未満児の保育に関わるねらい及び内容を学び5領域をまとめ、発達の特性と重なっていることをグループで深め合う （目標 5） 13．1歳以上3歳児未満の保育の指導案を各自作成してみる （目標 5） 14．0・1・2歳児の健康・安全や保育所の衛生、食育（アレルギーを含む）について、また災害についての備え等、保育者として特に知っておいて欲しいことを、子どもを守る立場で考え、調べたことを発表する （目標 4,5） 15．0・1・2歳児の保育の今後の課題について考え、本科目のまとめとして0・1・2歳児の保育を担当する時、特に大切にしたいことを発表する
アクティブ・ラーニング	グループでの学び合いを中心にプレゼンテーションや模擬保育を行う
成績評価基準	評価の方法：ノートの内容（予習・復習）30%、グループ討議の取組み30%、発達一覧表10%、指導案10%、まとめの発表20%　等を総合的に判断 評価の基準：授業の取組み、授業の理解度、提出物の内容、予習復習ノートの内容　等
フィードバックの方法	授業の始まりに前回の授業内容の定着度を確認、解説。授業に終わりに質問を受け、解説。
時間外の学習について	予習：参考文献を読み、ノートにまとめて予習ノートを作成しておく 復習：授業内容を日々まとめてノートを作成する （各回45分程度）
教材にかかわる情報	テキスト：『乳児保育』 民秋言・小田豊・朽尾勲・無藤隆編集、増田まゆみ編著 参考書：『保育所保育指針』 参考資料等：
担当者からのメッセージ等実務経験について	人間が生まれて、成長発達しながら大きくなりますが、0・1・2歳の時にしか育たないことがあります。それは一生にかかわることです。それを一緒に学びましょう。

授業科目名	乳児保育Ⅱ	教員名	渡邉　二美子 （実務経験） （単独）	免許・資格との関係	保育士	必修
					幼稚園教諭	
					小学校教諭	
					中学校教諭（英語）	
ナンバリングコード	UE1-2112-10000	年次配当	1年後期		高等学校教諭（英語）	
					特別支援学校教諭	
授業形態	演習			卒業要件	初等幼児教育専攻	選択
単位数	1				中等教育専攻	
科目						
各科目に含めることが必要な事項						
教科目	必修科目（保育士）					
系列	保育の内容・方法に関する科目					
授業テーマ	0・1・2歳児の発達理解と、健やかな成長を援助することのできる専門性の高い保育者としての視点及び具体的な保育の方法を学ぶ					
授業概要	乳幼児保育の内容を踏まえ、具体的な援助の方法や配慮を実践し、乳幼児の生活援助の方法を身につける。又、発達にともなう遊びの内容を理解する。					

達成目標	科目DP：(2)				
	DP番号	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)
	1．0・1・2歳児の発達理解を説明でき、保育の実際の知識・技能を身につける			◎		○
	2．0・1・2歳児のよりよい保育環境と保育条件等を考え、質の高い専門性を身につける	○	◎			
	3．乳幼児保育の特性や保護者支援等について、社会背景を分析考慮しながら、保育者のあり方を考える				◎	○

履修条件・注意事項	
授業計画	1．乳幼児の発達過程の理解と保育の実際①誕生～6ヵ月　（目標 1） 2．乳幼児の発達過程の理解と保育の実際②6ヵ月～1歳3ヵ月　（目標 1） 3．乳幼児の発達過程の理解と保育の実際③1歳3ヵ月～2歳　（目標 1） 4．乳幼児の発達過程の理解と保育の実際④2歳～3歳　（目標 1） 5．授業1～4までの内容の定着度確認と解説　（目標 1） 6．乳幼児保育の内容と実際①玩具、遊具、環境設定等年齢別に考える　（目標 2） 7．乳幼児保育の内容と実際②遊びと学びについて、養護と教育の一体的な関わりについて考える（目標 2） 8．乳幼児保育の内容と実際③心身の発達の個別性の理解と知識を身につける　（目標 2） 9．乳幼児保育の内容と実際④生活習慣　（目標 2） 10. 授業6～9の内容の定着度確認と解説　（目標 2） 11. 乳幼児保育を支える保育計画と記録　（目標 1,2） 12. 0・1・2歳児の環境及び衛生管理、安全管理についてどうあるべきか考える　（目標 3） 13. 0・1・2歳児の保護者に対する子育て支援のあり方を考える　（目標 3） 14. 乳幼児がおかれている社会背景を分析考慮し保育のあり方を考える　（目標 3） 15. 乳幼児の健やかな成長を援助するための専門性の高い保育者とはどのようなことか、学んだことや身につけたことをふり返る　（目標 1,2,3）
アクティブ・ラーニング	グループワークを中心にディスカッション、プレゼンテーション等を取り入れ主体的に学習できる様にする。
成績評価基準	評価の方法：ノートの内容（予習・復習）30%、実践・実技の内容30%、乳幼児玩具の作成の取組み20%、グループでの話し合いの態度20%　等を総合的に判断 評価の基準：授業の取組み、授業の理解度、提出物の内容、予習復習ノートの内容　等
フィードバックの方法	テーマごとに目標が達成でき定着しているかを単元ごとに授業内で確認する（授業5,10,15）
時間外の学習について	予習：予習ノートを作成、製作物の作成、等 復習：授業で行ったことをまとめ、ノート作りを行う（各30分程度）
教材にかかわる情報	テキスト：『乳児保育』民秋言・小田豊・朽尾勲・無藤隆編集、増田まゆみ編著 参考書：『保育所保育指針』 参考資料等：
担当者からのメッセージ等実務経験について	乳幼児の保育内容の質を上げ、よりよい保育者となるために実技を充実させましょう。

授業科目名	障害児保育Ⅰ	教員名	岡本　実 (実務経験) (単独)	免許・資格との関係	保育士	必修
					幼稚園教諭	
					小学校教諭	
					中学校教諭(英語)	
ナンバリングコード	UE3-2113-10000	年次配当	3年後期		高等学校教諭(英語)	
					特別支援学校教諭	
授業形態	演習			卒業要件	初等幼児教育専攻	選択
単位数	1				中等教育専攻	
科目						
各科目に含めることが必要な事項						
教科目	必修科目（保育士）					
系列	保育の内容・方法に関する科目					
授業テーマ	インクルーシブ保育，発達期の障害と発達支援，ストレングス視点，障害の社会モデル					
授業概要	・保育所や幼稚園，児童発達支援センターなどにおける障害児保育の意義を知り，現状を把握する． ・障害をもつ子どもの援助法や指導法について，具体的かつ実践的に学習する．					

達成目標	科目DP：(2)				
DP番号	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)
1．障害児を支える理念や歴史的変遷について学び，障害児およびその保育について理解する。		◎			
2．様々な障害について理解し，子どもの理解援助の方法，環境構成等について学ぶ。		○	◎	○	

履修条件・注意事項	
授業計画	1．障害児保育を支える理念（障害の概念と障害児保育の歴史的変遷）（目標 1） 2．障害児保育の基本　（目標 1） 3．障害児の理解と保育における発達の援助（肢体不自由・視覚・聴覚障害）（目標 2） 4．障害の種類および特徴と保育①：肢体不自由　（目標 2） 5．障害の種類および特徴と保育②：言語障害児　（目標 2） 6．障害の種類および特徴と保育③：知的障害とダウン症　（目標 2） 7．障害の種類および特徴と保育④：情緒障害児　（目標 2） 8．障害の種類および特徴と保育⑤：自閉症児　（目標 2） 9．障害の種類および特徴と保育⑥：アスペルガー症候群・高機能自閉症等　（目標 2） 10. 障害児への保育支援①：食事・排泄・更衣等　（目標 2） 11. 障害児への保育支援②：肢体不自由児の支援　（目標 2） 12. 障害児への保育支援③：知的障害児の支援　（目標 2） 13. 障害児への保育支援④：情緒障害児の支援　（目標 2） 14. 障害児の相談機関～障害手帳　（目標 2） 15. ADHD・TEACCHプログラムとは何か、まとめと確認テスト　（目標 1,2） 定期試験
アクティブ・ラーニング	ディスカッション、グループワーク
成績評価基準	評価の方法：定期試験50%，ワークシート・レポート20%，授業への取り組み30% 評価の基準：様々な障害の種類や特徴を理解し，適切な支援方法を考えることができる。
フィードバックの方法	ワークシート，レポートについてコメントをする。
時間外の学習について	予習：次回の学習内容について，テキストの関連個所に目を通し，ポイントを整理する． 各回20分程度 復習：授業内容の整理、復習を行う．各回30分程度
教材にかかわる情報	テキスト：「新：障害のある子どもの保育実践」水田・増田編著　2014年　学文社　ISBN:978-4-7620-2451-1 参 考 書：その都度紹介します 参考資料：その都度紹介します
担当者からのメッセージ等 実務経験について	近年，障害児支援の分野では，国連の障害者権利条約の批准と国内法の大幅な改正，発達障害者支援法の成立，特別支援教育や障害児通所支援の創設など，大きな変化の中にあります． 障害のある子の早期支援，家族支援に長年携わってきた経験をもとに，障害児支援の醍醐味について伝えていきたいと考えています．

授業科目名	障害児保育Ⅱ	教員名	岡本　実 (実務経験) (単独)	免許・資格との関係	保育士	必修
					幼稚園教諭	
					小学校教諭	
					中学校教諭(英語)	
ナンバリングコード	UE4-2114-10000	年次配当	4年前期		高等学校教諭(英語)	
					特別支援学校教諭	
授業形態	演習			卒業要件	初等幼児教育専攻	選択
単位数	1				中等教育専攻	
科目						
各科目に含めることが必要な事項						
教科目	必修科目（保育士）					
系列	保育の内容・方法に関する科目					
授業テーマ	保育計画，保育における個別支援，保護者支援，関係機関との連携，障害児保育の課題					
授業概要	障害の種類・特徴を知り，その子どもたちをどのように保育の中で支援するのか，また支援すればよいのかを見出し，保育実践に生かせるようにする。また，障害の子どもがいることにより，他の子どもの反応，家族，特に兄弟の気持ちを実践例・アンケート等により探り，その現状と課題について理解する。					

達成目標	科目DP：(4)				
DP番号	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)
1．障害のある子どもの保育の計画を作成し，個別支援及び他の子どもとの関わりの中で育ち合う保育実践について理解を深める。			○	◎	
2．障害のある子どもの保護者への支援や関係機関との連携について理解する。		○		◎	
3．障害のある子どもの保育にかかわる保健・医療・福祉・教育等の現状と課題について理解する。		◎		○	

履修条件・注意事項	
授業計画	1．知的障害児の理解と援助　（目標 1） 2．発達障害児の理解と援助①：ADHD－注意欠陥多動性障害，LD－学習障害　（目標 1） 3．発達障害児の理解と援助②：PDD－広汎性発達障害　（目標 1） 4．発達障害児の実際：保育課程に基づく指導計画の作成と記録及び評価　（目標 1） 5．個々の発達を促す生活や遊びの環境　（目標 1） 6．子ども同士の関わりと育ち合い　（目標 1） 7．職員間の連携　（目標 1,2） 8．家庭および関係機関との連携：保護者や家族に対する理解と支援　（目標 2） 9．地域の専門機関との連携　（目標 2） 10. 小学校との連携　（目標 2） 11. 障害のある子どもの保育に関わる現状と課題①：保健・医療における現状と課題　（目標 3） 12. 障害のある子どもの保育に関わる現状と課題②：福祉・教育における課題　（目標 3） 13. 障害のある子どもの保育に関わる現状と課題③：支援の場の広がりとつながり　（目標 3） 14. 保育計画の作成①　（目標 1） 15. 保育計画の作成②、まとめと確認テスト　（目標 1）
アクティブ・ラーニング	ディスカッション、グループワーク
成績評価基準	評価の方法：定期試験50%，ワークシート・レポート20%，授業への取り組み30% 評価の基準：様々な障害の種類や特徴を理解し，適切な支援方法を考えることができる。
フィードバックの方法	ワークシート，レポートについてコメントをする。
時間外の学習について	予習：次回の学習内容について，テキストの関連個所に目を通し，ポイントを整理する． 各回20分程度 復習：授業内容の整理、復習を行う．各回30分程度
教材にかかわる情報	テキスト：「新：障害のある子どもの保育実践」水田・増田編著　2014年　学文社　ISBN:978-4-7620-2451-1 参考書：その都度紹介します 参考資料：その都度紹介します
担当者からのメッセージ等 実務経験について	近年，障害児支援の分野では，国連の障害者権利条約の批准と国内法の大幅な改正，発達障害者支援法の成立，特別支援教育や障害児通所支援の創設など，大きな変化の中にあります． 障害のある子の早期支援，家族支援に長年携わってきた経験をもとに，障害児支援の醍醐味について伝えていきたいと考えています．

授業科目名	障害者福祉論	教員名	佐藤　真澄 （単独）	免許・資格との関係	保育士	
					幼稚園教諭	
					小学校教諭	
					中学校教諭（英語）	
ナンバリングコード	UE1-2115-00000				高等学校教諭（英語）	
授業形態	講義	年次配当	1年前期		特別支援学校教諭	
単位数	2			卒業要件	初等幼児教育専攻	選択
					中等教育専攻	
科目						
各科目に含めることが必要な事項						
教科目						
系列						
授業テーマ	障害者福祉の思想、基本理念、制度					
授業概要	障害者福祉の基本理念と歴史、現代の障害者を取り巻く諸問題と制度・政策について、体系的に学ぶ。障害者福祉は大幅な制度改革が相次ぐなど過渡期にある。こうした情勢を踏まえつつ、映像等を用いて具体的な実践事例を盛り込み講義を展開する。					

達成目標

	科目DP：(2)				
DP番号	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)
1．障害者福祉の思想、基本理念について理解できる。		◎		○	
2．障害者福祉の制度の変遷について理解できる。		◎		○	
3．障害児・者を取り巻く現代社会の状況について理解できる。		◎		○	
4．ライフステージに応じた支援のあり方とその実践について理解できる。		◎		○	
5．障害児・者が地域社会で暮らすために必要な支援について自分の考えを述べることができる。		○		◎	

履修条件・注意事項

授業計画

1．イントロダクション：障害児・者に対するイメージ（自己覚知）（目標 5）
2．障害論：国際生活機能分類　（目標 1）
3．障害論：障害の定義と障害児・者の実態　（目標 2,3）
4．障害者福祉の思想、基本理念：人権思想、エンパワメント、自己決定etc.　（目標 1）
5．障害者福祉の思想、基本理念：ノーマライゼーション、インクルージョンetc.　（目標 1）
6．障害者福祉の制度：制度の歴史的変遷　（目標 2）
7．障害者福祉の制度：措置制度から契約制度への転換　（目標 2）
8．障害者福祉の制度：障害者福祉の新たな制度の動向　（目標 2）
9．障害児・者を取り巻く状況と支援実践：早期療育、障害児教育　（目標 1,2,3,4）
10．障害児・者を取り巻く状況と支援実践：地域生活支援、相談支援事業　（目標 1,2,3,4）
11．障害児・者を取り巻く状況と支援実践：自立生活、就労支援　（目標 1,2,3,4）
12．障害児・者を取り巻く状況と支援実践：家族支援　（目標 1,2,3,4）
13．障害児・者を取り巻く状況と支援実践：社会の意識と地域福祉　（目標 1,2,3,4）
14．障害児・者が地域社会で暮らすために必要な支援とは【グループワーク】（目標 5）
15．総括：これからの障害者福祉のあり方　（目標 3,4,5）

アクティブ・ラーニング	ディスカッション
成績評価基準	評価の方法：①レポート（50点）、②授業への参加度（50点） 評価の基準：①学んだ内容を踏まえて自説を述べているか ②レスポンスカードの記述内容が適切であるか
フィードバックの方法	授業終了時にレスポンスシートに記入してもらい、次回の授業時にコメントする。
時間外の学習について	予習：特には求めない 復習：配布した資料に沿って、授業内容をノートに整理すること。（各回45分程度）
教材にかかわる情報	テキスト：なし（都度適宜資料を配布する） 参考書：『よくわかる障害者福祉』　ミネルヴァ書房 参考資料等：都度適宜配布する
担当者からのメッセージ等実務経験について	障害とはなにかを考える授業です。特別支援教育、障害児保育に興味を持っている学生には受講をお勧めします。

授業科目名	特別支援教育総論	教員名	佐藤真澄、門脇弘樹、林田真志、松岡勝彦、須藤邦彦、川間弘子、松田信夫、船橋篤彦	免許・資格との関係	保育士	
					幼稚園教諭	
					小学校教諭	
ナンバリングコード	UE2-2116-00001				中学校教諭(英語)	
					高等学校教諭(英語)	
授業形態	講義				特別支援学校教諭	必修
単位数	2	年次配当	2年前期	卒業要件	初等幼児教育専攻	選択
					中等教育専攻	
科目	教科及び教職に関する科目（特別支援学校）					
各科目に含めることが必要な事項						
教科目						
系列						
授業テーマ						
授業概要	本科目では，特別支援教育の理念・歴史・法律・政策等に関する基礎的内容を解説する。また，対象となる各障害の障害特性や指導方法，特別支援教育を支えるシステムやツール等，実践的な内容について解説し，事例検討等の演習も行う。最後に，特別支援教育を巡る最新の動向を解説し，今後の課題について考察する。					

達成目標	科目DP：(2)				
DP番号	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)
1．特別支援教育の理念および歴史・法律・政策等に関する基礎的な内容を理解する。		◎			
2．特別支援教育の対象である各障害の障害特性やアセスメント，指導方法について理解する。			◎	○	
3．特別支援教育を支えるシステムやツールについて理解する			◎	○	
4．特別支援教育を巡る最新の動向について理解する。		◎			

履修条件・注意事項

授業計画

※随時，グループワークや事例検討等の演習を行う。
1．イントロダクション（目標 1）　（担当教員：門脇弘樹）
　特別支援教育の対象や制度について簡単に解説するとともに，本科目の概要や予定を説明する。
2．特別支援教育の歴史と制度（目標 1）　（担当教員：門脇弘樹）
　特別支援教育の歴史や法律，政策，教育システムについて，特殊教育と対比しながら解説する。
3．特別支援教育の理念とその背景にある障害観（目標 1）　（担当教員：門脇弘樹）
　障害観の変遷についてＩＣＩＤＨやＩＣＦの観点から解説し，特別支援教育の理念について解説する。
4．学習指導要領と教育課程（目標 3）　（担当教員：松田信夫）
　特別支援学校学習指導要領をはじめとして，学習指導要領と教育課程の内容について解説する。
5．視覚障害（目標 2）　（担当教員：門脇弘樹）
　視覚障害の障害特性やアセスメント，指導法等について解説する。
6．聴覚障害（目標 2）　（担当教員：林田真志）
　聴覚障害の障害特性やアセスメント，指導法等について解説する。
7．言語障害（目標 2）　（担当教員：川間弘子）
　言語障害の障害特性やアセスメント，指導法等について解説する。
8．知的障害（目標 2）　（担当教員：松田信夫）
　知的障害の障害特性やアセスメント，指導法等について解説する。
9．肢体不自由と病弱（目標 2）　（担当教員：船橋篤彦）
　肢体不自由と病弱の障害特性やアセスメント，指導法等について解説する。
10．自閉症と情緒障害（目標 2）　（担当教員：須藤邦彦）
　自閉症（高機能自閉症等を含む）と情緒障害の障害特性やアセスメント，指導法等について解説する。
11．ＬＤ（学習障害）・ＡＤＨＤ（注意欠陥多動性障害）（目標 2）　（担当教員：松岡勝彦）
　ＬＤ（学習障害）とＡＤＨＤ（注意欠陥多動性障害）の障害特性やアセスメント，指導法等について解説する。
12．個別の指導計画と個別の教育支援計画（目標 3）　（担当教員：門脇弘樹）
　個別の指導計画と個別の教育支援計画の意義や作成手順等について解説する。
13．通常の学校における特別支援教育（目標 3）　（担当教員：門脇弘樹）
　特別支援学級や通級指導教室とともに，通常の学級での支援の在り方についても解説する。
14．校外連携の在り方（目標 3）　（担当教員：佐藤真澄）
　医療、福祉、労働等、校外機関との連携の在り方について解説する。
15．インクルーシブ教育と合理的配慮（目標 4）　（担当教員：門脇弘樹）
　インクルーシブ教育と合理的配慮について，最新の法律や報告等から解説する。
定期試験

アクティブ・ラーニング	グループワーク
成績評価基準	評価の方法：試験（100％） 評価の基準：特別支援教育の理念や制度、各障害の障害特性と指導方法などについて理解できる。
フィードバックの方法	各回ごとにふりかえりの時間を設け、出された質問・意見についてコメントする。
時間外の学習について	予習：テキストや適宜配布する資料を読んでおく。各回45分程度。 復習：テキストや適宜配布する資料を中心に復習する。各回45分程度。
教材にかかわる情報	テキスト：川合紀宗・若松昭彦・牟田口辰己編著「特別支援教育総論　インクルーシブ時代の理論と実践」2016年　北大路書房　ISBN978-4-7628-2949-9 参考書： 参考資料等：適宜配布する。
担当者からのメッセージ等実務経験について	

授業科目名	発達障害児の心理	教員名	名島　潤慈 (実務経験) (単独)	免許・資格との関係	保育士	
					幼稚園教諭	
					小学校教諭	
					中学校教諭(英語)	
ナンバリングコード	UE2-2117-00001	年次配当	2年後期		高等学校教諭(英語)	
					特別支援学校教諭	必修
授業形態	講義			卒業要件	初等幼児教育専攻	選択
単位数	2				中等教育専攻	

科目	免許状に定められることとなる特別支援教育領域以外の領域に関する科目（特別支援学校）
各科目に含めることが必要な事項	・心身に障害のある幼児、児童又は生徒の心理、生理及び病理に関する科目 ・心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目
教科目	
系列	
授業テーマ	発達障害（神経発達症）、LD、ADHD、自閉症（自閉スペクトラム症）、知的障害（知的発達症）
授業概要	いろいろな発達障害を有する子どもたちの心理や病理を理解し、適切な援助と対応を考える。なお、発達障害のなかでも特に自閉症について詳しく論ずる。

達成目標	科目DP：(2)				
	DP番号	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)
1．発達障害とは何かを理解する。			◎	○		
2．LDの心理について理解する。			◎	○		
3．ADHDの心理について理解する。			◎	○		
4．自閉症の歴史・定義について理解する。			◎	○		
5．自閉症の心理と教育について理解する。			◎	○		

履修条件・注意事項	
授業計画	1．発達障害の定義と病理―DSM-Ⅳ-TRとDSM-5とICD-10による診断基準（目標 1） 2．障害児の早期発見と療育（目標 1） 3．発達障害の二次障害・障害受容の問題（目標 1） 4．発達障害に関する支援制度―教育支援・家族支援・法的支援・就労支援（目標 1） 5．学習障害（LD）の心理と指導（目標 2） 6．注意欠陥多動性障害（ADHD）の心理と指導（目標 3） 7．自閉症概念の歴史と変遷（目標 4） 8．アスペルガー症候群と高機能自閉症、自閉スペクトラム症（目標 4） 9．知的障害と自閉症（目標 4） 10. 自閉症の心理（1）対人関係とコミュニケーションの障害・こだわり・感覚過敏性（目標 5） 11. 自閉症の心理（2）「心の理論（TOM）」（目標 5） 12. 自閉症の心理（3）アスペルガー症候群の自伝から見る自閉症の内的世界と自己理解－その１（目標 5） 13. 自閉症の心理（4）高機能自閉症者たちの自伝から見る自閉症の内的世界と自己理解－その２（目標 5） 14. 自閉症の心理（5）「自閉症スペクトラム指数（AQ）」の児童用と成人用・「広汎性発達障害日本自閉症協会評定尺度（PARS）」（目標 5） 15. 自閉症の指導と教育（目標 5）
アクティブ・ラーニング	ディスカッション
成績評価基準	評価の方法：レポート（70%）　合計3回の小テスト（30%） 評価の基準：発達障害児の心理に関する基礎的な事柄を理解し、自分の考えと共に説明できる。
フィードバックの方法	小テストの結果をコメントする。課題回収後に解説を行う。
時間外の学習について	予習：次回の授業について予め学習しておく。 各回45分程度 復習：自分なりのまとめのノートを作る。 各回45分程度
教材にかかわる情報	テキスト：井澤信三・小島道生（編著）（2013）障害児心理入門[第2版]　ミネルヴァ書房 参考書：Temple Grandin & Margaret M. Scariano(1986) カニングハム久子（訳）我、自閉症に生まれて　学習研究社 Donna Williams(1992) 河野万里子（訳）自閉症だったわたしへ　新潮社 参考資料等：資料は授業のなかで適宜紹介する。
担当者からのメッセージ等実務経験について	スクールカウンセラー：20年以上の経験に基づいて発達障害児の心理にアプローチします。

授業科目名	知的障害教育論	教員名	松田　信夫 (実務経験) 門脇　弘樹	免許・資格との関係	保育士	
					幼稚園教諭	
					小学校教諭	
					中学校教諭(英語)	
ナンバリングコード	UE4-2118-00001	年次配当	4年前期		高等学校教諭(英語)	
					特別支援学校教諭	必修
授業形態	講義			卒業要件	初等幼児教育専攻	選択
単位数	2				中等教育専攻	

科目	特別支援教育領域に関する科目（特別支援学校）
各科目に含めることが必要な事項	心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目
教科目	
系列	
授業テーマ	知的障害、発達障害、教育課程と教育支援
授業概要	知的障害教育の対象となる子どもの疾患、教育の場の特徴、教育課程、歴史的経緯などを概観し、一人ひとりの子どもの教育的ニーズを基本的な視点として、教育課程、自立活動、教科指導などについて、実践事例をもとにして具体的に講義する。また、特別支援学校や特別支援学級等に在籍している児童生徒の特性及び知的障害児教育の実際についてふれる。知的障害の概念や知的障害児教育の歴史、知的障害児の主な病類、心理特性、教育課程、各病類の指導上の留意及び進路指導等である。また、特別支援学校の教育支援の実際を知り、知的障害教育にかかわる教員の資質を考察したい。加えて、知的障害の近接領域である発達障害のある子どもへの支援についても理解する。

達成目標

	科目DP：(2)				
DP番号	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)
1．知的障害教育の概要を理解する。		◎			
2．知的障害児の教育課程と教育支援について理解する。		◎			
3．特別支援教育における知的障害教育の実践について理解する。			◎		
4．知的障害教育に携わる教員の役割と福祉・医療との連携のあり方について考察する。				○	◎

履修条件・注意事項	
授業計画	1．特別支援教育の意義・歴史（古代～中世）（目標 1）　担当：松田信夫 2．特別支援教育の意義・歴史（近代～平成）（目標 1）　担当：松田信夫 3．知的障害児の成長・発達（目標 1）　担当：松田信夫 4．個に応じた指導の必要性（目標 2）　担当：松田信夫 5．教科等を合わせた指導～生活単元学習の指導～（目標 2）　担当：松田信夫 6．教科等を合わせた指導～指導上の配慮点～（目標 2）　担当：松田信夫 7．知的障害児への数量指導（目標 3）　担当：松田信夫 8．知的障害児への言語指導（文字・文指導）（目標 3）　担当：松田信夫 9．知的障害児への言語指導（コミュニケーション指導）（目標 3）　担当：松田信夫 10. 知的障害児への自立活動の指導（排尿指導、歩行指導）（目標 3）　担当：松田信夫 11. 学校教育終了後の人生を見通した指導（目標 4）　担当：松田信夫 12. 発達障害児の成長を学校全体で支えるために～応用行動分析の視点から～（目標 3）　担当：松田信夫 13. 発達障害児の成長を学校全体で支えるために～伝統的な学級経営の視点から～（目標 3）　担当：松田信夫 14. 児童生徒の側に立つ（目標 3）　担当：松田信夫 15. 思わぬ展開になることもある授業（目標 3）　担当：松田信夫 定期試験
アクティブ・ラーニング	グループワーク
成績評価基準	評価の方法：授業態度（10%）、授業中に提示した課題の提出（10%）、最終レポート（30%）、学習課程の記録（ポートフォリオ）（10%）、試験（40%） 評価の基準：授業態度（積極的に授業に参加する）、課題の提出（記述内容が適切である）、最終レポート（根拠を明確にして自説を述べている）、学習課程の記録（学習を適切に整理できている）、試験（講義で扱った内容を理解している）
フィードバックの方法	次回の授業の際に、コメントを述べる。
時間外の学習について	予習：講義で使用する資料を読んでおく（毎回45分程度）。 復習：講義で使用する資料を中心に復習する（毎回45分程度）。
教材にかかわる情報	テキスト：講義用に作成した資料を使用する。 参考書：授業時に随時紹介する。 参考資料等：
担当者からのメッセージ等実務経験について	小学校特別支援学級教員経験：実践的な話を交えて進めます。

授業科目名	肢体不自由教育論	教員名	川間　弘子（実務経験） 一木　薫（実務経験）	免許・資格との関係	保育士	
					幼稚園教諭	
					小学校教諭	
					中学校教諭(英語)	
ナンバリングコード	UE4-2119-00001				高等学校教諭(英語)	
授業形態	講義	年次配当	4年前期		特別支援学校教諭	必修
単位数	2			卒業要件	初等幼児教育専攻	選択
					中等教育専攻	

科目	特別支援教育領域に関する科目（特別支援学校）
各科目に含めることが必要な事項	心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目
教科目	
系列	
授業テーマ	肢体不自由、教育課程と教育支援
授業概要	肢体不自由教育の対象となる子どもの疾患、教育の場の特徴、教育課程、歴史的経緯などを概観し、一人ひとりの子どもの教育的ニーズを基本的な視点として、教育課程、自立活動、教科指導などについて、実践事例をもとにして具体的に講義する。また、特別支援学校や特別支援学級等に在籍している児童生徒の特性及び肢体不自由児教育の実際についてふれる。肢体不自由の概念や肢体不自由児教育の歴史、肢体不自由児の主な病類、心理特性、教育課程、各病類の指導上の留意及び進路指導等である。また、特別支援学校の教育支援の実際を知り、肢体不自由児教育にかかわる教員の資質を考察したい。

達成目標	科目DP：(2)				
DP番号	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)
1．肢体不自由教育の概要を理解する。		◎			
2．肢体不自由児の教育課程と教育支援について理解する。		◎	○		
3．特別支援教育における肢体不自由教育の実践について理解する。			◎	○	
4．肢体不自由教育に携わる教員の役割と福祉・医療との連携のあり方について考察する。					◎

履修条件・注意事項	
授業計画	1．肢体不自由教育における対象児　（目標 1）（担当：一木　薫） 2．肢体不自由教育の歴史　（目標 1）（担当：一木　薫） 3．肢体不自由児の理解（1）～概念と就学基準～　（目標 1）（担当：一木　薫） 4．肢体不自由児の理解（2）～心理と行動特性～　（目標 1）（担当：一木　薫） 5．肢体不自由教育の場　（目標 1）（担当：一木　薫） 6．肢体不自由教育の教育課程　（目標 2）（担当：一木　薫） 7．肢体不自由児の教育支援（1）～学習指導要領、指導計画の作成～　（目標 2）（担当:川間弘子） 8．肢体不自由児の教育支援（2）～自立活動、日常生活の指導～　（目標 2）（担当：川間弘子） 9．肢体不自由児の教育支援（3）～支援機器、移動、摂食指導～　（目標 2）（担当：川間弘子） 10．肢体不自由児の教育支援（4）～各教科、遊びの指導～　（担当：川間弘子） 11．個別の教育支援計画をもとにした肢体不自由教育支援　（目標 3）（担当：一木　薫） 12．特別支援学校、特別支援学級における肢体不自由児教育の実際　（目標 3）（担当：一木　薫） 13．肢体不自由児のライフステージと教育　（目標 4）（担当：一木　薫） 14．肢体不自由教育のこれから　（目標 4）（担当：一木　薫） 15．肢体不自由教育にかかわる専門性　（目標 4）（担当：川間弘子）
アクティブ・ラーニング	グループワーク
成績評価基準	評価の方法：授業態度（10%）、授業中に提示した課題の提出（30%）、最終レポート（30%）、学習過程の記録（ポートフォリオ）（30%） 評価の基準：レポート:根拠を明らかにして、自説を書いている。授業参加の態度:積極的に参加している。
フィードバックの方法	授業中にコメントする
時間外の学習について	予習：授業で配布するテキストを、講義までに読んでおく。一コマ45分程度 復習：授業中の配付資料を次回までに復習しておく。一コマ45分程度
教材にかかわる情報	テキスト：「自立活動の理念と実践」古川勝也・一木薫編著　2016年　ジアース教育新社 特別支援学校学習指導要領（平成29年4月） 〃　解説（総則編） 〃　〃（自立活動編） 参考書： 参考資料等：
担当者からのメッセージ等 実務経験について	養護学校・特別支援学校教員経験：実践的な内容を交えて進めます。

授業科目名	知的障害児の 心理・生理・病理	教員名	松岡　勝彦 元山　　将	免許・資格との関係	保育士	
					幼稚園教諭	
					小学校教諭	
					中学校教諭(英語)	
ナンバリングコード	UE3-2120-00001				高等学校教諭(英語)	
					特別支援学校教諭	必修
授業形態	講義	年次配当	3年前期	卒業要件	初等幼児教育専攻	選択
単位数	2				中等教育専攻	

科目	特別支援教育領域に関する科目（特別支援学校）
各科目に含めることが必要な事項	心身に障害のある幼児、児童又は生徒の心理、生理及び病理に関する科目
教科目	
系列	
授業テーマ	知的障害、心理・生理・病理、応用行動分析
授業概要	知的障害教育の対象となる子どもの病理、生理、心理の基礎的内容を解説したうえで、知的障害児の心理について具体的な事例を概観しながら理解を深める。その際には、疾病のみならず人的・物的・制度的環境や治療上の制約といった知的障害児を取り巻く状況と関係付けて、知的障害児の心理が理解できることをねらいとする。

達成目標

	科目DP：(2)				
DP番号	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)
1．知的障害教育の対象となる子どもの病理・生理の基礎的内容について理解できる。		◎			
2．知的障害のある子どもを取り巻く状況と心理について関連付けて理解できる。			◎		○
3．知的障害のある子どもの心理と求められる指導・支援について自分なりの意見を述べることができる。			○	◎	

履修条件・注意事項	
授業計画	1．知的障害児とは　（目標 1,2）（担当：松岡勝彦） 2．知的障害教育の対象となる子どもの病理・生理　（目標 1）（担当：未定） 3．知的障害児の行動理解①：知的障害理解の枠組み　（目標 1,2,3）（担当：松岡勝彦） 4．知的障害児の行動理解②：行動原理の基礎　（目標 2,3）（担当：松岡勝彦） 5．知的障害児の行動理解③：状況要因ほか　（目標 2,3）（担当：松岡勝彦） 6．知的障害児の心理と指導法①：行動目標の立て方　（目標 2,3）（担当：松岡勝彦） 7．知的障害児の心理と指導法②：記録の仕方　（目標 2,3）（担当：松岡勝彦） 8．知的障害児の心理と指導法③：適切行動を増やす指導　（目標 2,3）（担当：松岡勝彦） 9．知的障害児の心理と指導法④：不適切行動を減らす指導　（目標 2,3）（担当：松岡勝彦） 10. 知的障害児の心理と指導法⑤：行動問題の理解と指導　（目標 2,3）（担当：松岡勝彦） 11. 子どもたちの特徴：知的障害　（目標 1,2,3）（担当：松岡勝彦） 12. 子どもたちの特徴：ダウン症　（目標 1,2,3）（担当：松岡勝彦） 13. 子どもたちの特徴：自閉症スペクトラム　（目標 1,2,3）（担当：松岡勝彦） 14. 知的障害児に対する日常生活スキルの指導　（目標 2,3）（担当：松岡勝彦） 15. 知的障害児に対する言語行動の指導　（目標 2,3）（担当：松岡勝彦）
アクティブ・ラーニング	グループワーク
成績評価基準	評価の方法：授業態度（10%）、授業中に提示した課題の提出（40%）、最終レポート（50%） 評価の基準：授業態度：積極的に参加している。課題の提出：学習内容の理解と毎回の提出 レポート：根拠を明らかにして、自説を書いている。
フィードバックの方法	授業中にコメントする
時間外の学習について	予習：授業で配布するテキストを、講義までに読んでおく。一コマ45分程度 復習：授業中の配付資料を次回までに復習しておく。一コマ45分程度
教材にかかわる情報	テキスト： 参考書： 参考資料等：
担当者からのメッセージ等 実務経験について	

授業科目名	病弱児の心理・生理・病理	教員名	猪狩　恵美子（実務経験） 名島　潤慈 佐藤　真澄 前場　進治	免許・資格との関係	保育士	
					幼稚園教諭	
					小学校教諭	
					中学校教諭（英語）	
ナンバリングコード	UE3-2121-00001				高等学校教諭（英語）	
					特別支援学校教諭	必修
授業形態	講義					
単位数	2	年次配当	3年後期	卒業要件	初等幼児教育専攻	選択
					中等教育専攻	

科目	特別支援教育領域に関する科目（特別支援学校）
各科目に含めることが必要な事項	心身に障害のある幼児、児童又は生徒の心理、生理及び病理に関する科目
教科目	
系列	
授業テーマ	病弱、心理・生理・病理、疾病、医療的ケア
授業概要	病弱教育の対象となる子どもの病理、生理、心理の基礎的内容を解説したうえで、病弱児の心理について具体的な事例を概観しながら理解を深める。その際には、疾病のみならず人的・物的・制度的環境や治療上の制約といった病弱児を取り巻く状況と関連付けて、病弱児の心理が理解できることをねらいとする。

達成目標

	科目DP：(2)				
DP番号	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)
1．病弱教育の対象となる子どもの病理･生理の基礎的内容について理解できる。		◎			
2．病弱児を取り巻く状況と心理について関連付けて理解できる。			◎	○	
3．病弱児の心理と求められる支援について自分なりの意見を述べることができる。				◎	○

履修条件･注意事項	
授業計画	1．イントロダクション「病弱児とは」（目標 1,2,3）（担当：猪狩恵美子） 2．病弱教育の対象となる子どもの病理・生理①：呼吸器疾患　（目標 1）（担当：前場進治） 3．病弱教育の対象となる子どもの病理・生理②：循環器疾患　（目標 1）（担当：元山将） 4．病弱教育の対象となる子どもの病理・生理③：消化器疾患　（目標 1）（担当：前場進治） 5．病弱教育の対象となる子どもの病理・生理④：腎・泌尿器疾患　（目標 1）（担当：元山将） 6．病弱教育の対象となる子どもの病理・生理⑤：血液・腫瘍疾患　（目標 1）（担当：元山将） 7．病弱教育の対象となる子どもの病理・生理⑥：内分泌疾患、生活習慣病　（目標 1）（担当：未定） 8．病弱教育の対象となる子どもの病理・生理⑦：神経疾患　（目標 1）（担当：未定） 9．病弱教育の対象となる子どもの病理・生理⑨：心の病　（目標 1）（担当：名島潤慈） 10．病弱児の心理的特性　（目標 2,3）（担当：猪狩恵美子） 11．病弱児を取り巻く状況と心理①：医療的ケアを受ける子ども　（目標 2,3）（担当：猪狩恵美子） 12．病弱児を取り巻く状況と心理②：入院中あるいは自宅療養中の子ども　（目標 2,3）（担当：猪狩恵美子） 13．病弱児を取り巻く状況と心理③：死にゆく子ども・ターミナルケア　（目標 2,3）（担当：猪狩恵美子） 14．教育・医療・保健・福祉の連携と支援　（目標 2,3,）（担当：佐藤真澄） 15．総括「病弱児を取り巻く状況と求められる支援とは」（グループワークを含む）（目標 2,3）（担当：佐藤真澄）
アクティブ･ラーニング	グループワーク
成績評価基準	評価の方法：レポート等の提出物（70%）　授業への参加度（グループワークを含む）（30%） 評価の基準：レポート:根拠を明らかにして、自説を書いている。授業参加度:積極的に参加している。
フィードバックの方法	授業中にコメントする
時間外の学習について	予習：授業で配布するテキストを、講義までに読んでおく。一コマ45分程度 復習：授業中の配付資料を次回までに復習しておく。一コマ45分程度
教材にかかわる情報	テキスト：『特別支援教育に生かす　病弱児の生理・病理・心理』ミネルヴァ書房 参考書：適宜、都度紹介する 参考資料等：
担当者からのメッセージ等実務経験について	特別支援学校教員経験：実践的な話を交えて進めます。

授業科目名	肢体不自由児の心理・生理・病理	教員名	船橋　篤彦 元山　　将	免許・資格との関係	保育士	
					幼稚園教諭	
					小学校教諭	
					中学校教諭(英語)	
ナンバリングコード	UE3-2122-00001	年次配当	3年後期		高等学校教諭(英語)	
					特別支援学校教諭	必修
授業形態	講義			卒業要件	初等幼児教育専攻	選択
単位数	2				中等教育専攻	

科目	特別支援教育領域に関する科目（特別支援学校）
各科目に含めることが必要な事項	心身に障害のある幼児、児童又は生徒の心理、生理及び病理に関する科目
教科目	
系列	
授業テーマ	肢体不自由、心理・生理・病理、発達支援
授業概要	肢体不自由教育の対象となる子どもの病理、生理、心理の内容を解説したうえで、肢体不自由児の発達と学習について理解を深める。

達成目標

	科目DP：(2)				
	DP番号 (1)	(2)	(3)	(4)	(5)
1．肢体不自由児の生理・病理について理解する。		◎			
2．肢体不自由児の心理に関する姿勢・運動，認知，コミュニケーションなどについて理解する。		◎			
3．姿勢・運動を支える感覚系と姿勢反射反応の神経生理について理解する。			◎		
4．肢体不自由児の発達における相互関連と調和的発達の重要性を理解する。				○	◎

履修条件・注意事項

授業計画

1．オリエンテーション：肢体不自由児の心理･生理･病理を学ぶ意義　（目標 1）（担当：船橋篤彦）
2．肢体不自由教育の対象となる子どもの病理・生理①：脳性麻痺他　（目標 1）（担当：未定）
3．肢体不自由教育の対象となる子どもの病理・生理②：脊椎損傷他　（目標 1）（担当：未定）
4．姿勢・運動の発達　（目標 2,3）（担当：船橋篤彦）
5．姿勢・運動の発達を支える感覚　（目標 2,3）（担当：船橋篤彦）
6．姿勢・運動の発達を支える姿勢反射反応　（目標 2,3）（担当：船橋篤彦）
7．肢体不自由児の身体の動き（姿勢・運動）とその発達　（目標 2,3）（担当：船橋篤彦）
8．肢体不自由児の環境の把握（認知）とその発達　（目標 2）（担当：船橋篤彦）
9．肢体不自由児のコミュニケーションとその発達　（目標 2）（担当：船橋篤彦）
10. 肢体不自由児の人間関係とその発達　（目標 2）（担当：船橋篤彦）
11. 肢体不自由児の心理的安定とその発達　（目標 2）（担当：船橋篤彦）
12. 肢体不自由児の健康の保持とその発達　（目標 2）（担当：船橋篤彦）
13. 肢体不自由児の学習行動と障害による困難　（目標 2）（担当：船橋篤彦）
14. 肢体不自由児の各発達領域の相互関連の重要性　（目標 4）（担当：船橋篤彦）
15. 肢体不自由児の調和的発達の重要性　（目標 4）（担当：船橋篤彦）

アクティブ･ラーニング	グループワーク
成績評価基準	評価の方法：授業態度（10%）、授業中に提示した課題の提出（30%）、最終レポート（60%） 評価の基準：授業態度（積極的に授業に参加する）、授業中に提示した課題の提出（記述内容が適切である）、最終レポート（授業で扱った内容を理解している、根拠を明確にして自説を述べている）
フィードバックの方法	課題回収後、解説を行う。
時間外の学習について	予習：テキストや講義資料を読んでおく（各回45分程度）。 復習：テキストや講義資料を中心に復習する（各回45分程度）。
教材にかかわる情報	テキスト：木舩憲幸『2011 脳性まひ児の発達支援―調和的発達を目指して』北大路書房 講義用に作成した資料も使用する。 参考書：授業時に随時紹介する。 参考資料等：
担当者からのメッセージ等 実務経験について	

授業科目名	発達障害の 心理アセスメント	教員名	名島　潤慈 須藤　邦彦	免許・資格との関係	保育士	
					幼稚園教諭	
					小学校教諭	
					中学校教諭(英語)	
ナンバリングコード	UE2-2123-00001				高等学校教諭(英語)	
					特別支援学校教諭	必修
授業形態	講義	年次配当	2年後期	卒業要件	初等幼児教育専攻	選択
単位数	2				中等教育専攻	

科目	特別支援教育領域に関する科目（特別支援学校）
各科目に含めることが必要な事項	心身に障害のある幼児、児童又は生徒の心理、生理及び病理に関する科目
教科目	
系列	
授業テーマ	心理アセスメント、パーソナリティテスト、発達テスト、社会生活能力テスト、知能テスト
授業概要	知的障害を含む発達障害の臨床・支援場面で利用される心理テストの理論、実施法、活用事例に関する講義と演習を行う。

達成目標

	科目DP：				
	DP番号 (1)	(2)	(3)	(4)	(5)
1．心理アセスメントとは何かを理解する。		◎	○	○	
2．パーソナリティテストについて理解する。		○	◎		
3．発達テストについて理解する。		○	◎		
4．社会生活能力テストについて理解する。		○	◎		
5．知能テストについて理解する。		○	◎		

履修条件・注意事項

授業計画

1．心理アセスメント概説―心理アセスメントの意義・留意点、心理アセスメントの方法（心理テスト・面接・行動観察）、心理テストにおける倫理（目標 1）（担当：名島潤慈）
2．パーソナリティ面のアセスメント―バウムテスト・動的家族画・人物画（目標 2）（担当：名島潤慈）
3．発達面のアセスメント―乳幼児精神発達診断法・遠城寺式乳幼児分析的発達検査法（九大小児科改訂版）（目標 3）（担当：名島潤慈）
4．発達面のアセスメント―KIDS乳幼児発達スケール・新版K式発達検査2001（目標 3）（担当 :名島潤慈）
5．社会生活面のアセスメント―新版S-M社会生活能力検査（目標 4）（担当：名島潤慈）
6．知能・認知面のアセスメント　田中ビネー知能検査V①―検査概要と下位検査（目標 5）（担当: 須藤邦彦）
7．知能・認知面のアセスメント　田中ビネー知能検査V②―下位検査と結果分析（目標 5）（担当: 須藤邦彦）
8．知能・認知面のアセスメント　WISC-Ⅳ①―検査概要と下位検査（目標 5）（担当：須藤邦彦）
9．知能・認知面のアセスメント　WISC-Ⅳ②―下位検査と結果分析（目標 5）（担当：須藤邦彦）
10．知能・認知面のアセスメント　WISC-Ⅳ③―結果分析と支援（目標 5）（担当：須藤邦彦）
11．知能・認知面のアセスメント　K-ABC①―検査概要と下位検査（目標 5）（担当：須藤邦彦）
12．知能・認知面のアセスメント　K-ABC②―下位検査と結果分析（目標 5）（担当：須藤邦彦）
13．知能・認知面のアセスメント　DN-CAS①―検査概要と下位検査（目標 5）（担当：須藤邦彦）
14．知能・認知面のアセスメント　DN-CAS②―下位検査と結果分析（目標 5）（担当：須藤邦彦）
15．知能・認知面のアセスメント　DN-CAS③―結果分析と支援（目標 5）（担当：須藤邦彦）

アクティブ・ラーニング	ディスカッション、グループワーク、ロールプレイ
成績評価基準	評価の基準：発達障害の心理アセスメントに関する基礎的な事柄を理解し、自分の考えと共に説明できる。 評価の方法：レポート（70%）　授業中の態度・取り組みの姿勢（30%）
フィードバックの方法	課題回収後に解説を行う。
時間外の学習について	予習：次回の授業について予め学習しておく。（各回45分程度） 復習：自分なりのまとめのノートを作る。（各回45分程度）
教材にかかわる情報	テキスト：特になし。 参考書：授業のなかで適宜紹介する。 参考資料等：資料は授業のなかで適宜配布する。
担当者からのメッセージ等 実務経験について	可能な限りいろいろなテストを実際にやってもらいます。

授業科目名	病弱教育論	教員名	猪狩　恵美子 （実務経験） （単独）	免許・資格との関係	保育士	
					幼稚園教諭	
					小学校教諭	
					中学校教諭（英語）	
ナンバリングコード	UE4-2124-00001	年次配当	4年前期		高等学校教諭（英語）	
					特別支援学校教諭	必修
授業形態	講義			卒業要件	初等幼児教育専攻	選択
単位数	2				中等教育専攻	

科目	特別支援教育領域に関する科目（特別支援学校）
各科目に含めることが必要な事項	心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目
教科目	
系列	
授業テーマ	病弱、教育課程と教育支援
授業概要	病弱教育の対象となる子どもの疾患、教育の場の特徴、教育課程、歴史的経緯などを概観し、一人ひとりの子どもの教育的ニーズを基本的な視点として、教育課程、自立活動、教科指導などについて、実践事例をもとにして具体的に講義する。また、特別支援学校や特別支援学級等に在籍している児童生徒の特性及び病弱児教育の実際についてふれる。病弱の概念や病弱児教育の歴史、病弱児の主な病類、心理特性、教育課程、各病類の指導上の留意及び進路指導等である。また、特別支援学校の教育支援の実際を知り、病弱児教育にかかわる教員の資質を考察したい。

達成目標

	科目DP：(2)				
DP番号	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)
1．病弱教育の概要を理解する。		◎			
2．病弱児の教育課程と教育支援について理解する。		◎			
3．特別支援教育における病弱教育の実践について理解する。			◎	○	
4．病弱教育に携わる教員の役割と福祉・医療との連携のあり方について考察する。					◎

履修条件・注意事項	
授業計画	1．病弱教育における対象児と疾患の理解　（目標 1） 2．病弱教育の歴史　（目標 1） 3．病弱児の理解（1）～概念と就学基準～　（目標 1） 4．病弱児の理解（2）～心理と行動特性～　（目標 1） 5．病弱教育の医療と教育の連携（院内学級）（目標 1） 6．病弱教育の教育課程　（目標 2） 7．病弱児の教育支援（1）～学習指導要領、指導計画の作成～　（目標 2） 8．病弱児の教育支援（2）～自立活動、日常生活の指導～　（目標 2） 9．病弱児の教育支援（3）～各教科、遊びの指導～　（目標 2） 10. 個別の教育支援計画をもとにした病弱教育支援　（目標 3） 11. 特別支援学級における病弱児教育の実際　（目標 3） 12. 特別支援学校における病弱児教育の実際　（目標 3） 13. 病弱児のライフステージと教育　（目標 4） 14. 病弱教育のこれから―情報機器の活用―　（目標 4） 15. 病弱教育にかかわる専門性　（目標 4）
アクティブ・ラーニング	グループワーク
成績評価基準	評価の方法：授業態度（10%）、授業中に提示した課題の提出（30%）、最終レポート（30%）、学習過程の記録（ポートフォリオ）（30%） 評価の基準：授業参加の態度：積極的に参加している。レポート：根拠を明らかにして、自説を書いている。ポートフォリオ：既習事項を整理し、振り返りができる。
フィードバックの方法	授業中にコメントする
時間外の学習について	予習：授業で配布するテキストを、講義までに読んでおく。一コマ45分程度 復習：授業中の配付資料を次回までに復習しておく。一コマ45分程度
教材にかかわる情報	テキスト：講義用に作成した資料を使用する。 参考書：授業時に随時紹介する。 参考資料等：
担当者からのメッセージ等 実務経験について	特別支援学校教員経験：実践的な話を交えて進めます。

授業科目名	知的障害教育指導論	教員名	松岡　勝彦 （単独）	免許・資格との関係	保育士	
					幼稚園教諭	
					小学校教諭	
					中学校教諭（英語）	
ナンバリングコード	UE4-2125-00001				高等学校教諭（英語）	
授業形態	講義	年次配当	4年前期		特別支援学校教諭	必修
単位数	2			卒業要件	初等幼児教育専攻	選択
					中等教育専攻	

科目	特別支援教育領域に関する科目（特別支援学校）
各科目に含めることが必要な事項	・心身に障害のある幼児、児童又は生徒の心理、生理及び病理に関する科目 ・心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目
教科目	
系列	
授業テーマ	知的障害の特徴、教師としての心構え、応用行動分析に基づく指導の具体的方法論について学ぶ。
授業概要	知的障害のある人たちを支える「応用行動分析」の基礎について学習した後、知的障害（ダウン症、自閉症スペクトラムを含む）の特徴、日常生活スキル及びコミュニケーション並びに行動問題の理解と指導について、具体的実践事例を通して基本を抑える。授業にはDVD等の映像を多めに使用する。

達成目標

科目DP：(2)

	DP番号 (1)	(2)	(3)	(4)	(5)
1．知的障害のある人たちの基本的特徴について説明できる。		◎	○		
2．指導の基本的方法論について説明できる。		◎	○	○	

履修条件・注意事項	
授業計画	1．応用行動分析の基礎（応用行動分析の社会への貢献／行動の定義／ABC分析ほか）（目標 1,2） 2．応用行動分析の基礎（強化／弱化（弱化の危険性）／消去ほか）（目標 1,2） 3．応用行動分析の基礎（確立化操作／行動目標の設定／行動の指標ほか）（目標 1,2） 4．教育現場で使える指導方法（プロンプト法／トークンエコノミー法／レスポンスコストほか）（目標 1,2） 5．教育現場で使える指導方法（モデリング／課題分析／チェイニングほか）（目標 1,2） 6．教育現場で使える指導方法（回復過剰修正法／タイムアウトほか）（目標 1,2） 7．研究計画（教育現場で応用できる研究計画ほか）（目標 1,2） 8．知的障害の特徴（発達障害の分類／要素ほか）（目標 1） 9．知的障害の特徴（知的障害の定義／診断基準／重症度／ボーダーラインほか）（目標 1） 10. 知的障害の特徴（有病率／症状／教育的対応ほか）（目標 1） 11. 自閉症スペクトラムの特徴（対人的相互交渉／コミュニケーション／こだわりほか）（目標 1） 12. 自閉症スペクトラムの特徴（有病率／ことばに関する特徴ほか）（目標 1） 13. 知的障害のある人への指導事例（指導の前に／教師としての心構えほか）（目標 2） 14. 知的障害のある人への指導事例（日常生活スキル及びコミュニケーションの指導ほか）（目標 2） 15. 知的障害のある人への指導事例（行動問題のアセスメントとその結果に基づいた指導）（目標 2）
アクティブ・ラーニング	グループワーク
成績評価基準	評価の方法：授業参加度・授業態度 30%　　レポート 70% 評価の基準：レポート：根拠を明らかにして、自説を書いている。授業参加の態度：積極的に参加している。
フィードバックの方法	授業中にコメントする
時間外の学習について	予習：授業で配布するテキストを、講義までに読んでおく。一コマ45分程度 復習：授業中の配付資料を次回までに復習しておく。一コマ45分程度
教材にかかわる情報	テキスト：講義で使用する資料はこちらで準備します。 参考書：長澤正樹・関戸英紀・松岡勝彦（2005）『こうすればできる』：問題行動対応マニュアル. 川島書店. 参考資料等：
担当者からのメッセージ等 実務経験について	

授業科目名	視覚障害児教育総論	教員名	牟田口　辰己 （実務経験） （単独）	免許・資格との関係	保育士	
					幼稚園教諭	
					小学校教諭	
					中学校教諭（英語）	
ナンバリングコード	UE3-2126-00001	年次配当	３年前期		高等学校教諭（英語）	
					特別支援学校教諭	必修
授業形態	講義			卒業要件	初等幼児教育専攻	選択
単位数	2				中等教育専攻	

科目	免許状に定められることとなる特別支援教育領域以外の領域に関する科目（特別支援学校）
各科目に含めることが必要な事項	・心身に障害のある幼児、児童又は生徒の心理、生理及び病理に関する科目 ・心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目
教科目	
系列	
授業テーマ	視覚障害教育の教育課程と学習指導要領を解説するとともに，特別支援学校等（視覚障害）において展開されている授業の実際について，障害に応じた授業の特色を理解し，授業を構成するために必要な知識や技能，授業研究のための基礎的な事項について理解を深めることをねらいとする授業である。
授業概要	盲教育や弱視教育における授業の計画，視覚障害を補うための配慮，教材・教具の工夫と評価等について，実践例を示しながら解説する。

達成目標	科目DP：(2)				
	DP番号	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)
	1．視覚障害教育の概要を理解する。		◎			
	2．視覚障害児の教育課程と教育支援について理解する。		◎		○	
	3．特別支援教育における視覚障害教育の実践について理解する。			○	○	◎

履修条件・注意事項	
授業計画	1．視覚障害者と点字１（日本点字の発明と６点点字の概要）（目標 1,2） 2．視覚障害者と点字２（点字の読み書きの指導）（目標 1,2） 3．視覚障害の状態の把握（目の機能と主要な眼疾患および心理学的知見）（目標 1,2） 4．視覚障害児童生徒の就学基準と特別支援学校，弱視特別支援学級，弱視通級指導教室の概要（目標 2,3） 5．視覚障害教育の発展のあゆみ（目標 1,2,3） 6．教育課程と学習指導要領（視覚障害自立活動の内容）（目標 1,2,3） 7．特別支援学校（視覚障害）における教育の実際（幼稚部から職業教育）（目標 1,2,3） 8．盲児に対する指導の配慮と工夫（学習指導要領で指摘される各教科に共通した配慮事項）（目標 2,3） 9．盲児に対する指導の配慮と工夫（点字教科書の編集）（目標 2,3） 10. 弱視児に対する指導の配慮と工夫（見えにくさを補う光学補助具の活用）（目標 2,3） 11. 弱視児に対する指導の配慮と工夫（拡大教科書の概要）（目標 2,3） 12. 教科指導の実際１（国語における漢字・漢語の指導）（目標 2,3） 13. 教科指導の実際２（算数における計算・図形の指導）（目標 2,3） 14. 視覚障害者と歩行（目標 1,2,3） 15. 視覚障害教育の課題と求められる専門性（目標 1,2,3） 定期試験
アクティブ・ラーニング	グループワーク
成績評価基準	評価の方法：筆記試験（80%）、受講態度（20%） 評価の基準：筆記試験（テキストの内容を扱った問題について回答できる）、受講態度（積極的に授業に参加する）
フィードバックの方法	授業中にコメントを述べる。
時間外の学習について	予習：授業中に配布するテキストを講義までに読んでおく（各回45分程度）。 復習：授業中の配布資料を次回までに復習しておく（各回45分程度）。
教材にかかわる情報	テキスト：適宜資料を配布する。 参考書：講義の中で適宜紹介する。 参考資料等：
担当者からのメッセージ等 実務経験について	盲学校教員経験：実践的な話を交えて進めます。

授業科目名	聴覚障害児教育総論	教員名	林田　真志（単独）	免許・資格との関係	保育士	
					幼稚園教諭	
					小学校教諭	
					中学校教諭（英語）	
ナンバリングコード	UE3-2127-00001	年次配当	3年前期		高等学校教諭（英語）	
					特別支援学校教諭	必修
授業形態	講義			卒業要件	初等幼児教育専攻	選択
単位数	2				中等教育専攻	

科目	免許状に定められることとなる特別支援教育領域以外の領域に関する科目（特別支援学校）
各科目に含めることが必要な事項	・心身に障害のある幼児、児童又は生徒の心理、生理及び病理に関する科目 ・心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目
教科目	
系列	
授業テーマ	聴覚障害の心理・生理・病理、ならびに教育課程と指導法に関する事項を学習し、聴覚障害幼児児童生徒にむけた教育を展開するための基礎的知識を習得する。
授業概要	聴覚障害の心理・生理・病理に関する内容として、聴覚の解剖学的構造と機能、聴覚機能の発達と評価、聴覚障害の原因やきこえの特徴について解説する。また、教育課程と指導法に関する内容として、特別支援学校・学級（聴覚障害）等における教育課程の編成、ならびに環境把握やコミュニケーション、言語発達、教科学習、肯定的な障害認識、社会性の育成に関する指導の実際について解説する。

達成目標

	科目DP：(2)				
DP番号	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)
1．聴覚障害教育の概要を理解する。		◎			
2．聴覚障害児の教育課程と教育支援について理解する。		◎		○	
3．特別支援教育における聴覚障害教育の実践について理解する。				○	◎

履修条件・注意事項	
授業計画	1．聴覚の解剖学的構造と機能（目標 1,2,3） 2．音の性質と聴覚の発達（目標 1,2） 3．発達段階に応じたきこえの評価（目標 1,2） 4．聴覚障害の原因ときこえの特徴（目標 1,2） 5．聴覚障害の程度とその分類（目標 1,2） 6．聴覚障害幼児児童生徒に対する教育課程の編成（目標 1,2） 7．補聴器や人工内耳の原理と構造、ならびにその活用方法（目標 1,2） 8．幼児期および児童期における聴覚学習の理論と実際（目標 1,2） 9．聴覚障害幼児児童生徒に対するコミュニケーション指導（目標 2,3） 10. 聴覚障害児童生徒に対する書記言語指導（目標 2,3） 11. 聴覚障害児童生徒に対する教科指導（目標 2,3） 12. 聴覚障害生徒の肯定的な障害認識にむけた指導（目標 2,3） 13. 聴覚障害幼児児童生徒の社会性の発達を促す指導（目標 2,3） 14. 聴覚障害者にむけた福祉サービスとその活用方法（目標 2,3） 15. 聴覚障害教育を取り巻く動向（目標 1,2,3） 定期試験
アクティブ・ラーニング	グループワーク
成績評価基準	評価の方法：授業への参加意欲・態度（10%）、課題提出状況と課題達成度（15%）、筆記試験（75%） 評価の基準：授業への参加意欲・態度（積極的に授業に参加する）、課題提出状況と課題達成度（授業で扱った内容について理解している。記述内容が適切である）、筆記試験（授業で扱った内容について理解できている）
フィードバックの方法	授業中にコメントを述べる。
時間外の学習について	予習：配布する資料について、読んでおく。（各回45分程度） 復習：配布した資料を中心に、復習する。（各回45分程度）
教材にかかわる情報	テキスト：適宜資料を配布する。 参考書：・井澤信三 他（2010）『障害児心理入門』．ミネルヴァ書房．ISBN 9784623058143 ・脇中起余子（2009）『聴覚障害教育これまでとこれから』．北大路書房．ISBN 9784762826900 参考資料等：
担当者からのメッセージ等 実務経験について	

子ども学

子ども基礎演習…… 157
子ども実地研究…… 158
子ども表現実践演習…… 159
子ども英語…… 160
子どもと教育…… 161
子どもの心理と保育…… 162
子どもと福祉…… 163
子どもと芸術表現Ⅰ…… 164
子どもと芸術表現Ⅱ…… 165

授業科目名	子ども基礎演習	教員名	武田　雅行 本廣　明美 上田　保明 森　　俊博	免許・資格との関係	保育士	
					幼稚園教諭	
					小学校教諭	
					中学校教諭(英語)	
ナンバリングコード	CM1-3001-00000				高等学校教諭(英語)	
					特別支援学校教諭	
授業形態	演習					
単位数	4	年次配当	1年前期	卒業要件	初等幼児教育専攻	必修
					中等教育専攻	選択
科目						
各科目に含めることが必要な事項						
教科目						
系列						
授業テーマ	研究方法、指導方法、音楽表現、美術表現、心理					
授業概要	本演習は、学年を4グループに分け前後期2講座ずつ、全ての担当教員の授業を全ての学生が受講する。授業の内容は、関係づくりの様々な方法を体験しながら音楽・美中・身体表現を通して子どもや人と関わることの素晴らしさを再確認する。また、学習・研究に必要な基礎的知識・技能を修得する。					

達成目標	科目DP：(1)～(5)				
	DP番号 (1)	(2)	(3)	(4)	(5)
1．子ども、人との関わり、つながる素晴らしさを知る。					
2．自分が体験し考えたことを表現できる。					
3．学ぶことの喜びを実感し、学習意欲を高め大学で学ぶことの意義を考える。					
4．学修・研究に必要な基礎的知識・技能を習得する。					

履修条件・注意事項	前期2講座（1単位)、後期2講座（1単位）の合計④講座（2単位）全てを受講する。
授業計画	初回は、授業計画、授業概要の説明をし、4つのグループ分けを行う。 ＜武田　雅行＞ 大人になると忘れてしまう子どもの頃の気持ちを呼び覚ますために、人生に少なからず影響を与えていくであろう、幼い頃の自分自身の原風景を絵で表現し発表する。次に、普段から見慣れた自分の顔を観察し、様々な感情の違いにより他者にどのように見られているかを絵画表現を通じて再確認する。また、ワークショップの手法を用いて「自己イメージの見直し」を行なう。いずれも造形活動を通して自分がどういう人間であるか、人からどのように見られているか再認識するきっかけとしたい。(目標 1,2) ＜本廣　明美＞ 鍵盤楽器の特徴をとらえ、鍵盤が期の可能性を知る。自分の様々な思いやイメージを1本指や手のひらなどを使って、鍵盤上で表現する創造あそびを体験する。この学習を通して、学生が表現する楽しさを知り、また、学生同士が鍵盤表現を通してイメージや感情を共有し合う喜びを感じられるように指導する。(目標 1,2) ＜上田　保明＞ 学校現場の期待する教師像を希求するための演習とする。鉛筆の持ち方・書く姿勢・聞く姿勢など児童にとって好ましい基本的な学習習慣を体験を通して学ぶとともに、小学校教師としての基礎的知識と技能・態度を習得する。また、幼児期から学童期へかけてのことばの発達をもとにことばの獲得と人格形成の関係について学ぶ。 ＜森　　俊博＞
アクティブ・ラーニング	ディスカッション・グループワーク・プレゼンテーション・フィールドワーク
成績評価基準	評価の方法：課題（配点　80%）　授業中の態度・取り組み（配点　20%）　※講座によって異なる 評価の基準：取り組みの姿勢や課題を総合して評価する。(各期の2講座の点を平均する)
フィードバックの方法	各自の課題については、オフィスアワーなどを利用してその解決に努める。 発表や課題作成後のコメントや学生相互の意見交換を参考に、課題解決に取り組むこと。※講座によって異なる
時間外の学習について	予習：復習：詳細は各講座の中で説明する。(各回30分程度)
教材にかかわる情報	テキスト：授業の中で適宜資料を配布する。 参考書： 参考資料等：
担当者からのメッセージ等実務経験について	＜桒原＞出席回数、受講態度も重視する。毎回B5ノートを持参してメモやノートづくり、講義外での自主的な調査活動も進めて欲しい。ノートも重要な評価対象とする。音楽を聴くなど、生活に音楽を意識的に取り入れて欲しい。

授業科目名	子ども実地研究	教員名	佐藤　真澄 川野　哲也 大田　紀子 森　俊博 門脇　弘樹	免許・資格との関係	保育士	
					幼稚園教諭	
					小学校教諭	
					中学校教諭(英語)	
ナンバリングコード	CM2-3002-00000				高等学校教諭(英語)	
					特別支援学校教諭	
授業形態	演習					
単位数	2	年次配当	2年前後期	卒業要件	初等幼児教育専攻	必修
					中等教育専攻	選択
科目						
各科目に含めることが必要な事項						
教科目						
系列						
授業テーマ	実地調査、資料収集と分析、実践的取り組み、成果のまとめと発表					
授業概要	グループごとに課題やテーマを設定し、資料収集、教材づくり、学外ボランティア活動を通して、分析・考察する。					

達成目標	科目DP：(1)～(5)					
	DP番号	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)
	1．自ら課題やテーマについて調べたり、考察したり、整理したりする。					
	2．現実の子どもや子どもをめぐる環境と向き合い、いっそう深い課題やテーマを発見する。					
	3．他者と協力し、議論し、グループとして意見をまとめたりする。					
	4．子どもとの豊かなかかわり方について実践力と分析力を形成する。					

履修条件・注意事項	
授業計画	1．グループごとにテーマや課題を設定　(目標 1,2,3,4) 2．資料の収集と分析、グループごとに討論　(目標 1,2,3,4) 3．資料の収集と分析、グループごとに討論　(目標 1,2,3,4) 4．発表と討論。 今後の課題を明確化　(目標 1,2,3,4) 5．学外のボランティア活動等を通した実地調査　(目標 2,4) (幼稚園・保育園・小学校・福祉施設・NPO団体その他) 6．学外のボランティア活動等を通した実地調査　(目標 2,4) 7．グループ討議、(目標 1,2,3,4) 8．グループ討議。 今後の課題を明確化　(目標 1,2,3,4) 9．学外のボランティア活動等を通した実地調査　(目標 2,4) 10. 学外のボランティア活動等を通した実地調査　(目標 2,4) 11. グループ討議、(目標 1,2,3,4) 12. 資料の収集と分析、(目標 1,2,3,4) 13. 報告書または作品の製作　(目標 1,2,3,4) 14. 報告書または作品の製作　(目標 1,2,3,4) 15. 発表と討論　(目標 1,2,3,4)
アクティブ・ラーニング	課題解決型学習、グループワーク、ディスカッション、フィールドワーク等を中心に実施する
成績評価基準	評価の方法：取り組みの状況50%、レポート50% 評価の基準：授業の活動に、積極的かつ協力的に取り組んだか いっそう深い課題やテーマを発見し、その課題について自分なりに追究したか 子どもと豊かにかかわるという観点を持ち、自分なりに追究したか
フィードバックの方法	発表についてふり返り、講評する。
時間外の学習について	予習：討論や話し合いが予定されている場合には、各自意見をまとめておくこと。 復習：活動の中で見出した課題について、積極的に調べること。(各回30分程度)
教材にかかわる情報	テキスト：なし 参考書： 参考資料等：適宜紹介する。
担当者からのメッセージ等 実務経験について	この授業に限らず、各種ボランティア活動に取り組むことを勧める。その情報は適宜紹介する。

授業科目名	子ども表現実践演習	教員名	佐藤　真澄 川野　哲也 大田　紀子 森　俊博 門脇　弘樹	免許・資格との関係	保育士	
					幼稚園教諭	
					小学校教諭	
					中学校教諭(英語)	
ナンバリングコード	UE1-3003-00000				高等学校教諭(英語)	
					特別支援学校教諭	
授業形態	演習					
単位数	1	年次配当	1年後期	卒業要件	初等幼児教育専攻	必修
					中等教育専攻	
科目						
各科目に含めることが必要な事項						
教科目						
系列						
授業テーマ	教育実習・保育実習のための基礎的な知識・技能・態度の修得、見学実習					
授業概要	遊びや表現などを繰り返し練習することで基礎的な実践力を形成する。さらに教育現場や保育現場で実践することで基礎的な実践力の定着をはかる。					

達成目標	科目DP：(1)～(5)				
	DP番号 (1)	(2)	(3)	(4)	(5)
1．実習生としての心構えや意識、意欲を形成する。					
2．子どもや入所者とのかかわりを深めるための技術(遊びや表現)を修得する。					
3．自己の課題を明確化し、他者と協力しながら、自らの資質を高める。					
4．幼稚園と福祉施設の一日の様子や課題について基礎的な事項について理解する。					

履修条件・注意事項	
授業計画	1．教職員への挨拶、記録　(目標 1,2,3) 2．子ども向け自己紹介　(目標 1,2,3) 3．歌遊び　(目標 1,2,3) 4．絵本読み　(目標 1,2,3) 5．ペープサート　(目標 1,2,3) 6．一人芝居　(目標 1,2,3) 7．グループでのレクレーション　(目標 1,2,3) 8．グループでの劇　(目標 1,2,3) 9．福祉施設の概要と見学の準備　(目標 1,2,3,4) 10. 福祉施設での見学実習　(目標 1,2,3,4) 11. 全体の振り返り、グループでの討議、発表　(目標 1,2,3,4) 12. 幼稚園の概要と見学の準備　(目標 1,2,3,4) 13. 幼稚園での見学実習　(目標 1,2,3,4) 14. 幼稚園での見学実習　(目標 1,2,3,4) 15. 全体の振り返り、グループでの討議、発表　(目標 1,2,3,4)
アクティブ・ラーニング	ディスカッション、グループワーク、プレゼンテーション、模擬授業、課題解決型学習、等による
成績評価基準	評価の方法：授業時間内に数回実施するテスト60%、見学実習での取り組み20%、レポート20% 評価の基準：遊びや表現の基礎的な技術を修得したか、 実習に向けての基礎的な知識・技能・態度を修得したか、
フィードバックの方法	発表についてふり返り、講評する。課題等について改善点をコメントする。
時間外の学習について	予習：次回の課題の準備をしておく。 復習：授業時間の内容については、各自復習すること。(各回30分程度)
教材にかかわる情報	テキスト：なし 参考書：適宜プリントを配布する。 参考資料等：
担当者からのメッセージ等 実務経験について	

授業科目名	子ども英語	教員名	岩中　貴裕 （単独）	免許・資格との関係	保育士	
					幼稚園教諭	
					小学校教諭	
					中学校教諭（英語）	
ナンバリングコード	CM3-3004-00000	年次配当	３年後期		高等学校教諭（英語）	
					特別支援学校教諭	
授業形態	講義			卒業要件	初等幼児教育専攻	選択
単位数	2				中等教育専攻	選択
科目						
各科目に含めることが必要な事項						
教科目						
系列						
授業テーマ	子どもの第二言語習得					
授業概要						

達成目標

以下の５点がこの授業の達成目標です。授業終了時に達成できていることを確認してください。

	科目DP：(1)～(5)				
DP番号	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)
１．子どもの言語習得のプロセスについて説明することができる。		○			◎
２．英語を用いて積極的にコミュニケーションを図ろうとすることができる。				○	◎
３．他の人と協力して課題に取り組むことができる。			○	○	
４．英語の音声的特徴について説明することができる		○			◎
５．子どもの発達段階を考慮したコミュニケーション活動を立案することができる。		○		○	◎

履修条件・注意事項

グループ活動が中心となります。欠席が多い学生は履修を取り消す場合があります。

授業計画

1．授業の目標及び進め方についての説明　（目標 1,2,3,4,5）
2．子どもの言語習得プロセス　（目標 1,3,5）
3．小学校の外国語授業：授業づくりの5つの視点と授業の振り返りのポイント　（目標 1,2,3,4,5）
4．小学校の外国語授業：文字の指導　（目標 2,3,4,5）
5．小学校の外国語授業：小中連携の工夫　（目標 2,3,4,5）
6．英語音声のしくみ：英語の強勢とイントネーション　（目標 2,3,4,5）
7．英語音声のしくみ：日本語を母語とする学習者にとって難しい英語の音　（目標 2,3,4,5）
8．コミュニケーション能力の高め方：表現力の向上　（目標 2,3,4,5）
9．コミュニケーション活動立案　（目標 2,3,4,5）
10. 模擬授業（前半）（目標 1,2,3,4,5）
11. 模擬授業（後半）（目標 1,2,3,4,5）
12. 教授法に対する理解：5技能の指導　（目標 1,2,3,4,5）
13. 授業実践に対する理解：授業案・授業運営　（目標 1,2,3,4,5）
14. 異文化リテラシーの必要性　（目標 1,2,3,5）
15. 小学校における異文化交流実践例　（目標 1,2,3,5）

アクティブ・ラーニング	課題解決、グループワーク、発表を中心とした授業を行う。
成績評価基準	評価の方法：グループワーク等への参加態度（30%）、発表（40%）、レポート（30%） 評価の基準：態度と意欲を重視した評価を行う。
フィードバックの方法	振り返りシートを用いて行う。
時間外の学習について	予習：授業内でディスカッションが予定されている場合は、各自の意見をまとめておくこと。 復習：授業内で配布した資料を各自で確認し理解すること。
教材にかかわる情報	テキスト：小川隆夫（2007）.『高学年のための小学校英語』mpi 参考書：村野井仁（2018）.『小学校英語教育の基礎知識』東京：大修館書店 参考資料等：小学校英語指導者のポートフォリオ（J-POSTLエレメンタリー）
担当者からのメッセージ等 実務経験について	

授業科目名	子どもと教育	教員名	森　俊博 (実務経験) (単独)	免許・資格との関係	保育士	
					幼稚園教諭	選択
					小学校教諭	
					中学校教諭(英語)	
ナンバリングコード	UE3-3005-02000	年次配当	3年後期		高等学校教諭(英語)	
					特別支援学校教諭	
授業形態	演習			卒業要件	初等幼児教育専攻	選択
単位数	2				中等教育専攻	

科目	教科及び教職に関する科目（幼稚園）道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目
各科目に含めることが必要な事項	・教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む。）
教科目	
系列	
授業テーマ	子どもの観察と支援の方法、事例に関するグループ協議
授業概要	就学前後の子どもたちや子どもの生活について、包括的な視点で捉えるために、様々な方法や理論、実践を学ぶ。また、学んだことを活かして実際に子どもの置かれている状況について分析し、グループで発表する。支援のベースとして、子どもや家族とかかわるためのコミュニケーション力、実践者としてのコミュニケーション力をつけることも重視する。

達成目標	科目DP：(1)～(5)				
	DP番号	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)
1．就学前後の子どもの様子について理解することができる。						
2．事例を基に、実践的な内容を協議することができる。						
3．子どもに関する記録の仕方を理解することができる。						
4．PPT等を使って、課題に合った内容を発表することができる。						

履修条件・注意事項	
授業計画	第１回：オリエンテーション（目標 1） 第２回：子どもと信頼関係を築く①　（目標 1） 第３回：子どもと信頼関係を築く②　（目標1） 第４回：子どもと信頼関係を築く③　（目標 1） 第５回：子どもの観察と記録　①　（目標1,3） 第６回：子どもの観察と記録　②　（目標 1,3） 第７回：事例検討Ⅰ　インシデントプロセス法①　（目標 2） 第８回：事例検討Ⅰ　インシデントプロセス法②　（目標 2） 第９回：事例検討Ⅱ　家族関係を理解する　①（目標1,2,3） 第10回：事例検討Ⅱ　家族関係を理解する　②（目標1,2,3） 第11回：グループ発表に向けて　①　（目標 1,2,3） 第12回：グループ発表に向けて　②　（目標 1,2,3） 第13回：グループ発表に向けて　③　（目標 1,2,3） 第14回：グループプレゼンテーション ①　（目標 4） 第15回：グループプレゼンテーション ②　（目標 4）
アクティブ・ラーニング	グループワーク、プレゼンテーション、フィールドワーク
成績評価基準	評価の方法：グループワークへの参加態度(40%)、グループ発表の内容(30%)、最終レポート(30%) 評価の基準：グループワークへの参加態度（積極的に話し合いに参加している）、グループ発表の内容（協力して役割を担っている・適切な発表資料を作成し、口頭発表ができる）、最終レポート（根拠を明確にして自説を述べることができる）
フィードバックの方法	授業中にコメントを述べる。
時間外の学習について	予習：講義で配布する資料を読んでおく（各回45分程度）。講義内容に関連して、フィールドでの観察学習や観察記録を求めることがある。 復習：講義で配布する資料を中心に復習する（各回45分程度）。後半は、グループ発表の準備を行う。
教材にかかわる情報	テキスト：講義用に作成した資料を配布する。 参 考 書：必要に応じて紹介する。 参考資料等：必要に応じて配布する。
担当者からのメッセージ等 実務経験について	

授業科目名	子どもの心理と保育	教員名	大田　紀子 （単独）	免許・資格との関係	保育士	選択
					幼稚園教諭	
					小学校教諭	
					中学校教諭（英語）	
ナンバリングコード	UE1-3006-20000	年次配当	4年後期		高等学校教諭（英語）	
					特別支援学校教諭	
授業形態	演習			卒業要件	初等幼児教育専攻	選択
単位数	2				中等教育専攻	
科目						
各科目に含めることが必要な事項						
教科目	選択必修科目（保育士）					
系列	保育の対象の理解に関する科目					
授業テーマ	保育、乳幼児心理学、子どもの遊び、子ども理解					
授業概要	子どもになりきって思いきり遊ぶ経験を通して子ども理解を深め、子どもの発達を踏まえた保育計画を立案・実践し、振り返りを行う。また、出てきた課題をもとに議論を行う。					

達成目標	科目DP：(1)～(5)				
	DP番号 (1)	(2)	(3)	(4)	(5)
1．遊びを通して子ども理解を深める。					
2．保育や乳幼児の心理について考え、課題意識を持つ。					
3．子どもの心理発達を踏まえた保育計画を立案・実施することができる。					

履修条件・注意事項	学外授業等２コマ以上連続で授業を行うこともあるので、他学年の授業を履修する場合は時間割を確認した上で履修してください。
授業計画	1．オリエンテーション　こどものあそびについて　（目標 1） 2．子どもあそび体験①：子どもになりきって遊ぶ　（目標 1,2） 3．子どもあそび体験②：運動あそび　（目標 1,2） 4．子どもあそび体験③：自然物を使ったあそび　（目標 1,2） 5．子どもあそび体験④：表現あそび　（目標 1,2） 6．子どもあそび体験⑤：言葉あそび　（目標 1,2） 7～10. 模擬保育の計画：遠足の計画を立てる　（目標 2,3） 11～13. 模擬保育の実践①：遠足へ行く　（目標 2,3） 14. 模擬保育の実践：振り返りを行う　（目標 2,3） 15. まとめと今後の課題　（目標 2）
アクティブ・ラーニング	ディスカッション、グループワーク、模擬授業
成績評価基準	評価の方法：グループワークや模擬保育等授業への取り組み（40%）、課題・レポート（60%） 評価の基準：活動やディスカッションへ積極的に参加しているか。他者と協力して模擬保育の準備を行い学びを深めようとしているか。 期限内に提出できているか。経験したことを通して自分の意見を述べることができているか。体験したことや学んだことを反映させて保育を計画し、振り返りを行うことができているか。
フィードバックの方法	レポートや発表内容および模擬保育についてコメントや助言を行う。
時間外の学習について	予習：教材研究や関連する文献を読む。各回20分程度 復習：授業内で完成できなかった課題および授業内容の整理、復習を行う。各回20分程度
教材にかかわる情報	テキスト：特になし 参考書： 参考資料等：
担当者からのメッセージ等 実務経験について	

授業科目名	子どもと福祉	教員名	佐藤　真澄 （単独）	免許・資格との関係	保育士	選択
					幼稚園教諭	
					小学校教諭	
					中学校教諭（英語）	
ナンバリングコード	CM3-3007-20000	年次配当	３年後期		高等学校教諭（英語）	
					特別支援学校教諭	
授業形態	演習			卒業要件	初等幼児教育専攻	選択
単位数	2				中等教育専攻	選択
科目						
各科目に含めることが必要な事項						
教科目	選択必修科目（保育士）					
系列	保育の本質・目的に関する科目					
授業テーマ	子どもを取り巻く現状と福祉的課題、福祉教育					
授業概要	社会構造の変化によって、子どもを取り巻く状況が大きく変化している。子どもは社会的弱者として福祉の対象となることもあるが、将来的には福祉の担い手となることが期待される存在でもある。そんな子どもたちに「福祉」をどう伝えていくのかについて考える授業としたい。					

達成目標	科目DP：(1)～(5)					
	DP番号	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)
１．子どもを取り巻く現状と課題について社会福祉の観点から理解する。						
２．福祉教育の方法について理解する。						
３．子どもたちに「福祉」をどう教えていくのかについて、自分の考えを述べることができる。						

履修条件・注意事項	
授業計画	１．社会福祉・児童福祉の基本理念　（目標 1） ２．福祉教育の理論と方法　（目標 2） ３．子どもを取り巻く現状と福祉的課題　①少子・高齢化／家族機能と社会福祉との関係（目標 1） ４．子どもを取り巻く現状と福祉的課題　②地域社会の役割と地域福祉　（目標 1） ５．子どもを取り巻く現状と福祉的課題　③障害者福祉と特別支援教育　（目標 1） ６．ディスカッション・模擬授業　①絵本やVTRを活用した授業（１回目）（目標 2,3） ７．ディスカッション・模擬授業　①絵本やVTRを活用した授業（２回目）（目標 2,3） ８．ディスカッション・模擬授業　①絵本やVTRを活用した授業（３回目）（目標 2,3） ９．ディスカッション・模擬授業　②疑似体験・技術体験（１回目）（目標 2,3） 10．ディスカッション・模擬授業　②疑似体験・技術体験（２回目）（目標 2,3） 11．ディスカッション・模擬授業　②疑似体験・技術体験（３回目）（目標 2,3） 12．ディスカッション・模擬授業　③当事者参加型の授業・体験（１回目）（目標 3） 13．ディスカッション・模擬授業　③当事者参加型の授業・体験（２回目）（目標 3） 14．総括のディスカッション①：子どもたちを取り巻く社会と福祉課題とは何か　（目標 1） 15．総括のディスカッション②：子どもたちに「福祉」をどう教えていくのか　（目標 3）
アクティブ・ラーニング	ディスカッション、グループワーク、プレゼンテーション
成績評価基準	評価の方法：ディスカッション・模擬授業への参加度（50%）、事前・事後課題（50%） 評価の基準：子どもたちを取り巻く福祉的課題について理解したうえで、福祉教育についての自分なりの考えを述べることができる。
フィードバックの方法	ディスカッション、プレゼンテーションでは振り返りの時間を設けてコメントする。 提出された振り返りシートについては次回の授業時にコメントする。
時間外の学習について	予習：ディスカッション、プレゼンテーションの前には、事前に示す課題を準備する。 復習：ディスカッション、プレゼンテーションについて、振り返りシートを記入し、提出する。（各回30分程度）
教材にかかわる情報	テキスト：なし（都度適宜資料を配布する） 参考書：都度適宜配布する 参考資料等：都度適宜配布する
担当者からのメッセージ等実務経験について	ディスカッション、模擬授業を中心に授業を展開するため、各人の積極的な参加を求める。

授業科目名	子どもと芸術表現Ⅰ	教員名	武田　雅行 坂本　久美子	免許・資格との関係	保育士	
					幼稚園教諭	
					小学校教諭	
					中学校教諭(英語)	
ナンバリングコード	UE3-3008-00000	年次配当	3年前期		高等学校教諭(英語)	
					特別支援学校教諭	
授業形態	演習			卒業要件	初等幼児教育専攻	選択
単位数	2				中等教育専攻	
科目						
各科目に含めることが必要な事項						
教科目						
系列						
授業テーマ	人形劇、造形表現、音楽表現、言語表現					
授業概要	対象年齢の子どもたちの発達段階や興味関心などを想定し、テーマや物語の設定を考える。 造形的表現を工夫して舞台装置や棒人形を制作し、人形劇としてふさわしい音楽や効果音・歌について考える。後期の本格的な舞台練習に必要な準備を整える。					

達成目標	科目DP：(1)～(5)					
	DP番号	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)
	1．造形表現や音楽表現を、子どもの発達と関連付けながら考えることができる。					
	2．子どもが楽しむ表現活動の、企画や制作ができる。					
	3．教育者・保育者としての多面的な表現力を高める。					
	4．教育・保育現場における表現活動の意義を理解する。					

履修条件・注意事項	後期の「子どもと芸術表現Ⅱ」を併せて履修すること。（保育教育コースは履修することが望ましい）
授業計画	1．オリエンテーション（目標 1,4） 2．様々な人形劇の人形の特徴と演じ方（目標 1,4） 3．演目の検討（目標 1,2） 4．脚本の作成（目標 1,2,3） 5．脚本の検討・推敲（1）内容や登場者（目標 1,2,3） 6．脚本の検討・推敲（2）物語の構成（目標 1,2,3） 7．脚本の検討・推敲（3）台詞（目標 1,2,3） 8．脚本の検討・推敲（3）効果音や音楽（目標 1,2,3） 9．人形制作（1）頭部（目標 1,2,3） 10. 人形制作（2）本体（目標 1,2,3） 11. 人形制作（3）手足（目標 1,2,3） 12. 人形制作（4）衣装（目標 1,2,3） 13. 小道具制作（目標 1,2,3） 14. 舞台制作（目標 1,2,3） 15. 棒人形の扱い方（目標 1,2,3,4）
アクティブ・ラーニング	グループワーク
成績評価基準	評価の方法：授業への取り組み（配点　60%）　構成・脚本制作（配点　20%）　人形・小道具制作（配点　20%） 評価の基準：グループ活動に意欲的に取り組み、自分の役割を積極的に果たしている。子どもが楽しめる内容に基づいた台詞を考え、擬音や音楽を効果的に用いた脚本を作成する。物語に相応しい造形表現で、人形や小道具などを丁寧に制作している。
フィードバックの方法	脚本や製作物について、改善点をコメントする。
時間外の学習について	予習：前回までの活動の概要を踏まえて授業に望むこと 復習：時間内に終わらなかった課題は次回までに完了しておくこと　（各回30分程度）
教材にかかわる情報	テキスト：特になし 参考書： 参考資料等：適宜プリント配布
担当者からのメッセージ等 実務経験について	

授業科目名	子どもと芸術表現Ⅱ	教員名	武田　雅行 坂本　久美子	免許・資格との関係	保育士	
					幼稚園教諭	
					小学校教諭	
					中学校教諭(英語)	
ナンバリングコード	UE3-3008-00000	年次配当	３年後期		高等学校教諭(英語)	
					特別支援学校教諭	
授業形態	演習			卒業要件	初等幼児教育専攻	選択
単位数	2				中等教育専攻	
科目						
各科目に含めることが必要な事項						
教科目						
系列						
授業テーマ	子どもと児童文化財（人形劇）、人形を介した声や動きの表現力、劇中音楽の効果					
授業概要	人形の動かし方や台詞の言い回しなどを工夫し、劇的効果を高める音楽や歌などを加え、演目の魅力を十分に伝えられるよう、表現豊かに演じる。教育・保育現場での発表を振り返り、記録にまとめ今後の課題について考える。					

達成目標		科目DP：(1)～(5)				
	DP番号	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)
	1．子どもの発達と関連付けた造形表現や音楽表現を、実践することができる。					
	2．子どもが楽しめるような、豊かな表現力を身につける。					
	3．教育・保育現場における表現活動の意義を理解し、実践に活かすことができる。					
	4．グループ活動を通して、教育者・保育者として必要な協調性や責任感を身につける。					

履修条件・注意事項	10名前後のグループ単位で取り組む。 前期の「子どもと芸術表現Ⅰ」を履修したものに限る。（保育教育コースは履修することが望ましい）
授業計画	1．人形の動きと音楽（目標 1,2,3） 2．人形の動きと効果音（目標 1,2,3） 3．グループ練習（1）（目標 2,4） 4．グループ練習（2）（目標 2,4） 5．授業内発表会（目標 1,2,3,4） 6．改善点の検討（目標 2,3,4） 7．改善点の修正（1）（目標 2,3,4） 8．改善点の修正（2）（目標 2,3,4） 9．学内での発表（目標 1,2,3,4） 10. 改善点の修正（3）（目標 2,3,4） 11. 改善点の修正（4）（目標 2,3,4） 12. 保育現場での発表（目標 1,2,3,4） 13. 教育現場での発表（目標 1,2,3,4） 14. 発表の振り返りと考察（目標 1,2,3,4） 15. 制作と発表を通してのまとめ（目標 1,2,3,4）
アクティブ・ラーニング	グループワーク
成績評価基準	評価の方法：作品発表（配点　60%）　レポート（配点　20%）　授業中の態度・取り組み（配点　20%） 評価の基準：表現力の向上に努め、子どもにとっての文化財の意義を踏まえた人形劇の発表をする。活動を振り返り、事例に基づいた考察と自己課題を簡潔に述べる。グループ活動に意欲的に取り組み、自分の役割を積極的に果たしている。
フィードバックの方法	教育・保育現場での発表について、振り返りの後に講評する。
時間外の学習について	予習：前回までの活動の概要を踏まえて授業に望むこと。 復習：時間内に終わらなかった課題は次回までに完了しておくこと。（各回30分程度）
教材にかかわる情報	テキスト：特になし 参考書： 参考資料等：適宜プリント配布
担当者からのメッセージ等実務経験について	主体的なグループ活動により成立する授業であり、他の人に迷惑を掛けないよう自覚を持って臨むこと。

芸術表現

ピアノ奏法Ⅰ…… 167
ピアノ奏法Ⅱ…… 168
即興伴奏法Ⅰ…… 169
即興伴奏法Ⅱ…… 170
鍵盤即興法Ⅰ…… 171
鍵盤即興法Ⅱ…… 172
鍵盤表現研究…… 173
子どもとリトミックⅠ…… 174
子どもとリトミックⅡ…… 175
わらべうたと地域文化…… 176
造 形 演 習…… 177

授業科目名	ピアノ奏法Ⅰ	教員名	本廣　明美 ほか	免許・資格との関係	保育士	
					幼稚園教諭	選択
					小学校教諭	必修
					中学校教諭(英語)	
ナンバリングコード	UE1-4001-02100	年次配当	1年前期		高等学校教諭(英語)	
授業形態	演習				特別支援学校教諭	
単位数	1			卒業要件	初等幼児教育専攻	必修
					中等教育専攻	

科目	領域及び保育内容の指導法に関する科目（幼稚園）、教科及び教科の指導法に関する科目（小学校）
各科目に含めることが必要な事項	領域に関する専門的事項（幼稚園）、教科に関する専門的事項（小学校）
教科目	
系列	
授業テーマ	ピアノの基礎的な知識及び奏法、イメージの育成
授業概要	それぞれの音楽経験やピアノの技術に合わせて、様々なピアノ曲や童謡にイメージを抱き、楽しみながら学習する。

達成目標

	科目DP：(1)				
DP番号	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)
1．音楽の構成要素である音符、拍子、調、奏法について、基礎的な知識や技術を習得する。	○		◎		
2．イメージを持って、表現する。	◎		○		
3．子どもの動きを表現する曲（歩く、走る、飛ぶ・ジャンプ、ゆれる状態を表す曲）について、想像豊かに演奏する。	◎		○		
4．保育や教育現場で必要な弾き歌いについての、基礎的な知識と技術を学び、弾き歌いに慣れる。	○		◎		

履修条件・注意事項

授業計画

1．音楽構成要素Ⅰ（読譜、音符と休符）の学習　（目標 1）
2．音楽構成要素Ⅱ（基礎的なリズムと拍子の関係）の学習　（目標 1）
3．音楽構成要素Ⅲ（基礎的な調、奏法）の学習　（目標 1）
4．音楽構成要素Ⅳ（メロディ、基礎的なハーモニー）の学習　（目標 1）
5．基礎的な動きの表現　Ⅰ　（歩く曲の演習）（目標 2,3）
6．基礎的な動きの表現　Ⅱ　（走る曲の演習）（目標 2,3）
7．基礎的な動きの表現　Ⅲ　（とぶ、ジャンプの曲の演習）（目標 2,3）
8．基礎的な動きの表現　Ⅳ　（ゆれる曲の演習）（目標 2,3）
9．童謡の弾き歌いⅠ（弾き歌いの仕方）（目標 4）
10. 童謡の弾き歌いⅡ（基本的な春の歌）（目標 4）
11. 童謡の弾き歌いⅢ（基本的な夏の歌））（目標 4）
12. ペダルの使い方　（目標 1,2）
13. 応用的ピアノ曲の演習　　（目標 1,2,3）
14. 基本的弾き歌い曲の演習　　（目標 1,4）
15. ピアノ曲と弾き歌い曲の実技演習　（目標 1～4）

アクティブ・ラーニング	プレゼンテーション
成績評価基準	評価の方法：ピアノ演奏（配点80%）　・弾き歌い演奏（配点10%）　・平常点（配点10%） 評価の基準：ピアノの基礎的な知識及び技術などを学び、イメージを持って、感性豊かに弾くことができたか。また、授業に意欲的に取り組めたか。
フィードバックの方法	オフィスアワー等を利用して、不得意なところや課題の解決に努めること。
時間外の学習について	予習：日々課題曲について練習をする。 復習：同上　　（各回30分程度）
教材にかかわる情報	テキスト：本廣明美・加藤照恵『保育現場で聴かせたい　ピアノ名曲でこどもと遊ぼう（ＣＤ付）』／『こどもとたのしく「弾き歌い」』幼稚園・保育園のうた　ピアノ伴奏曲集／『幼稚園・保育園・小学校の先生を目指す人の為の基礎から学べる　ピアノ１,２,３』（ドレミ楽譜出版社） 参考書： 参考資料等：
担当者からのメッセージ等 実務経験について	不断の努力が必要です。

授業科目名	ピアノ奏法Ⅱ	教員名	本廣　明美 ほか	免許・資格との関係	保育士	選択
					幼稚園教諭	
					小学校教諭	
					中学校教諭(英語)	
ナンバリングコード	UE1-4002-20000	年次配当	1年後期		高等学校教諭(英語)	
					特別支援学校教諭	
授業形態	演習			卒業要件	初等幼児教育専攻	選択
単位数	1				中等教育専攻	
科目						
各科目に含めることが必要な事項						
教科目	選択必修科目（保育士）					
系列	保育の内容・方法に関する科目					
授業テーマ	ピアノの基礎的な知識及び技術、イメージを表現、自己表現力					
授業概要	それぞれの音楽経験やピアノの技術に合わせて、様々なピアノ曲や童謡・唱歌にイメージを持ちながら表現することを学習し、音楽を表現する喜びや楽しさを味わう。					

達成目標	科目DP：(1)				
DP番号	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)
1．音楽構成要素の音符、拍子、調、奏法について理解を深め、基礎的な知識・技術を習得する。	○		◎		
2．イメージ豊かに表現することを学ぶ。	◎		○		
3．自由表現の曲（動物、乗り物、感情、物語・情景描写を表す曲）について想像豊かに演奏する。	◎		○		
4．保育や教育現場で必要な弾き歌いについての、基礎的な知識と技術を学び、弾き歌いを高める。	○		◎		

履修条件・注意事項	
授業計画	1．音楽構成要素Ⅰ（読譜の仕方）の学習　（目標 1） 2．音楽構成要素Ⅱ（様々なリズムと拍子の関係）の学習　（目標 1） 3．音楽構成要素Ⅲ（様々な調、奏法）の学習　（目標 1） 4．音楽構成要素Ⅳ（メロディとフレーズの関係、様々な和音）の学習　（目標 1） 5．自由表現Ⅰ　（動物の曲の演習）（目標 2,3） 6．自由表現Ⅱ　（乗り物の曲の演習）（目標 2,3） 7．自由表現Ⅲ　（感情の曲の演習）（目標 2,3） 8．自由表現Ⅳ　（物語・情景描写の曲の演習）（目標 2,3） 9．童謡の弾き歌いⅠ（弾き歌いの奏法）（目標 4） 10. 童謡の弾き歌いⅡ（基本的な秋の歌）（目標 4） 11. 童謡の弾き歌いⅢ（基本的な冬の歌））（目標 4） 12. ペダルの生かし方　（目標 1,2） 13. 応用的ピアノ曲の演習　（目標 1,2,3） 14. 基本的弾き歌い曲の演習　（目標 1,4） 15. ピアノ曲と弾き歌い曲の実技演習　（目標 1～4）
アクティブ・ラーニング	プレゼンテーション
成績評価基準	評価の方法：・ピアノ演奏（配点80%）　・弾き歌い演奏（配点10%）　・平常点（配点10%） 評価の基準：ピアノの基礎的な知識及び技術などが習得でき、イメージを持ち、それを表現に生かしながら、感性豊かに弾くことができたか、また授業に意欲的に取り組むことができたか
フィードバックの方法	オフィスアワー等を利用して、不得意なところや課題の解決に努めること。
時間外の学習について	予習：日々課題曲について練習する。 復習：同上　（各回30分程度）
教材にかかわる情報	テキスト：本廣明美・加藤照恵『保育現場で聴かせたい　ピアノ名曲でこどもと遊ぼう（ＣＤ付)』／『こどもとたのしく「弾き歌い」』幼稚園・保育園のうた　ピアノ伴奏曲集／『幼稚園・保育園・小学校の先生を目指す人の為の基礎から学べる　ピアノ１,２,３』（ドレミ楽譜出版社） 参考書： 参考資料等：
担当者からのメッセージ等実務経験について	不断の努力が必要です。

授業科目名	即興伴奏法Ⅰ	教員名	本廣　明美 坂本　久美子 ほか	免許・資格との関係	保育士	
					幼稚園教諭	必修
					小学校教諭	選択
					中学校教諭(英語)	
ナンバリングコード	UE2-4003-01200	年次配当	2年前期		高等学校教諭(英語)	
授業形態	演習				特別支援学校教諭	
単位数	1			卒業要件	初等幼児教育専攻	選択
					中等教育専攻	

科目	領域及び保育内容の指導法に関する科目（幼稚園）、教科及び教科の指導法に関する科目（小学校）
各科目に含めることが必要な事項	領域に関する専門的事項、教科に関する専門的事項
教科目	
系列	
授業テーマ	伴奏づけ、ピアノ表現、弾き歌い
授業概要	グレード別の少人数クラスで行う授業で、基礎的な音楽の知識や読譜力を身につける。また、基本的な調の伴奏付けや変奏の方法を学びながら、並行してピアノ曲や弾き歌い曲の演奏を学ぶ。

達成目標	科目DP：(1)				
DP番号	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)
1．基礎的な読譜力を身につける。	○		◎		
2．ハ長調と ト長調の伴奏付けができる。	○		◎		
3．簡単な伴奏変奏ができる。	○		◎		
4．ピアノ曲の演奏力を高め、弾き歌いに慣れる。	◎		○		

履修条件・注意事項	
授業計画	1．クラス分け検査・オリエンテーション　（目標１） 2．プロローグ・ハ長調の伴奏付け（音階とカデンツ）　ピアノ曲　（目標 1,2,5） 3．ハ長調の伴奏付け（ステップ1・2）　ピアノ曲・ハ長調の弾き歌い　（目標 1,2,4） 4．ハ長調の伴奏付け（ステップ3）　ピアノ曲・ハ長調の弾き歌い　（目標 1,2,3,4） 5．ハ長調の伴奏付け（ステップ3）　ピアノ曲・ハ長調の弾き歌い　（目標 1,2,3,4） 6．ハ長調の伴奏付け（ステップ4）　ピアノ曲・ハ長調の弾き歌い　（目標 1,2,3,4） 7．ハ長調の伴奏付け（ステップ4）　ピアノ曲・ハ長調の弾き歌い　（目標 1,2,3,4） 8．小テスト１（ハ長調の伴奏付け）　（目標 1,2,3） 9．ト長調の伴奏付け（ステップ1）　ピアノ曲・ト長調の弾き歌い　（目標 1,2,3,4） 10．ト長調の伴奏付け（ステップ1）　ピアノ曲・ト長調の弾き歌い　（目標 1,2,3,4） 11．ト長調の伴奏付け（ステップ2）　ピアノ曲・ト長調の弾き歌い　（目標 1,2,3,4） 12．ト長調の伴奏付け（ステップ2）　ピアノ曲・ト長調の弾き歌い　（目標 1,2,3,4） 13．小テスト２（ピアノ曲・弾き歌い演奏）　（目標 4） 14．ト長調の伴奏付け　（目標 1,2） 15．小テスト３（ハ長調・ト長調の伴奏付け）とまとめ　（目標 1,2）
アクティブ・ラーニング	グループワーク、プレゼンテーション
成績評価基準	評価の方法：小テスト１(20%)　小テスト２(40%)　小テスト３(20%)　授業への取り組み(20%) 評価の基準：ハ長調・ト長調のメロディに簡単な伴奏付けができたか。ピアノ・弾き歌い曲を表情豊かに演奏できたか。また、授業に意欲的に取り組めたか。
フィードバックの方法	各小テストの後のコメントを参考に、課題解決に取り組むこと。
時間外の学習について	予習：レッスンが受けられるよう事前の練習をして授業に臨むこと。 復習：習ったことは次の授業までに理解し弾けるよう練習をしておくこと。(各回30分程度)
教材にかかわる情報	テキスト：本廣明美・加藤照恵編著『ぴあのちゃんのピアノ即興入門』『ピアノ名曲でこどもと遊ぼう』『幼稚園・保育園のうた　ピアノ伴奏曲集』(ドレミ楽譜出版社) 参考書： 参考資料等：
担当者からのメッセージ等実務経験について	時間をかけた予習復習が大切な科目です。地道な努力を期待します。

授業科目名	即興伴奏法Ⅱ	教員名	本廣　明美 坂本　久美子 ほか	免許・資格との関係	保育士	
					幼稚園教諭	
					小学校教諭	
					中学校教諭(英語)	
ナンバリングコード	UE2-4004-00000	年次配当	２年後期		高等学校教諭(英語)	
					特別支援学校教諭	
授業形態	演習			卒業要件	初等幼児教育専攻	選択
単位数	1				中等教育専攻	
科目						
各科目に含めることが必要な事項						
教科目						
系列						
授業テーマ	伴奏づけ、ピアノ表現、弾き歌い					
授業概要	即興伴奏法Ⅰに引き続きソルフェージュ力およびピアノ力を高めるとともに、基本的な調の伴奏付けを学ぶ。また、弾き歌いの技術を身につけ実習で実践できるようにする。					

達成目標	科目DP：(1)				
DP番号	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)
1．ハ長調・ト長調・ヘ長調の伴奏付けができる	○		◎		
2．ピアノ演奏力を身につける。	◎		○		
3．弾き歌いの技術を身につける。	◎		○		
4．カデンツに合ったメロディが作れる。	○		◎		

履修条件・注意事項	
授業計画	1．ハ長調・ト長調の伴奏付け(前期の復習)　ピアノ曲・ハ長調・ト長調の弾き歌い　(目標 1,2,3) 2．ハ長調・ト長調の伴奏付け(前期の復習)　ピアノ曲・ハ長調・ト長調の弾き歌い　(目標 1,2,3) 3．ハ長調・ト長調の伴奏付け・カデンツ即興　ピアノ曲・ハ長調・ト長調の弾き歌い　(目標 1,2,3,4) 4．カデンツ即興　ピアノ曲・ハ長調・ト長調の弾き歌い　(目標 1,2,3,4) 5．カデンツ即興　ピアノ曲・ハ長調・ト長調の弾き歌い　(目標 1,2,3,4) 6．小テスト１（カデンツ即興・弾き歌い）　ピアノ曲　(目標 1,2,3,4) 7．ヘ長調の伴奏付け（ステップ1）　ピアノ曲・ヘ長調の弾き歌い　(目標 1,2,3) 8．ヘ長調の伴奏付け（ステップ1）　ピアノ曲・ヘ長調の弾き歌い　(目標 1,2,3) 9．ヘ長調の伴奏付け（ステップ1）　ピアノ曲・ヘ長調の弾き歌い　(目標 1,2,3) 10．ヘ長調の伴奏付け（ステップ2）　ピアノ曲・ヘ長調の弾き歌い　(目標 1,2,3) 11．ヘ長調の伴奏付け（ステップ2）　ピアノ曲・ヘ長調の弾き歌い　(目標 1,2,3) 12．ヘ長調の伴奏付け（ステップ2）　ピアノ曲・ヘ長調の弾き歌い　(目標 1,2,3) 13．小テスト２（ピアノ曲・弾き歌い）(目標 2,3) 14．ヘ長調の伴奏付け　(目標 1) 15．小テスト３（ト長調・ヘ長調の伴奏付け）とまとめ　(目標 1)
アクティブ・ラーニング	グループワーク、プレゼンテーション
成績評価基準	評価の方法：小テスト１(20%)　小テスト２(40%)　小テスト３(20%)　授業への取り組み(20%) 評価の基準：ハ長調・ト長調・ヘ長調の伴奏付けができたか。基礎的なピアノ技術・弾き歌いを身につけ演奏することができたか。また、授業に意欲的に取り組めたか。
フィードバックの方法	各小テストの後のコメントを参考に、課題解決に取り組むこと。
時間外の学習について	予習：レッスンが受けられるよう事前の練習をして授業に臨むこと。 復習：習ったことは次の授業までに理解し弾けるよう練習をしておくこと。(各回30分程度)
教材にかかわる情報	テキスト：本廣明美・加藤照恵編著『ぴあのちゃんのピアノ即興入門』『ピアノ名曲でこどもと遊ぼう』『幼稚園・保育園のうた　ピアノ伴奏曲集』(ドレミ楽譜出版社) 参考書： 参考資料等：
担当者からのメッセージ等実務経験について	時間をかけた予習復習が大切な科目です。地道な努力を期待します。

授業科目名	鍵盤即興法Ⅰ	教員名	本廣　明美 ほか	免許・資格との関係	保育士	必修
					幼稚園教諭	
					小学校教諭	
					中学校教諭(英語)	
ナンバリングコード	UE3-4005-10000	年次配当	3年前期		高等学校教諭(英語)	
					特別支援学校教諭	
授業形態	演習			卒業要件	初等幼児教育専攻	選択
単位数	1				中等教育専攻	
科目						
各科目に含めることが必要な事項						
教科目	必修科目（保育士）					
系列	保育の内容・方法に関する科目					
授業テーマ	伴奏づけ、変奏、ピアノ表現					
授業概要	即興伴奏法で学んだ内容の定着を図りながら、ニ長調の伴奏づけや基礎的な変奏の仕方を学ぶ。併せて、それぞれの力に応じたピアノ曲や弾き歌い曲を学び、ピアノ演奏力を向上させる。					

達成目標

	科目DP：(1)				
DP番号	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)
1．ハ・ト・ヘ長調の伴奏付けができ、曲のイメージに合った伴奏型で弾くことができる。	○		◎		
2．ニ長調の伴奏付けができる。	○		◎		
3．イメージを持った変奏曲を創作できる。	◎		○		
4．コードネームとその奏法を理解する。	○		◎		
5．ピアノ演奏および弾き歌い曲を高める。	◎		○		

履修条件・注意事項

授業計画

1．伴奏付けの基礎と応用Ⅰ（ハ長調）、基礎ピアノ・弾き歌い（春の歌）（目標 1,5）
2．伴奏付けの基礎と応用Ⅱ（ハ・ト長調）基礎ピアノ・弾き歌い（夏の歌）（目標 1,5）
3．伴奏付けの基礎と応用Ⅲ（ハ・ト・ヘ長調）基礎ピアノ・弾き歌い（秋の歌）（目標 1,5）
4．伴奏付けの基礎と応用Ⅳ（ト・ヘ長調）基礎ピアノ・弾き歌い（冬の歌）（目標 1,5）
5．伴奏付けの基礎と応用Ⅴ（ヘ長調）基礎ピアノ・弾き歌い（生活の歌）（目標 1,5）
6．伴奏付け総合練習　（目標 1）
7．ニ長調の伴奏付けⅠ（移調読み）基礎ピアノ・弾き歌い（小学校低学年教材）（目標 2,5）
8．ニ長調の伴奏付けⅡ（主要3和音）基礎ピアノ・弾き歌い（小学校中学年教材）（目標 2,5）
9．ニ長調の伴奏付けⅢ（拍子・リズム）基礎ピアノ・弾き歌い（小学校高学年教材）（目標 2,5）
10. ニ長調の伴奏付けⅣ（和音記号）、変奏曲について　（目標 2,3）
11. コードネームの知識　（目標 4）
12. コードネーム奏法の基礎　（目標 4）
13. ピアノと弾き歌いの演習と確認　（目標 4）
14. 新曲の伴奏付け、変奏の演習　（目標 1,2,3）
15. 新曲の伴奏付けと変奏創作　（目標 1,2,3）

アクティブ・ラーニング

グループワーク、プレゼンテーション

成績評価基準

評価の方法：ピアノ（30%）・弾き歌い（10%）・新曲伴奏付け（20%）・変奏曲（20%）
コード（10%）・平常点（10%）
評価の基準：達成目標に掲げた、基礎的な理解と現場で活用できるピアノ実践力を、身に付けることができたか。また、授業に、意欲的に取り組むことができたか。

フィードバックの方法

各小テストの後のコメントを参考に、課題解決に取り組むこと。

時間外の学習について

予習：テキストに従い次の授業のピアノ課題を練習する。
復習：自主的に課題に出されたピアノ曲を練習する。（各回30分程度）

教材にかかわる情報

テキスト：加藤照恵・本廣明美『伴奏・変奏・表現を学ぼう！ぴあのちゃんのピアノ即興入門』（ドレミ楽譜出版社）／本廣明美・加藤照恵『こどもとたのしく「弾き歌い」』『幼稚園・保育園のうた／ピアノ伴奏曲集』（ドレミ楽譜出版社）
参考書：
参考資料等：

担当者からのメッセージ等 実務経験について

日々の練習に励むこと。

授業科目名	鍵盤即興法Ⅱ	教員名	本廣　明美 ほか	免許・資格との関係	保育士	
					幼稚園教諭	選択
					小学校教諭	
ナンバリングコード	UE3-4006-02000	年次配当	3年後期		中学校教諭(英語)	
					高等学校教諭(英語)	
授業形態	演習				特別支援学校教諭	
単位数	1			卒業要件	初等幼児教育専攻	選択
					中等教育専攻	

科目	領域及び保育内容の指導法に関する科目（幼稚園）
各科目に含めることが必要な事項	領域に関する専門的事項
教科目	
系列	
授業テーマ	保育現場や小学校での実践的な鍵盤力、応用的なピアノ表現
授業概要	機能和声的な伴奏付けだけではなく、コードネームによる伴奏について学ぶ。また、簡単な子どもの曲の創作や、鍵盤を使った効果音の種類と様々な鍵盤奏法について学ぶ。学んだことを総合的に活用して、絵本への音楽付けをして、作品としてまとめる。併せてピアノや弾き歌いを学び、ピアノ演奏力を向上させる。

達成目標

	科目DP：(1)				
DP番号	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)
1．コードを理解し簡単な伴奏付けができる。	○		◎		
2．簡単な曲を創作することができる。	○		◎		
3．様々な奏法や効果音を知り、表現できる。	○		◎		
4．ピアノ曲と弾き歌いの学習によって、ピアノ演奏力を高める。	◎		○		

履修条件・注意事項	
授業計画	1．コードネームの基礎的な知識と応用　（目標 1） 2．コードネームの基礎Ⅰ（コードネーム奏法）（目標 1） 3．コードネームの基礎Ⅱ（ベース音を使った伴奏）（目標 1） 4．コードネーム基礎Ⅲ（メジャーコードとマイナーコード）（目標 1） 5．コードネームによる伴奏付けⅠ（3和音の伴奏）基礎ピアノと弾き歌い　（目標 1,4） 6．コードネームによる伴奏付けⅡ（両手伴奏）基礎ピアノと弾き歌い　（目標 1,4） 7．コードネームによる伴奏付けとピアノ演奏　（確認テスト）（目標 1,4） 8．様々な奏法と効果音の知識　（目標 3） 9．様々な奏法と効果音の実際　（目標 3） 10. 絵本のテーマソング創作　ピアノ奏法と弾き歌い　（目標 2,4） 11. 絵本への音付け　ピアノ演奏と弾き歌い　（目標 2,3,4） 12. 絵本への音楽付け　ピアノ演奏と弾き歌い　（目標 2,3,4） 13. 絵本への音楽付け表現研究（音楽構成要素とイメージの結びつき）（目標 2,3,4） 14. 総合表現（ピアノ表現の仕方）ピアノ・弾き歌い確認テスト　（目標 4） 15. 総合表現（作品発表）（目標 2,3,4）
アクティブ・ラーニング	グループワーク、プレゼンテーション
成績評価基準	評価の方法：コードネーム奏（20%）　・ピアノ演奏（30%）　・弾き歌い演奏（10%） 絵本の音楽付け（30%）　・平常点（10%） 評価の基準：コードネームの伴奏付けができたか。効果音の知識を持ち、絵本のイメージに合った音楽や効果音を付け、総合的な表現力や現場におけるピアノ実践力を身に付けることができたか。また、授業に意欲を持って、取り組めたか。
フィードバックの方法	各小テストの後のコメントを参考に、課題解決に取り組むこと。
時間外の学習について	予習：テキストに従い次の授業のピアノ課題を練習する。 復習：自主的に課題に出されたピアノ曲を練習する。（各回30分程度）
教材にかかわる情報	テキスト：加藤照恵・本廣明美『伴奏・変奏・表現を学ぼう　ぴあのちゃんのピアノ即興入門』／本廣明美・加藤照恵『幼稚園・保育園のうた／ピアノ伴奏曲集』（ドレミ楽譜出版社） 参考書： 参考資料等：
担当者からのメッセージ等実務経験について	日々の練習に励むこと。

授業科目名	鍵盤表現研究	教員名	本廣　明美 ほか	免許・資格との関係	保育士	選択
					幼稚園教諭	
					小学校教諭	
					中学校教諭(英語)	
ナンバリングコード	UE4-4007-20000	年次配当	4年前期		高等学校教諭(英語)	
					特別支援学校教諭	
授業形態	演習			卒業要件	初等幼児教育専攻	選択
単位数	1				中等教育専攻	
科目						
各科目に含めることが必要な事項						
教科目	選択必修科目（保育士）					
系列	保育の内容・方法に関する科目					
授業テーマ	鍵盤表現の意義、イメージと表現、実践的ピアノ力					
授業概要	それぞれの音楽経験やピアノ力に応じて、様々なピアノ曲や子どもの曲を学び、弾き歌い技術も高める。また、表現力を豊かにするために、実際にピアノ曲に言葉を用いてイメージを付ける実践を通して、現場で活用できるようピアノや弾き歌いの表現のあり方を研究する。					

達成目標	科目DP：(1)				
DP番号	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)
1．保育・教育現場での鍵盤表現の意義について知る。	◎		○		
2．いろいろな形式や様式のピアノ曲や様々なリズムや形態の弾き歌いが表現できる。	○		◎		
3．ピアノ曲に言葉を用いてイメージを付けることができる。	◎		○		
4．イメージを持って、ピアノ表現をすることができる。	◎		○		

履修条件・注意事項	
授業計画	1．いろいろな形式の曲Ⅰ（ソナタ形式など）（目標 2,4） 2．いろいろな形式の曲Ⅱ（ロンド形式など）（目標 2,4） 3．様々な時代の曲Ⅰ（バロック）（目標 2,4） 4．様々な時代の曲Ⅱ（古典派）（目標 2,4） 5．様々な時代の曲Ⅲ（ロマン派）（目標 2,4） 6．様々な時代の曲Ⅳ（近・現代）（目標 2,4） 7．様々な時代の曲Ⅴ（近・現代・邦人作曲　（目標 2,4） 8．イメージ・ペイント（イメージ形成と音楽要素の関係について）（目標 1,3） 9．イメージ・ペイントの実践（タイトルからのイメージ付け）（目標 1,3） 10. イメージ・ペイントの実践（メロディーやリズムなどからのイメージ付け）（目標 1,3） 11. 童謡・唱歌の弾き歌い（行事の歌、共通教材より低学年の曲）（目標 2） 12. 童謡・唱歌の弾き歌い（両手伴奏の歌、共通教材より中・高学年の曲）（目標 2） 13. 童謡・唱歌の弾き歌い　（模擬実践弾き歌い）（目標 2） 14. イメージ・ペイント製作　（目標 1,2,3,4） 15. イメージ・ペイント発表　（目標 1,2,3,4）
アクティブ・ラーニング	プレゼンテーション
成績評価基準	評価の方法：ピアノ演奏（30%）　・イメージ・ペイント（30%）　・弾き歌い（30%） 平常点（10%） 評価の基準：達成目標に掲げる基礎的な部分が理解できたか。また、イメージをしっかりと持ち、表現に生かすことができたか。また、授業に意欲的に取り組めたか。
フィードバックの方法	発表後のコメントを参考に、課題解決に取り組むこと。
時間外の学習について	予習：日々、課題曲について練習する。 復習：同上　（各回30分程度）
教材にかかわる情報	テキスト：本廣明美・加藤照恵『保育現場で聴かせたい　ピアノ名曲でこどもと遊ぼう（ＣＤ付)』／『こどもとたのしく「弾き歌い」』幼稚園・保育園のうた／ピアノ伴奏曲集（ドレミ楽譜出版社） 参考書： 参考資料等：
担当者からのメッセージ等実務経験について	鍵盤の集大成の授業です。総合的なピアノ力の習得につながる科目です。

授業科目名	子どもとリトミックⅠ	教員名	植山　典子 （単独）	免許・資格との関係	保育士	
					幼稚園教諭	
					小学校教諭	
					中学校教諭（英語）	
ナンバリングコード	UE3-4008-00000	年次配当	３年前期		高等学校教諭（英語）	
					特別支援学校教諭	
授業形態	演習			卒業要件	初等幼児教育専攻	選択
単位数	1				中等教育専攻	
科目						
各科目に含めることが必要な事項						
教科目						
系列						
授業テーマ	リトミックを指導する上での基礎的な、リズム運動、ピアノ演奏法、指導法（３歳児）、理論を習得する。					
授業概要	子どもたちがリトミックに興味を持ち、好きになり、感動体験ができるような楽しさに包まれた指導力を身につける。					

達成目標

	科目DP：(1)				
DP番号	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)
１．リズムを表現する基礎的な動きができるようになること。			◎		○
２．リトミック指導における基礎的なピアノ演奏ができること。	○		◎		
３．３歳児指導法の年間カリキュラムを把握してそれを実践できること。		◎		○	
４．リトミックの理論を学ぶ。	○	◎			

履修条件・注意事項：動きやすい服装（スカートのみは不可）と、素足、又はバレエシューズで受講すること。

授業計画

1．オリエンテーション、リトミックについて、楽しいリトミックの経験（１）（目標 1,4）
2．楽しいリトミックの経験（２）、強弱・テンポ・空間・アクセント、基礎的な動き（１）、基礎リズム（１）〈２拍子〉（目標 1）
3．３歳児指導法・リズムの演奏法…１学期（1）（目標 2,3）
4．　〃　…〃（2）（目標 2,3）
5．楽しいリトミックの経験（３）、基礎的な動き（２）、基礎リズム（２）〈２拍子〉、拍子（１）（目標 1）
6．３歳児指導法・リズムの演奏法…２学期（1）（目標 2,3）
7．　〃　…〃（2）（目標 2,3）
8．楽しいリトミックの経験（４）、基礎リズム（３）〈２拍子〉、拍子（２）（目標 1）
9．３歳児指導法・リズムの演奏法…３学期（1）（目標 2,3）
10．　〃　…〃（2）（目標 2,3）
11．楽しいリトミックの経験（５）、基礎リズム（４）〈３・４拍子〉、拍子（３）（目標 1）
12．楽しいリトミックの経験（６）、リズムカノン（１）〈導入〉、リズムフレーズ（１）〈２・３拍子〉（目標 1）
13．リズムの演奏法（３歳児指導法－１～３学期）（目標 2）
14．試験課題練習
15．リトミックの理論とダルクローズについて（１）、まとめ（目標 1,2,3,4）
定期試験→資格認定試験…14回と15回の間に行う。

アクティブ・ラーニング	グループワーク、ロールプレイ
成績評価基準	評価の方法：試験60%　課題に対する取組み20%　授業態度、授業への参加度20% 評価の基準：試験が７割以上取れること、各回のテーマの習得
フィードバックの方法	課題の返却の際に、コメント・アドバイスを記入
時間外の学習について	予習：毎回の授業計画を確認し、「３歳児指導法」の回はテキストを読んでおく。(20分程度) 復習：次回までの課題（リズム運動、ピアノ演奏）を練習すること。(20分程度)
教材にかかわる情報	テキスト：『幼稚園・保育園のためのリトミック～年間カリキュラムとその実践～（３歳児）』（リトミック研究センター） 参考書： 参考資料等：
担当者からのメッセージ等 実務経験について	実習先でも積極的にリトミックをしてください。短時間でも毎日必ずピアノに向かいましょう。 リトミック研究センター山口第一支局チーフ指導者及びローランド・ミュージック・スクール幼児科指導スタッフ。それぞれの研修会、講習会での講師を担当。県内外での研修、県内での保育士研修、幼稚園・保育園での課内授業、又、自身の運営する教室での実務経験をもとにリトミック指導について話し、実践をします。

授業科目名	子どもとリトミックⅡ	教員名	植山　典子 （単独）	免許・資格との関係	保育士	
					幼稚園教諭	
					小学校教諭	
					中学校教諭（英語）	
ナンバリングコード	UE3-4009-00000	年次配当	３年後期		高等学校教諭（英語）	
					特別支援学校教諭	
授業形態	演習			卒業要件	初等幼児教育専攻	選択
単位数	1				中等教育専攻	
科目						
各科目に含めることが必要な事項						
教科目						
系列						

授業テーマ	リトミックを指導する上での実践的な、リズム運動、ピアノ演奏法、指導法（４歳児及び５歳児）、理論を習得する。
授業概要	子どもたちがリトミックに興味を持ち、好きになり、感動体験ができるような楽しさに包まれた指導力を身につける。

達成目標

	科目DP：				
	DP番号 (1)	(2)	(3)	(4)	(5)
１．リズムを表現する実践的な動きができるようになること。			◎		○
２．リトミック指導における実践的なピアノ演奏ができること。	○		◎		
３．４歳児指導法の年間カリキュラムを把握してそれを実践できること。		◎		○	
４．５歳児指導法の年間カリキュラムを把握してそれを実践できること。		◎		○	
５．リトミックの理論を学ぶ。	○	◎			

履修条件・注意事項	「子どもとリトミックⅠ」の単位を取得済みの者。 動きやすい服装（スカートのみは不可）と、素足、又はバレエシューズで受講すること。
授業計画	１．４歳児指導法－１学期　（目標 3） ２．４歳児指導法－２学期　（目標 3） ３．楽しいリトミックの経験（７）、リズムカノン（２）〈３拍子〉、リズムフレーズ（２）〈２・３拍子〉（目標 1） ４．リズムの演奏法（４歳児指導法－１～２学期）（目標 2） ５．４歳児指導法－３学期　（目標 3） ６．５歳児指導法－１学期　（目標 4） ７．楽しいリトミックの経験（８）、リズムカノン（３）〈３・４拍子〉、複リズム（１）Ostinato（♩）（目標 1） ８．リズムの演奏法（４歳児指導法－３学期、５歳児指導法－１学期）（目標 2） ９．５歳児指導法－２学期　（目標 4） 10．５歳児指導法－３学期　（目標 4） 11．楽しいリトミックの経験（９）、リズムカノン（４）〈３・４拍子〉、複リズム（２）Ostinato（♩）（目標 1） 12．リズムの演奏法（５歳児指導法－２～３学期）（目標 2） 13．楽しいリトミックの経験（10）、リズムカノン（５）〈３・４拍子〉、複リズム（３）Ostinato（♩）（目標 1） 14．試験課題練習 15．リトミックの理論とダルクローズについて（２）・まとめ　（目標 1,2,3,4,5） 定期試験→資格認定試験…14回と15回の間に行う。
アクティブ・ラーニング	グループワーク、ロールプレイ
成績評価基準	評価の方法：試験60%　　課題に対する取組み20%　　授業態度、授業への参加度20% 評価の基準：試験が７割以上取れること、各回のテーマの習得
フィードバックの方法	課題の返却の際に、コメント・アドバイスを記入
時間外の学習について	予習：毎回の授業計画を確認し、「４歳児指導法、５歳児指導法」の回はテキストを読んでおく。（20分程度） 復習：次回までの課題（リズム運動、ピアノ演奏）を練習すること。（20分程度）
教材にかかわる情報	テキスト：『幼稚園・保育園のためのリトミック～年間カリキュラムとその実践～（４歳児）（５歳児）』（リトミック研究センター） 参考書： 参考資料等：
担当者からのメッセージ等 実務経験について	実習先でも積極的にリトミックをしてください。短時間でも毎日必ずピアノに向かいましょう。 リトミック研究センター山口第一支局チーフ指導者及びローランド・ミュージック・スクール幼児科指導スタッフ。それぞれの研修会、講習会での講師を担当。県内外での研修、県内での保育士研修、幼稚園・保育園での課内授業、又、自身の運営する教室での実務経験をもとにリトミック指導について話し、実践をします。

授業科目名	わらべうたと地域文化	教員名	河北　邦子 （単独）	免許・資格との関係	保育士	選択
					幼稚園教諭	
					小学校教諭	
					中学校教諭（英語）	
ナンバリングコード	UE4-4010-20000	年次配当	4年前期		高等学校教諭（英語）	
					特別支援学校教諭	
授業形態	演習			卒業要件	初等幼児教育専攻	選択
単位数	2				中等教育専攻	
科目						
各科目に含めることが必要な事項						
教科目	選択必修科目（保育士）					
系列	保育の内容・方法に関する科目					
授業テーマ	うた，あそび，ことば，伝承・伝播，地域性，わらべうたの種類，教材化					
授業概要	わらべうたが伝承・伝播されたものであること、子どもの文化財であることを理解し、保育者・教育者としての実践力を養う。					

達成目標

	科目DP：(1)				
DP番号	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)
1．わらべうたの特徴を理解する。	◎				○
2．多くのわらべうたを、演習を通して知る。			○	◎	
3．乳幼児の発達との関連を考える。		◎	○		
4．日本伝統音楽の音組織によることを理解する。	○	○			◎
5．わらべうたの教材化について考える。		○	○	◎	○

履修条件・注意事項	
授業計画	1．わらべうたと伝承，わらべうた演習2　（目標 1,2） 3．わらべうたと伝播，わらべうた演習3　（目標 1,2） 4．わらべうたの地域性　わらべうた演習4　（目標 1,2） 5．わらべうたの地域性についてポスター制作　（目標 1,2） 6．わらべうたの地域性についてポスター発表　（目標 1,2） 7．わらべうたと子どもの発達1（感覚・手行為）（目標 1,2,3） 8．わらべうたと子どもの発達2（運動能力・言語能力）（目標 1,2,3） 9．わらべうたと子どもの発達3（社会性）（目標 1,2,3） 10. わらべうたの音楽的特徴，わらべうた演習5　（目標 1,2,4） 11. 乳幼児期とわらべうた　（目標 3,4,5） 12. 児童期とわらべうた　（目標 3,4,5） 13. わらべ歌の教材化事例研究　（目標 3,4,5） 14. わらべうたの教材化演習　（目標 3,4,5） 15. まとめ 定期試験
アクティブ・ラーニング	少人数、小グループによるわらべうたの演習をおこなう中で、わらべうたの特徴やそれに伴う日本の伝統的な子ども文化について、互いに気づき合い、子どもの発達との関連や遊び方の工夫等についてディスカッションする中で見出す。
成績評価基準	評価の方法：筆記試験（70点）、実技試験（30点） 評価の基準：わらべうたの概要を理解し、教育・保育と関連づけて教材科し、実践できるか。
フィードバックの方法	提出課題にコメントを添えて返却する。演習の中で、評価を通して伝える。
時間外の学習について	予習：次の授業の課題をみつけ、自分なりに考察しておくこと。 復習：授業で扱った内容について復習し、理解できないことは調べておく。（各回30分程度）
教材にかかわる情報	テキスト：『保育者・教育者のための わらべうたあそび』河北邦子編著 参 考 書：『山口のわらべうた』日本わらべうた全集　柳原書店 参考資料等：
担当者からのメッセージ等 実務経験について	

授業科目名	造形演習	教員名	井本　勝美 (実務経験) (単独)	免許・資格との関係	保育士	選択
					幼稚園教諭	
					小学校教諭	
					中学校教諭(英語)	
ナンバリングコード	UE3-4011-20000	年次配当	3年前期		高等学校教諭(英語)	
					特別支援学校教諭	
授業形態	演習			卒業要件	初等幼児教育専攻	選択
単位数	1				中等教育専攻	
科目						
各科目に含めることが必要な事項						
教科目	選択必修科目（保育士）					
系列	保育の内容・方法に関する科目					
授業テーマ	小学校図画工作科の各学年で扱う題材の制作演習を通して、豊かな人間性を培う題材のねらいや指導上のポイントを理解するとともに、各学年で用いる材料・用具の特性と基本的な扱い方に関する知識と技能を学び取り、小学校教員としての基礎的素養を身につける。					
授業概要	図画工作科における造形遊びや平面造形、立体造形等の造形演習をはじめ作品の見方・鑑賞と評価のあり方まで,豊かな人間性の育成に関わる小学校図画工作科における全般的な題材の研究と材料・用具に関する知識の理解と技術の習得を図る。					

達成目標	科目DP：(1)				
DP番号	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)
1．図画工作科で用いる主な材料用具の特性とその扱い方、技法等に関する知識を理解することができる。		◎	○		
2．題材のねらいに沿って.材料用具の扱い方や技法を生かして、自分らしい作品や活動を生み出すことができる。	○	○	◎		○
3．課題をもとにアイデアを生かして制作や活動に取り組み、その過程を振り返り自己評価することができる。	○		○	◎	○
4．児童や学生の表現作品について、そのよさや美しさを理解しながら鑑賞することができる。	◎	○		○	○

履修条件・注意事項	「造形演習」で用いる主な材料・用具の特性と基本的な扱い方については、１年次の「幼児造形Ⅰ」・「幼児造形Ⅱ」で履修しておくことが望ましい。
授業計画	1．授業の目標、概要、演習計画と準備物等の説明と造形に関する実態・希望調査 2．造形遊びⅠ　(屋内遊び)　(目標 1,2,3,4) 3．造形遊びⅡ　(屋外遊び)　(目標 1,2,3,4) 4．絵に表すⅠ　(クレヨン・パス)　(目標 1,2,3,4) 5．絵に表すⅡ　(水彩絵の具・マーカー)　(目標 1,2,3,4) 6．絵に表すⅢ　(木版画の構想・彫り)　(目標 1,2,3) 7．絵に表すⅣ　(木版画の刷り・鑑賞)　(目標 1,2,3,4) 8．立体に表すⅠ　(粘土の成形)　(目標 1,2,3) 9．立体に表すⅡ　(着色仕上げ・鑑賞)　(目標 1,2,3,4) 10. 工作に表すA　Ⅰ　(平面工作)　(目標 1,2,3,4) 11. 工作に表すA　Ⅱ　(立体工作)　(目標 1,2,3,4) 12. 工作に表すB　Ⅰ　(木工作の構想)　(目標 1,2,3) 13. 工作に表すB　Ⅱ　(制作)　(目標 1,2,3) 14. 工作に表すB　Ⅲ　(着色仕上げ・鑑賞)　(目標 1,2,3,4) 15. 児童作品の見方と評価　(作品鑑賞)　(目標 1,3,4)
アクティブ・ラーニング	教科書と配布資料をもとに次時の演習内容を理解し、十分なりの構想をアイデアスケッチに表したり、グループワークによる共同遊びや共同制作のテーマの設定、役割分担等に取り組んだり、完成作品の工夫点やセールスポイントを評価票に記述・発表したりする。
成績評価基準	評価の方法：提出作品、構想スケッチ等60%、自己評価票の内容20%、受講態度20%の割合で評価 評価の基準：題材のねらい、材料・用具の特性や技法を理解して、演習や制作作品に自分らしいアイデアや習得技能を発揮できること
フィードバックの方法	提出された作品や構想スケッチ、自己評価票等に、毎回講評や評価点を付して本人に返し、理解度や取り組みの振り返りを実施
時間外の学習について	予習：教科書と配付資料をもとに題材のねらいの理解と準備物の確認を行ったり、構想スケッチを描いたりする。(各回30分程度) 復習：評価票や構想スケッチに記載の講評を参考にして工夫点や取り組みを振り返ったり、提出作品の仕上げをしたりする。(各回30分程度)
教材にかかわる情報	テキスト：小学校図画工作科教科書　(日本文教出版)　１・２年上～５・６年下　全６冊 参考書： 参考資料等：
担当者からのメッセージ等 実務経験について	全学年・全領域から選んだ題材演習や作品づくりを通して、題材のねらいや主な材料・用具の基本的な扱い方と指導上のポイントを確認しながら、豊かな感性、創造性、人間性を育む造形活動の重要性を学び、小学校教員としての望ましい素養と指導力を身につけることができます。 指導主事として県教委・市教委に勤務。実務経験をもとに造形の学習指導全般について話をします。

ゼミナール

卒業研究…… 179

授業科目名	卒業研究	教員名	三池秀敏・福屋利信・香川智弘・河北邦子・武田雅行・堂野佐俊・名島潤慈・本廣明美・田村知津子・中垣謙治・坂本久美子・佐藤真澄・岩中貴裕・松村納央子・川野哲也・バーキン・大田紀子・上田保明・檜垣英夫・森　俊博・門脇弘樹	免許・資格との関係	保育士	
					幼稚園教諭	
					小学校教諭	
					中学校教諭(英語)	
					高等学校教諭(英語)	
					特別支援学校教諭	
ナンバリングコード	CM4-5001-00000					
授業形態	演習			卒業要件	初等幼児教育専攻	必修
単位数	4	年次配当	4年前後期		中等教育専攻	必修
科目						
各科目に含めることが必要な事項						
教科目						
系列						
授業テーマ	論文の執筆、研究発表、討論					
授業概要	本学での学びの集大成として、子どもに関わるテーマを設定し、各自の論点の明確化と整理、参考文献・資料収集、論文としての表現に関する指導を行う。受講者各自の卒業論文の論旨、及び、重要部分に関する報告を踏まえて討論をおこなう。					

達成目標	科目DP：					
	DP番号	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)
	1．教育研究活動を企画・立案し、効果的に実践し、その意義を明確にすることができる。					
	2．自らの研究内容を整理した上で、その成果と主張を明確に伝える。					
	3．研究成果を報告し、質疑応答をすることで相互のコミュニケーションを確保して、建設的に議論し合うことができる					

履修条件・注意事項	
授業計画	授業としては概ね30時間、学生の進行状況に応じて担当教員から以下の項目に関する学習支援を受ける。それを通じて論文を執筆する。 ・教育学が解明の対象とする諸現象を文化的社会的な観点やグローバルな観点から広く理解する（目標 1） ・現代の多様なメディア状況に対応し、図書館、資料・史料館、インターネットなどを駆使して情報を収集する （目標 1） ・外国語運用能力、統計分析、史料解析、観察法、情報処理など研究手法の基礎を習得する（目標 1） ・具体的な課題に情報収集力や研究手法を応用し、得られた資料ならびに結果を分析的・批判的に吟味する （目標 1） ・グループワークに必要となる協働的態度を習得する （目標 1,2,3） ・教育諸現象から問題点を見極め、適切な研究手法を適用し、独自の成果として結論を提起できる研究能力を習得する （目標 1,2,3） ・研究成果を正確かつ明瞭に発表するための諸技能を習得する （目標 1,2,3） ・研究成果への自他の評価を踏まえて、発展的に研究・実践を継続する （目標 1,2,3）
アクティブ・ラーニング	
成績評価基準	評価の方法：①指導教員（主査）による総合的評価（80%）、②副査による研究成果の評価（20%） 評価の基準：①履修者自身の明確でオリジナルなテーマ設定がなされているか、②先行研究が適切に把握されているか、③論文構成・また各部分の立論や記述に論理性があるか、④適切な参考文献・資料が引用されているか、⑤建設的な議論が展開されているか
フィードバックの方法	受講生それぞれに個別の課題に対し、その都度助言を行う。
時間外の学習について	予習： 復習： 特になし
教材にかかわる情報	テキスト：特になし 参考書： 参考資料等：適宜紹介する。
担当者からのメッセージ等実務経験について	自学自習の態度で臨むこと。

ゼミナール

教育実習

幼稚園教育実習指導…… 181
幼稚園教育実習Ⅰ…… 182
幼稚園教育実習Ⅱ…… 183
小学校教育実習指導…… 184
小学校教育実習…… 185
教育実習指導（中・高）…… 186
教育実習（中・高）Ⅰ…… 187
教育実習（中・高）Ⅱ…… 188
特別支援教育実習指導…… 189
特別支援教育実習…… 190

授業科目名	幼稚園教育実習指導	教員名	坂本　久美子 松村　納央子	免許・資格との関係	保育士	
					幼稚園教諭	必修
					小学校教諭	
					中学校教諭(英語)	
ナンバリングコード	UE2-6001-01000				高等学校教諭(英語)	
授業形態	演習	年次配当	2年後期		特別支援学校教諭	
単位数	1			卒業要件	初等幼児教育専攻	選択
					中等教育専攻	

科目	教育実践に関する科目（幼稚園）
各科目に含めることが必要な事項	教育実習
教科目	
系列	
授業テーマ	幼稚園教育実習への心構え、幼児教育の内容と方法、実習記録、課題と考察
授業概要	幼稚園実習を円滑に、また実り多いものにするために、事前指導では幼稚園実習の意義・目的、幼児教育の内容や段階について学ぶ。各自が実習課題を考え、実習日誌や指導案の書き方を学んだ上で実習園とのオリエンテーションに臨む。事後指導では、実習体験から学んだ事や疑問点についてグループディスカッションし、学びを共有する。また、各自が反省を行い実習レポートを作成するとともに、今後の課題を明確にする。

達成目標	科目DP：(1)～(5)				
	DP番号 (1)	(2)	(3)	(4)	(5)
1．必要な書類を作成し、期日を守って提出できる。					
2．実習に対する明確な目標を設定できる。					
3．真摯な態度で事前・事後学習に取り組むことができる。					
4．実習を振り返り、今後の課題を明らかにすることができる。					

履修条件・注意事項	実習の履修要件を満たしていること。
授業計画	1．幼稚園・教諭の役割　（目標 2,3） 2．教育実習の意義と目的　（目標 2,3） 3．実習課題の設定　（目標 1,2,3） 4．実習に対する心構え（外部講師）（目標 2,3） 5．実習日誌の記録方法　（目標 1,2,3） 6．保育指導案の作成　（目標 1,2,3） 7．保育指導案の研究①　（目標 2,3） 8．保育指導案の研究②　（目標 2,3） 9．グループ討議①・・最も印象的だったエピソードから学んだこと　（目標 3,4） 10. グループ討議②・・今後の課題　（目標 3,4） 11. 実習レポート作成　（目標 1,3,4） 12. 実習日誌のまとめ　（目標 1,3,4） 13. 実習レポート個人指導　（目標 3,4） 14. 実習園評価による個人指導　（目標 3,4） 15. 幼稚園教育実習体験発表　（目標 2,3,4）
アクティブ・ラーニング	実習・グループワーク・ディスカッション・模擬授業
成績評価基準	評価の方法：実習レポート（50%）　授業の取り組み（50%） 評価の基準：エピソードに基づいた考察を、明確に述べている。真摯な態度で事前指導に取り組み、実習への意欲を高め、事後指導では学びの検証ができる。
フィードバックの方法	指導案・実習レポートの改善点について、個人指導する。
時間外の学習について	予習：前年度の学生の幼稚園教育実習報告集を読んでおく。 復習：実習関係書類を作成し、期限を守って提出する。(各回30分程度)
教材にかかわる情報	テキスト：小櫃智子 他著　『幼稚園・保育所実習　パーフェクトガイド』（わかば社） 参考書：幼稚園教育要領 参考資料等：「実習の手引」
担当者からのメッセージ等実務経験について	オフィスアワー等を利用し、積極的に課題解決に努めてほしい。

教育実習

授業科目名	幼稚園教育実習Ⅰ	教員名	坂本　久美子 松村　納央子	免許・資格との関係	保育士	
					幼稚園教諭	必修
					小学校教諭	
ナンバリングコード	UE2-6002-01000				中学校教諭(英語)	
		年次配当	２年後期		高等学校教諭(英語)	
授業形態	実習				特別支援学校教諭	
				卒業要件	初等幼児教育専攻	選択
単位数	2				中等教育専攻	

科目	教育実践に関する科目（幼稚園）
各科目に含めることが必要な事項	教育実習
教科目	
系列	
授業テーマ	保育内容、保育技術、対象児の理解、部分実習
授業概要	幼稚園の環境・対象児・保育の内容などを具体的に体得するため、幼稚園において2週間の現場実習を行う。実習園の教育・保育方針の下、主に観察・参加実習を行う。幼児や幼稚園教諭と関わりながら、幼稚園教諭としての職務や保育技術などを学ぶ。

達成目標	科目DP：(1)～(5)				
	DP番号	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)
1．担当者の計画・指示に従って保育活動を補助できる。						
2．実習の記録を日誌にまとめ、毎日園に提出することができる。						
3．子どもとの関わりを通して、子ども理解を深めることができる。						
4．日々の事例から、問題点を読み取り考察することができる。						

履修条件・注意事項	実習の履修要件を満たしていること。
授業計画	主に観察・参加実習とする。 ・実習園の教育・保育方針を理解し、担当者の計画・指示に従って保育等に参加する。（目標 1,2,3,4） ・保育環境の構成を手伝う。（目標 1,2,3,4） ・子どもの活動、保育者の援助について観察し、記録をとる。（目標 1,2,3,4） ・保育内容及びその展開の実際を補助的立場で学ぶ （目標 1,2,3,4） ・保育形態について学ぶ。（目標 1,2,3,4） ・保育案の立案の仕方、及びそれに伴う環境構成・教材の選定について学ぶ。（目標 1,2,3,4） ・毎日あるいは実習最終日、実習園の担当者による指導を受ける。（目標 1,2,3,4）
アクティブ・ラーニング	実習
成績評価基準	評価の方法：実習園評価（50%）実習日誌（50%） 評価の基準：積極的に子どもと関わり、実践を通した記録をもとに今後の課題が明確にできる。
フィードバックの方法	実習日誌ついて評価後、コメントを添えて返却する。
時間外の学習について	予習：実習指導の内容を踏まえ、各自の表現力・実践力を高めておく。 復習：実習日誌等の記録を整理し、今後の課題を明らかにしておく。
教材にかかわる情報	テキスト：小櫃智子 他著 『幼稚園・保育所実習　パーフェクトガイド』（わかば社） 参 考 書：幼稚園教育要領 参考資料等：「実習の手引」
担当者からのメッセージ等 実務経験について	

教育実習

授業科目名	幼稚園教育実習Ⅱ	教員名	坂本　久美子 松村　納央子	免許・資格との関係	保育士	
					幼稚園教諭	必修
					小学校教諭	
					中学校教諭(英語)	
ナンバリングコード	UE4-6003-01000	年次配当	4年前期		高等学校教諭(英語)	
					特別支援学校教諭	
授業形態	実習			卒業要件	初等幼児教育専攻	選択
単位数	2				中等教育専攻	

科目	教育実践に関する科目（幼稚園）
各科目に含めることが必要な事項	教育実習
教科目	
系列	
授業テーマ	保育内容、保育技術、対象児の理解、全日実習
授業概要	幼稚園教育実習Ⅰで見出した自己課題に取り組み、保育技術を高め、実践力を身に付けるため、幼稚園で２週間の現場実習を行う。実習園の教育・保育方針の下、積極的に参加実習を行い、クラス担任の指導を受けての責任（部分・全日）実習も行う。幼稚園教諭としての職務を幅広く経験し、保育者としての責任を自覚する。

達成目標	科目DP：(1)～(5)				
	DP番号 (1)	(2)	(3)	(4)	(5)
１．実習園の教育方針を理解し、積極的に保育に参加できる					
２．保育案を立案し、教材研究ができる					
３．保育案に基づく保育実践ができる					
４．問題点を深く考察することができる					

履修条件・注意事項	幼稚園教育実習Ⅰを履修していること。実習の履修要件を満たしていること。
授業計画	主に参加・指導（部分・全日）実習とする。 ・実習園の教育・保育方針を理解し、積極的に保育等に参加する。（目標 1,2,3,4） ・園の保育計画に基づき、部分及び全日の指導を経験する。（目標 1,2,3,4） ・保育形態について理解を深める。（目標 1,3,4） ・保育案（長期のカリキュラムに基づく日案、中心的活動案）を立案し、それに伴う教材研究を行う。（目標 1,2,3,4） ・立案した保育案に基づく環境を構成し、保育を実施して指導技術を学び、評価の練習をする。（目標 1,2,3,4） ・毎日あるいは実習最終日、実習園の指導者による指導を受ける。（目標 1,2,3,4）
アクティブ・ラーニング	実習
成績評価基準	評価の方法：実習園評価（50%）実習日誌（50%） 評価の基準：保育指導案に基づいた教材研究や保育実践を通して、子ども理解を深め保育実践力を高めることができる。記録から幼稚園教諭としての自己課題を見出し、多面的に考察できる。
フィードバックの方法	実習日誌ついて評価後、コメントを添えて返却する。
時間外の学習について	予習：幼稚園教育実習Ⅰを振り返り、自己課題の克服に努める 復習：実習日誌等の記録を整理し、今後の課題を明らかにしておく
教材にかかわる情報	テキスト：阿部明子 編著 『教育・保育実習総論』（萌文書林） 参 考 書：『幼稚園教育要領』 参考資料等：「実習の手引」
担当者からのメッセージ等 実務経験について	

授業科目名	小学校教育実習指導	教員名	川野　哲也 上田　保明 森　　俊博 門脇　弘樹	免許・資格との関係	保育士	
					幼稚園教諭	
					小学校教諭	必修
ナンバリングコード	UE3-6004-00100				中学校教諭(英語)	
					高等学校教諭(英語)	
授業形態	演習				特別支援学校教諭	
単位数	1	年次配当	3年前後期	卒業要件	初等幼児教育専攻	選択
					中等教育専攻	

科目	教育実践に関する科目（小学校）
各科目に含めることが必要な事項	教育実習
教科目	
系列	
授業テーマ	実のある小学校教育実習にするために
授業概要	限られた期間の小学校教育実習を充実した体験学習とするために、実習心得、基本的な指導事項、小学校教育の特色・課題等を把握して、実習に備える。また、実習経験を省察し、今後の課題を認識する。

達成目標	科目DP：(1)～(5)				
	DP番号 (1)	(2)	(3)	(4)	(5)
1．小学校教育実習の意義・心得・責務を理解する。					
2．小学校教育実習の目標・内容・活動を把握する。					
3．小学校教育実習の特色と実際を把握する。					
4．実習体験からの学びを省察する。					
5．今後の学習の課題を認識する。					

履修条件・注意事項	
授業計画	1．小学校教育実習の意義と心得　　実習生としての行動・態度・遵守事項　（目標 1） 2．小学校教育参観の視点と方法　授業とは　担任教師の指導の意図　（目標 1,2） 3．小学校教育の特色と課題Ⅰ　　学校の改革の方向性　（目標 3） 4．小学校教育の特色と課題Ⅱ　　小学校教育の魅力　（目標 3） 5．教材研究の基本　　教材と学習内容　教材と子ども　（目標 2,3） 6．学習指導案作成の基本　　教材の価値　子どもの実態　授業構想　（目標 2,3） 7．小学校の学級経営・生徒指導　　これからの生徒指導　（目標 3） 8．小学校教育実習前半の直前指導　　実習校を知る　実習生の態度　（目標 2） 9．小学校教育実習前半の反省Ⅰ　　討論・発表　（目標 4） 10. 小学校教育実習前半の反省Ⅱ　　討論・発表　（目標 4） 11. 小学校教育実習後半実習に向けての夏季課題　（目標 1,2） 12. 学習指導案作成と指導方法　　子どもの思考に沿う授業　（目標 2） 13. 小学校教育実習後半の直前指導　　実習課題の明確化　（目標 2,3） 14. 小学校教育実習後半の反省　　討論・発表　（目標 4,5） 15. 小学校教育実習体験発表会　　討論・発表　（目標 4,5）
アクティブ・ラーニング	グループワーク、ディスカッション
成績評価基準	評価の方法：レポート及び取り組み態度によって評価する。 評価の基準：小学校教育実習に向けての理解、心構え
フィードバックの方法	課題等に改善点をコメントする。発表についてふり返り、講評する。
時間外の学習について	予習：小学校教育実習に関する書籍を読む。 復習：今後の大学での学びの方向性を考える。。（各回30分程度）
教材にかかわる情報	テキスト：資料を随時配布する 参考書： 参考資料等：随時紹介する
担当者からのメッセージ等実務経験について	大学内で実施される授業科目であるが、あくまで教育実習の一部であり、自覚して受講すること。

教育実習

授業科目名	小学校教育実習	教員名	川野　哲也 上田　保明 森　　俊博 門脇　弘樹	免許・資格との関係	保育士	
					幼稚園教諭	
					小学校教諭	必修
ナンバリングコード	UE3-6005-00100				中学校教諭(英語)	
					高等学校教諭(英語)	
授業形態	実習				特別支援学校教諭	
単位数	4	年次配当	3年前後期	卒業要件	初等幼児教育専攻	選択
					中等教育専攻	

科目	教育実践に関する科目（小学校）
各科目に含めることが必要な事項	教育実習
教科目	
系列	
授業テーマ	主体的に小学校教育実習に取り組む
授業概要	大学で習得した専門教科や教職に関する知識・技術を、小学校の教育活動に主体的に適用する機会である。また、経験豊かな指導教諭のもと、児童との直接的な交流を通して、大学の学習では不足する部分を体験的に習得する場でもある。

達成目標	科目DP：(1)～(5)				
	DP番号 (1)	(2)	(3)	(4)	(5)
1．児童の実態に触れ、その理解を深める。					
2．小学校の役割、機能を理解する。					
3．教育者の職務内容、役割を理解する。					
4．実習の体験を通して教育の方法や技術を習得する。					
5．実践と理論の統合を目指し、学習課題を発見する。					

履修条件・注意事項	
授業計画	【前半】主に見学・観察・参加実習とする。（目標 1,2,3,4,5） 1．実習校の教育方針を理解し、担当者の計画・指示に従って授業等に参加する。 2．テーマを持って児童を観察し、積極的に活動に参加する。 3．助手的立場で教育活動や校務の一部を分担することによって、教育者の職務内容を理解する。 4．教育環境の整備、構成を手伝う。 5．実習校の担当者による指導を受ける。 【後半】主に観察・参加・授業実習とする。（目標 1,2,3,4,5） 1．実習校の教育課程に基づき指導を経験する。 2．指導案の立案の仕方及びそれに伴う教材の選定・研究について学ぶ。 3．立案した指導案に基づいて授業を実施して指導方法及び評価について学ぶ。 4．教育環境の整備、構成を手伝う。 5．実習校の担当者による指導を受ける。
アクティブ・ラーニング	実習
成績評価基準	評価の方法：実習校評価と小学校教育実習日誌・レポート（内容及び提出状況）によって総合的に評価する。 評価の基準：責任と情熱を持って実習に取り組み、成果を上げた。
フィードバックの方法	記録やとりくみ（実践）について、アドバイスをする。
時間外の学習について	予習：実習校の学校要覧を読み予備知識を得る。 復習：実習を終えての問題点と課題をまとめる。
教材にかかわる情報	テキスト：随時紹介する。 参考書： 参考資料等：随時紹介する。
担当者からのメッセージ等 実務経験について	主体的に教育実習に取り組もう。 4週間、実習先小学校の現場の先生方からの直接指導を受けます。

教育実習

授業科目名	教育実習指導（中・高）	教員名	中垣　謙司 (実務経験) 岩中　貴裕 檜垣　英夫 (実務経験)	免許・資格との関係	保育士	
					幼稚園教諭	
					小学校教諭	
					中学校教諭(英語)	必修
ナンバリングコード	US3-6006-00010				高等学校教諭(英語)	必修
授業形態	演習				特別支援学校教諭	
単位数	1	年次配当	3年前後期 4年前期	卒業要件	初等幼児教育専攻	
					中等教育専攻	選択

科目	教育実践に関する科目（中学校・高等学校）
各科目に含めることが必要な事項	教育実習
教科目	
系列	
授業テーマ	教育実習の準備・振り返り
授業概要	中学校または高等学校での教育実習を、充実した体験学習とするために、実習心得、基本的な指導事項、中学校または高等学校の英語教育の特色・課題等を十分に理解して、教育実習に備えるための授業です。実習後は、実習先での経験を省察し、振り返ることによって今後の課題を認識します。

達成目標	科目DP：(1)～(5)				
DP番号	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)
1．中・高等学校での教育実習の意義・心得・責務を理解し説明することができる。					
2．中・高等学校での教育実習の目標・内容・活動を把握し、説明することができる。					
3．中・高等学校での教育実習の特色と課題を説明することができる。					
4．実習体験からの学びを省察し、自分の成長に活かすことができる。					
5．今後の学習課題を理解し、その課題を解決するための方策を計画することができる。					

履修条件・注意事項	能動的に授業に参加することが求められます。万一、授業を欠席した場合は、すぐに授業担当者に連絡を取り、欠席した授業の内容を把握するようにしてください。
授業計画	事前指導 1．教育実習の意義と心得（実習生としての行動・態度・遵守事項）（目標 1） 2．授業観察の視点と方法（授業とは・教師の出す指示）（目標 1,2） 3．日本における英語教育の特色と課題（目標 3） 4．学級経営の重要性（目標 3） 5．教材研究の基本（教材と学習内容・教材と生徒）（目標 2,3） 6．学習指導案作成の基本（授業の組み立て）（目標 2,3） 7．生徒理解と生徒指導（目標 3） 8．実習校理解（目標 2） 9．模擬授業Ⅰ（目標 1,2,3） 10. 模擬授業Ⅱ（目標 1,2,3） 事後指導 11. 教育実習報告Ⅰ（教科指導）（目標 4,5） 12. 教育実習報告Ⅱ（教科指導）（目標 4,5） 13. 教育実習報告Ⅰ（学級経営・生徒指導）（目標 4,5） 14. 教育実習報告Ⅱ（学級経営・生徒指導）（目標 4,5） 15. 今後の課題（目標 4,5）
アクティブ・ラーニング	模擬授業とグループでの話し合いが授業の中心となる。
成績評価基準	評価の方法：授業での発表・貢献：30%　グループワーク：30%　レポート：40% 評価の基準：態度と意欲を重視した評価を行う。
フィードバックの方法	指導案等は授業担当者のコメントを添えて返却します。
時間外の学習について	予習：授業内で事前に読んでくべき資料を指示します。内容を理解した上で授業に臨んで下さい。（各回30分程度） 復習：振り返りのレポートが課されます。次の授業で必ず提出してください。（各回30分程度）
教材にかかわる情報	テキスト：授業内で資料を適宜配布します。 参考書：授業内で資料を適宜配布します。 参考資料等：授業内で資料を適宜配布します。
担当者からのメッセージ等 実務経験について	教育実習を成功させるためには実習前の十分な準備と実習後の振り返りが必要です。積極的な姿勢で授業に臨んで下さい。疑問点等がある場合は、授業で積極的に発言をお願いします。 中垣：21年間高等学校教員、その後山口県教委指導課外国語指導主事として英語科教育等業務に携わった実務経験をもとに行います。

授業科目名	教育実習（中・高）Ⅰ	教員名	中垣　謙司 岩中　貴裕 檜垣　英夫	免許・資格との関係	保育士	
					幼稚園教諭	
					小学校教諭	
					中学校教諭(英語)	必修
ナンバリングコード	US3-6007-00010	年次配当	３年後期		高等学校教諭(英語)	必修
授業形態	実習				特別支援学校教諭	
単位数	2			卒業要件	初等幼児教育専攻	
					中等教育専攻	選択

科目	教育実践に関する科目（中学校・高等学校）
各科目に含めることが必要な事項	教育実習
教科目	
系列	
授業テーマ	教育現場における実習
授業概要	大学で習得した専門教科や教職に関する知識・技術を、中学校または高等学校の教育活動に主体的に適用する機会です。経験豊かな指導教諭のもと、生徒との直接的な交流を通して、大学における学びでは不足する部分を体験的に習得する場でもあります。自分自身の教職適性を確認し、教職に就く意思を強化する場としてください。

達成目標	以下の５つが到達目標です。実習終了時に達成できていることを確認してください。	科目DP：(1)～(5)				
		DP番号	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)
	１．学校現場と生徒の実態に触れ、その理解を深めることができる。					
	２．中学校または高等学校の役割、機能を理解することができる。					
	３．教育者の職務内容、役割を理解することができる。					
	４．実習の体験を通して教育の方法や技術を習得し、説明することができる。					
	５．実践と理論を統合し、学習課題を発見することができる。					

履修条件・注意事項	所定の単位を修得した学生のみが教育実習に行くことを許可されます。また、授業担当者が教職適性を欠いていると判断した場合は、実習へ行く許可を与えないことがありますのでご注意ください。
授業計画	【前半】主に見学・観察・参加実習とする。（目標 1,2,3,4,5） １．実習校の教育方針を理解し、担当者の計画・指示に従って授業等に参加する。 ２．テーマを持って児童を観察し、積極的に活動に参加する。 ３．助手的立場で教育活動や校務の一部を分担することによって、教育者の職務内容を理解する。 ４．教育環境の整備、構成を手伝う。 ５．実習校の担当者による指導を受ける。 【後半】主に観察・参加・授業実習とする。（目標 1,2,3,4,5） １．実習校の教育課程に基づき指導を経験する。 ２．指導案の立案の仕方及びそれに伴う教材の選定・研究について学ぶ。 ３．立案した指導案に基づいて授業を実施して指導方法及び評価について学ぶ。 ４．教育環境の整備、構成を手伝う。 ５．実習校の担当者による指導を受ける。
アクティブ・ラーニング	授業，グループでのディスカッションが中心となる。
成績評価基準	評価の方法：実習校評価、教育実習日誌、レポートによって総合的に評価します。 評価の基準：態度と意欲を重視した評価を行う。
フィードバックの方法	実習記録によって学びを確認します。
時間外の学習について	予習：実習校の情報を収集し、理解を深めておくこと。 復習：実習後の自己研鑽のために、課題をまとめておくこと。
教材にかかわる情報	テキスト：なし 参考書：なし 参考資料等：必要に応じて資料を配布します。
担当者からのメッセージ等実務経験について	実習生であっても生徒にとってみれば先生です。教師としての自覚を忘れずに実習に取り組んで下さい。教師になる強い意志のない人は、教育実習へ行くことはできません。

授業科目名	教育実習（中・高）Ⅱ	教員名	中垣　謙司 岩中　貴裕 檜垣　英夫	免許・資格との関係	保育士	
					幼稚園教諭	
					小学校教諭	
					中学校教諭(英語)	必修
ナンバリングコード	US4-6008-00010	年次配当	4年後期		高等学校教諭(英語)	必修
授業形態	実習				特別支援学校教諭	
単位数	2			卒業要件	初等幼児教育専攻	
					中等教育専攻	選択

科目	教育実践に関する科目（中学校・高等学校）
各科目に含めることが必要な事項	教育実習
教科目	
系列	
授業テーマ	教育現場における実習
授業概要	大学で習得した専門教科や教職に関する知識・技術を、中学校または高等学校の教育活動に主体的に適用する機会です。経験豊かな指導教諭のもと、生徒との直接的な交流を通して、大学における学びでは不足する部分を体験的に習得する場でもあります。教職適性を確認し教科の指導技術についての理解を深めると同時に、学級運営について学ぶ場としてください。

達成目標	以下の５つが到達目標です。実習終了時に達成できていることを確認してください。	科目DP：(1)～(5)				
		DP番号 (1)	(2)	(3)	(4)	(5)
	１．学校現場と生徒の実態に触れ、その理解を深めることができる。					
	２．中学校または高等学校の役割、機能を理解することができる。					
	３．教育者の職務内容、役割を理解することができる。					
	４．実習の体験を通して教育の方法や技術を習得し、説明することができる。					
	５．実践と理論を統合し、学習課題を発見することができる。					

履修条件・注意事項	所定の単位を修得した学生のみが教育実習に行くことを許可されます。また、授業担当者が教職適性を欠いていると判断した場合は、実習へ行く許可を与えないことがありますのでご注意ください。
授業計画	【前半】主に見学・観察・参加実習とする。（目標 1,2,3,4,5） １．実習校の教育方針を理解し、担当者の計画・指示に従って授業等に参加する。 ２．テーマを持って児童を観察し、積極的に活動に参加する。 ３．助手的立場で教育活動や校務の一部を分担することによって、教育者の職務内容を理解する。 ４．教育環境の整備、構成を手伝う。 ５．実習校の担当者による指導を受ける。 【後半】主に参加・授業実習とする。（目標 1,2,3,4,5） １．実習校の教育課程に基づき指導を経験する。 ２．指導案の立案の仕方及びそれに伴う教材の選定・研究について学ぶ。 ３．立案した指導案に基づいて授業を実施して指導方法及び評価について学ぶ。 ４．教育環境の整備、構成を手伝う。 ５．実習校の担当者の指導の下、学級経営に携わる。
アクティブ・ラーニング	授業，グループでのディスカッションが中心となる。
成績評価基準	評価の方法：実習校評価、教育実習日誌、レポートによって総合的に評価します。 評価の基準：態度と意欲を重視した評価を行う。
フィードバックの方法	実習記録によって学びを確認します。
時間外の学習について	予習：実習校の情報を収集し、理解を深めておくこと。 復習：実習後の自己研鑽のために、課題をまとめておくこと。
教材にかかわる情報	テキスト：なし 参考書：なし 参考資料等：必要に応じて資料を配布します。
担当者からのメッセージ等実務経験について	実習生であっても生徒にとってみれば先生です。教師としての自覚を忘れずに実習に取り組んで下さい。教師になる強い意志のない人は、教育実習へ行くことはできません。 ２週間、慶進中・高等学校の現場の先生方からの直接指導を受けます。

授業科目名	特別支援教育実習指導	教員名	田村　知津子 （実務経験） 名島　潤慈 佐藤　真澄 門脇　弘樹	免許・資格との関係	保育士	
					幼稚園教諭	
					小学校教諭	
					中学校教諭（英語）	
ナンバリングコード	UE4-6009-00001				高等学校教諭（英語）	
					特別支援学校教諭	必修
授業形態	演習	年次配当	4年後期	卒業要件	初等幼児教育専攻	選択
単位数	1				中等教育専攻	

科目	心身に障害のある幼児、児童又は生徒についての教育実習（特別支援学校）
各科目に含めることが必要な事項	
教科目	
系列	
授業テーマ	教育実習の準備・振り返り
授業概要	限られた期間の特別支援学校教育実習を充実した体験学習とするために、実習心得、基本的な指導事項、特別支援学校の特色・課題等を把握して、実習に備える。 実習体験後、実習を省察し、今後の課題を認識する。

達成目標	科目DP：(1)～(5)				
	DP番号 (1)	(2)	(3)	(4)	(5)
1．特別支援学校教育実習の意義・心得・責務を理解する。					
2．特別支援学校教育実習の目標・内容・活動を把握する。					
3．特別支援学校教育実習の特色と実際を把握する。					
4．実習体験からの学びを省察する。					
5．今後の学習の課題を認識する。					

履修条件・注意事項	
授業計画	1．教育実習の意義、心構え、自己紹介票の書き方、留意事項 2．特別支援学校の教育と特色、授業参観の視点と方法 3．個別の教育支援計画、個別の指導計画の活用方法 4．ティームティーチング、個別指導と集団指導（ロールプレイ）、環境調整 5．教材教具と情報機器の活用 6．学習指導案等の基本（単元（題材）選定、単元計画、目標設定、児童生徒観） 7．学習指導案等の実際（指導過程、個に応じた配慮、環境調整、評価等） 8．教科等の指導 9．自立活動の指導 10. 日常生活の指導と生活単元学習 11. 中・高等部の作業学習 12. 実習日誌の書き方と、実習校理解、礼状の書き方 13. グループワークによる教育実習の振り返り 14. グループワークによる教育実習の学びの整理 15. グループ毎の討論結果の発表による学びの共有と深化
アクティブ・ラーニング	ロールプレイ、グループワーク
成績評価基準	評価の方法：授業での発表等30%、グループワーク20%、レポート等の提出50%の割合で、総合的に評価する。 評価の基準：実習への意欲を高めている。特別支援学校の教育を理解し、実態を踏まえた学習指導案が書ける。事後には学びの深まりが見られる。
フィードバックの方法	課題等に改善点をコメントする。発表について振り返り、講評する。
時間外の学習について	予習：授業で提示する資料を読んでおく、または学習指導案の原案を考えてくる。(90分) 復習：授業後の課題や実習後の学びをまとめる。(90分)
教材にかかわる情報	テキスト：特別支援教育のすべてがわかる　　教員を目指すあなたへ　　ジアース教育新社 参考書：アクティブラーニングで学ぶ特別支援教育　　一芸社 参考資料等：
担当者からのメッセージ等 実務経験について	教育実習の一環として大学内で実施される授業科目ですが、課題を自覚して積極的な姿勢で受講してください。 田村…教育実習を受け入れていた特別支援学校での勤務経験を活かして、各支援学校の教育活動や業務内容、学習指導案の作成や実習日誌の書き方等、実践的に指導します。

授業科目名	特別支援教育実習	教員名	田村　知津子 （実務経験） 名島　潤慈 佐藤　真澄 門脇　弘樹	免許・資格との関係	保育士	
					幼稚園教諭	
					小学校教諭	
					中学校教諭（英語）	
ナンバリングコード	UE4-6010-00001				高等学校教諭（英語）	
					特別支援学校教諭	必修
授業形態	実習				初等幼児教育専攻	選択
単位数	2	年次配当	4年後期	卒業要件	中等教育専攻	
科目	心身に障害のある幼児、児童又は生徒についての教育実習（特別支援学校）					
各科目に含めることが必要な事項						
教科目						
系列						
授業テーマ	特別支援教育の現場を学ぶ					
授業概要	大学で習得した専門教科や教職に関する知識・技術を、特別支援学校の教育活動に主体的に適用する機会である。経験豊かな指導教諭のもと、児童生徒との直接的な交流を通して、大学の学習では不足する部分を体験的に習得する場である。					

達成目標	科目DP：(1)～(5)				
	DP番号 (1)	(2)	(3)	(4)	(5)
1．児童生徒の実態に触れ、その理解を深める。					
2．特別支援学校の役割、機能を理解する。					
3．教員の職務内容、役割を理解する。					
4．実習の体験を通して教育の方法や技術を習得する。					
5．実践と理論の統合をめざし、学習課題を発見する。					

履修条件・注意事項	
授業計画	1．実習校の教育方針を理解し、担当者の計画・指示に従って授業等に参加する。（目標 1,2） 2．テーマを持って児童生徒を観察し、積極的に活動に参加する。（目標 1,2） 3．個別の教育支援計画について確認する。（目標 1,4） 4．個別の指導計画について確認する。（目標 1,4） 5．授業参観をする。（目標 1,3） 6．学習指導案の立案の仕方及びそれに伴う教材の選定・研究について確認する。（目標 1,2,3） 7．教材研究をする。（目標 1,2,3） 8．学習環境の整備について確認する。（目標 2,3） 9．実習校の教育課程に基づき指導を経験する。（目標 1,3,4） 10. 実施する授業の学習指導案を立案する。（目標 1,2） 11. 学習指導案に基づいた授業を実施する。（目標 1,2,3） 12. 実施した授業の指導方法及び評価について指導を受ける。（目標 2,4,5） 13. 実施した授業の検討後、反省に基づいた学習指導案を立案する。（目標 2,4,5） 14. 実習校の実習担当者・学級担任による指導を受ける。（目標 2,4,5） 15. 実習日誌に総合的な反省と今後の課題を記述する。（目標 5）
アクティブ・ラーニング	
成績評価基準	評価の方法：実習校の評価（70%）と実習日誌、実習レポートの状況等（30%）により総合的に評価する。 評価の基準：意欲的に情熱をもって実習に取り組み、成果をあげることが出来たか。
フィードバックの方法	課題回収後、個別事項についてはコメントを記入し、全体で共有する事項については、次回確認する。
時間外の学習について	予習：実習校の実態や担当学級の幼児児童生徒の実態を日々観察し、記録し、理解を深めること。 復習：日々の自らの実践の評価を踏まえて、常に関わり方の改善を考えること。
教材にかかわる情報	テキスト：特になし 参考書：『特別支援学校幼稚部教育要領』、『特別支援学校小学部・中学部学習指導要領』、『特別支援学校高等部学習指導要領』（文部科学省）（各平成29年度版） 参考資料等：特別支援学校学習指導要領解説自立活動編、総則等編（幼・小・中）、総則等編（高）（文部科学省）
担当者からのメッセージ等 実務経験について	自ら求めて主体的に教育実習に取り組むこと。また、幼児児童生徒にとっては「先生」であることを常に意識して責任ある言動に努めること。障害のあるなしにかかわらず、また障害の程度や実態にかかわらず、子どもたちは実習生を実によく見ています。 田村…２週間、各特別支援学校の現場の先生方からの直接指導を受けます。

保育実習

保育実習指導Ⅰ …… 191
保育実習Ⅰ …… 192
保育実習指導Ⅱ …… 193
保育実習Ⅱ …… 194
保育実習指導Ⅲ …… 195
保育実習Ⅲ …… 196

授業科目名	保育実習指導Ⅰ	教員名	佐藤　真澄 大田　紀子 （実務経験）	免許・資格との関係	保育士	必修
					幼稚園教諭	
					小学校教諭	
					中学校教諭（英語）	
ナンバリングコード	UE2-7001-10000				高等学校教諭（英語）	
授業形態	演習	年次配当	２年前後期		特別支援学校教諭	
単位数	2			卒業要件	初等幼児教育専攻	選択
					中等教育専攻	
科目						
各科目に含めることが必要な事項						
教科目	必修科目（保育士）					
系列	保育実習					
授業テーマ	保育実習の意義、内容、課題、自己評価、総括					
授業概要	保育所実習と施設実習の事前および事後指導である。事前指導では、実習の意義・目的や内容について理解し、実習までの学習課題を明らかにする。実習手帳や保育指導案の書き方についても学ぶ。VTR視聴や現場の実習指導者による特別講義により、施設の概要、実習生としての基本的な心構えや姿勢を学ぶとともに、実習テーマを設定する。事後指導では、実習体験に基づきグループ討議や個人面談を行い、保育所および施設に対する認識を深めるとともに、今後の実習における自己課題を見出す。					

達成目標	科目DP：(1)～(5)				
DP番号	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)
1．保育実習の意義・目的を理解できる。					
2．実習の内容を理解し、自らの課題が明確になる。					
3．実習生としての基本的な心構えや姿勢を理解できる。					
4．実習の計画、実践、観察、記録、評価等について理解できる。					
5．事後指導を通して、実習を総括、自己評価し、今後の課題が明確になる。					

履修条件・注意事項	
授業計画	1．保育実習の意義・目標・展開（目標 1） 2．保育所の機能と保育士の役割（目標 2） 3．実習テーマの設定／記録類の取り扱い（目標 2,4） 4．保育指導案の考え方①（目標 2,4） 5．保育指導案の考え方②（目標 2,4） 6．保育指導案の立案と保育の技術①（目標 2,4） 7．保育指導案の立案と保育の技術②（目標 2,4） 8．保育所実習にむけての心構え（目標 1,2,3,4） 9．保育所実習エピソード記録の書き方（目標 4,5） 10．エピソード記録を用いた総括・自己評価（目標 5） 11．実習レポートの書き方（目標 4,5） 12．実習レポートを用いた総括・自己評価（目標 4,5） 13．個人面談／グループ討議による総括①（目標 5） 14．個人面談／グループ討議による総括②（目標 5） 15．討議による保育所実習での学びの共有（目標 5） 16．福祉施設の機能と保育士の役割（目標 2） 17．施設実習の意義・目標・展開（目標 1） 18．児童養護施設の機能・役割（目標 2,3） 19．障害児／障害者支援施設の機能・役割（目標 2,3） 20．児童発達支援センターの機能・役割（目標 2,3） 21．乳児院の機能・役割（目標 2,3） 22．福祉施設の利用者の特性と支援方法（目標 2,3） 23．実習テーマの設定（目標 2,4） 24．記録類の取り扱い（目標 2,4） 25．外部講師による講義：児童養護施設（目標 2,3） 26．外部講師による講義：障害者支援施設（目標 2,3） 27．外部講師による講義：児童発達支援（目標 2,3） 28．先輩の実習体験からの学び（目標 2,3） 29．巡回教員との面談（目標 1,2,3） 30．施設実習にむけての心構え（目標 1,2,3,4）
アクティブ・ラーニング	ディスカッション、グループワーク、模擬授業
成績評価基準	評価の方法：授業態度50%、レポート等の提出物50% 評価の基準：（事前）保育所実習の意義、内容、課題について理解し、実習テーマが設定できる。 （事後）実習を自己評価し、今後の実習における自己課題を設定できる。
フィードバックの方法	実習テーマ、実習記録、自己評価等の提出物については、個別に面談をして指導する。（各30分程度） VTR視聴や特別講義で提出したレポートについては、次回の授業時にコメントする。（各30分程度）
時間外の学習について	予習：保育実習に関連する既修得科目の内容について復習する 復習：毎回の学習内容を整理しておく。実習に関連する書類を作成・提出する（期限厳守）。
教材にかかわる情報	テキスト：『幼稚園・保育所実習パーフェクトガイド』わかば社 参 考 書：適宜指示する。 参考資料等：福祉小六法
担当者からのメッセージ等 実務経験について	特別な理由のない限り、事前指導、事後指導はすべて出席すること。

保育実習

授業科目名	保育実習Ⅰ	教員名	佐藤　真澄 大田　紀子 (実務経験)	免許・資格との関係	保育士	必修
					幼稚園教諭	
					小学校教諭	
					中学校教諭(英語)	
ナンバリングコード	UE2-7002-10000	年次配当	2年前後期		高等学校教諭(英語)	
					特別支援学校教諭	
授業形態	実習			卒業要件	初等幼児教育専攻	選択
単位数	4				中等教育専攻	
科目						
各科目に含めることが必要な事項						
教科目	必修科目（保育士）					
系列	保育実習					
授業テーマ	保育内容、保育技術、対象の理解、施設の理解					
授業概要	保育実習Ⅰは保育所での10日間の実習と児童福祉施設等の施設での10日間の実習で構成される。見学・観察・参加実習を中心に、保育所実習では、乳幼児への理解を深めるとともに、保育所の機能とそこでの保育士の職務について学ぶ。施設実習では、子ども（利用者）への理解を深めるとともに、施設の機能とそこでの保育士の職務について学ぶ。					

達成目標	科目DP：(1)～(5)					
	DP番号	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)
1．保育所、児童福祉施設等の役割や機能を理解することができる。						
2．乳幼児の発達や利用者等の個別のニーズを理解することができる。						
3．保育や養護等のねらいについて実践を通して理解することができる。						
4．保育士の業務内容や職業倫理について具体的に理解することができる。						

履修条件・注意事項	保育実習指導Ⅰを履修していること
授業計画	【保育所実習】 1．実習園の方針や概要についての説明を受ける　(目標 1,) 2．保育の一日の流れを理解し、参加する　(目標 2,3,4) 3．環境構成、子どもの活動、保育者の援助について観察し、記録する　(目標 2,3,4) 4．子どもの観察や関わりを通して乳幼児の発達や個人差について考察する　(目標 2,3,4) 5．手遊びや絵本の読み聞かせなどの部分保育を行う　(目標 2,3,4) 6．保育指導案を立案し、実践する　(目標 2,3,4) 【施設実習】 1．施設の方針や概要についての説明を受ける　(目標 1) 2．養護等の一日の流れを理解し、参加する　(目標 2,3,4) 3．環境構成、利用者の生活場面、職員の支援について観察し、記録する　(目標 2,3,4) 4．利用者の観察や関わりを通して利用者の個別のニーズや社会的背景について考察する　(目標 2,3,4) 5．生活場面における利用者への援助を行う　(目標 2,3,4)
アクティブ・ラーニング	実習・フィールドワーク
成績評価基準	評価の方法：実習施設の評価（60%）、実習日誌等の記録（40%） 評価の基準：実習態度、保育技術、記録、倫理
フィードバックの方法	実習期間中に担当教員が訪問し、実習指導者から状況を確認したうえで、助言・指導する。 実習終了後に実習先の評価、自己評価に基づき、助言・指導する（保育実習指導Ⅰ・ⅡもしくはⅡで行う）。
時間外の学習について	予習：実習指導（事前）の内容について整理しておく。 復習：実習日誌等の記録を整理し、今後の課題を明らかにする。
教材にかかわる情報	テキスト：実習の手引き 参考書：保育所保育指針、『幼稚園・保育所実習パーフェクトガイド』わかば社 参考資料等：福祉小六法
担当者からのメッセージ等 実務経験について	

保育実習

授業科目名	保育実習指導Ⅱ	教員名	佐藤　真澄 大田　紀子 （実務経験）	免許・資格との関係	保育士	選択
					幼稚園教諭	
					小学校教諭	
					中学校教諭（英語）	
ナンバリングコード	UE3-7003-20000				高等学校教諭（英語）	
授業形態	演習	年次配当	３年前後期		特別支援学校教諭	
単位数	1			卒業要件	初等幼児教育専攻	選択
					中等教育専攻	
科目						
各科目に含めることが必要な事項						
教科目	選択必修科目（保育士）					
系列	保育実習					
授業テーマ	保育実習の意義、内容、課題、自己評価、総括					
授業概要	事前指導では、保育実習Ⅰの振り返りを行うなかで、保育実習Ⅱの意義、目的や内容について理解し、実習までの学習課題を明らかにする。VTR視聴や現場の実習指導者による特別講義により、保育士の専門性について学ぶとともに、実習テーマを設定する。事後指導では、実習体験に基づきグループ討議や個人面談を行い、保育所に対する認識を深めるとともに、保育士の果たす社会的役割について考察する。					

達成目標	科目DP：(1)～(5)					
	DP番号	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)
	1．保育実習Ⅰを振り返り、保育実習Ⅱの意義・目的を理解できる。					
	2．保育所の役割や機能、および保育士の専門性について理解できる。					
	3．保育課程を踏まえた保育計画の考え方や方法を理解できる。					
	4．事後指導を通して実習を総括、自己評価し、保育士の専門性について自分なりの考え方を述べることができる。					

履修条件・注意事項	１～７回は保育実習指導Ⅱと同時開講
授業計画	1．保育実習の意義・目標・展開と保育実習Ⅱの位置づけ　（目標 1） 2．実習レポートを用いた保育実習Ⅰの総括・自己評価　（目標 1） 3．個人面談／グループ討議による保育実習Ⅰの総括①　（目標 1） 4．個人面談／グループ討議による保育実習Ⅰの総括②　（目標 1） 5．保育実習Ⅱの意義・目標・内容　（目標 1,2） 6．外部講師による特別講義：保育士の専門性について　（目標 1,2） 7．外部講師による特別講義：施設における保育士の役割　（目標 1,2） 8．保育課程と保育計画の連続性　（目標 2,3） 9．保育指導案立案：設定保育　（目標 2,3） 10. 保育指導案立案：全日保育　（目標 2,3） 11. 模擬保育実践　（目標 2,3） 12. 保育実習Ⅱに向けた心構え　（目標 1,2,3） 13. 実習レポートを用いた実習の総括・自己評価　（目標 4） 14. 個別面談による実習の総括　（目標 4） 15. 討議による保育実習での学びの共有　（目標 4）
アクティブ・ラーニング	ディスカッション、グループワーク、模擬授業
成績評価基準	評価の方法：授業態度50%、レポート等の提出物50% 評価の基準：（事前）保育所実習の意義、内容、課題について理解し、実習テーマが設定できる。 （事後）実習を自己評価し、今後の実習における自己課題を設定できる。
フィードバックの方法	実習テーマ、実習記録、自己評価等の提出物については、個別に面談をして指導する。 VTR視聴や特別講義で提出したレポートについては、次回の授業時にコメントする。
時間外の学習について	予習：保育実習に関連する既修得科目の内容について復習する 復習：毎回の学習内容を整理しておく。実習に関連する書類を作成・提出する（期限厳守）。 （各回30分程度）
教材にかかわる情報	テキスト：『幼稚園・保育所実習パーフェクトガイド』わかば社 参 考 書：適宜指示する。 参考資料等：福祉小六法
担当者からのメッセージ等 実務経験について	特別な理由のない限り、事前指導、事後指導はすべて出席すること。

保育実習

授業科目名	保育実習Ⅱ	教員名	佐藤　真澄 大田　紀子 （実務経験）	免許・資格との関係	保育士	選択
					幼稚園教諭	
					小学校教諭	
					中学校教諭（英語）	
ナンバリングコード	UE3-7004-20000	年次配当	３年後期		高等学校教諭（英語）	
					特別支援学校教諭	
授業形態	実習			卒業要件	初等幼児教育専攻	選択
単位数	2				中等教育専攻	
科目						
各科目に含めることが必要な事項						
教科目	選択必修科目（保育士）					
系列	保育実習					
授業テーマ	保育内容、保育技術、乳幼児理解、保護者支援					
授業概要	認可保育所における10日間の保育実習					

達成目標	科目DP：(1)～(5)				
DP番号	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)
1．保育所の役割や機能について、実践を通して理解できる。					
2．乳幼児理解を通した保育者の援助について理解できる。					
3．保育指導案を立案し、実践することができる。					
4．保育実践の振り返りを通して、乳幼児理解を深めることができる。					
5．保育所保育士としての自己の課題を明確化できる。					

履修条件・注意事項	保育実習Ⅰを履修していること 保育実習指導Ⅱを履修していること
授業計画	1．養護と教育が一体となった保育に参加し、観察・記録する。（目標 1,2,3,4） 2．入所している子どもの保護者や地域の子育て家庭への支援について観察し、理解する。（目標 1） 3．関わりなどの援助を通して、乳幼児理解を深める。（目標 2,4） 4．保育指導案を立案・実践し、振り返りを行う。（目標 3,4） 5．記録や実践の振り返りを通して、保育所保育士の専門性について考察する。（目標 1,2,4,5）
アクティブ・ラーニング	実習・フィールドワーク
成績評価基準	評価の方法：実習施設の評価（60%）、実習日誌等の記録（40%） 評価の基準：実習態度、保育技術、記録、倫理
フィードバックの方法	実習期間中に担当教員が訪問し、実習指導者から状況を確認したうえで、助言・指導する。 実習終了後に実習先の評価、自己評価に基づき、助言・指導する（保育実習指導Ⅱで行う）。
時間外の学習について	予習：実習指導（事前）の内容について整理しておく。 復習：実習日誌等の記録を整理し、今後の課題を明らかにする。
教材にかかわる情報	テキスト：実習の手引き 参考書：保育所保育指針、『幼稚園・保育所実習パーフェクトガイド』わかば社 参考資料等：福祉小六法
担当者からのメッセージ等 実務経験について	

保育実習

授業科目名	保育実習指導Ⅲ	教員名	佐藤　真澄 大田　紀子 （実務経験）	免許・資格との関係	保育士	選択
					幼稚園教諭	
					小学校教諭	
					中学校教諭（英語）	
ナンバリングコード	UE3-7005-20000	年次配当	３年前後期		高等学校教諭（英語）	
					特別支援学校教諭	
授業形態	演習			卒業要件	初等幼児教育専攻	選択
単位数	1				中等教育専攻	
科目						
各科目に含めることが必要な事項						
教科目	選択必修科目（保育士）					
系列	保育実習					
授業テーマ	保育実習の意義、内容、課題、自己評価、総括					
授業概要	事前指導では、保育実習Ⅰの振り返りを行うなかで、保育実習Ⅲの意義、目的や内容について理解し、実習までの学習課題を明らかにする。VTR視聴や現場の実習指導者による特別講義により、保育士の専門性について学ぶとともに、実習テーマを設定する。事後指導では、実習体験に基づきグループ討議や個人面談を行い、社会福祉施設に対する認識を深めるとともに、保育士の果たす社会的役割について考察する。					

達成目標	科目DP：(1)～(5)					
	DP番号	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)
	1．保育実習Ⅰを振り返り、保育実習Ⅲの意義・目的を理解できる。					
	2．社会福祉施設の社会的意義と保育士の果たす役割について理解できる。					
	3．社会福祉施設における支援の考え方と方法について理解できる。					
	4．事後指導を通して実習を総括、自己評価し、保育士の専門性について自分なりの考え方を述べることができる。					

履修条件・注意事項	１～７回は保育実習指導Ⅱと同時開講
授業計画	1．保育実習の意義・目標・展開と保育実習Ⅲの位置づけ　（目標 1） 2．実習レポートを用いた保育実習Ⅰの総括・自己評価　（目標 1） 3．個人面談／グループ討議による保育実習Ⅰの総括①　（目標 1） 4．個人面談／グループ討議による保育実習Ⅰの総括②　（目標 1） 5．保育実習Ⅲの意義・目標・内容　（目標 1,2） 6．外部講師による特別講義：保育士の専門性について　（目標 1,2） 7．外部講師による特別講義：施設における保育士の役割　（目標 1,2） 8．実習を行う社会福祉施設の制度的位置づけ、機能、設置基準　（目標 2,3） 9．保育実習Ⅲの実習課題と実習テーマの設定　（目標 1,2,3） 10. 社会福祉施設における個別支援計画と支援の方法　（目標 2,3） 11. プロセスレコードを用いた社会福祉援助技術の方法　（目標 2,3） 12. 保育実習Ⅲにむけて心構え　（目標 1,2,3） 13. 実習レポートを用いた実習の総括・自己評価　（目標 4） 14. 個別面談による実習の総括　（目標 4） 15. 討議による保育実習での学びの共有　（目標 4）
アクティブ・ラーニング	ディスカッション、グループワーク、模擬授業
成績評価基準	評価の方法：授業態度50%、レポート等の提出物50% 評価の基準：（事前）保育所実習の意義、内容、課題について理解し、実習テーマが設定できる。 （事後）実習を自己評価し、今後の実習における自己課題を設定できる。
フィードバックの方法	実習テーマ、実習記録、自己評価等の提出物については、個別に面談をして指導する。 VTR視聴や特別講義で提出したレポートについては、次回の授業時にコメントする。
時間外の学習について	予習：保育実習に関連する既修得科目の内容について復習する 復習：毎回の学習内容を整理しておく。実習に関連する書類を作成・提出する（期限厳守）。 （各回30分程度）
教材にかかわる情報	テキスト：『幼稚園・保育所実習パーフェクトガイド』わかば社 参 考 書：適宜指示する。 参考資料等：福祉小六法
担当者からのメッセージ等 実務経験について	特別な理由のない限り、事前指導、事後指導はすべて出席すること。

保育実習

授業科目名	保育実習Ⅲ	教員名	佐藤　真澄 大田　紀子 （実務経験）	免許・資格との関係	保育士	選択
					幼稚園教諭	
					小学校教諭	
					中学校教諭（英語）	
ナンバリングコード	UE3-7006-20000	年次配当	３年後期		高等学校教諭（英語）	
授業形態	実習				特別支援学校教諭	
単位数	2			卒業要件	初等幼児教育専攻	選択
					中等教育専攻	
科目						
各科目に含めることが必要な事項						
教科目	選択必修科目（保育士）					
系列	保育実習					
授業テーマ	保育内容、保育技術、対象の理解、地域社会の理解					
授業概要	児童厚生施設又は知的障害児通園施設その他社会福祉関係諸法令の規定に基づき設置されている施設で10日間の実習を行う。保育実習Ⅰ（施設実習）での体験的な学びを基礎として、専門職としての知識、技術、倫理等を高め、実践力を身につける。さらには、多職種間、地域社会（家族を含む）との連携の方法についても学ぶ。					

達成目標	科目DP：(1)～(5)				
DP番号	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)
1．利用者の個別のニーズについて、障害特性や社会的背景に関連付けて理解できる。					
2．利用者の最善の利益を具体化する方法について理解できる。					
3．地域社会との連携の方法について具体的に理解できる。					
4．保護者支援、家庭支援のための方法について具体的に理解できる。					
5．社会福祉の専門職としての自己の課題を明確化できる。					

履修条件・注意事項	保育実習Ⅰを履修していること。 保育実習指導Ⅱを履修していること。
授業計画	1．施設における養護・療育・支援等の全般に観察・参加し、記録する。（目標 1,2,3,4） 2．利用者の個人差や個別の事情について情報を収集し、考察することができる。（目標 1,2,3,4） 3．行事や日常的な交流への参加、記録等を通して、地域社会との連携の方法について学ぶ。（目標 1,2,3,4） 4．カンファレンスや記録等を通して、保護者支援や家庭支援の方法について学ぶ。（目標 1,2,3,4） 5．関わった事例や支援の経験を振り返り、社会福祉の専門職としてのあり方を考察する。（目標 1,2,3,4）
アクティブ・ラーニング	実習・フィールドワーク
成績評価基準	評価の方法：実習施設の評価（60%）、実習日誌等の記録（40%） 評価の基準：実習態度、保育技術、記録、倫理
フィードバックの方法	実習期間中に担当教員が訪問し、実習指導者から状況を確認したうえで、助言・指導する。 実習終了後に実習先の評価、自己評価に基づき、助言・指導する（保育実習指導Ⅱで行う）。
時間外の学習について	予習：実習指導（事前）の内容について整理しておく。 復習：実習日誌等の記録を整理し、今後の課題を明らかにする。
教材にかかわる情報	テキスト：実習の手引き 参考書：保育所保育指針、『幼稚園・保育所実習パーフェクトガイド』わかば社 参考資料等：福祉小六法
担当者からのメッセージ等 実務経験について	

保育実習

実 践 演 習

教職実践演習（幼・小）…… 197
教職実践演習（中・高）…… 198
保育実践演習…… 199

授業科目名	教職実践演習（幼・小）	教員名	香川　智弘 松村　納央子 川野　哲也 大田　紀子 上田　保明 森　俊博 門脇　弘樹	免許・資格との関係	保育士	
					幼稚園教諭	必修
					小学校教諭	必修
ナンバリングコード	UE4-8001-01100				中学校教諭（英語）	
					高等学校教諭（英語）	
授業形態	演習				特別支援学校教諭	
単位数	2	年次配当	4年後期	卒業要件	初等幼児教育専攻	選択
					中等教育専攻	

科目	教科及び教職に関する科目（幼稚園・小学校）教育実践に関する科目
各科目に含めることが必要な事項	教職実践演習
教科目	
系列	
授業テーマ	教職に求められる資質（知識・技能・態度）、面接や模擬授業等による到達状況の確認
授業概要	大学の授業内外で修得してきた資質能力が、幼稚園教諭・小学校教諭としての最低限度の資質能力となっているかどうかを確認する。資質能力が十分ではない学生については自己研究の場を与えるとともに、個々の学生に応じた指導を行う。

達成目標	科目DP：(1)～(5)				
DP番号	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)
1．使命感や責任感、教育的愛情等					
2．社会性や対人関係能力					
3．幼児児童理解や学級経営の能力					
4．教科の指導力					
5．表現力					

履修条件・注意事項	
授業計画	第１回：オリエンテーション 第２回：個人課題①　教育法規、幼稚園教育要領、学習指導要領、等　（目標 1,2,3,4） 第３回：個人課題②　使命感や責任感、教育的愛情等について　（目標 1） 第４回：個人課題③　学校運営、地域とのかかわり、危機管理等について　（目標 1） 第５回：個人課題④　情報機器の活用について　（目標 1,3、教職目標） 第６回：役割演技①　　子どもへの適切な言動、公平かつ受容的な態度　（目標 1,2,3） 第７回：役割演技②　　学級経営、学校行事、豊かな文化づくり　（目標 1,2,3,4,5） 第８回：役割演技③　　保護者や地域関係者との関係　（目標 1,2,3） 第９回：模擬授業または模擬保育①　　子どもの発達に合わせた保育や授業　（目標 3,4） 第10回：模擬授業または模擬保育②　　集団を活かした指導、集団づくり　（目標 3,4） 第11回：模擬授業または模擬保育③　　板書、話し方、表情、豊かな言葉　（目標 4,5） 第12回：模擬授業または模擬保育④　　教材研究　　指導計画　（目標 4,5） 第13回：発展課題①　アクティブ・ラーニングの指導　（目標 1,2,3,4,5） 第14回：発展課題②　学級担任としての指導　（目標 1,2,3,4,5） 第15回：発展課題③　新任教師の成長　（目標 1,2,3,4,5）
アクティブ・ラーニング	グループワーク、ディスカッション、ロールプレイ、模擬授業、等による
成績評価基準	評価の方法：レポート30%、役割演技40%、模擬授業または模擬保育30% 評価の基準：山口学芸大学「確認のためのチェックリスト」に基づく。到達目標5項目。
フィードバックの方法	授業で課題を出した場合には、課題回収後に解説を行う。発表させた場合には良かったところと今後の課題を示す。
時間外の学習について	予習：事前に資料、課題を配布するので、各自取り組んでおくこと 復習：当日使用した資料、ノートを見直し、必要に応じて調べたり、ボランティア活動を行うこと（各回30分程度）
教材にかかわる情報	テキスト：特になし 参考書：プリントを適宜配布する。 参考資料等：
担当者からのメッセージ等実務経験について	

実践演習

授業科目名	教職実践演習（中・高）	教員名	中垣　謙司 岩中　貴裕 檜垣　英夫	免許・資格との関係	保育士	
					幼稚園教諭	
					小学校教諭	
					中学校教諭(英語)	必修
ナンバリングコード	US4-8002-00010				高等学校教諭(英語)	必修
授業形態	演習	年次配当	4年後期		特別支援学校教諭	
単位数	2			卒業要件	初等幼児教育専攻	
					中等教育専攻	選択

科目	教育実践に関する科目（中学校・高等学校）
各科目に含めることが必要な事項	教職実践演習
教科目	
系列	
授業テーマ	教育に対する使命感・情熱　教職に対する適正
授業概要	教育現場に立つすべての教員が理想と現実のギャップに悩まされます。その対応は人により様々ですが、現実を受け入れて理想を捨ててしまうという安易な対応は避けなくてはなりません。効果的な英語指導法、安定感のある学級経営術を確立して現実的な対応をしながら徐々に理想へと近付いていくことが必要です。授業はグループでのディスカッション、ロールプレイ、発表が中心となります。授業では現場の先生からの意見聴取を求めます。意見聴取をお願いする先生は受講生の責任で探してください。

達成目標	以下の５点が本講義の到達目標です。授業終了時に達成できていることを確認してください。	科目DP：(1)～(5)				
		DP番号 (1)	(2)	(3)	(4)	(5)
	１．教師としての社会的責任と社会から求められる期待を正しく説明することができる。					
	２．教師という人を育てる仕事に就く責任と意義を説明することができる。					
	３．生徒のコミュニケーション能力の育成を促す英語の授業を行うことができる。					
	４．英語の４技能をバランス良く成長させる授業活動を行うことができる。					
	５．教育現場における様々な問題に対して積極的に解決を図ろうとすることができる。					

履修条件・注意事項	所定の単位をすべて習得し、教育実習を終えた学生のみが受講を許可されます。各自の「履修カルテ」を完成させてから初回の授業に持って来てください。
授業計画	担当者の後ろの括弧内の数字は「授業の到達目標及びテーマ」のところに挙げられている５つの達成目標と対応しています。各授業において特に習得を重視する項目です。 １．教職実践演習とは（授業の進め方、到達目標についての説明）（岩中貴裕、中垣謙司） ２．教師に求められる資質・能力と教育実践力：話し合いに基づいての発表（中垣謙司）（目標 1,2） ３．入門期の英語指導：模擬授業（中垣謙司）（目標 3,4） ４．英語教育における小・中連携：事例研究と討論（岩中貴裕）（目標 3,4） ５．生徒の認知プロセスに働きかける授業構成：模擬授業（岩中貴裕）（目標 3,4） ６．授業における英語使用（英語による言い換え）：意見聴取に基づいて発表（岩中貴裕）（目標 3,4） ７．リーディング指導（視覚教材の活用）：模擬授業（岩中貴裕）（目標 3,4） ８．リスニング指導（段階的な指導）：模擬授業（岩中貴裕）（目標 3,4） ９．スピーキング指導（音読からスピーチへ）：模擬授業（岩中貴裕）（目標 3,4） 10．ライティング指導（マインドマップの利用）：作成と発表（岩中貴裕）（目標 3,4） 11．「荒れ」と「しらけ」に対する対応：ロール・プレーイング（中垣謙司）（目標 1,2,5） 12．心と心をつなぐ道徳・人権教育：ロール・プレーイング（中垣謙司）（目標 1,2,5） 13．学級活動と教科指導：外部講師による講演（中垣謙司）（目標 1,2,5） 14．教育実践力を磨き続けるために：発表準備（岩中貴裕、中垣謙司）（目標 1,2,5） 15．教育実践力を磨き続けるために：発表と討論（岩中貴裕、中垣謙司）（目標 1,2,5）
アクティブ・ラーニング	ディスカッション、グループワーク、ロールプレイ
成績評価基準	評価の方法：授業での貢献（発表・質問）：20%　小テスト：10%　授業内ミニレポート：20% 筆記試験：20%　発表：30% 評価の基準：成績は下記の点を考慮して総合的に判定します。
フィードバックの方法	ポートフォリオを用いて各自の学びのプロセスを確認します。
時間外の学習について	予習：授業内で、次回の授業までに準備しておくべき内容（資料収集・発表準備等）を説明します。準備した上で授業に臨んで下さい。 復習：毎回の授業後に振り返りのレポートを課します。次の授業で必ず提出してください。 （各回30分程度）
教材にかかわる情報	テキスト：必要な資料を授業内で配布します。 参考書：平光雄（2014）『究極の説得力－人を育てる人の教科書－』さくら社　¥1,575 ISBN978-4-90485-71-3 参考資料等：『学習指導要領』
担当者からのメッセージ等実務経験について	教職課程の仕上げとなる授業です。能動的に授業に参加することが求められます。授業内で出される予習指示に従い、十分に準備をした上で授業に臨んで下さい。 中垣…山口県教委職員課教育調整監として教員の養成・研修等業務、管理職支部長・副支部長として学校運営全般に係る業務等に携わった実務経験をもとに行います。

授業科目名	保育実践演習	教員名	松村　納央子 佐藤　真澄 大田　紀子	免許・資格との関係	保育士	必修
					幼稚園教諭	
					小学校教諭	
					中学校教諭(英語)	
ナンバリングコード	UE4-8003-10000	年次配当	4年後期		高等学校教諭(英語)	
					特別支援学校教諭	
授業形態	演習			卒業要件	初等幼児教育専攻	選択
単位数	2				中等教育専攻	
科目						
各科目に含めることが必要な事項						
教科目	必修科目（保育士）					
系列	総合演習					
授業テーマ	保育に関する科目について、横断的な学習能力を獲得するとともに、履修状況を踏まえ、自らの学びを振り返りつつ、保育に関する現代的課題に対応する方途を考察する。					
授業概要	「あなたなら、どうする？」を毎回のテーマに据えて、保育の実践を学びたい。この授業において「どうする？」とは、「どう感じたか」という事柄にとどまらず、「子どもをどう見て、どう考え、どのような配慮をなすか」を探求することである。実践的な学びと共に、事例を互いに報告し合い、方法論にとどまることなく、保育者としての資質を高めていく。					

達成目標	科目DP：(1)～(5)					
	DP番号	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)
	1．保育者としての学習能力を高める					
	2．保育に関する現代的な課題について、現状分析・考察・検討を行う					
	3．問題解決のための判断・対応方法に関わる資質を高める					

履修条件・注意事項	
授業計画	1．オリエンテーションとグループ分け　（目標 1,2,3） 2．保育実践に関わる諸問題（1）　発達課題への対応　（目標 1,2） 3．保育実践に関わる諸問題（2）　個に応じた保育　（目標 1,2） 4．保育実践に関わる諸問題（3）　感性を育む保育　（目標 1,2） 5．保育実践に関わる諸問題（4）　社会性を育む保育　（目標 1,2） 6．グループ内での更なる課題の設定　（目標 1,2,3） 7．保育実践に関わる課題の調査と分析（1）（目標 1,2,3） 8．保育実践に関わる課題の調査と分析（2）（目標 1,2,3） 9．保育実践に関わる課題の調査と分析（3）（目標 1,2,3） 10. 保育実践に関わる課題の調査と分析（4）（目標 1,2,3） 11. 保育実践に関わる課題の調査と分析（5）（目標 1,2,3） 12. 保育実践に関わる課題の調査と分析（6）（目標 1,2,3） 13. グループ発表とディスカッション（1）（目標 1,2,3） 14. グループ発表とディスカッション（2）（目標 1,2,3） 15. グループ発表とディスカッション（3）（目標 1,2,3） 16. 総合考察　（目標 1,2,3）
アクティブ・ラーニング	模擬授業、ディスカッション、グループワーク
成績評価基準	評価の方法：受講態度（15%）・発表とディスカッション（15%）・学修ポートフォリオ（70%） 評価の基準：①授業を通して保育に関する現代的課題を発見することができたか、②保育者としての知識や技能を高めることができたか、③自らの学びを客観視し、保育者としての資質を高めるよう努力しているか
フィードバックの方法	発表について振り返り、講評する。
時間外の学習について	予習：自分ならどのような保育計画を立案するか考える 復習：授業中に指摘を受けた点について改善策を考える　（各回30分程度）
教材にかかわる情報	テキスト：幼稚園教育要領、保育所保育指針 参考書： 参考資料等：適宜紹介する
担当者からのメッセージ等実務経験について	

実践演習

〒754-0032 山口県山口市小郡みらい町一丁目7番1号
TEL 083−972−3288
FAX 083−972−4145
URL http://www.y-gakugei.ac.jp